

道東自動車道
占冠地区下部工工事

本流鵠川第三橋（下り線）
下部工設計図

令和 7 年 3 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1. 数量総括表	1
2. 全体一般図（その１～２）	2 ～ 3
3. 下部工座標図	4
4. A 1 橋台構造一般図（その１～２）	5 ～ 6
5. A 1 橋台配筋図（その１～１５）	7 ～ 21
6. P 1 橋脚構造一般図	22
7. P 1 橋脚配筋図（その１～６）	23 ～ 28
8. A 2 橋台構造一般図（その１～２）	29 ～ 30
9. A 2 橋台配筋図（その１～１４）	31 ～ 44
10. P 1 橋脚大口径深礎杭配筋図	45
11. P 1 橋脚ガイドウォール配筋図	46
12. P 1 橋脚深礎杭土留め工図（その１～２）	47 ～ 48
13. P 1 橋脚薬液注入工及び裏込めグラウト図	49
14. A 1 橋台裏込め工図	50
15. A 2 橋台裏込め工図	51
16. A 1 橋台土留め工計画図（その１～７）	52 ～ 56
17. A 2 橋台土留め工計画図（その１～７）	57 ～ 61
18. はく落防止対策工詳細図（その１～２）	62

下部工施工

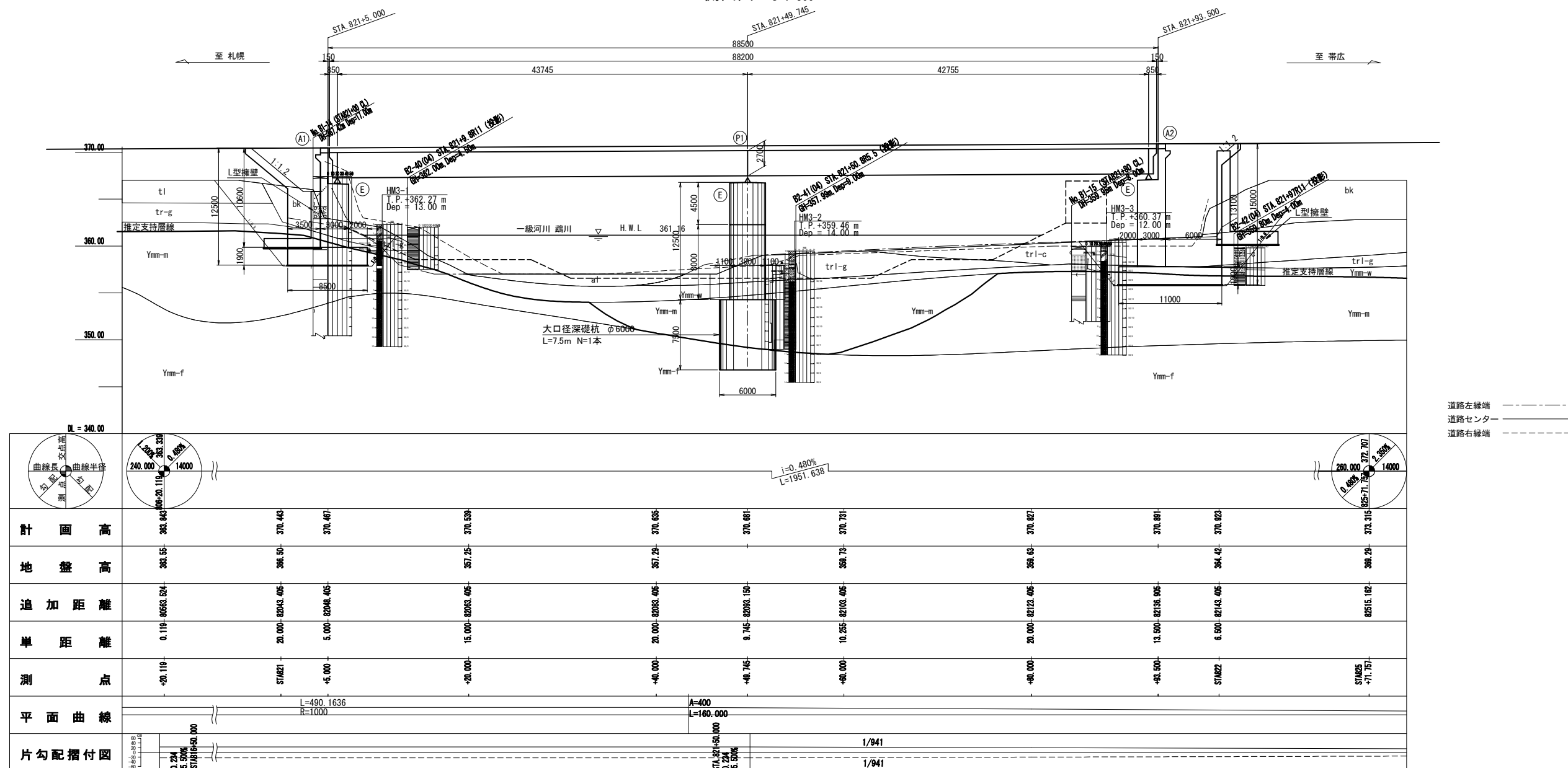
項 目	種 別		単位	第三橋				摘 要		
				A 1 橋台	P 1 橋脚	A 2 橋台	合 計			
客土掘削	土砂 A 1		m3	491. 6	206. 7	520. 7	1,219. 0			
構造物掘削	特殊部		m3	1,025. 9	253. 0	2,704. 6	3,983. 5			
構造物裏込め工	裏込め工 B 1		m3	200. 2	－	159. 8	360. 0			
地下排水工	Du-P φ0. 15-0. 50-0. 50		m	10. 5	－	9. 9	20. 4	※率計上		
基礎杭	大口径深礎杭	人力掘削、φ6000	m	－	7. 5	－	7. 5			
コンクリート	A 1－3		m3	327. 5	187. 8	511. 3	1,026. 6	躯体 σck=30N/mm2		
	B 2－1		m3	186. 5	－	241. 4	427. 9	σck=24N/mm2 フーチング		
	D 1－1		m3	10. 2	－	13. 2	23. 4	σck=18N/mm2 均しコンクリート		
	B 2－1		m3	－	212. 1	－	212. 1	σck=24N/mm2 深礎杭		
型わく	C		m2	566. 3	185. 6	809. 7	1,561. 6			
	D		m2	4. 1	－	4. 6	8. 7			
鉄 筋	躯体	A	D13	t	0. 021	－	0. 021	0. 042	SD345（重ね継手）	
			D16～D25	t	5. 356	10. 766	8. 597	24. 719		
			D29～D32	t	14. 394	－	4. 052	18. 446		
			D35	t	－	1. 790	4. 920	6. 710		
			D38	t	－	－	21. 712	21. 712		
			小計	t	19. 771	12. 556	39. 302	71. 629		
		A（E）	D13	t	0. 422	－	0. 573	0. 995	SD345（重ね継手）（防錆処理鉄筋）	
			D16～D25	t	8. 382	－	8. 656	17. 038		
			D29～D32	t	3. 675	－	12. 572	16. 247		
			D35	t	－	－	8. 002	8. 002		
			D38	t	－	－	－	－		
			小計	t	12. 479	－	29. 803	42. 282		
		B	D29～D32	t	1. 516 [24]	－	1. 906 [20]	3. 422 [44]	SD345（機械継手）	
			D35	t	－	－	－	－		
			D38	t	－	－	9. 148 [68]	9. 148 [68]		
			小計	t	1. 516 [24]	－	11. 054 [88]	12. 570 [112]		
		B（H）	D35	t	－	－	－	－	SD490（機械継手）	
			D35	t	－	－	－	－		
			D41	t	－	13. 040 (72)	－	13. 040 (72)		
			小計	t	－	13. 040 (72)	－	13. 040 (72)		
		C	D13	t	－	－	－	－	SD345（機械式鉄筋定着工法）	
			D16～D25	t	0. 255 (84)	0. 296 (51)	1. 110 (192)	1. 661 (327)		
			D29～D32	t	－	－	－	－		
			小計	t	0. 255 (84)	0. 296 (51)	1. 110 (192)	1. 661 (327)		
		C（E）	D13	t	－	－	－	－	SD345（機械式鉄筋定着工法）（防錆処理鉄筋）	
			D16～D25	t	1. 314 (300)	－	2. 123 (451)	3. 437 (751)		
			D29～D32	t	－	－	－	－		
			小計	t	1. 314 (300)	－	2. 123 (451)	3. 437 (751)		
		合計			t	35. 335	25. 892	83. 392	144. 619	
		杭	A	D16～D25	t	－	1. 456	－	1. 456	SD345（重ね継手）
				D29～D32	t	－	6. 546	－	6. 546	
				D51	t	－	6. 960	－	6. 960	
				小計	t	－	14. 962	－	14. 962	
			C	D13	t	－	－	－	－	SD345（機械式鉄筋定着工法）
				D16～D25	t	－	－	－	－	
				D29～D32	t	－	3. 782 (192)	－	3. 782 (192)	
				小計	t	－	3. 782 (192)	－	3. 782 (192)	
		ガイドウォール	A	D16～D25	t	－	1. 050	－	1. 050	SD345（重ね継手）
				小計	t	－	1. 050	－	1. 050	
はく落防止対策工		A	m2	－	－	2. 2	2. 2			

注1)[]内は鉄筋の機械継手の箇所数を示す。
注2)()内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

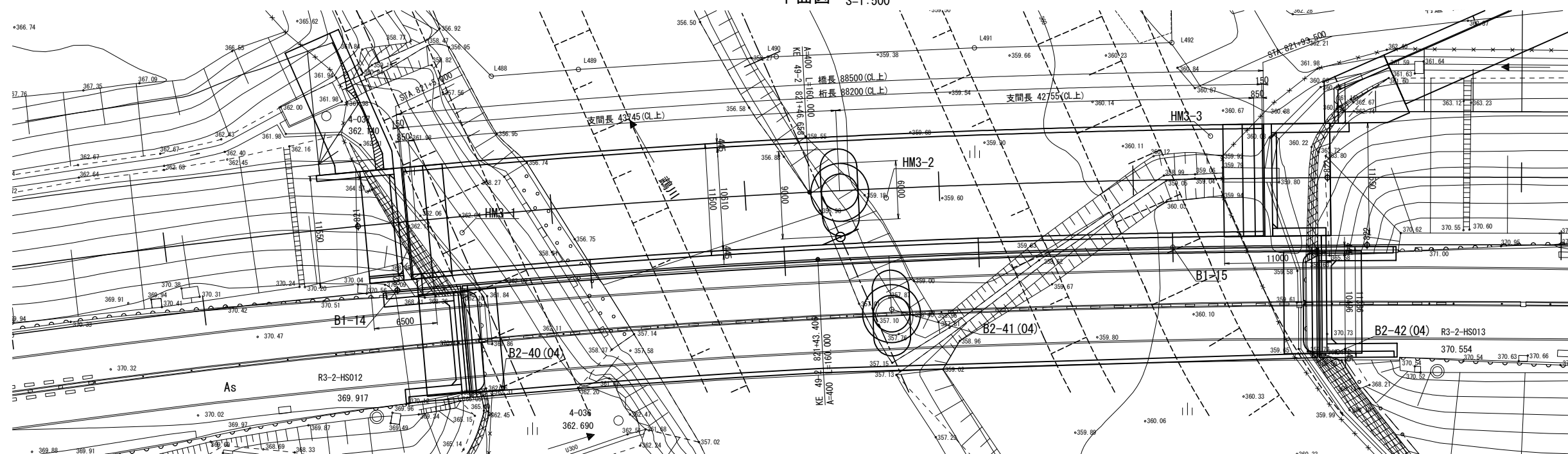
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	－
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

本流鵜川第三橋（下り線） 全体一般図（その１）

側面図 S=1:500

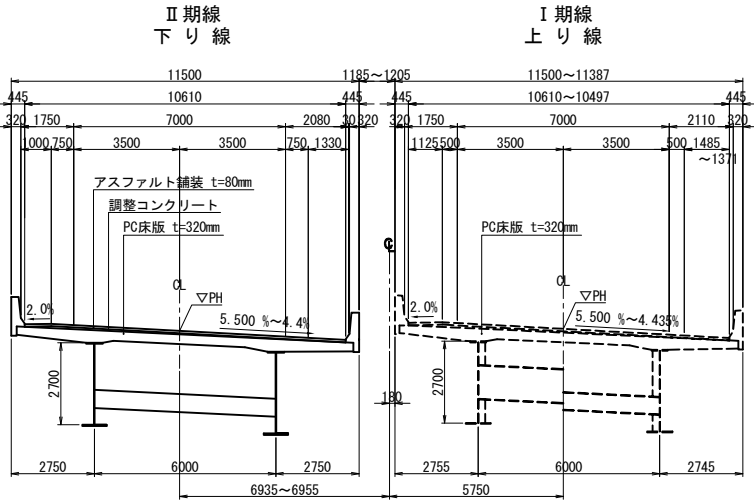


平面图 S=1:500

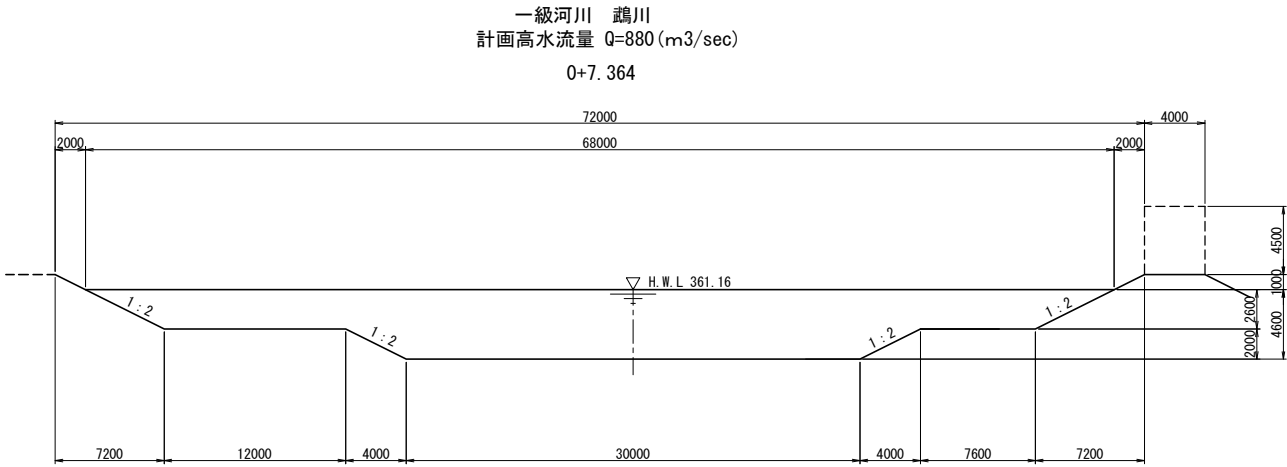


	道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	北流川川第三橋（下り線） 全体一般図（その１）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

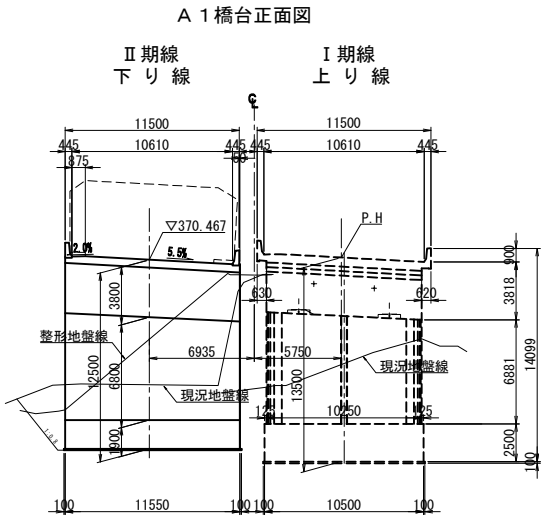
断面図 S=1:250



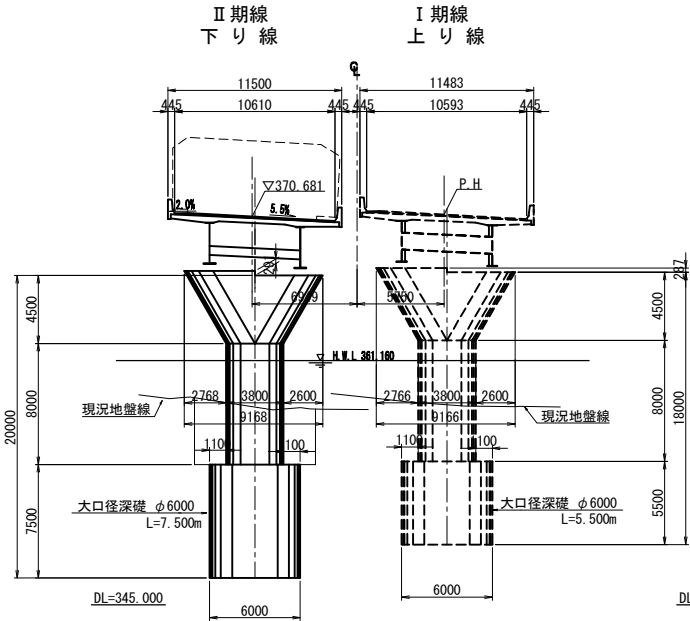
交差条件 S=1:500



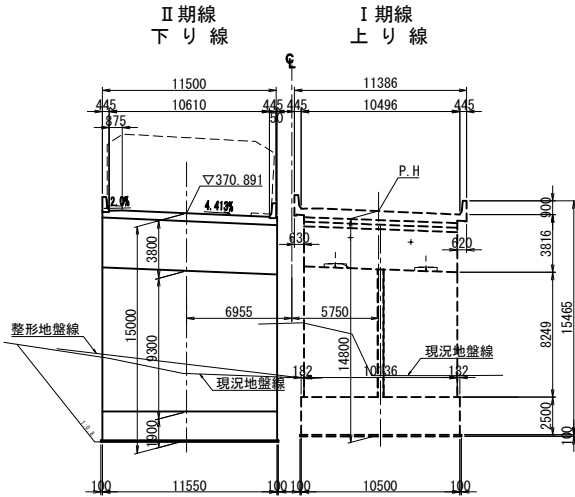
断面図 S=1:500



P 1 橋脚正面図



A 2 橋台正面図



DL=345.000

DL=345.000

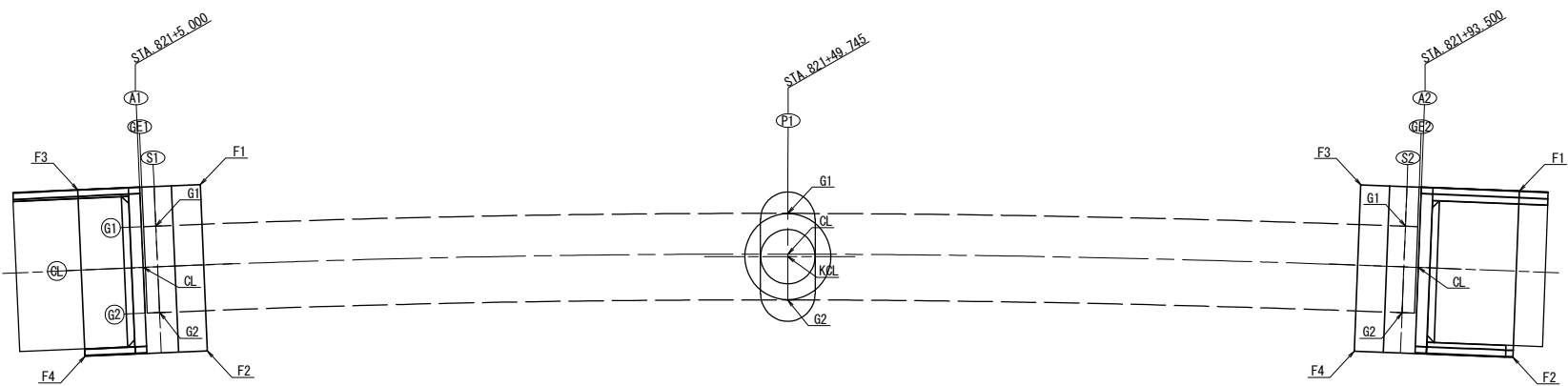
DL=345.000

設計条件

基本条件	路線名	道東自動車道		
	橋名	本流鵜川第三橋 下り線		
	道路規格	第1種第2級B規格		
	設計速度	100km/h		
	計画交通量	8400台/日	大型車交通量：	2024台/日
	橋長	A1-A2：88.50m (CL上)		
	桁長	A1-A2：88.20m (CL上)		
	支間長	A1-A2：43.745+42.755m (CL上)		
	全幅員	11.500m	非常駐車帯部：	—
	有効幅員	10.610m	非常駐車帯部：	—
耐荷性能条件	平面線形	R= 1000m ~ A= 400m		
	縦断線形	i=0.480% 〰		
	横断線形	i=5.500% 〰 ~ i=4.4% 〰		
	斜角	90° 00' 00"		
	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2		
	設計供用期間	100年		
	舗装荷重	アスファルト舗装 t=80mm		
	遮音壁荷重	設置しない (設計荷重は両側w=1.45kN/mとして考慮)		
	雪荷重	考慮しない		
	設計活荷重	B活荷重		
耐久性条件	温度変化条件	-10 ~ +50℃ (基準温度20℃) 支保・伸縮装置 -40 ~ +40℃ (基準温度0℃)		
	橋の重要度区分	B種の橋		
	地域補正係数	B2地域：Cz=0.85、CⅠz=1.0、CⅡz=0.85		
	地盤種別	Ⅰ種地盤 kh = Cz × kho = 0.85 × 0.20 = 0.17		
	地盤の液状化	なし		
	設計水平震度	レベルⅠ	橋軸方向：0.17	直角方向：0.17
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向：0.88	直角方向：0.88
		レベル2 (Ⅱ)	橋軸方向：0.82	直角方向：0.82
	固有周期	レベルⅠ	橋軸方向：0.75	直角方向：0.45
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向：1.20	直角方向：1.21
レベル2 (Ⅱ)		橋軸方向：1.21	直角方向：1.21	
耐久性条件	架橋環境条件	地域区分C 200m以上		
	塩害対策区分	該当なし		
	維持管理の制約	なし		
	部材の設計耐久期間	100年		
	鋼桁塗装仕様	C塗装系		
上部構造条件	鉄筋被り	床版：40mm、下部工：80mm (土中、水中)		
	橋梁形式	鋼2径間連続合成少数版桁橋		
	防護柵形式	フロリダ型 S B種		
	使用材料	主要鋼材	SS400、SM400、SM490Y、SM520、SM570、S10T	
		コンクリート	σck=40N/mm2 (床版) σck=30N/mm2 (地覆、壁高欄)	
鉄筋		SD345		
下部構造条件		P C鋼材		1S28.6 (SWPR19L)
	架設方法	送出し工法		
	構造形式	逆 T 式橋台 (A1、A2橋台)、張出式橋脚 (P1橋脚)		
	基礎形式	直接基礎 (A1、A2橋台)、大口径深礎杭 (P1橋脚)		
	使用材料	コンクリート	σck=30N/mm2 (躯体)	
σck=24N/mm2 (フーチング、杭)				
σck=18N/mm2 (均しコンクリート)				
支持層	鉄筋	SD345、SD490		
		A1、A2橋台：中部蝦夷層群 (Ymm-m) N値187 P1橋脚：中部蝦夷層群 (Ymm-f) N値280		
支承形式	橋軸方向：免震支承 橋軸直角方向：免震支承			
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル連結 段差防止構造		
維持管理条件	点検方法	上部工検査路、下部工検査路		
		本線から：法面階段、桁下から：A2橋台昇降梯子 支那部他		
その他検討事項	地震時の点検補修部位	はく落防止、落下物防止柵 (交差道路に対して) 中央分離帯転落防止柵		
	第三者被害対策	なし		
	振動・騒音条件	なし		
適用基準等	道路橋示方書・同解説 Ⅰ～Ⅴ編 (平成29年11月) 日本道路協会			
	設計要領第二集 (平成28年8月) 東日本高速道路株式会社			

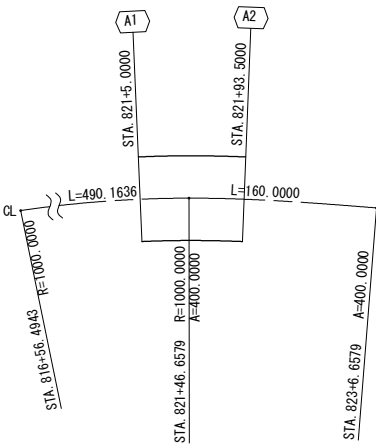
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第二橋 (下り線) 全体一般図 (その2)		
縮尺	図示	図面番号	—
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図



基本線形要素

平面線形



主要点座標値

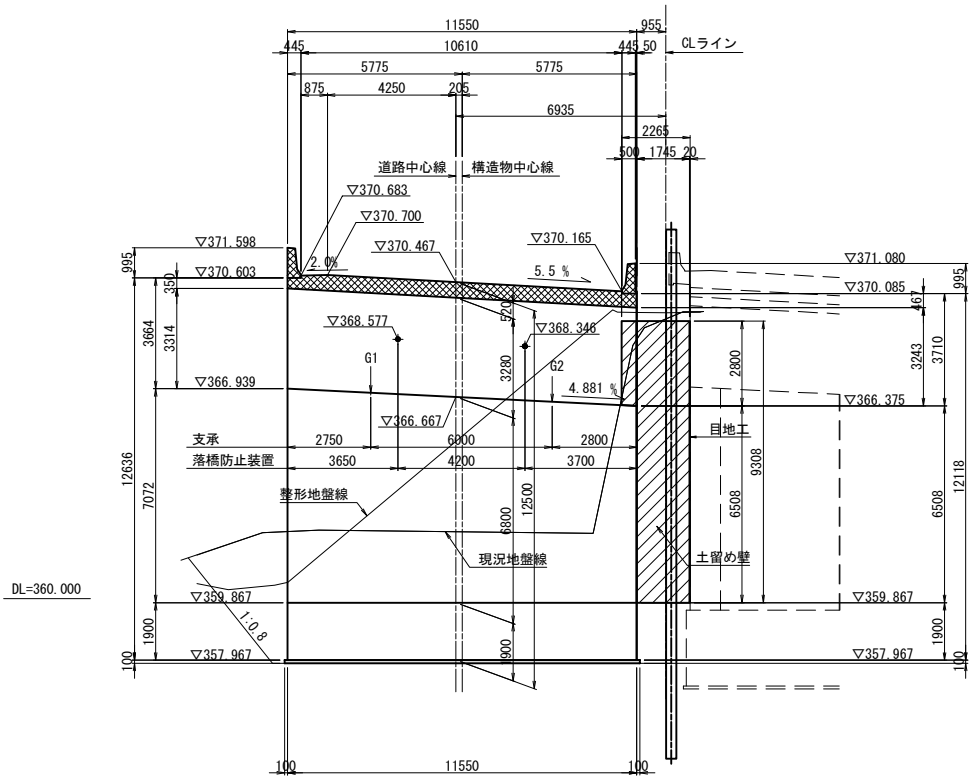
主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
KE 49-1	816+56.4943	-108937.487732	15193.224151	R=1000.0000 A= 400.0000
KE 49-2	821+46.6579	-108680.219205	15604.686441	
KA 50-1	823+06.6579	-108639.041519	15759.249820	

下部工座標値

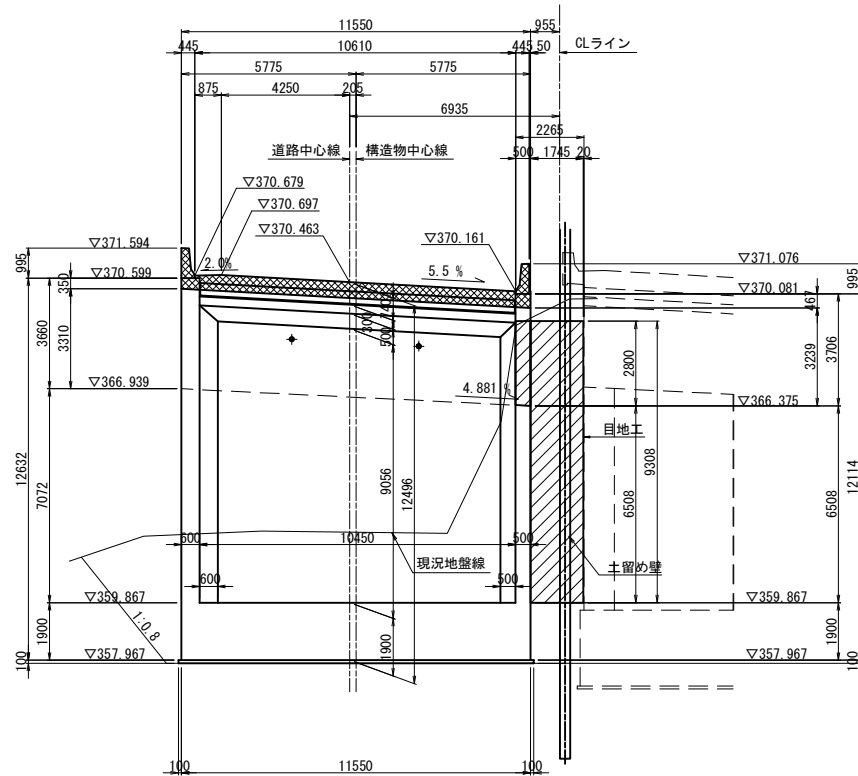
	A1橋台		P1橋脚		A2橋台	
	X	Y	X	Y	X	Y
F1	-108687.2121	15567.3406	-	-	-108659.5096	15654.5766
F2	-108698.0405	15571.3592	-	-	-108670.6296	15657.6987
F3	-108690.1695	15559.3717	-	-	-108662.4830	15643.9861
F4	-108700.9979	15563.3902	-	-	-108673.6030	15647.1082
G1	-108690.9042	15565.2975	-108676.5860	15606.7626	-108664.2660	15647.8104
G2	-108696.5293	15567.3851	-108682.2988	15608.5966	-108670.0426	15649.4323
CL	-108693.8954	15565.3410	-108679.2710	15607.6246	-108666.7103	15649.5354
KCL	-	-	-108679.4424	15607.6796	-	-

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第三橋（下り線） 下部工座標図		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

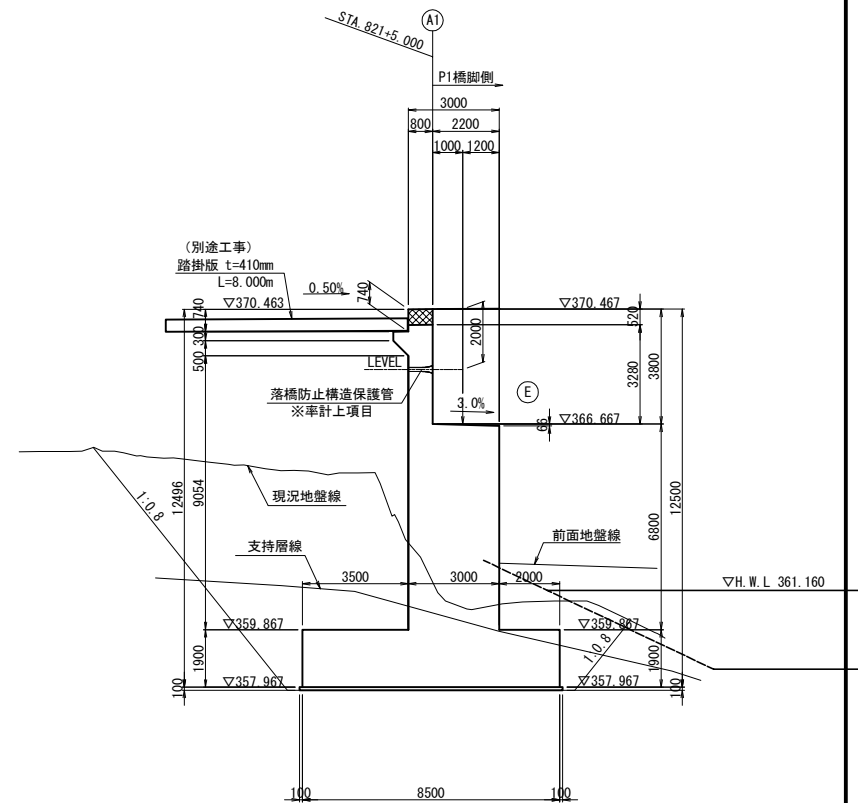
正面図（1-1）



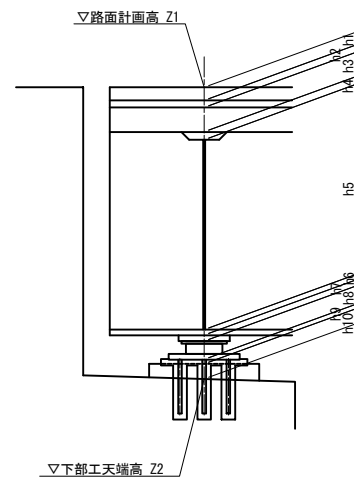
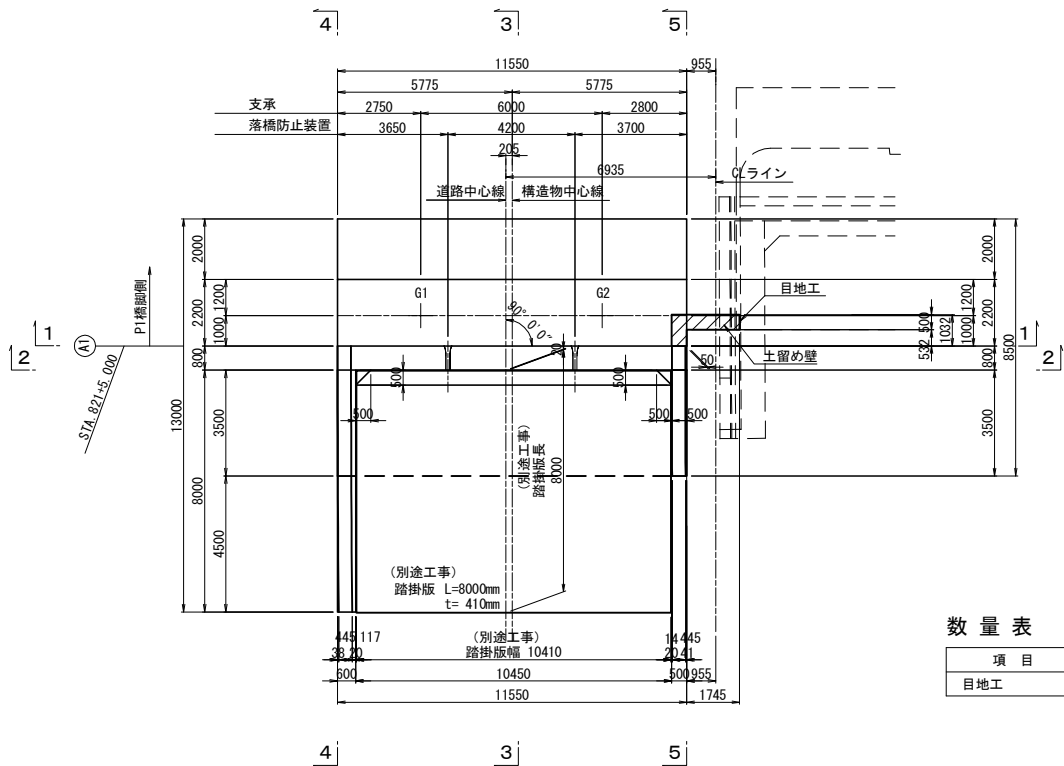
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	4.7	土留め壁

構造高表



		A1橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	370.626	370.296
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.051	0.014
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.700	2.700
下フランジ厚	h6	0.027	0.025
ソールプレート厚	h7	0.040	0.040
支承高	h8	0.313	0.313
沓座モルタル厚	h9	0.030	0.032
台座	h10	0.190	0.190
構造高合計	Σh	3.851	3.814
下部工天端高	Z2	366.775	366.482

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 D 1	m3	610.0	土砂
		m3	415.9	軟岩

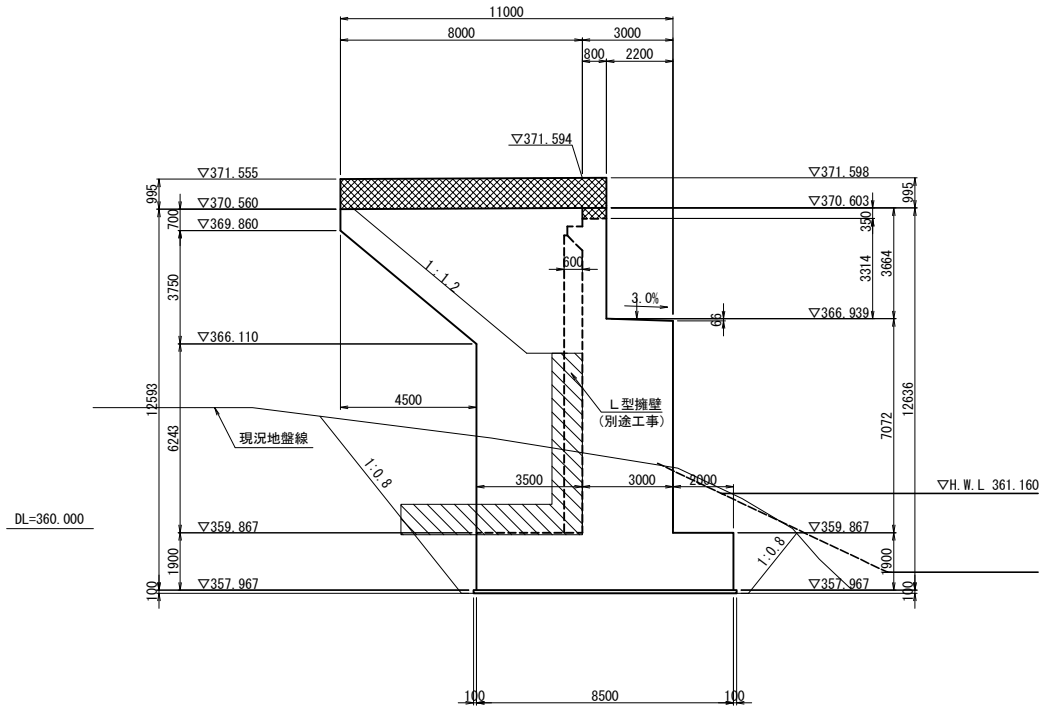
使用材料表

		躯体	σ ck=30N/mm ²
		コンクリート	σ ck=24N/mm ²
鉄 筋	均しコンクリート	躯体	σ ck=18N/mm ²
	フーチング	躯体	SD345

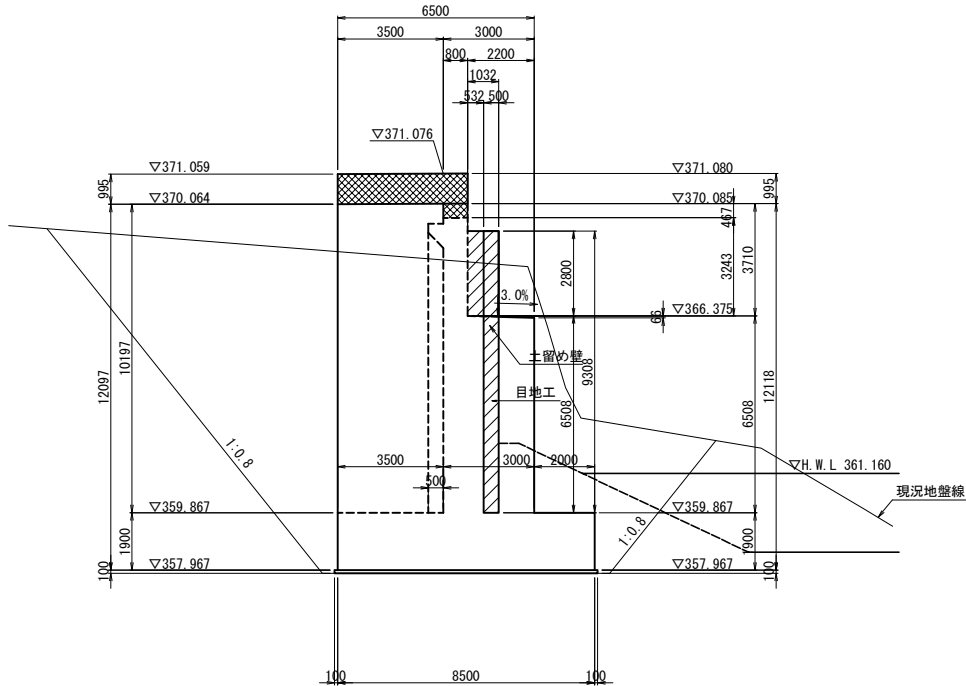
注) :  は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第三橋（下り線） A 1 橋台構造一般図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

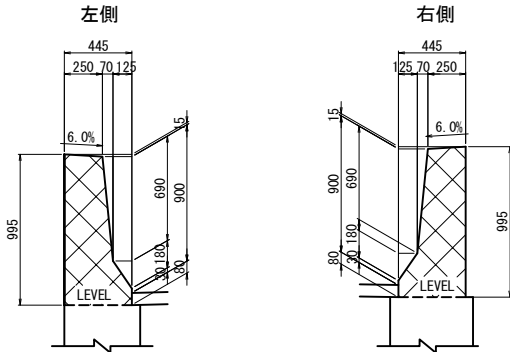
断面図（4-4）



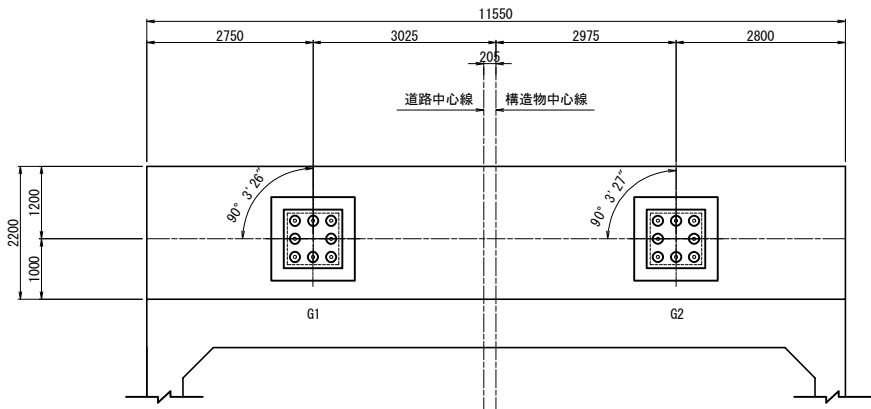
断面図（5-5）



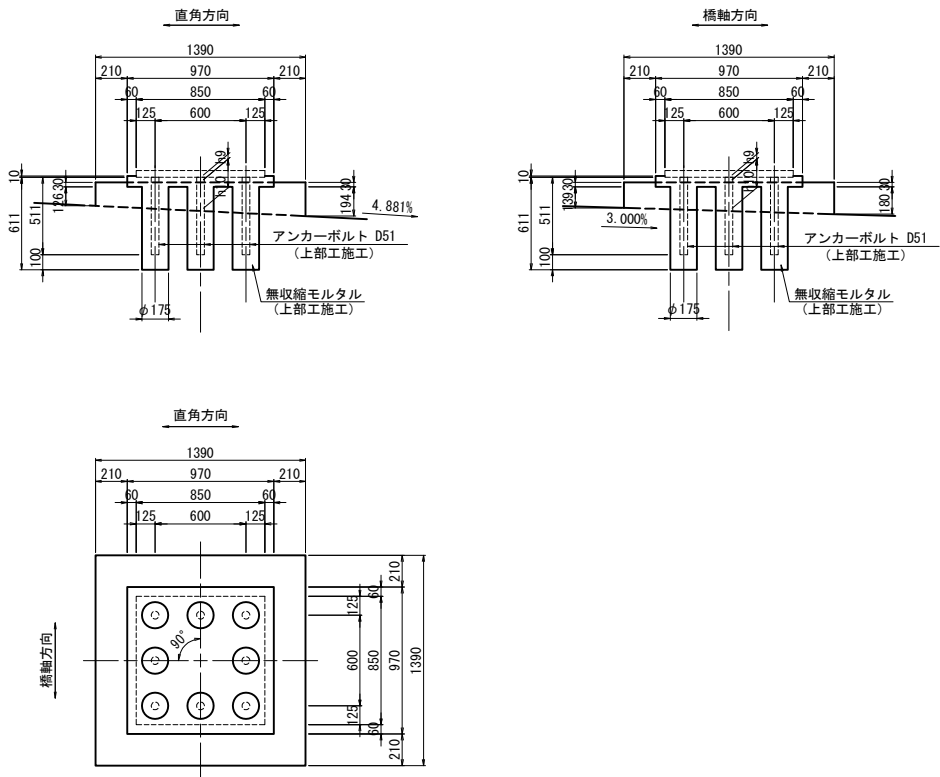
壁高欄詳細 S=1:50



支承配置図 S=1:25



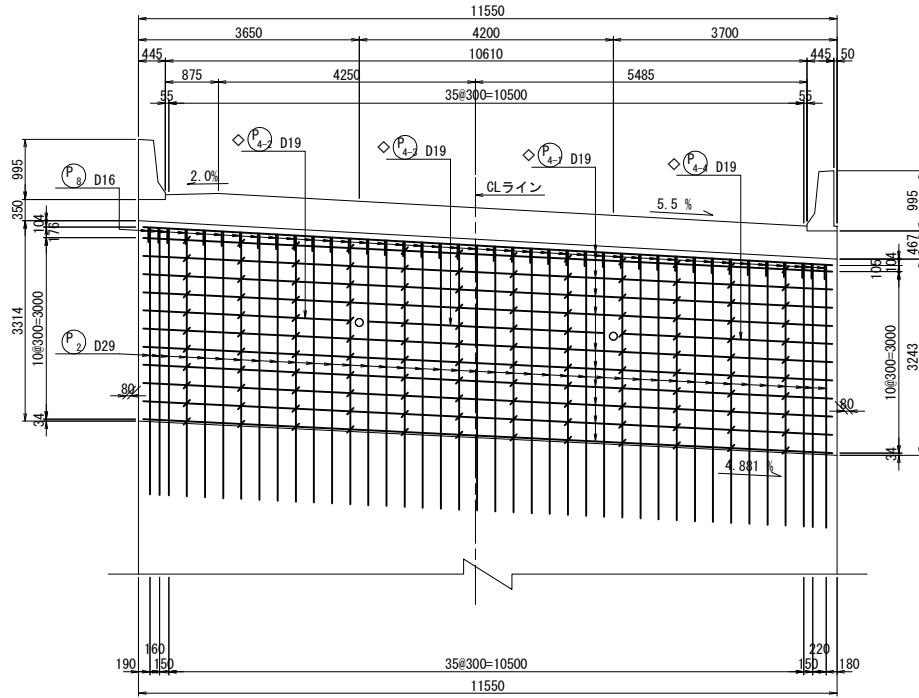
支承箱抜き詳細図 S=1:50



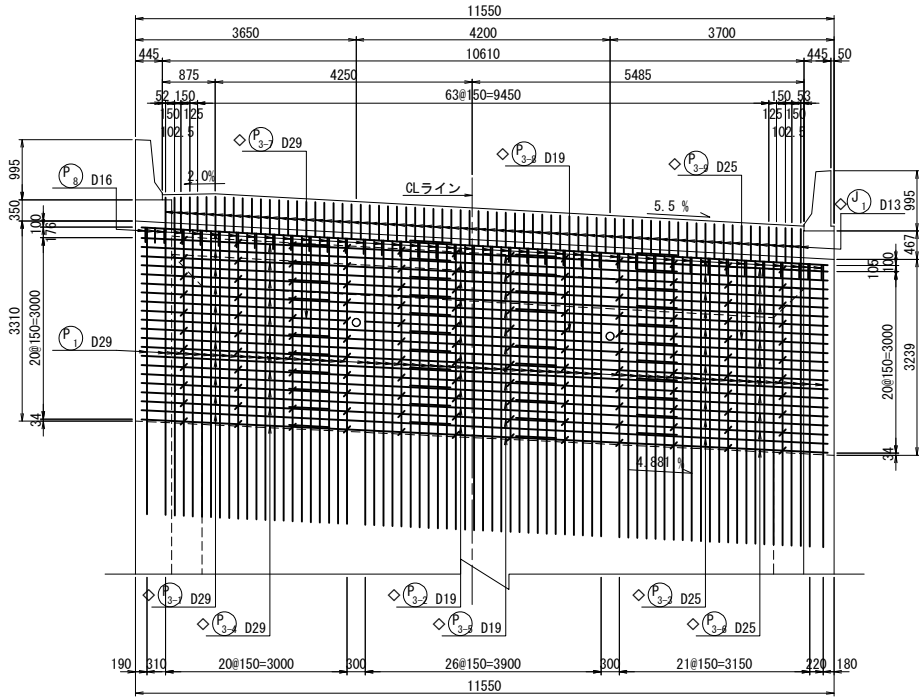
注) は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。
 擁壁断面図を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台構造一般図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

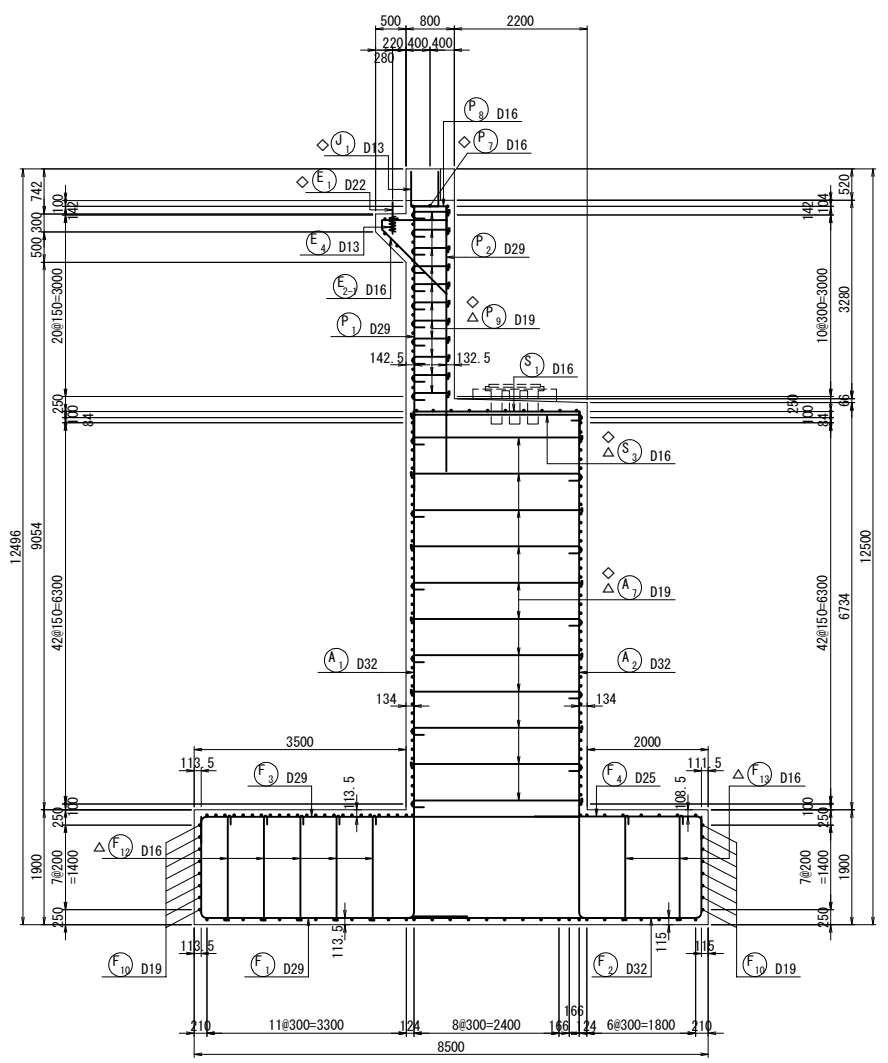
パラペット正面図
2 - 2



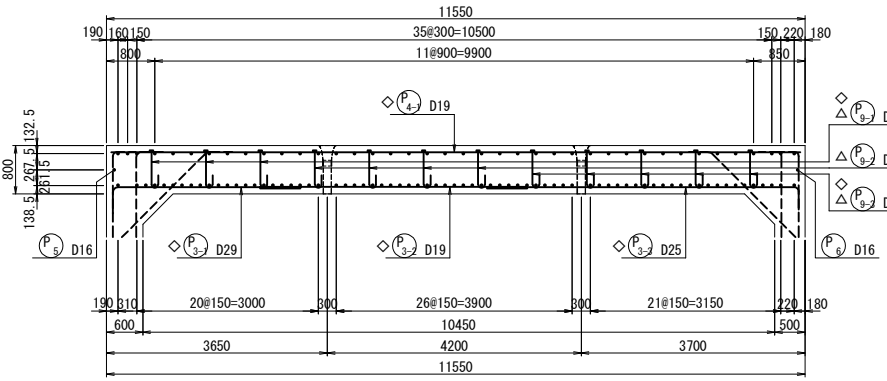
パラペット背面図
3 - 3



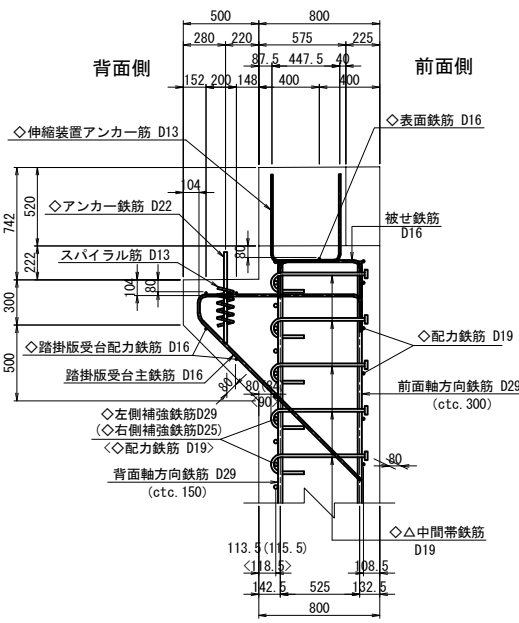
側面図
1 - 1



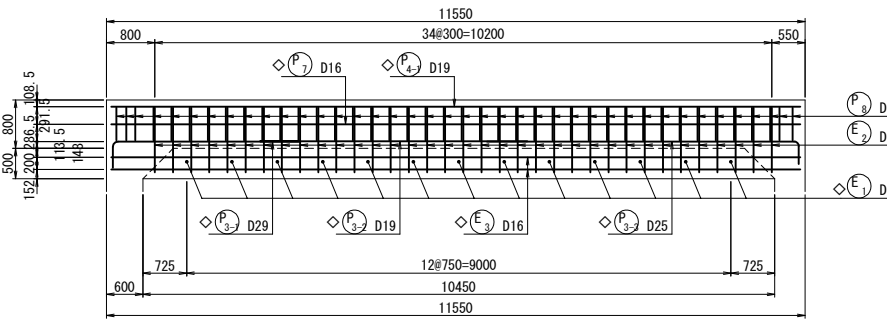
パラペット平面図
4 - 4



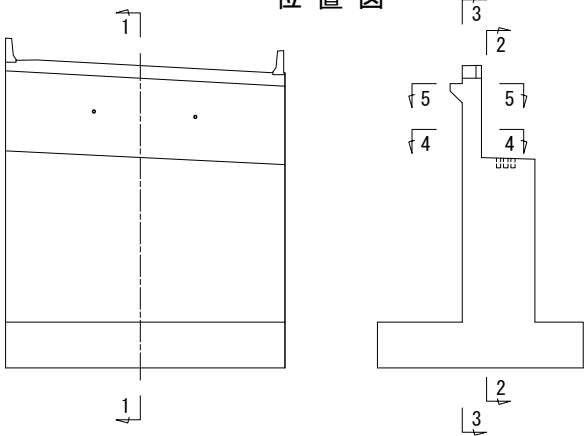
パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50



踏掛版受台平面図
5 - 5

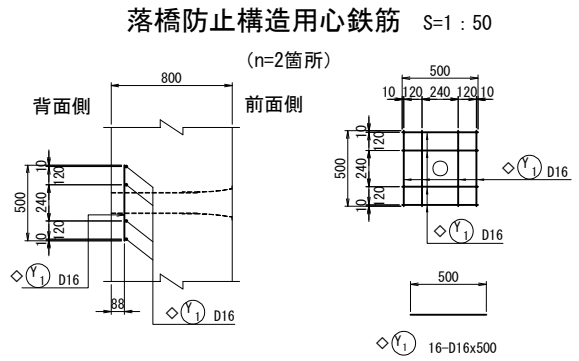
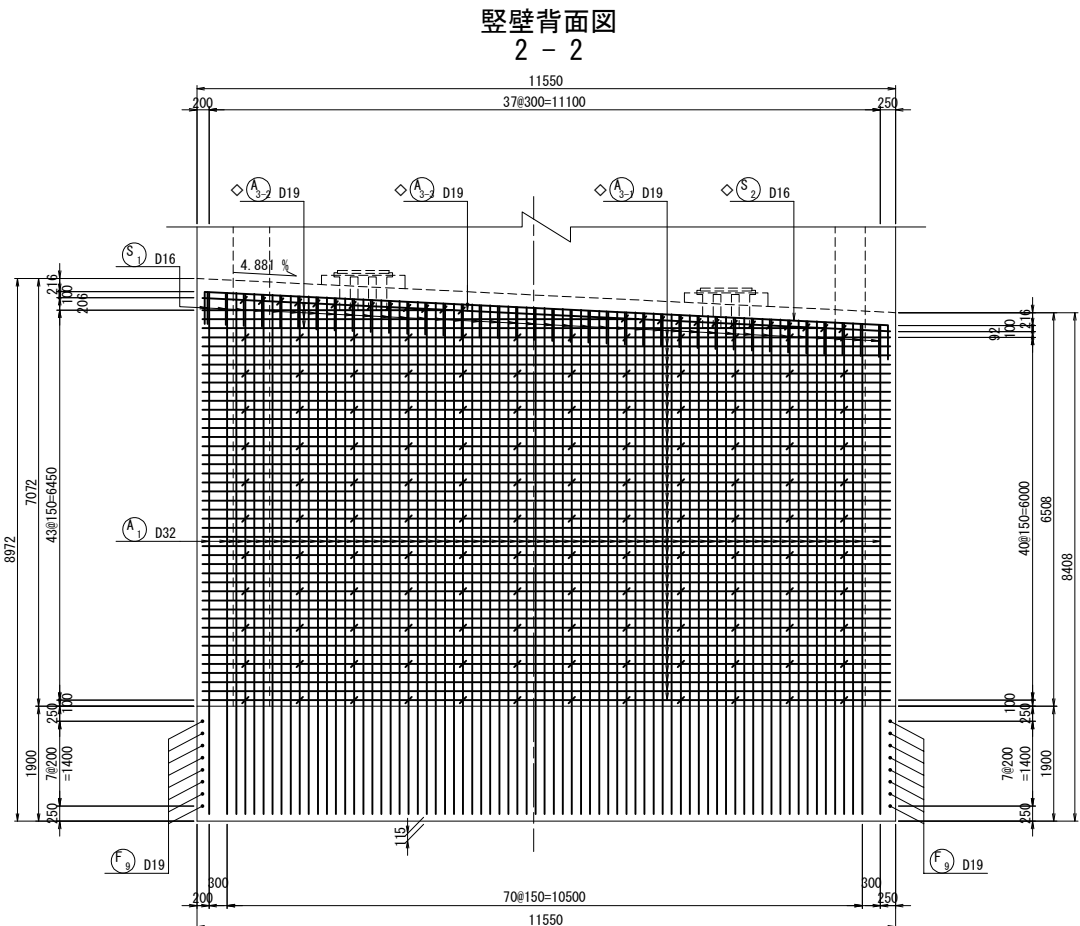
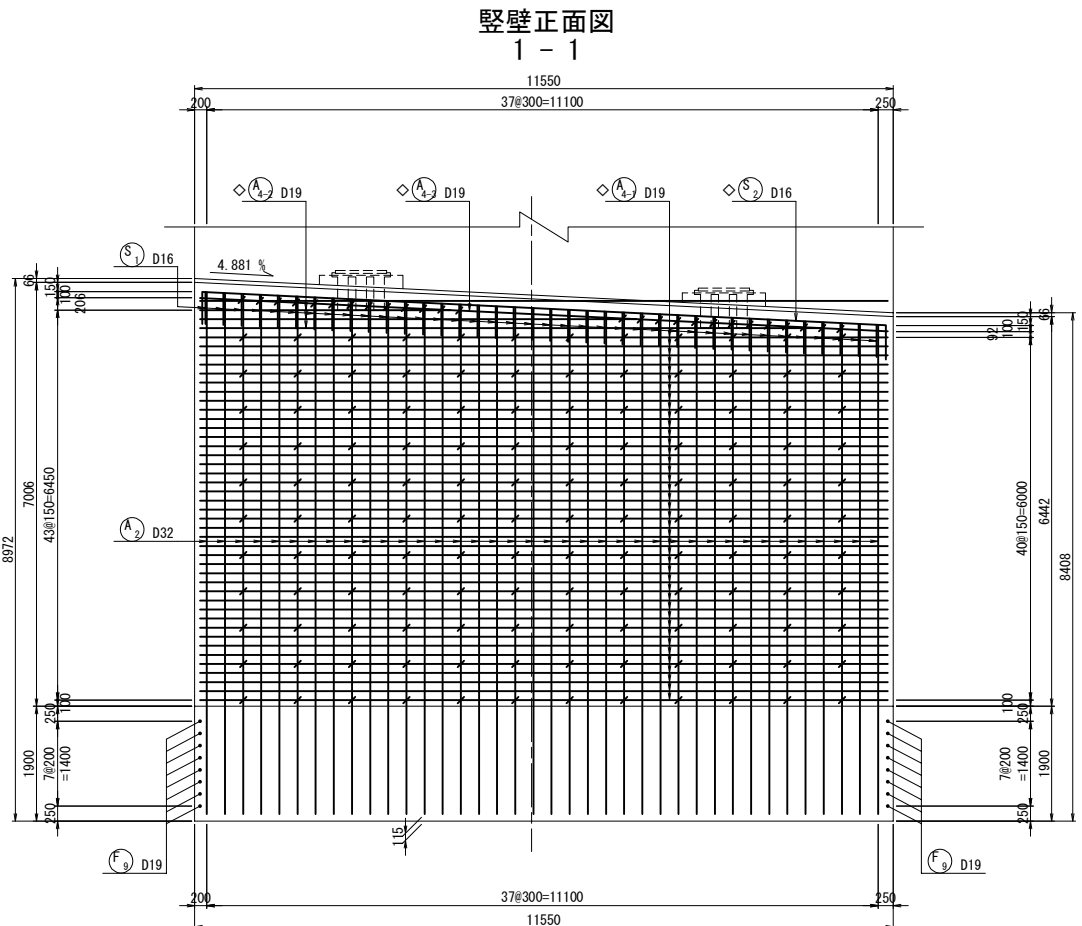


位置図



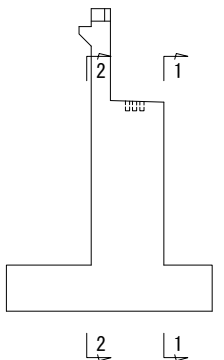
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

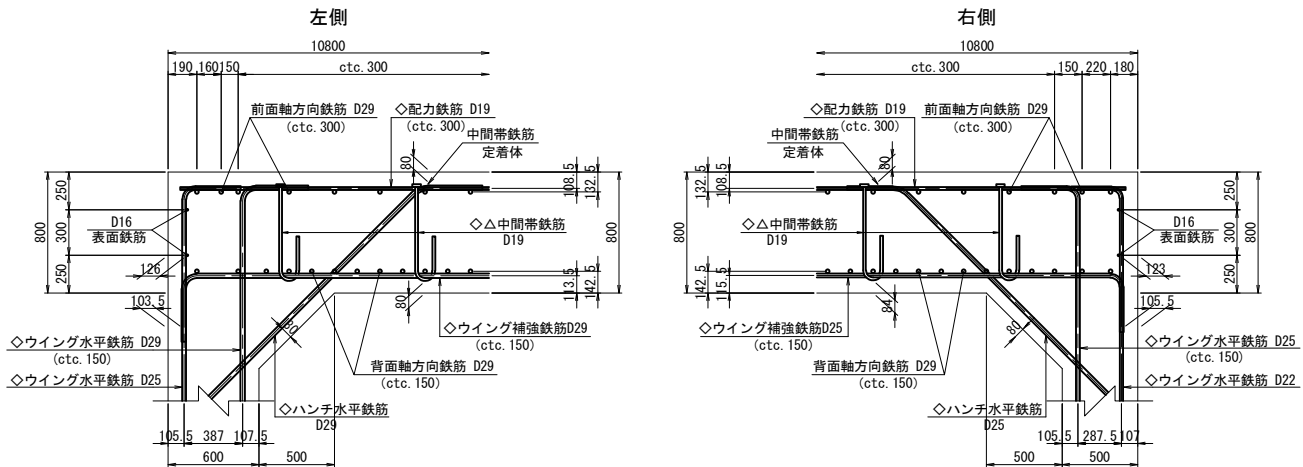


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

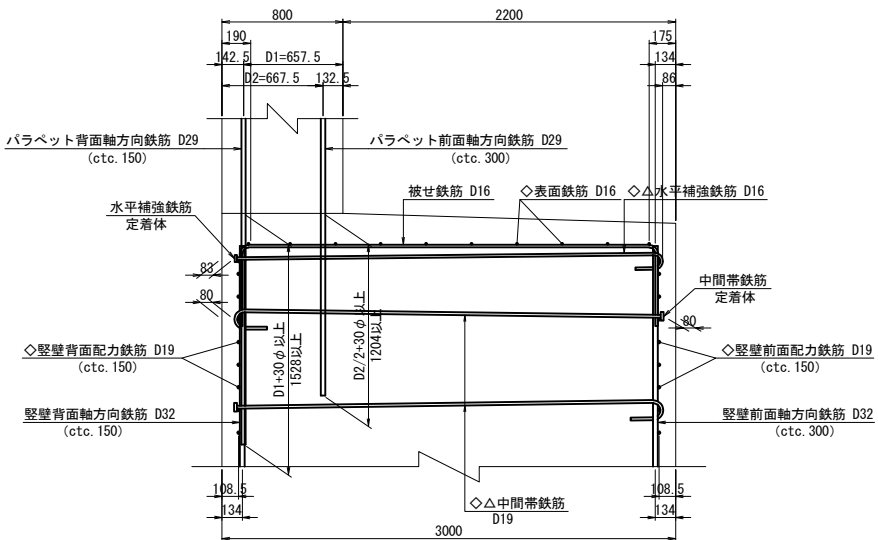
位置図



パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50



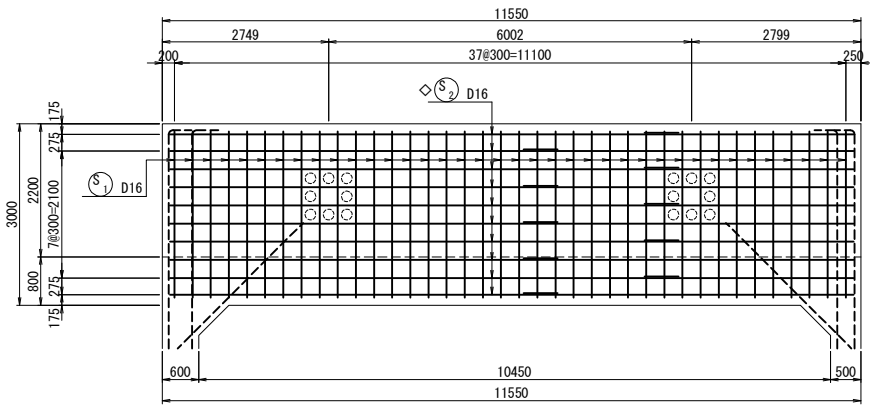
橋座かぶり詳細図 S=1 : 50



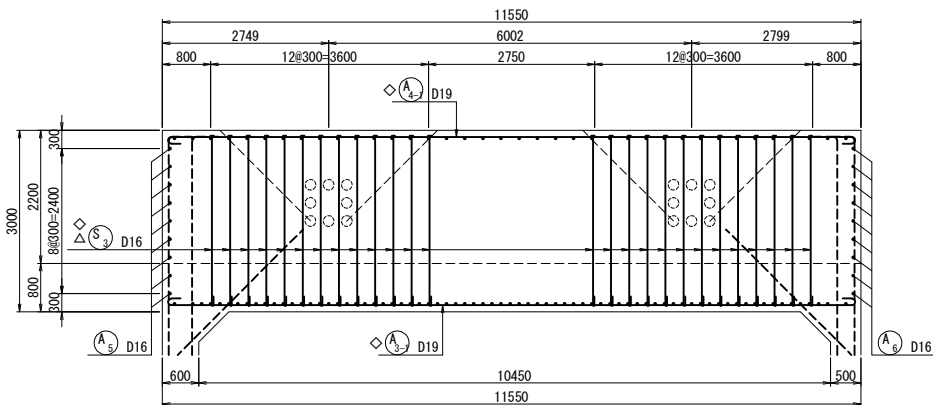
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

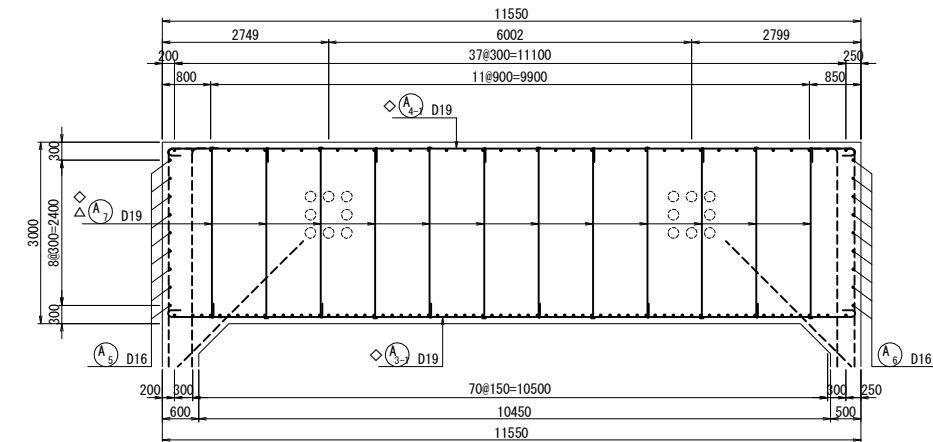
橋座平面図
1 - 1



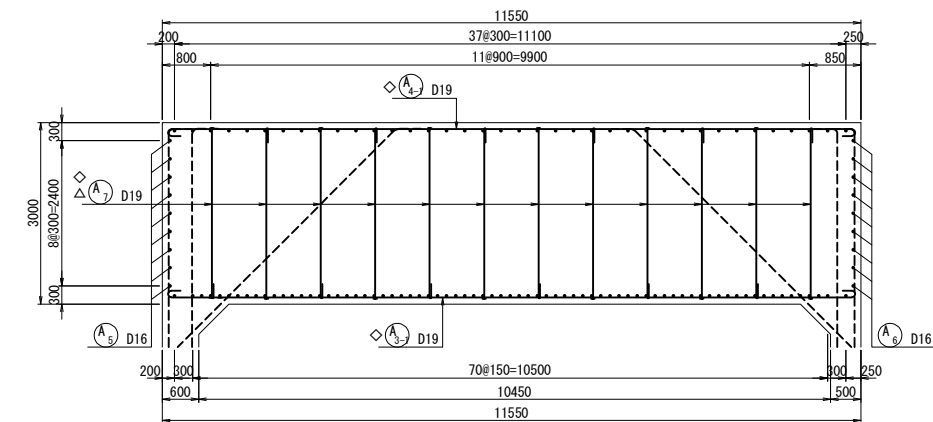
水平補強筋平面図
2 - 2



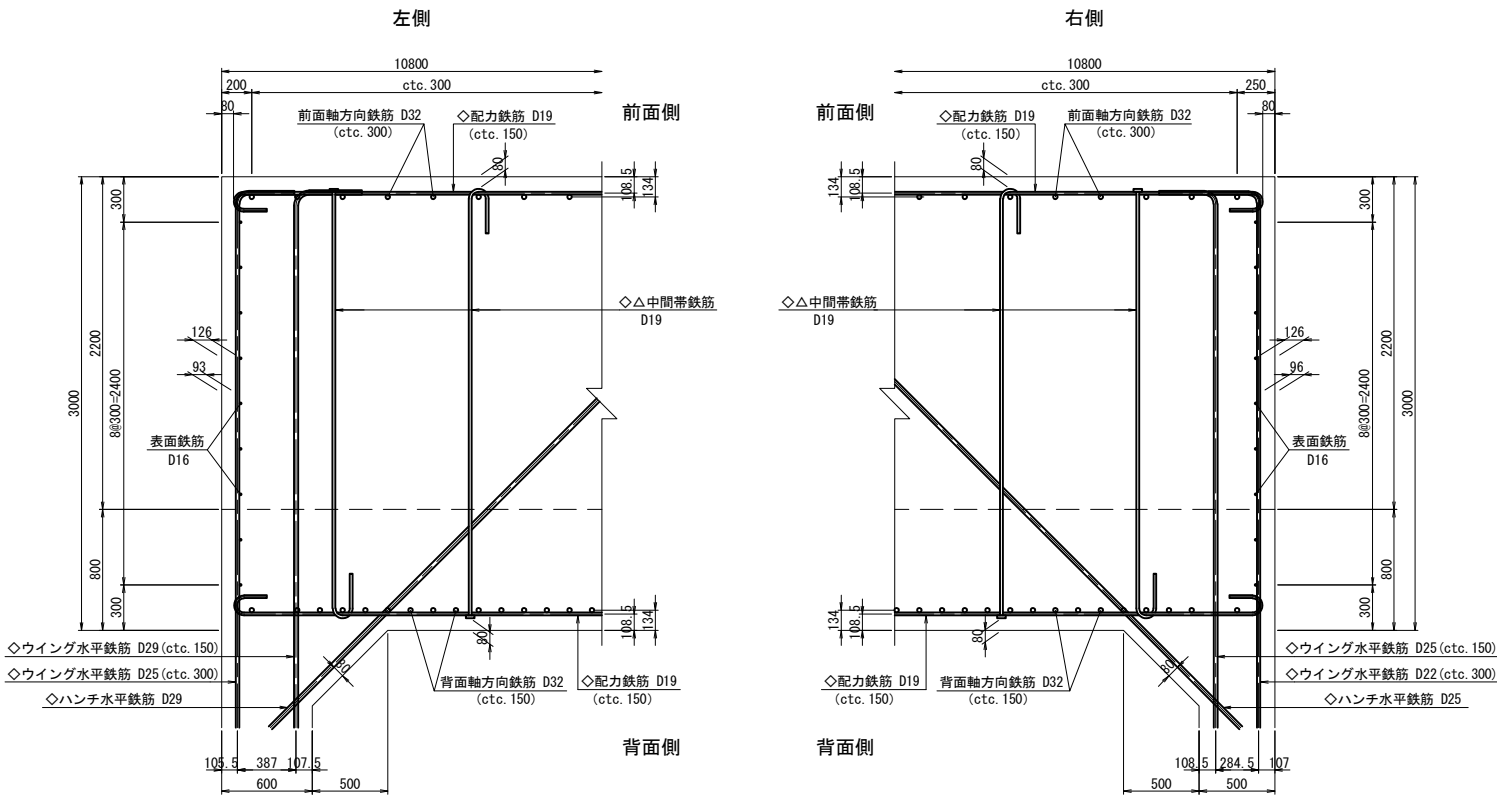
縦壁平面図（支承アンカー部）
3 - 3



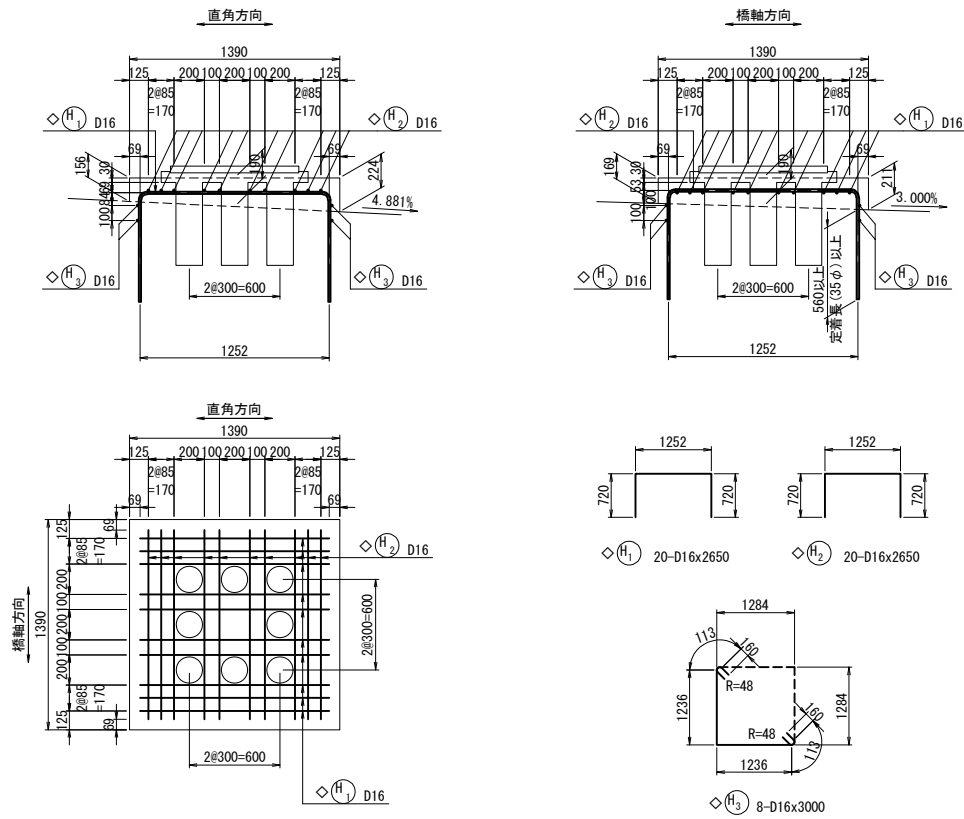
縦壁平面図（標準部）
4 - 4



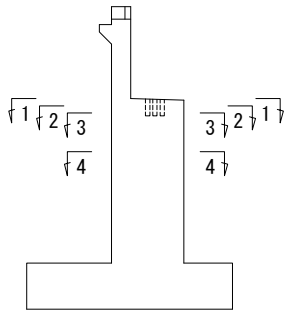
縦壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50



支承補強鉄筋 S=1:50
(n=2箇所)

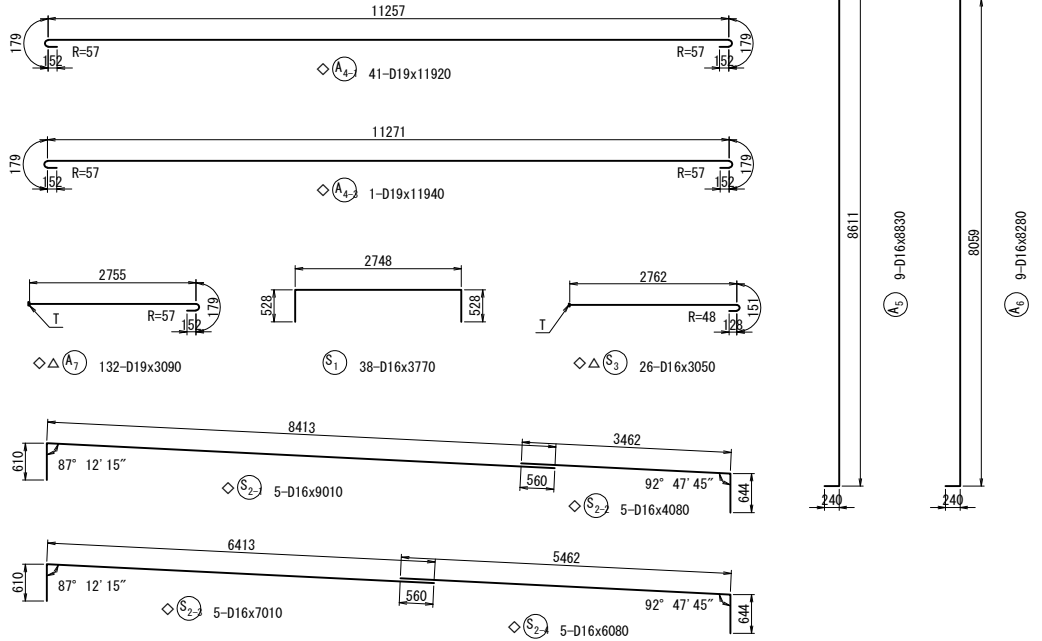
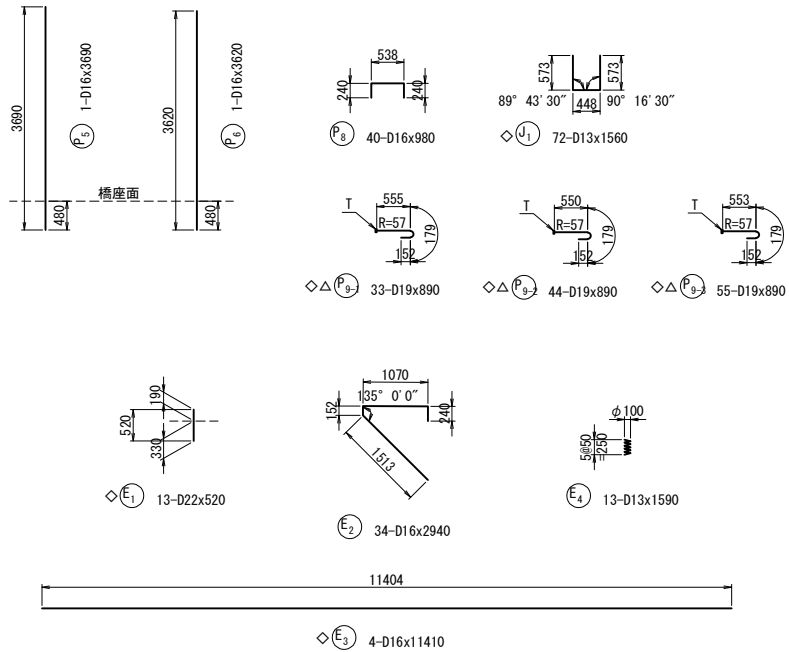
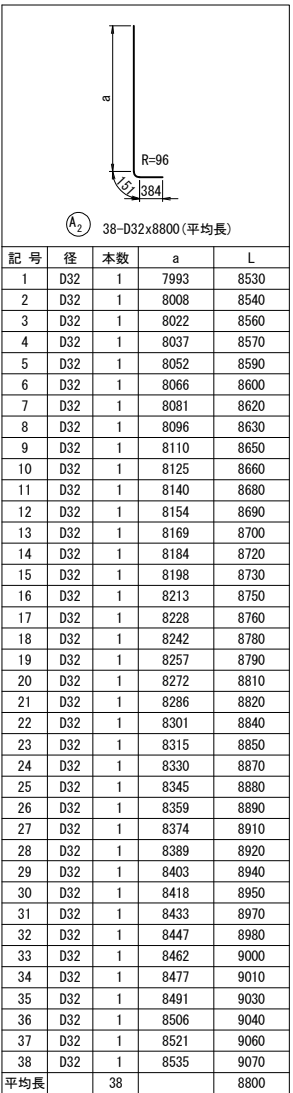
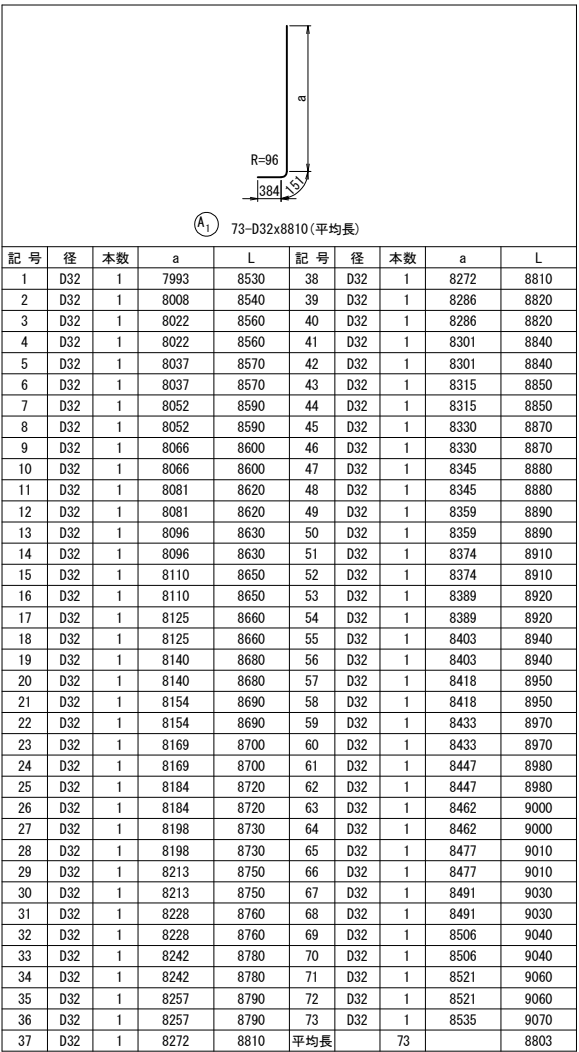
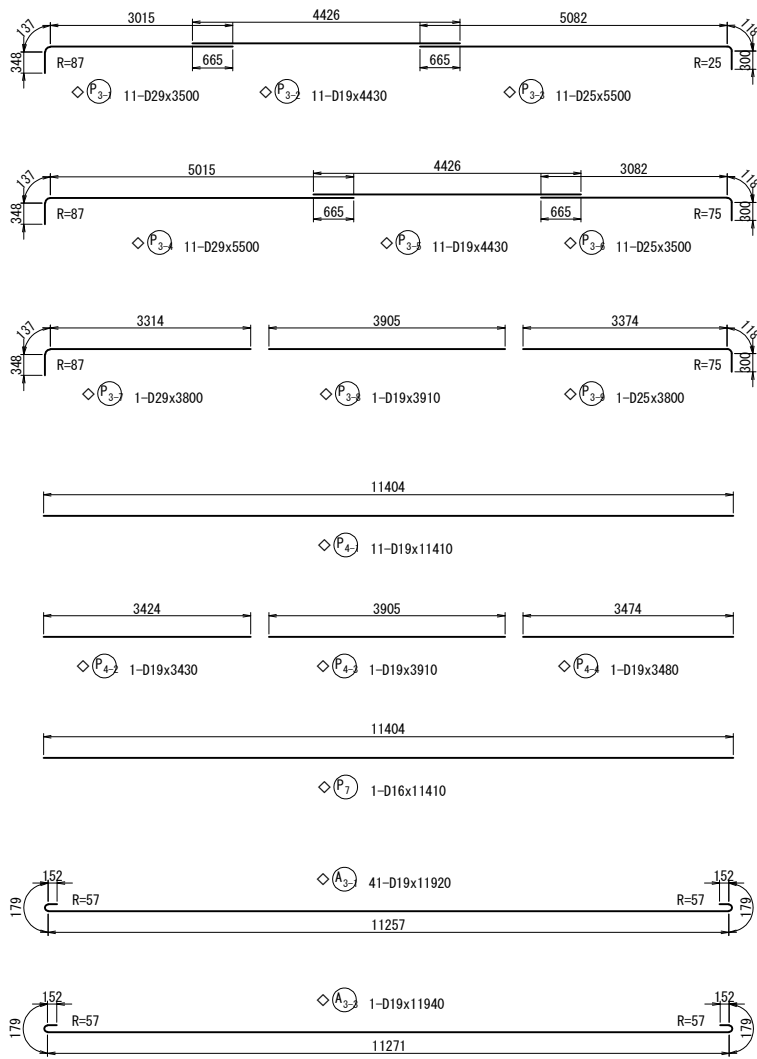
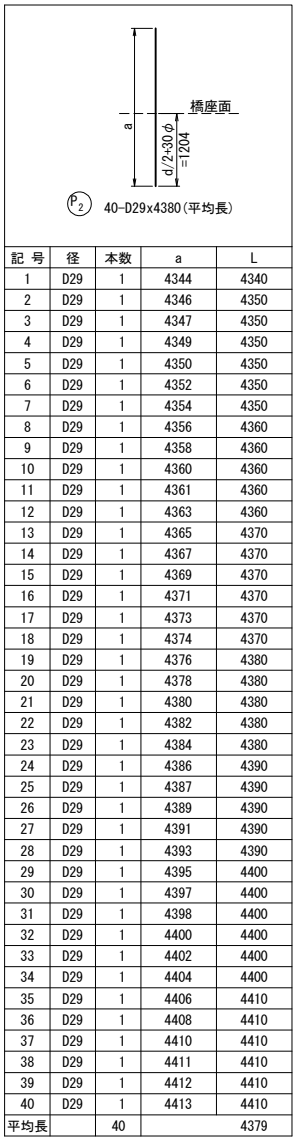
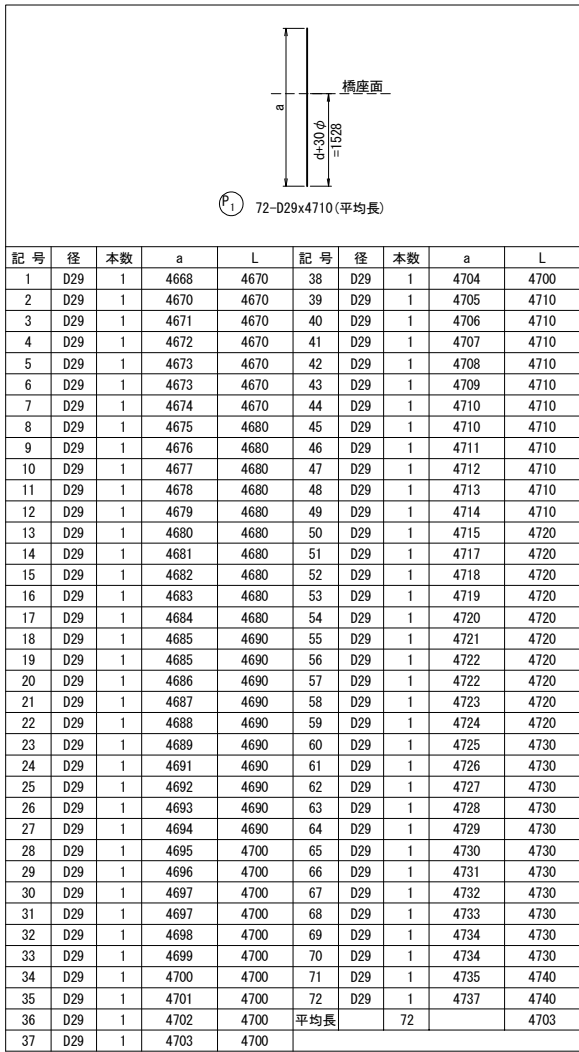


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

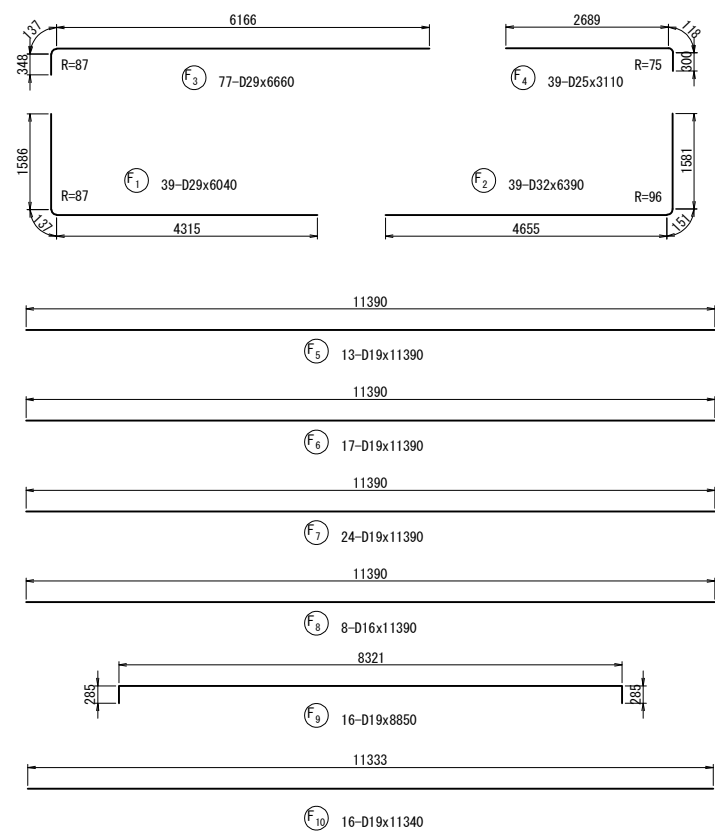
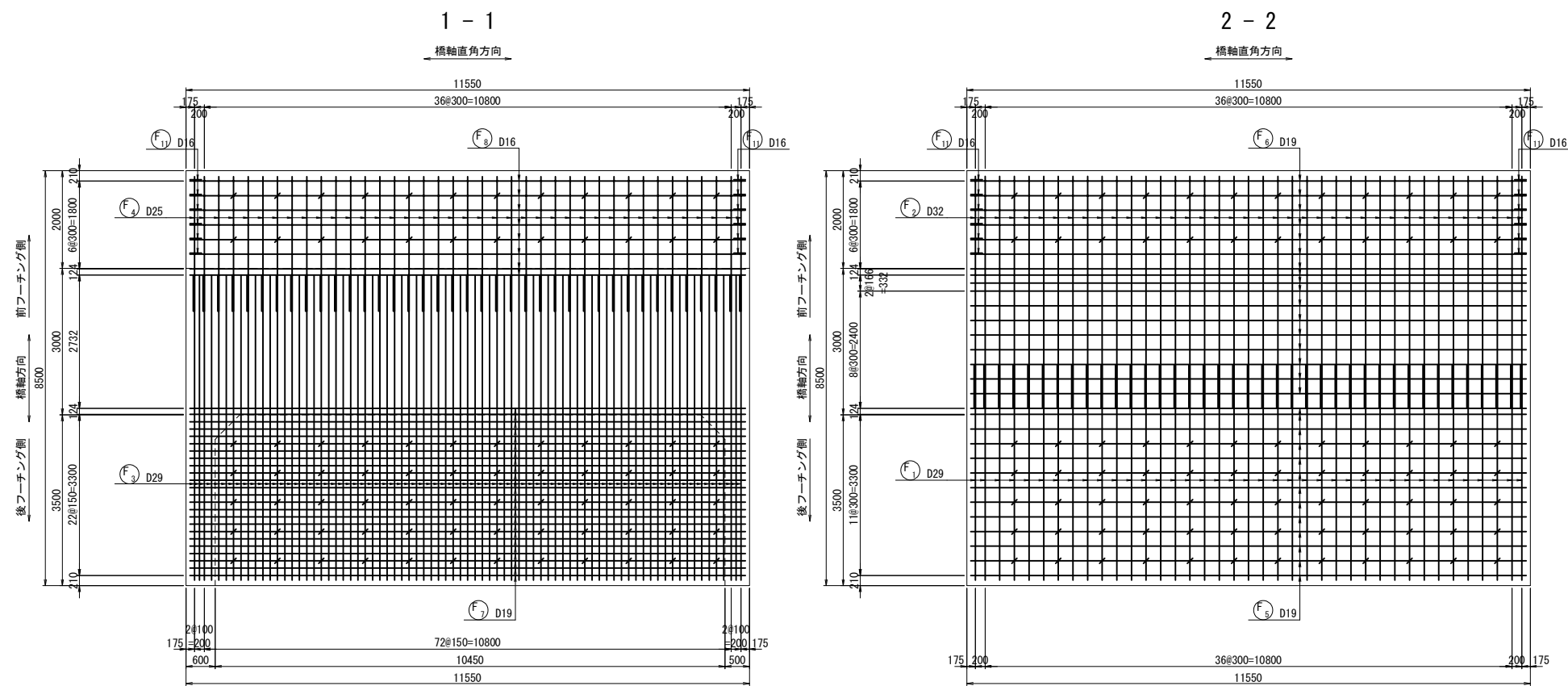
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。

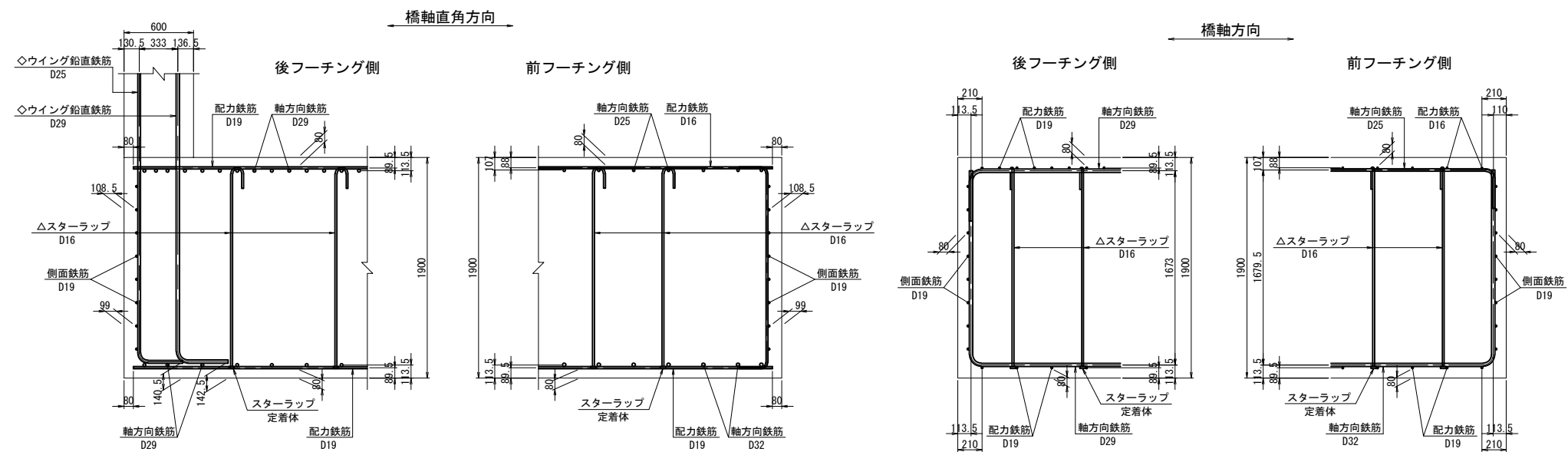
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

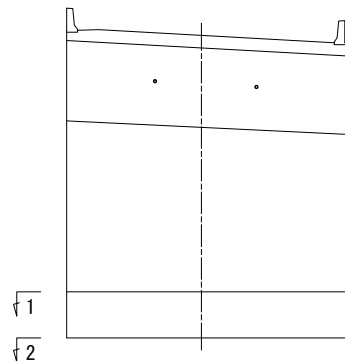
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1：50



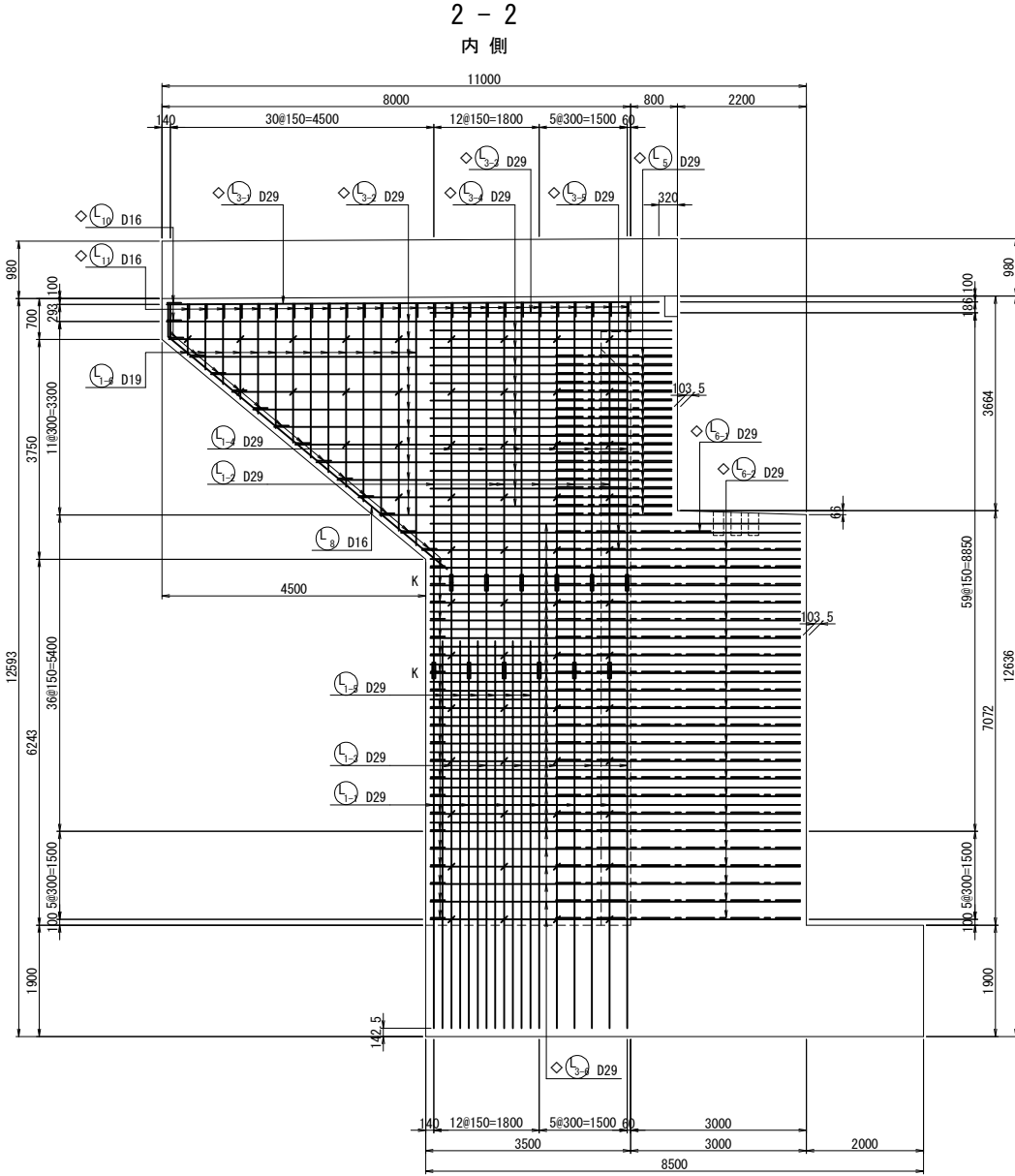
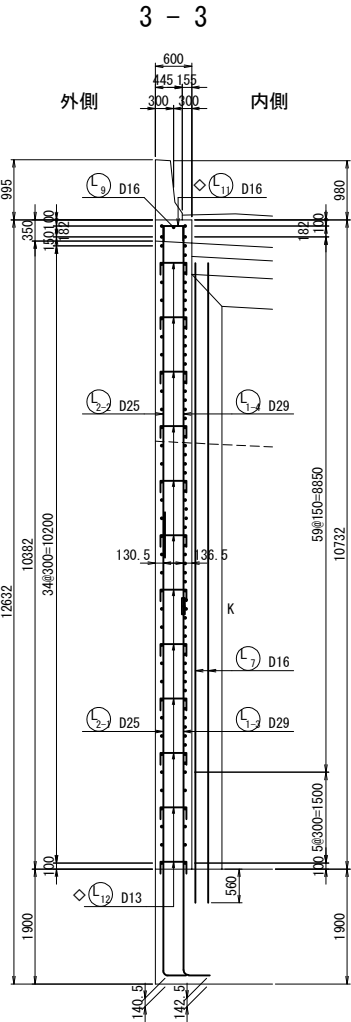
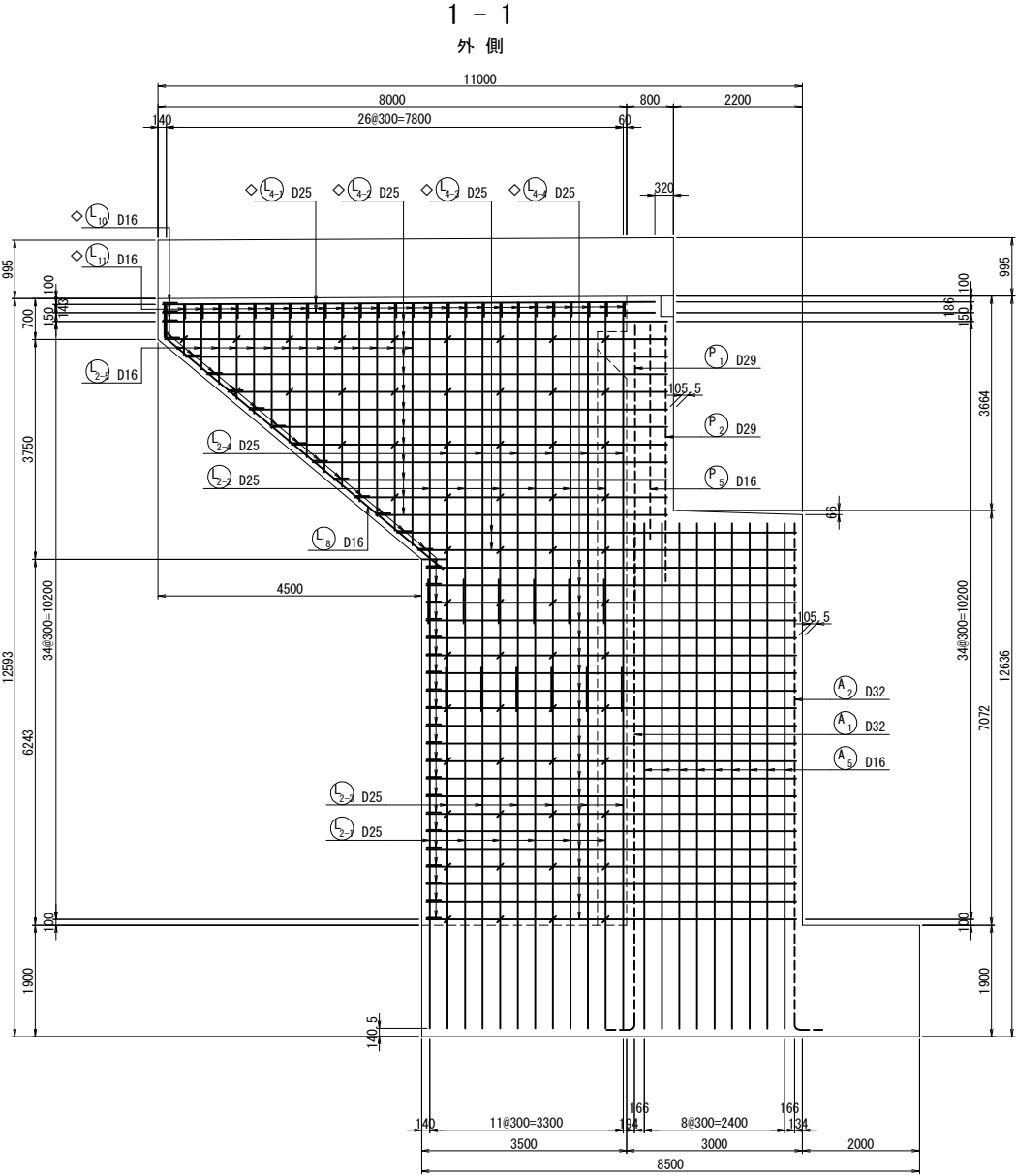
位置図



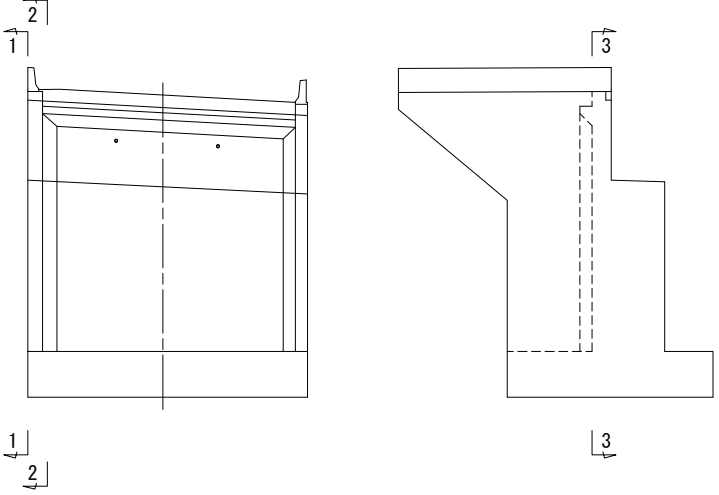
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング



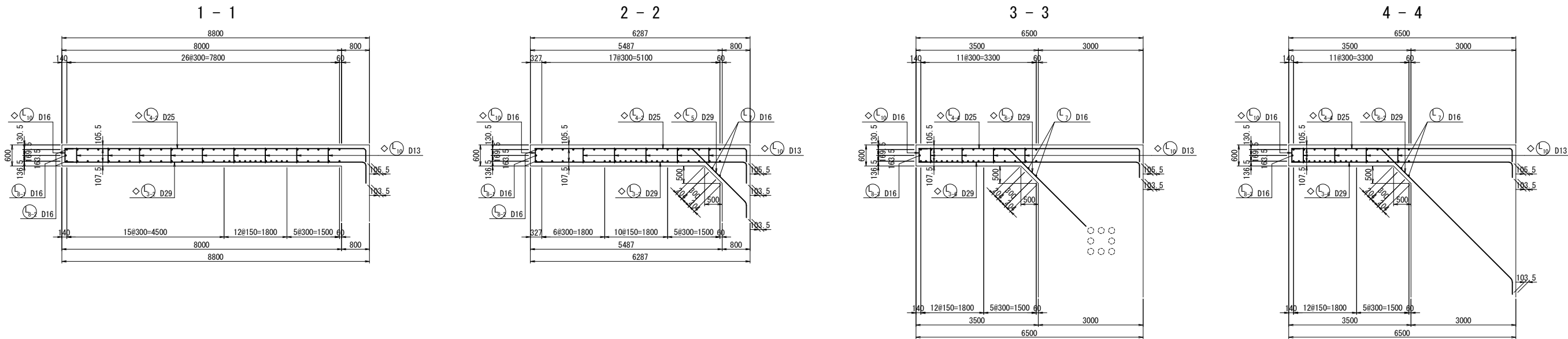
位置図



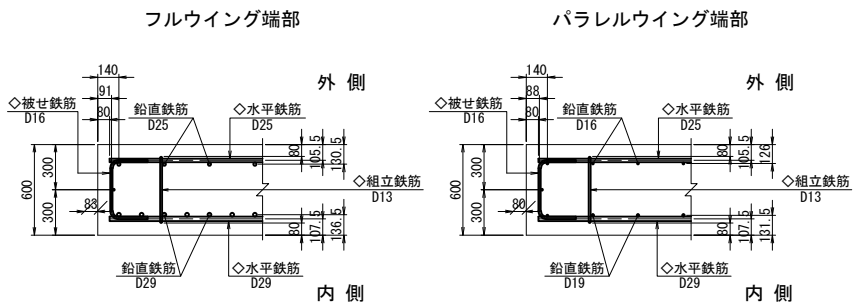
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

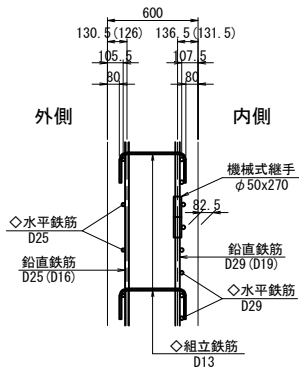
左側ウイング



左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

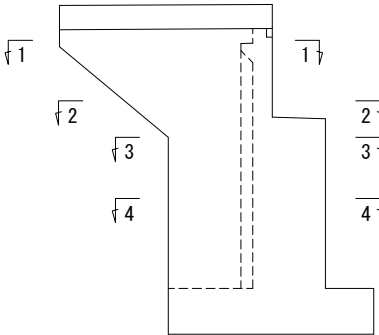


左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

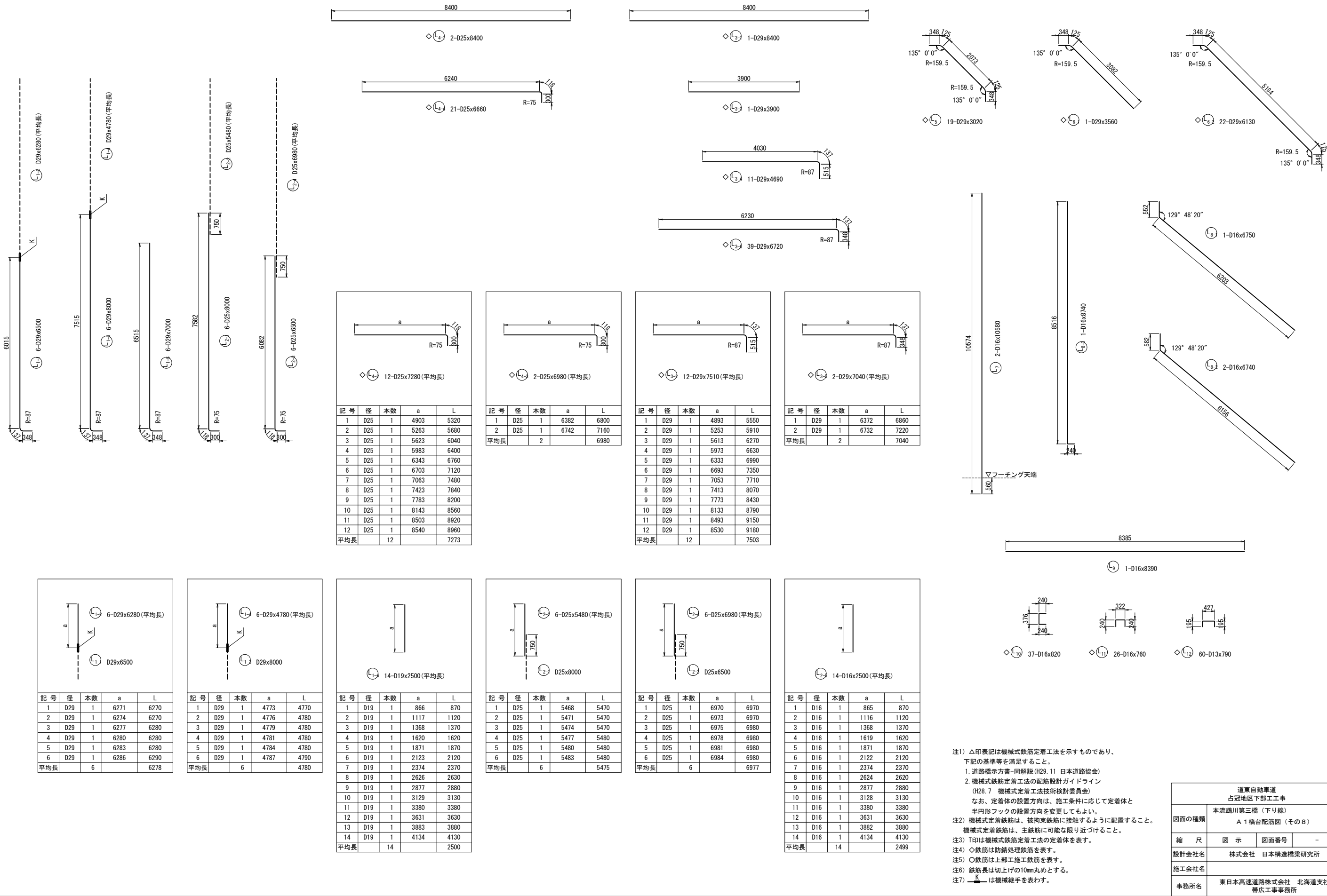
位置図



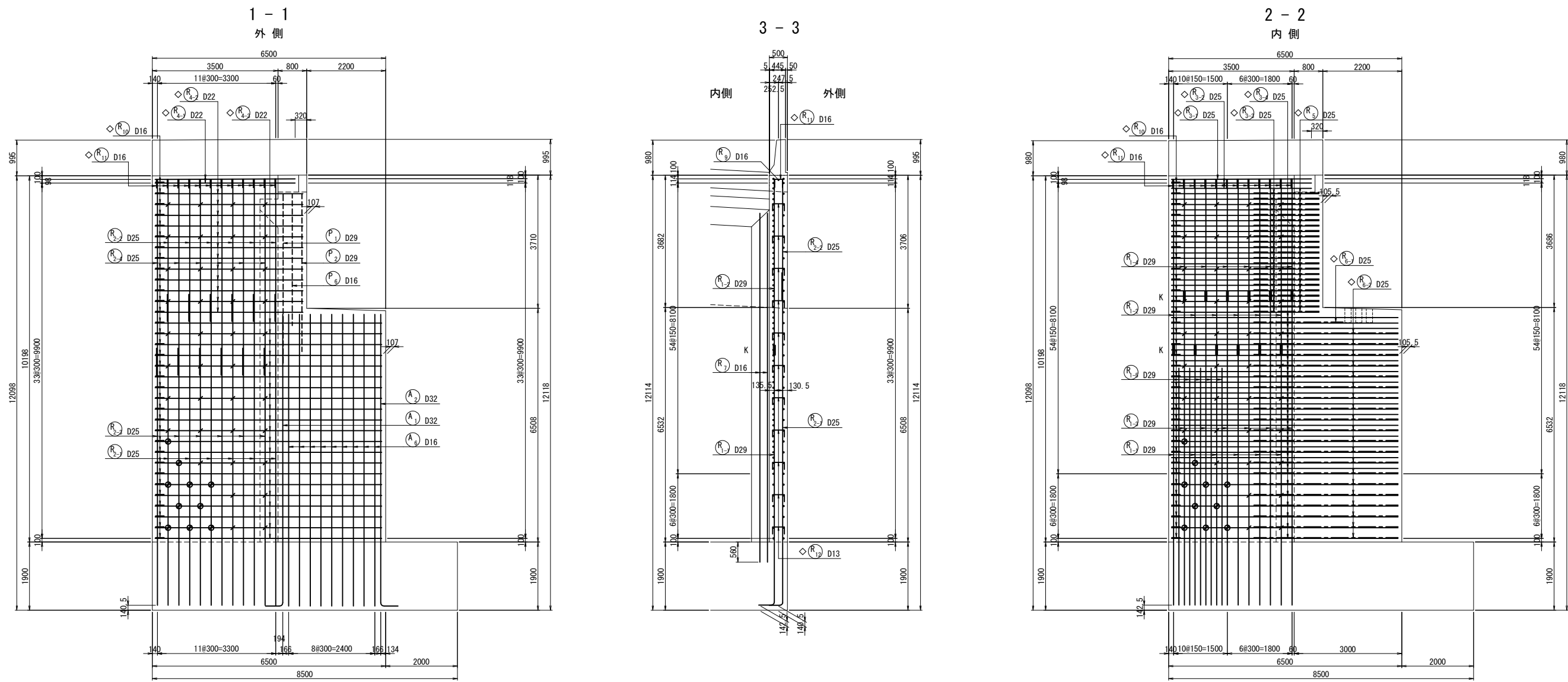
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

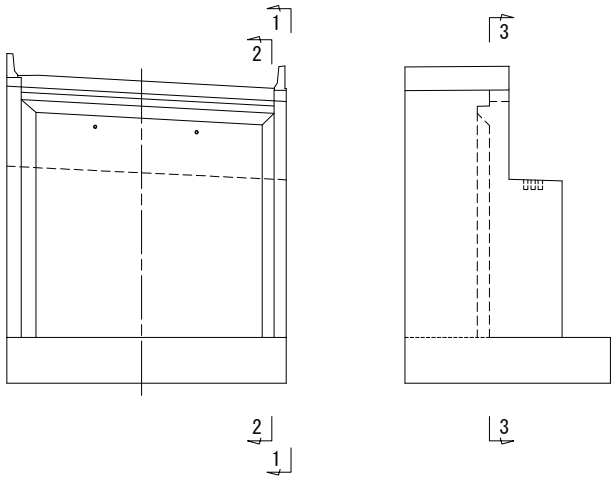
左側ウイング



右側ウイング



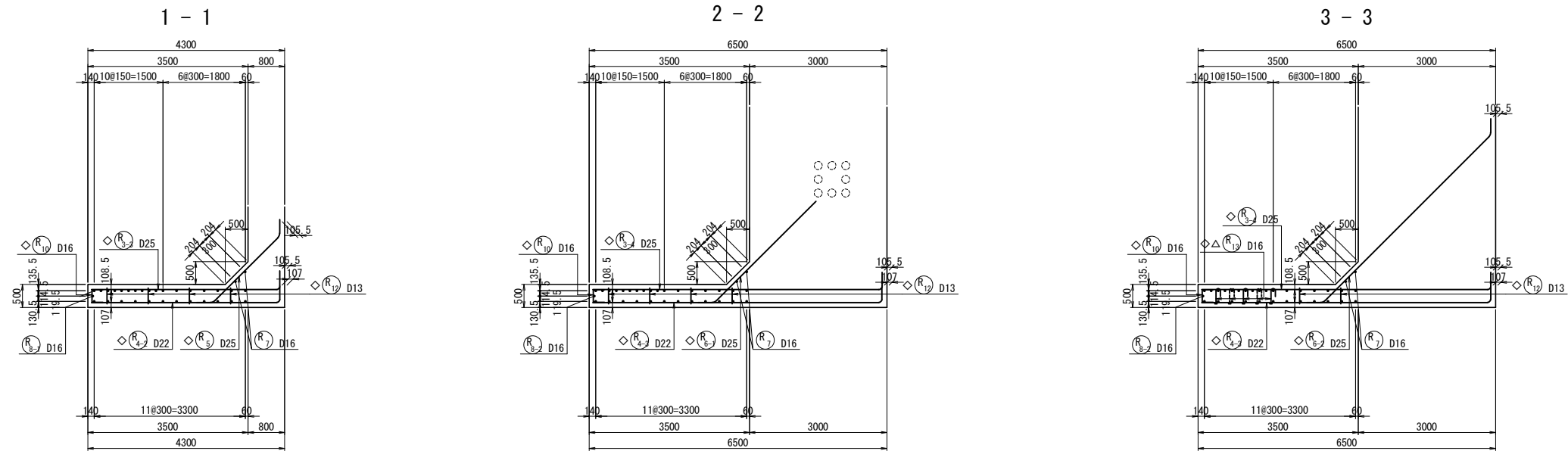
位置図



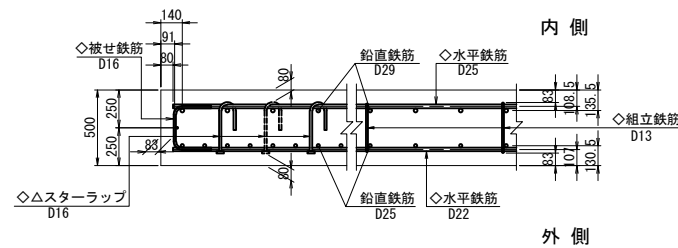
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) —は機械継手を表わす。
注8) ●は鉄筋を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

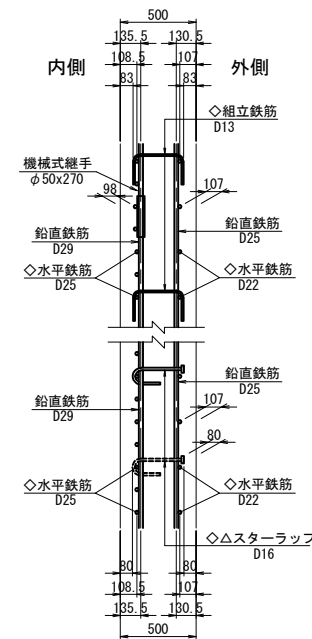
右側ウイング



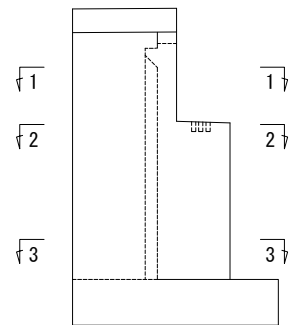
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイングかぶり詳細図



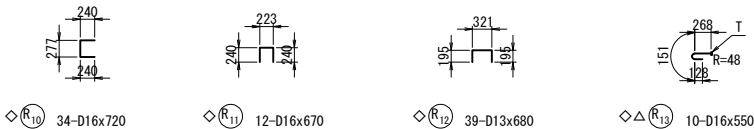
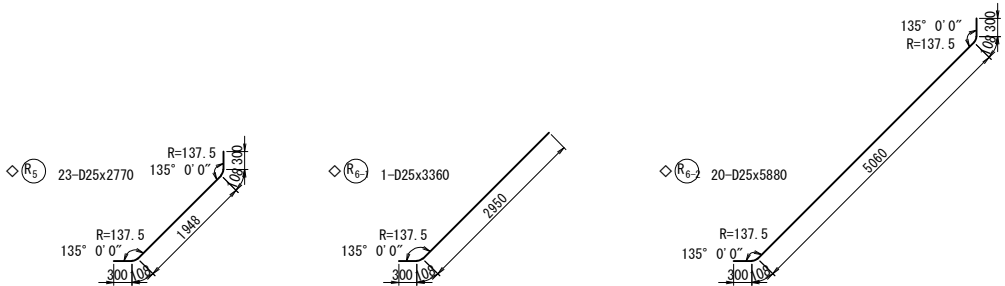
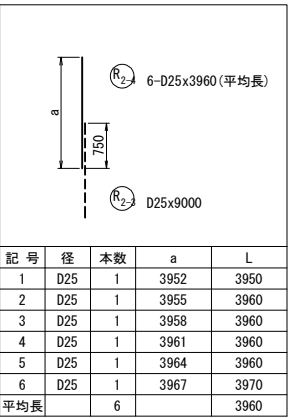
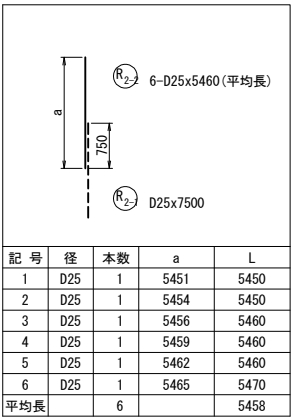
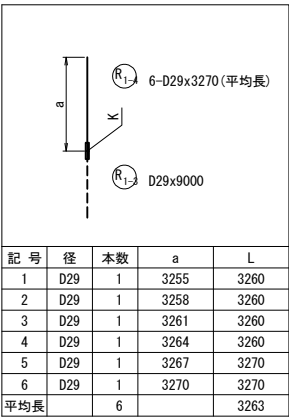
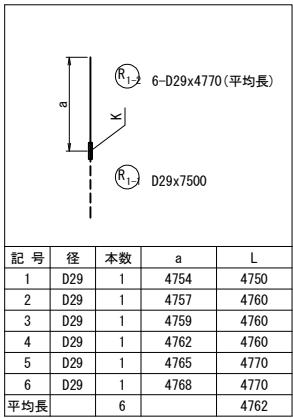
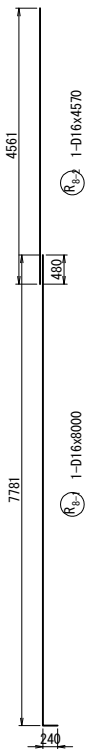
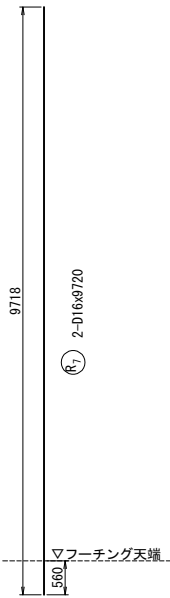
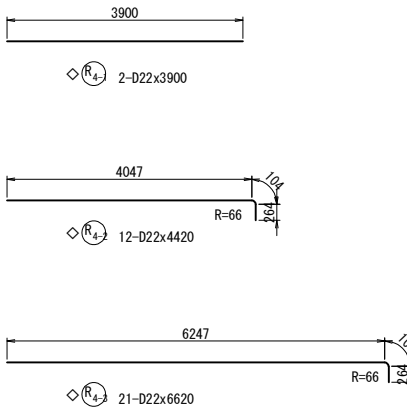
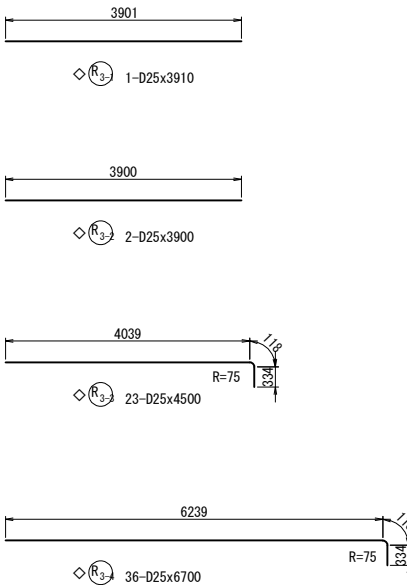
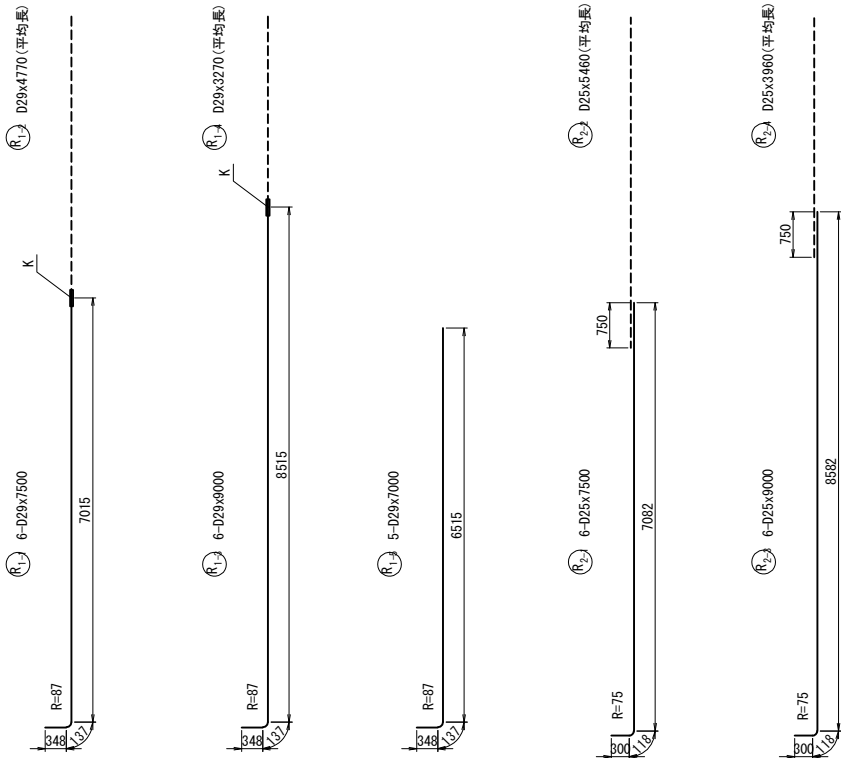
位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) \overline{K} は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

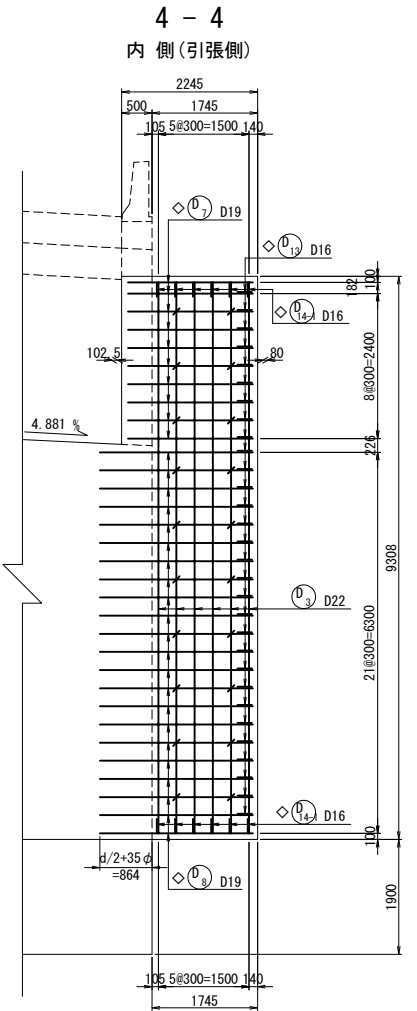
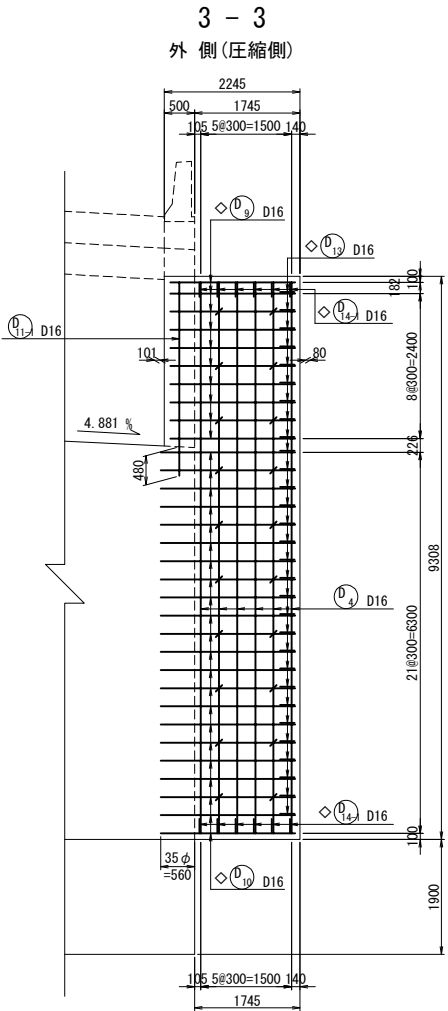
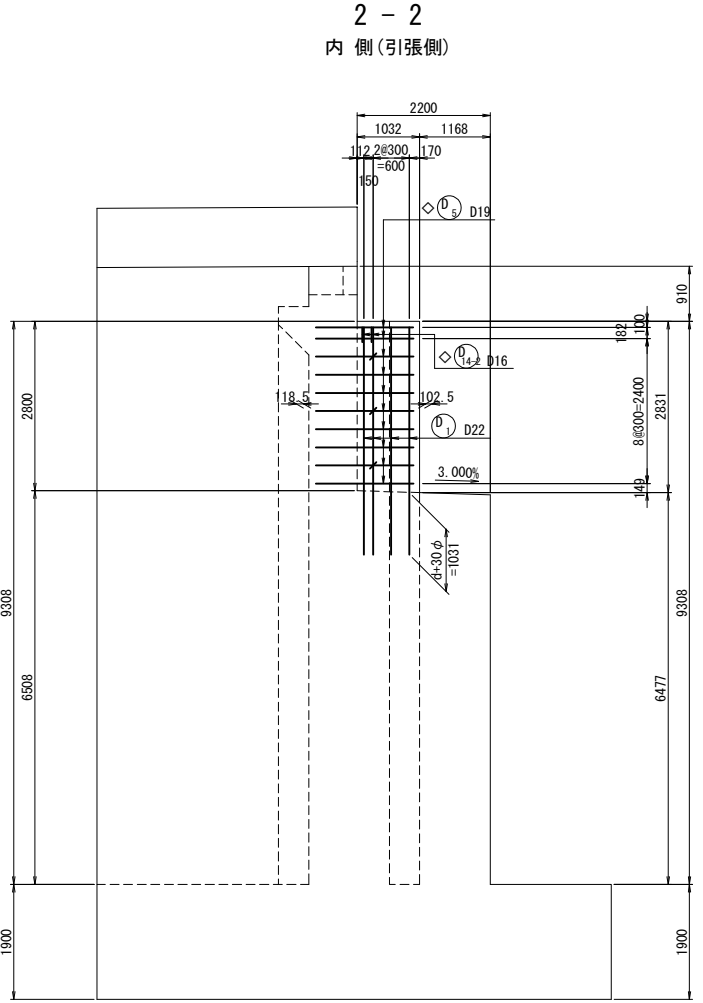
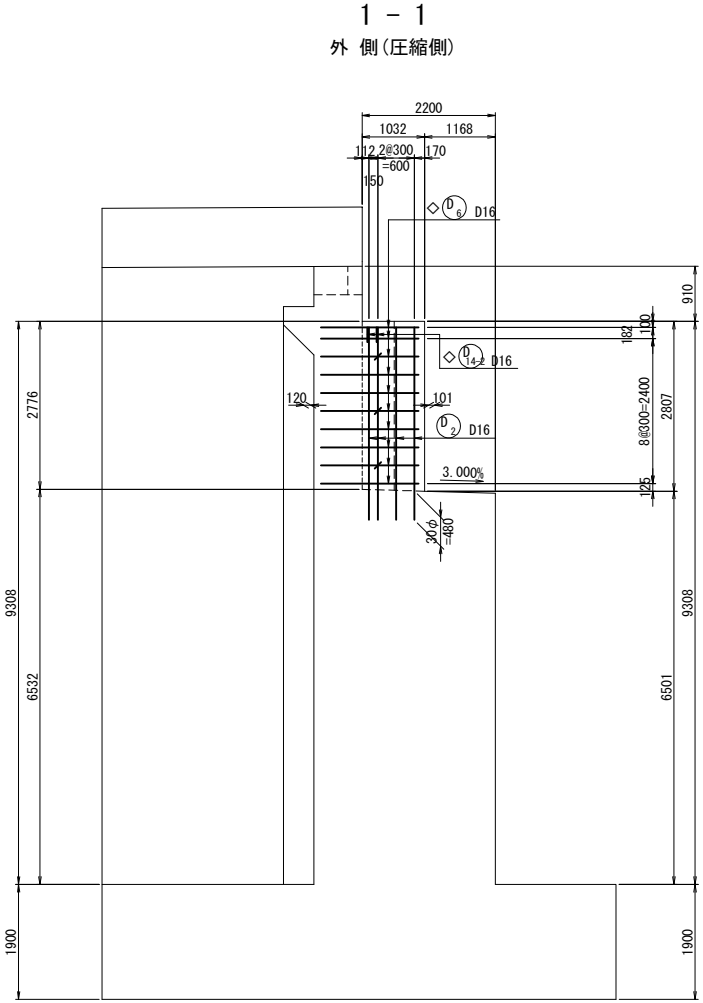
右側ウイング



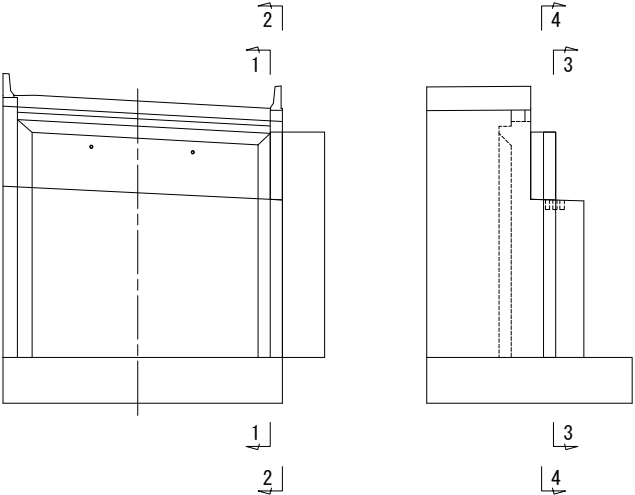
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) K は機械継手を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側土留壁



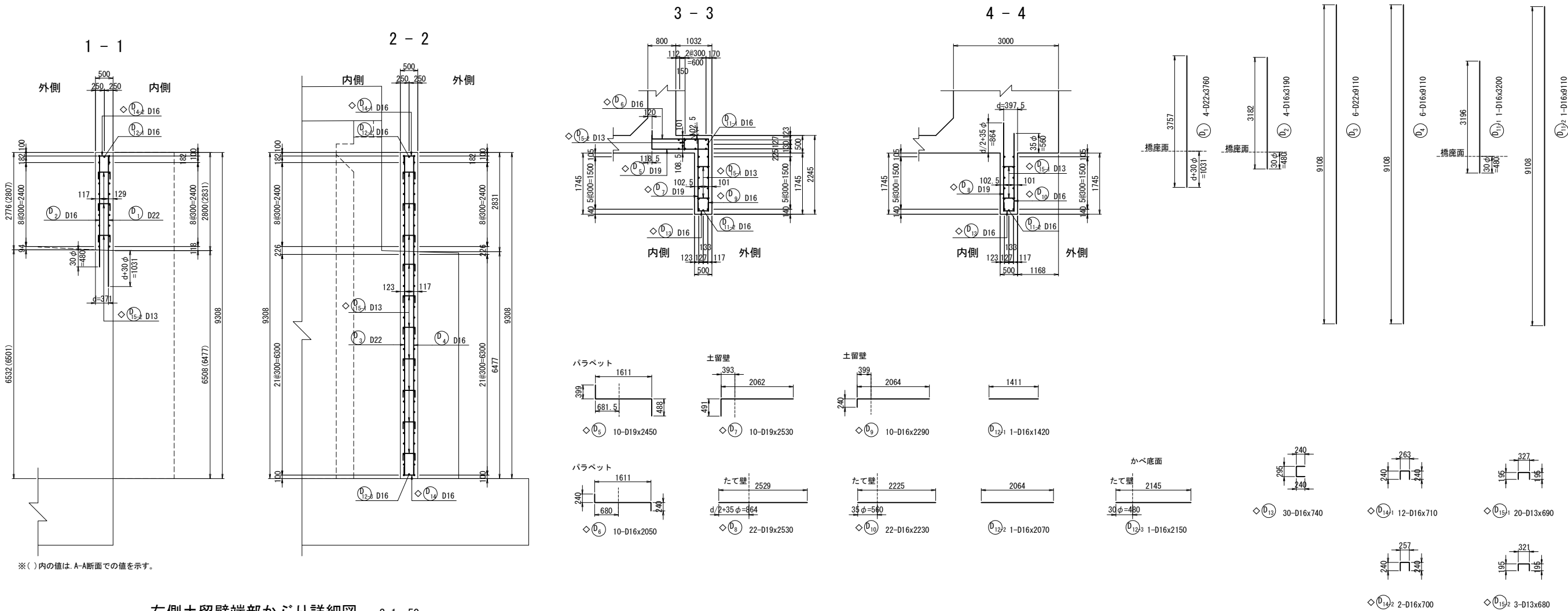
位置図



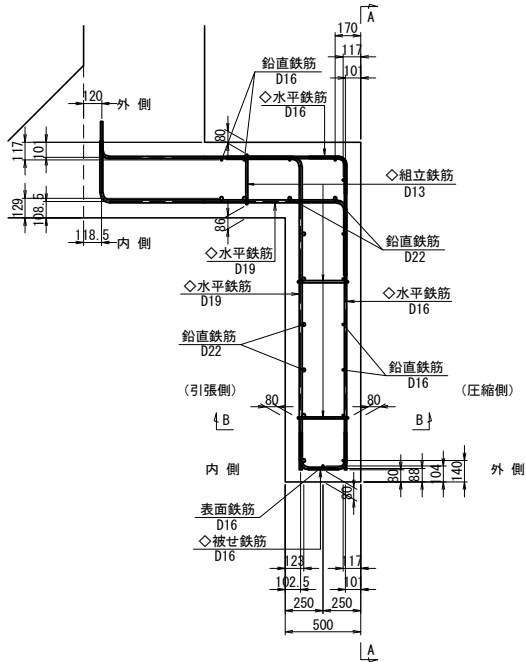
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

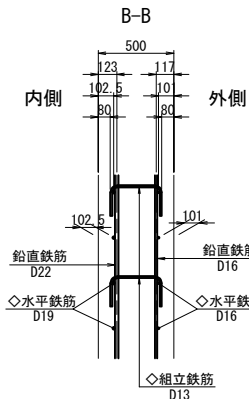
右側土留壁



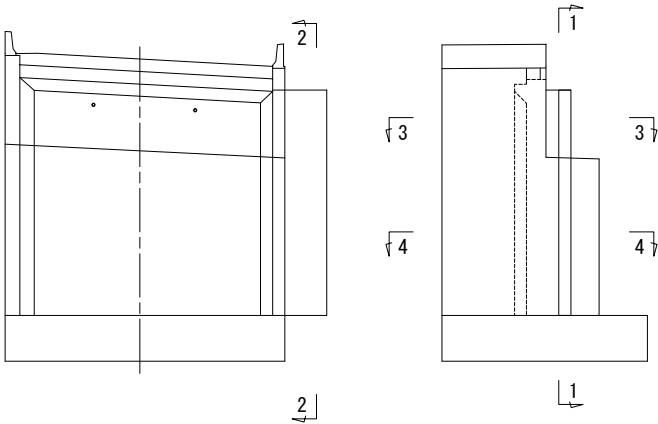
右側土留壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50



右側土留壁かぶり詳細図 S=1 : 50



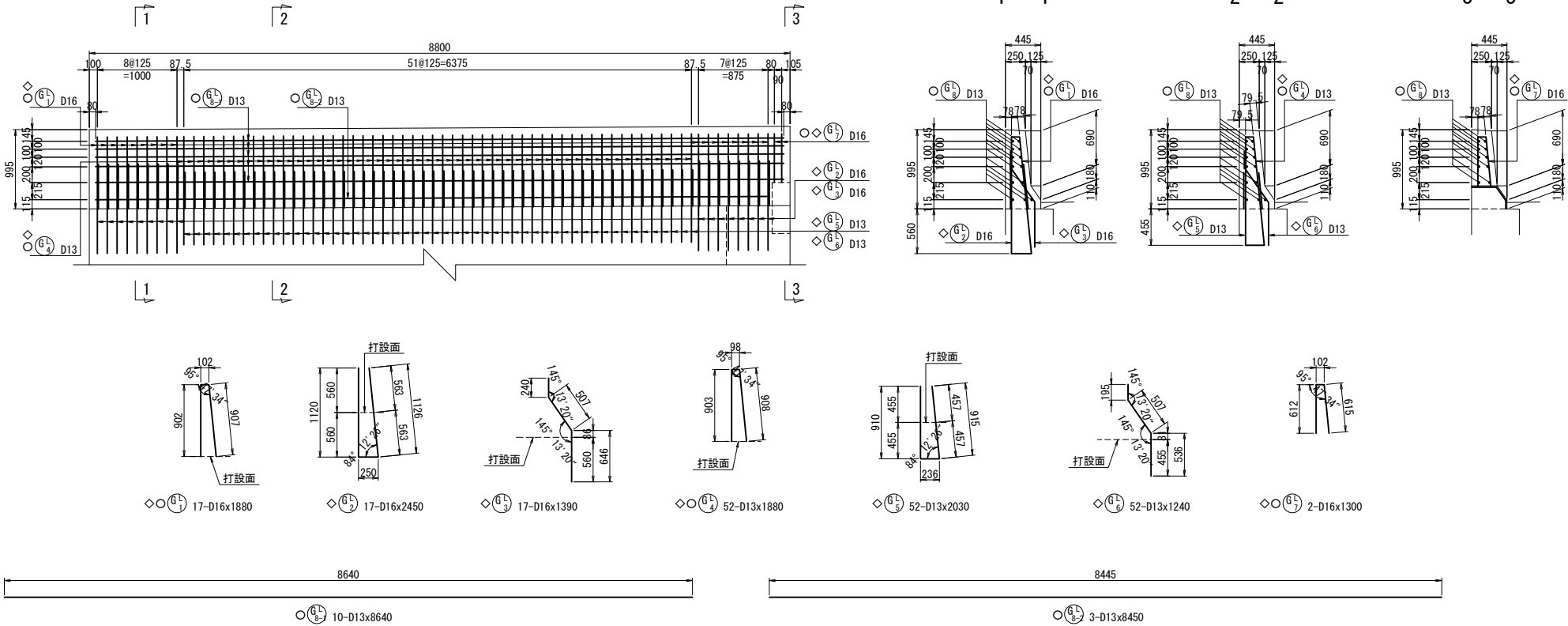
位置図



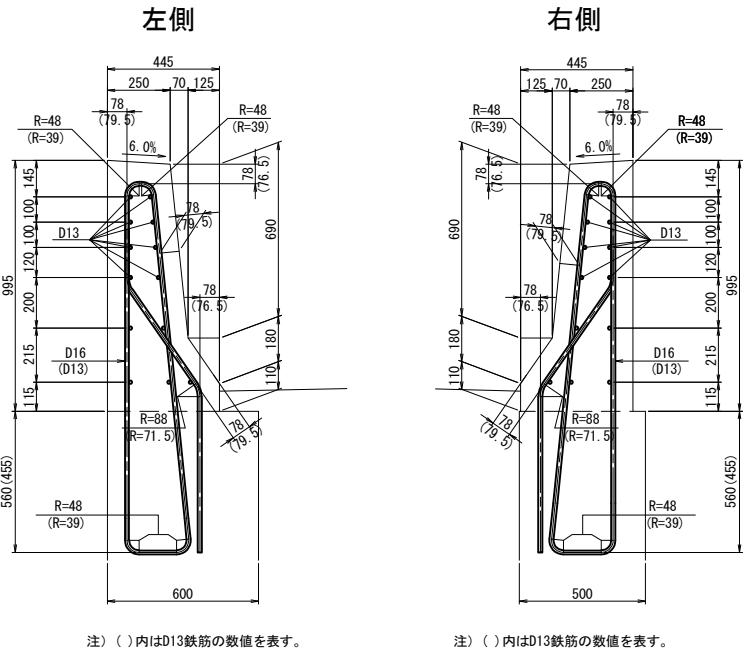
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

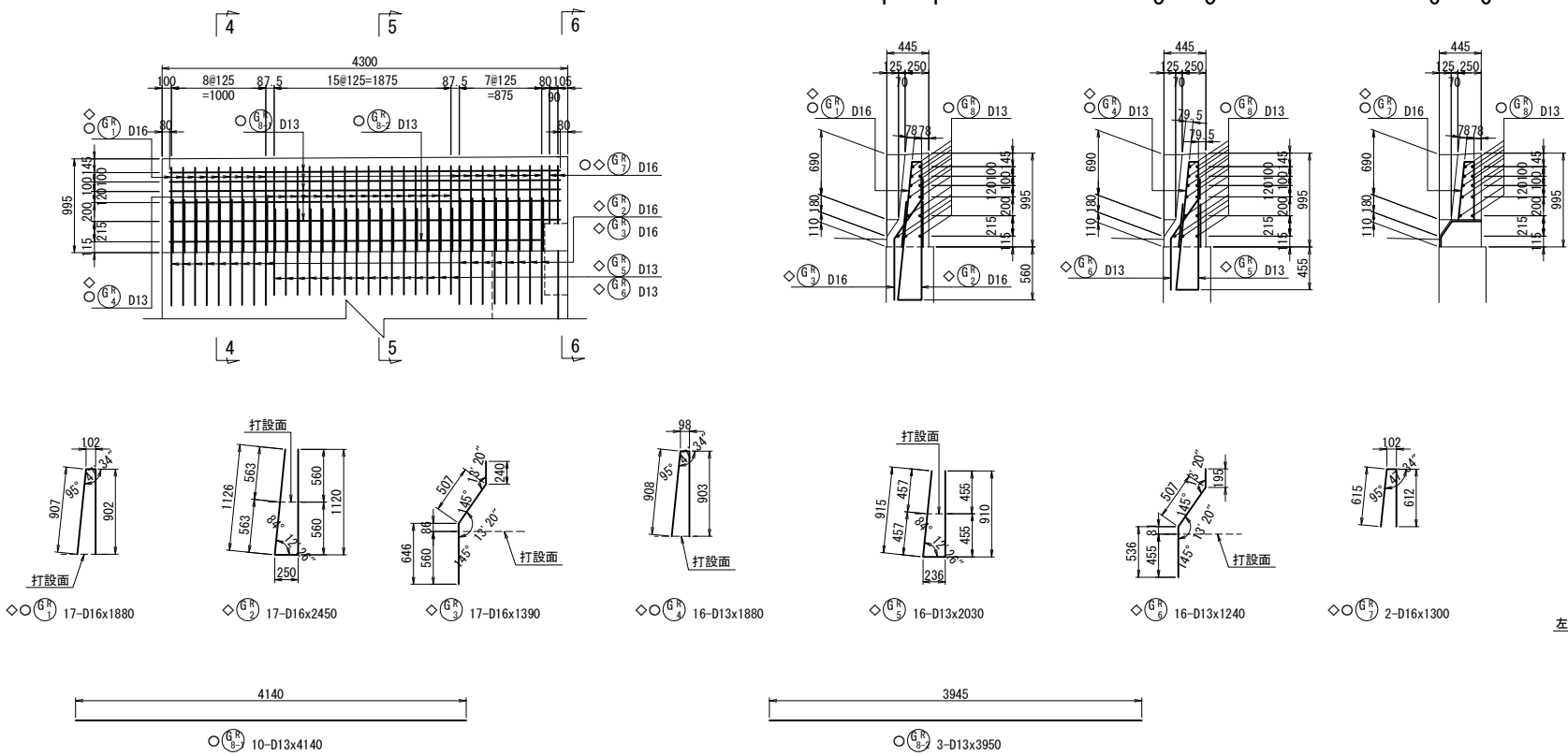
左壁欄側面展開図



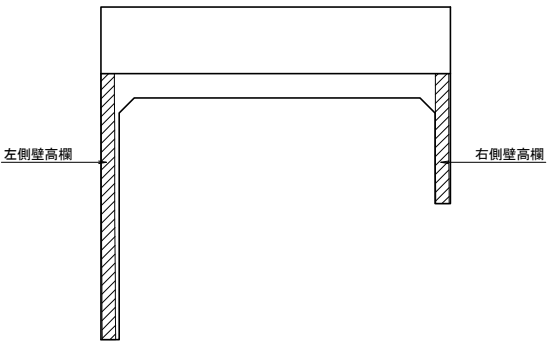
壁高欄かぶり詳細図 S=1 : 30



右壁欄側面展開図



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注3) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第三橋（下り線） A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

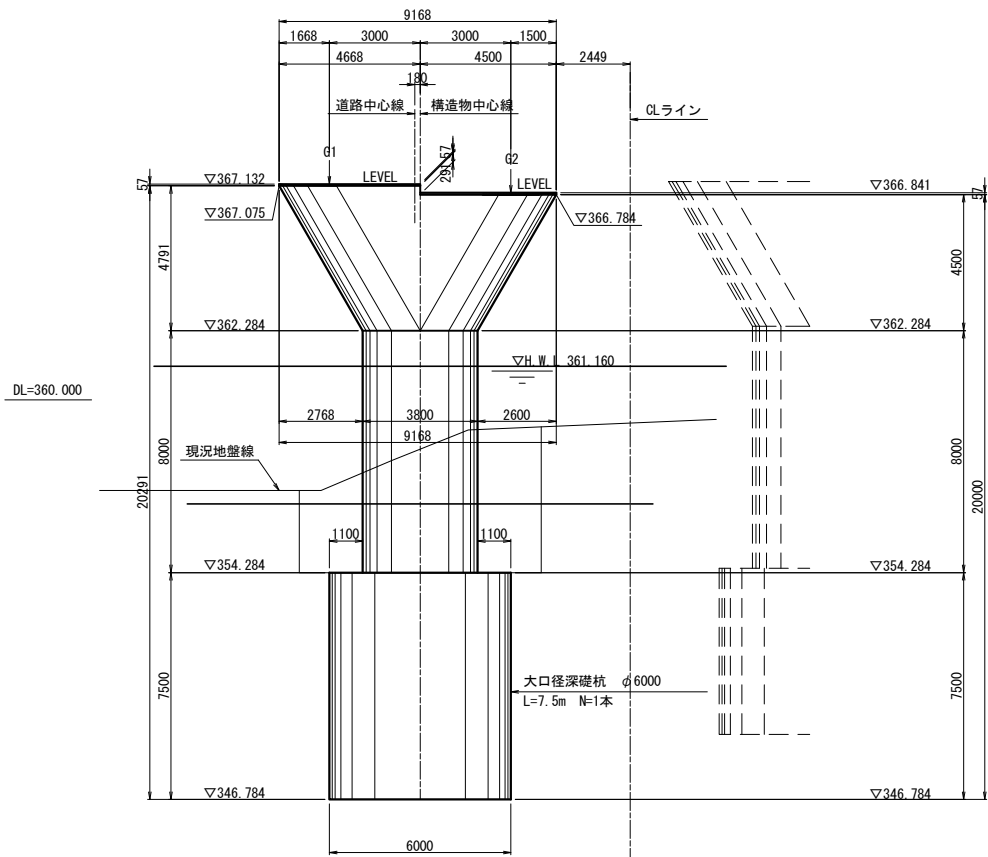
	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	P3-1	D29	3500	11	5.04	17.6	194	┐
◇	P3-2	D19	4430	11	2.25	9.97	110	┐
◇	P3-3	D25	5500	11	3.98	21.9	241	┐
◇	P3-4	D29	5500	11	5.04	27.7	305	┐
◇	P3-5	D19	4430	11	2.25	9.97	110	┐
◇	P3-6	D25	3500	11	3.98	13.9	153	┐
◇	P3-7	D29	3800	1	5.04	19.2	19	┐
◇	P3-8	D19	3910	1	2.25	8.80	9	┐
◇	P3-9	D25	3800	1	3.98	15.1	15	┐
◇	P4-1	D19	11410	11	2.25	25.7	283	┐
◇	P4-2	D19	3430	1	2.25	7.72	8	┐
◇	P4-3	D19	3910	1	2.25	8.80	9	┐
◇	P4-4	D19	3480	1	2.25	7.83	8	┐
◇	P7	D16	11410	1	1.56	17.8	18	┐
◇ △	P9-1	D19	890	33	2.25	2.00	66	┐ (33) C
◇ △	P9-2	D19	890	44	2.25	2.00	88	┐ (44) C
◇ △	P9-3	D19	890	55	2.25	2.00	110	┐ (55) C
						1746	kg	
						12	kg	
◇	Y1	D16	500	16	1.56	0.780	12	┐
						12	kg	
◇	E1	D22	520	13	3.04	1.58	21	┐
◇	E3	D16	11410	4	1.56	17.8	71	┐
						92	kg	
◇	A3-1	D19	11920	41	2.25	26.8	1099	┐
◇	A3-2	D19	7480	3	2.25	16.8	50	┐ (平均長)
◇	A3-3	D19	11940	1	2.25	26.9	27	┐
◇	A4-1	D19	11920	41	2.25	26.8	1099	┐
◇	A4-2	D19	7480	3	2.25	16.8	50	┐ (平均長)
◇	A4-3	D19	11940	1	2.25	26.9	27	┐
◇ △	A7	D19	3090	132	2.25	6.95	917	┐ (132) C
						3269	kg	
◇	S2-1	D16	9010	5	1.56	14.1	71	┐
◇	S2-2	D16	4080	5	1.56	6.36	32	┐
◇	S2-3	D16	7010	5	1.56	10.9	55	┐
◇	S2-4	D16	6080	5	1.56	9.48	47	┐
◇ △	S3	D16	3050	26	1.56	4.76	124	┐ (26) C
						329	kg	
◇	H1	D16	2650	20	1.56	4.13	83	┐
◇	H2	D16	2650	20	1.56	4.13	83	┐
◇	H3	D16	3000	8	1.56	4.68	37	┐
						203	kg	
◇	L3-1	D29	8400	1	5.04	42.3	42	┐
◇	L3-2	D29	7510	12	5.04	37.9	455	┐ (平均長)
◇	L3-3	D29	3900	1	5.04	19.7	20	┐
◇	L3-4	D29	4690	11	5.04	23.6	260	┐
◇	L3-5	D29	7040	2	5.04	35.5	71	┐ (平均長)
◇	L3-6	D29	6720	39	5.04	33.9	1322	┐
◇	L4-1	D25	8400	2	3.98	33.4	67	┐
◇	L4-2	D25	7280	12	3.98	29.0	348	┐ (平均長)
◇	L4-3	D25	6980	2	3.98	27.8	56	┐ (平均長)
◇	L4-4	D25	6660	21	3.98	26.5	557	┐
◇	L5	D29	3020	19	5.04	15.2	289	┐
◇	L6-1	D29	3560	1	5.04	17.9	18	┐
◇	L6-2	D29	6130	22	5.04	30.9	680	┐
◇	L10	D16	820	37	1.56	1.28	47	┐
◇	L11	D16	760	26	1.56	1.19	31	┐
◇	L12	D13	790	60	0.995	0.786	47	┐
						4310	kg	
◇	R3-1	D25	3910	1	3.98	15.6	16	┐
◇	R3-2	D25	3900	2	3.98	15.5	31	┐
◇	R3-3	D25	4500	23	3.98	17.9	412	┐
◇	R3-4	D25	6700	36	3.98	26.7	961	┐
◇	R4-1	D22	3900	2	3.04	11.9	24	┐
◇	R4-2	D22	4420	12	3.04	13.4	161	┐
◇	R4-3	D22	6620	21	3.04	20.1	422	┐
◇	R5	D25	2770	23	3.98	11.0	253	┐
◇	R6-1	D25	3360	1	3.98	13.4	13	┐
◇	R6-2	D25	5880	20	3.98	23.4	468	┐
◇	R10	D16	720	34	1.56	1.12	38	┐
◇	R11	D16	670	12	1.56	1.05	13	┐
◇	R12	D13	680	39	0.995	0.677	26	┐
◇ △	R13	D16	550	10	1.56	0.858	9	┐ (10) C
						2847	kg	
◇	J1	D13	1560	72	0.995	1.55	112	┐
						112	kg	

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	D5	D19	2450	10	2.25	5.51	55	┐
◇	D6	D16	2050	10	1.56	3.20	32	┐
◇	D7	D19	2530	10	2.25	5.69	57	┐
◇	D8	D19	2530	22	2.25	5.69	125	┐
◇	D9	D16	2290	10	1.56	3.57	36	┐
◇	D10	D16	2230	22	1.56	3.48	77	┐
◇	D13	D16	740	30	1.56	1.15	35	┐
◇	D14-1	D16	710	12	1.56	1.11	13	┐
◇	D14-2	D16	700	2	1.56	1.09	2	┐
◇	D15-1	D13	690	20	0.995	0.687	14	┐
◇	D15-2	D13	680	3	0.995	0.677	2	┐
						448	kg	
◇	GL2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GL3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GL5	D13	2030	52	0.995	2.02	105	┐
◇	GL6	D13	1240	52	0.995	1.23	64	┐
						271	kg	
◇	GR2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GR3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GR5	D13	2030	16	0.995	2.02	32	┐
◇	GR6	D13	1240	16	0.995	1.23	20	┐
						154	kg	
	下部工施工エポキシ樹脂塗装鉄筋							
	鉄筋質量集計 (SD345)							
		鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	(機械式定着)		
		D29	3675 kg	—	—	3675 kg		
		D25	3591 kg	—	—	3591 kg		
		D22	628 kg	—	—	628 kg		
		D19	3126 kg	—	1181 kg	4307 kg	(264)	
		D16	1037 kg	—	133 kg	1170 kg	(36)	
		D13	422 kg	—	—	422 kg		
		合 計	12479 kg	—	1314 kg	13793 kg	(300)	

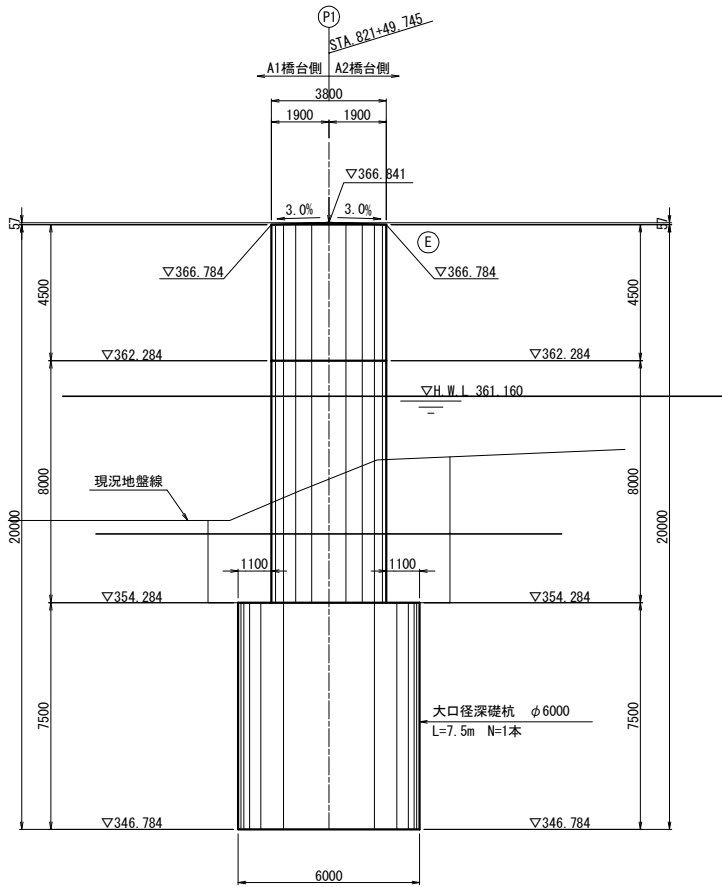
	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部工施工鉄筋 (SD345)							
	P1	D29	4710	72	5.04	23.7	1706	┐ (平均長)
	P2	D29	4380	40	5.04	22.1	884	┐ (平均長)
	P5	D16	3690	1	1.56	5.76	6	┐
	P6	D16	3620	1	1.56	5.65	6	┐
	P8	D16	980	40	1.56	1.53	61	┐
						2663	kg	
	E2	D16	2940	34	1.56	4.59	156	┐
	E4	D13	1590	13	0.995	1.58	21	┐
						177	kg	
	A1	D32	8810	73	6.23	54.9	4008	┐ (平均長)
	A2	D32	8800	38	6.23	54.8	2082	┐ (平均長)
	A5	D16	8830	9	1.56	13.8	124	┐
	A6	D16	8280	9	1.56	12.9	116	┐
						6330	kg	
	S1	D16	3770	38	1.56	5.88	223	┐
						223	kg	
	F1	D29	6040	39	5.04	30.4	1186	┐
	F2	D32	6390	39	6.23	39.8	1552	┐
	F3	D29	6660	77	5.04	33.6	2587	┐
	F4	D25	3110	39	3.98	12.4	484	┐
	F5	D19	11390	13	2.25	25.6	333	┐
	F6	D19	11390	17	2.25	25.6	435	┐
	F7	D19	11390	24	2.25	25.6	614	┐
	F8	D16	11390	8	1.56	17.8	142	┐
	F9	D19	8850	16	2.25	19.9	318	┐
	F10	D19	11340	16	2.25	25.5	408	┐
	F11	D16	2170	12	1.56	3.39	41	┐
△	F12	D16	1950	60	1.56	3.04	182	┐ (60) C
△	F13	D16	1950	24	1.56	3.04	73	┐ (24) C
						8355	kg	

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋(SD345)							
L1-1	D29	6500	6	5.04	32.8	197	┐ K [6]
L1-2	D29	6280	6	5.04	31.7	190	┐ K (平均長)
L1-3	D29	8000	6	5.04	40.3	242	┐ K [6]
L1-4	D29	4780	6	5.04	24.1	145	┐ K (平均長)
L1-5	D29	7000	6	5.04	35.3	212	┐
L1-6	D19	2500	14	2.25	5.63	79	┐ (平均長)
L2-1	D25	8000	6	3.98	31.8	191	┐
L2-2	D25	5480	6	3.98	21.8	131	┐ (平均長)
L2-3	D25	6500	6	3.98	25.9	155	┐
L2-4	D25	6980	6	3.98	27.8	167	┐ (平均長)
L2-5	D16	2500	14	1.56	3.90	55	┐ (平均長)
L7	D16	10580	2	1.56	16.5	33	┐
L8-1	D16	6750	1	1.56	10.5	11	┐
L8-2	D16	6740	2	1.56	10.5	21	┐
L8-3	D16	8740	1	1.56	13.6	14	┐
L9	D16	8390	1	1.56	13.1	13	┐
							1856 kg
R1-1	D29	7500	6	5.04	37.8	227	┐ K [6]
R1-2	D29	4770	6	5.04	24.0	144	┐ K (平均長)
R1-3	D29	9000	6	5.04	45.4	272	┐ K [6]
R1-4	D29	3270	6	5.04	16.5	99	┐ K (平均長)
R1-5	D29	7000	5	5.04	35.3	177	┐
R2-1	D25	7500	6	3.98	29.9	179	┐
R2-2	D25	5460	6	3.98	21.7	130	┐ (平均長)
R2-3	D25	9000	6	3.98	35.8	215	┐
R2-4	D25	3960	6	3.98	15.8	95	┐ (平均長)
R7	D16	9720	2	1.56	15.2	30	┐
R8-1	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐
R8-2	D16	4570	1	1.56	7.13	7	┐
R9	D16	3890	1	1.56	6.07	6	┐

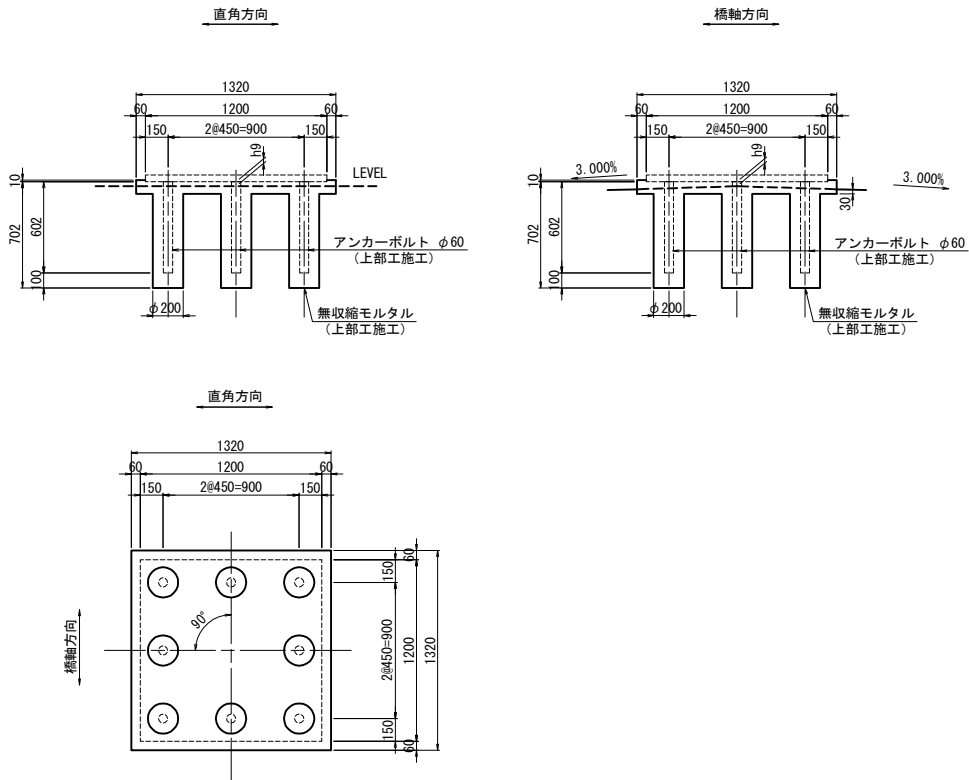
正面図（1-1）



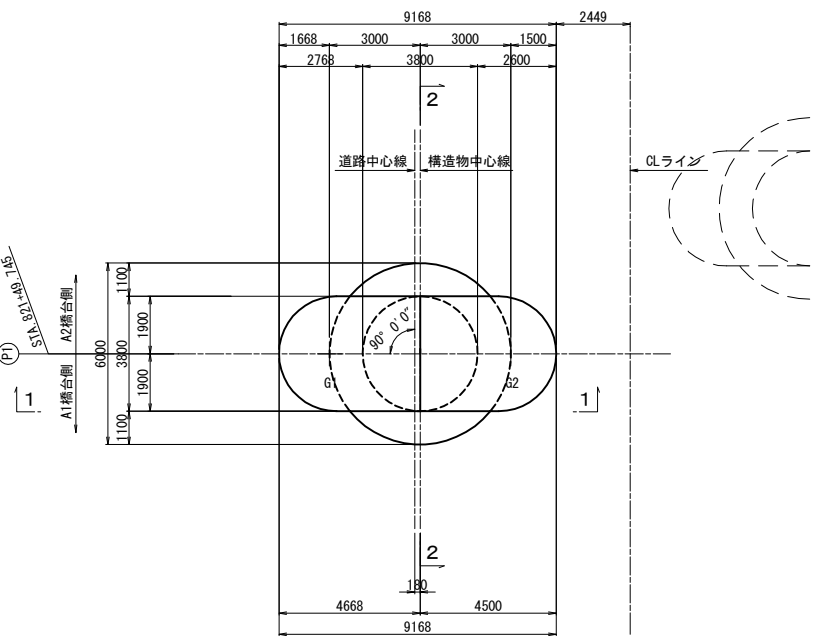
断面図（2-2）



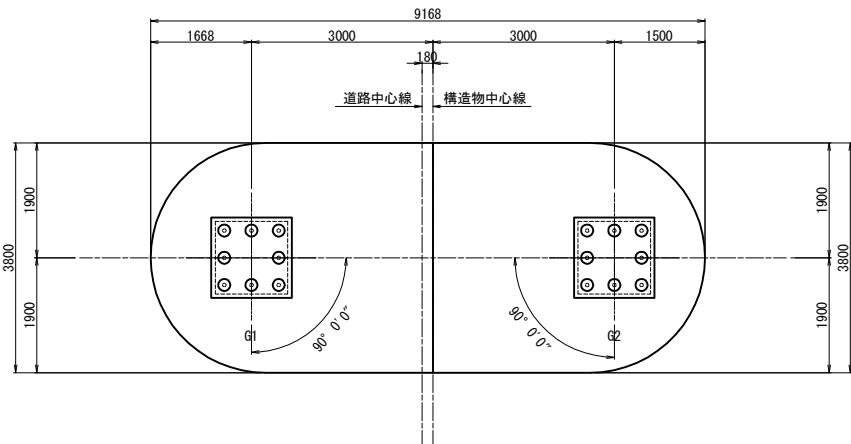
支承箱抜き詳細図 S=1:50



平面図



支承配置図 S=1:125



構造高表

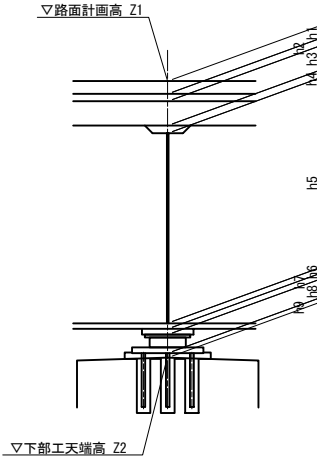
		P1橋脚	
		G1	G2
路面計画高	Z1	370.836	370.506
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.051	0.014
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.700	2.700
下フランジ厚	h6	0.049	0.047
ソールプレート厚	h7	0.041	0.041
支承高	h8	0.333	0.333
資産モルタル厚	h9	0.030	0.030
構造高合計	Σh	3.704	3.665
下部工天端高	Z2	367.132	366.841

使用材料表

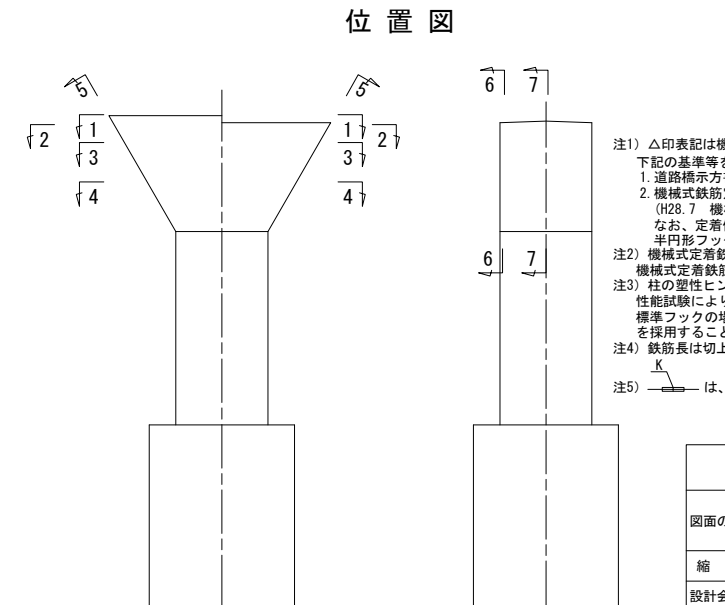
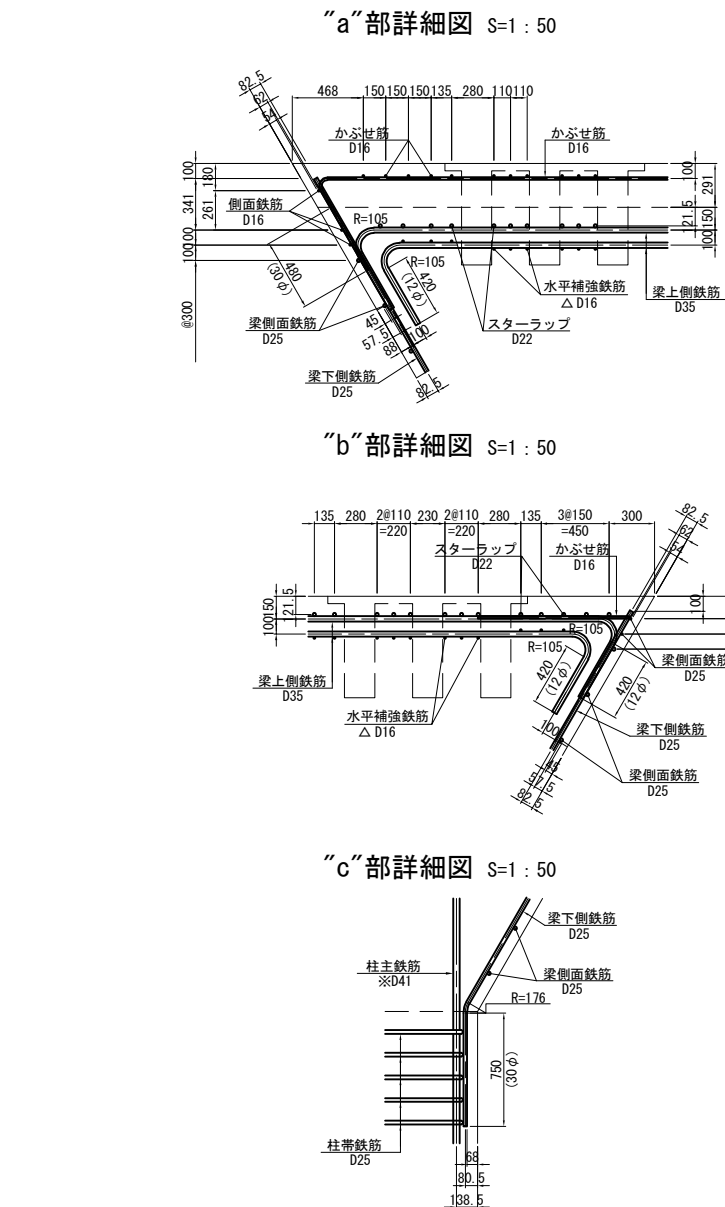
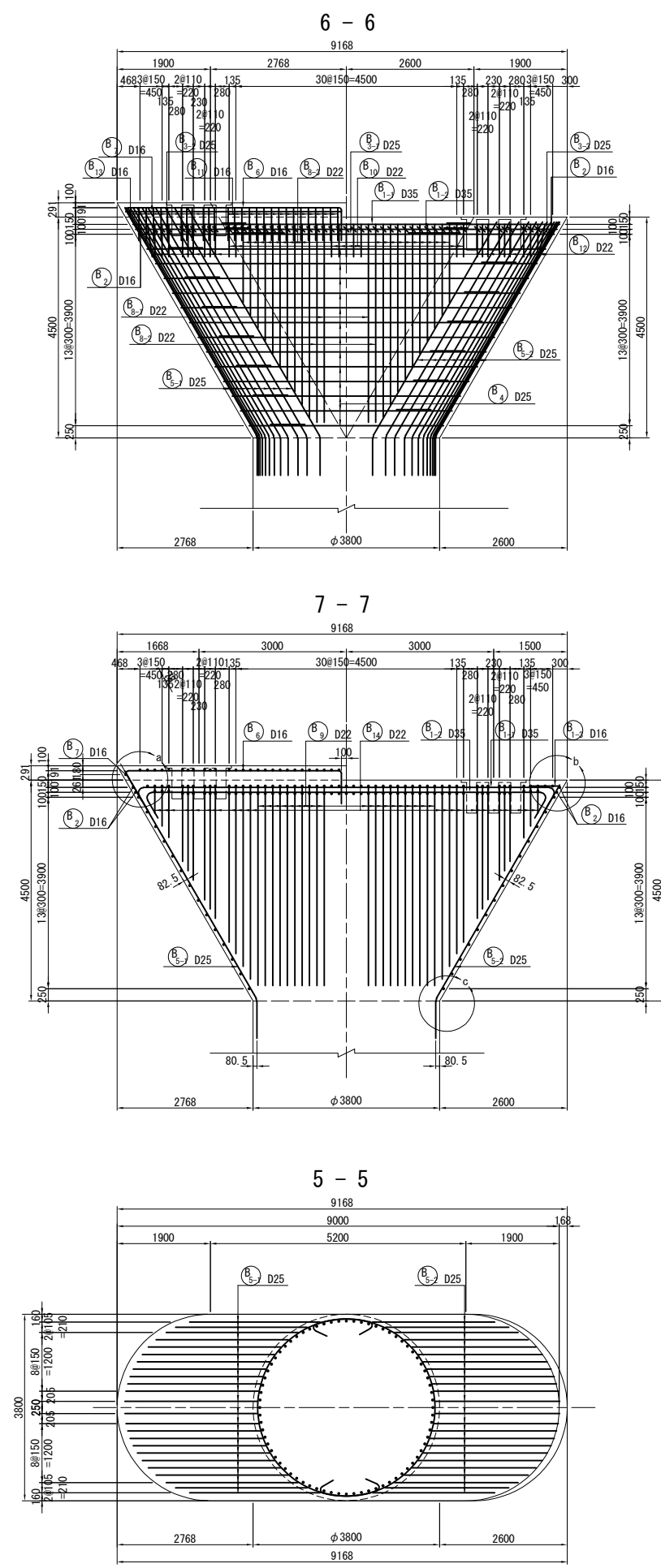
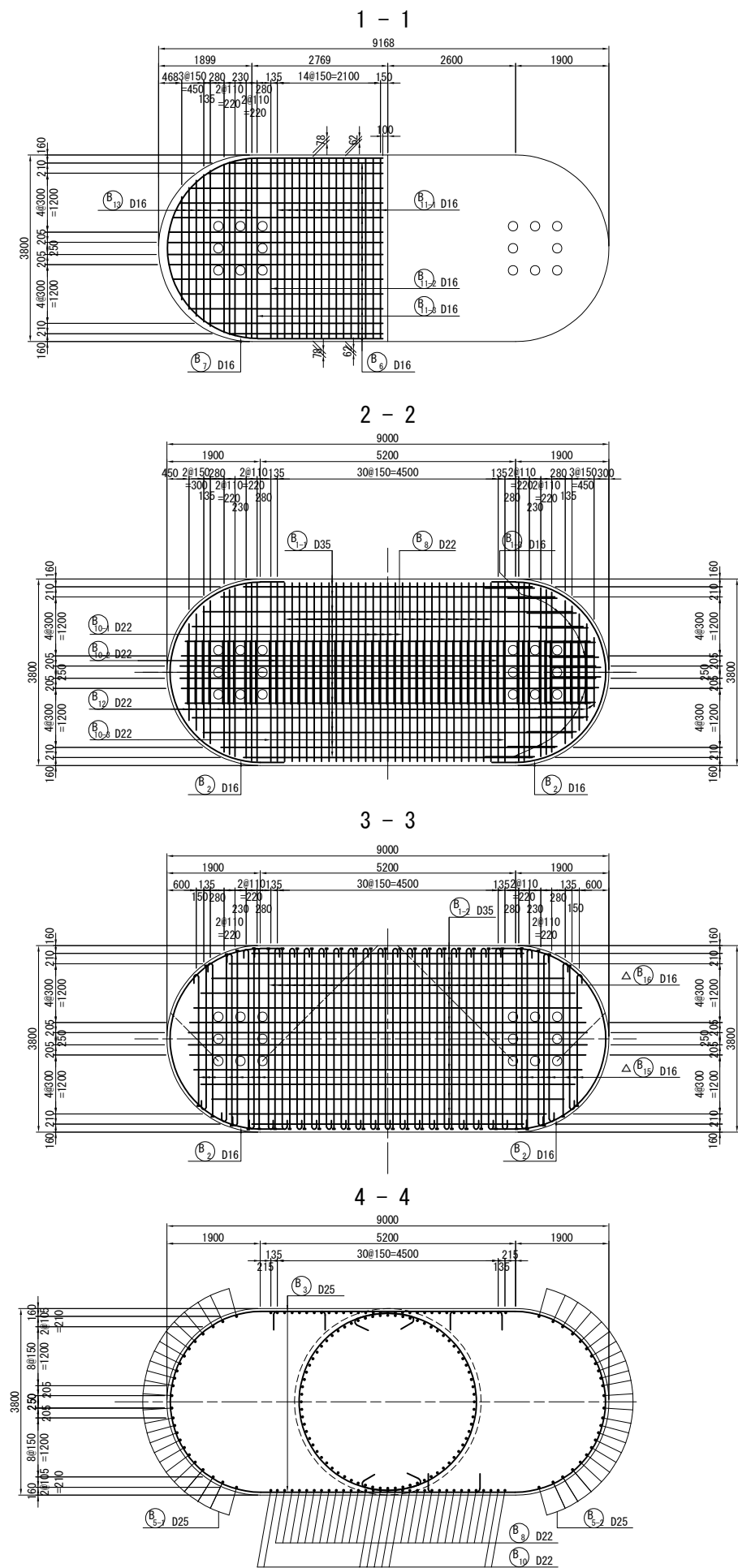
コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$
	深礎杭	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
鉄筋	躯体	柱主鉄筋SD490
	深礎杭	その他 SD345

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部D2	m3	253.0	土砂



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

3800

160 210 4#300=1200 205 250 205 4#300=1200 210 160

81

7

100 100 150

21 13

10 5

54

45

上面主鉄筋 D35

△ 水平補強鉄筋 D16

側面鉄筋 D25

45

スターラップ D22

13#300=3900

柱帯鉄筋 D25

柱主鉄筋※D41

4500

250

81

138 5

81

138 5

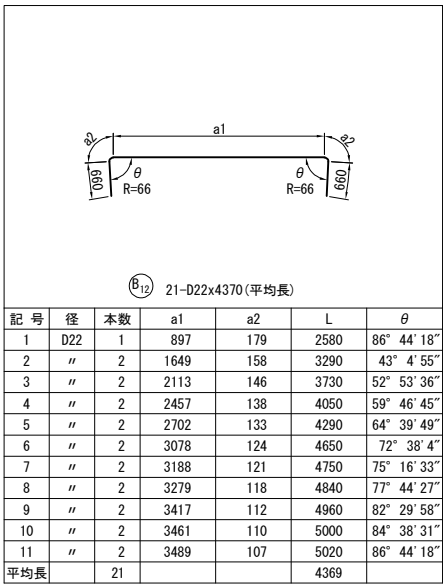
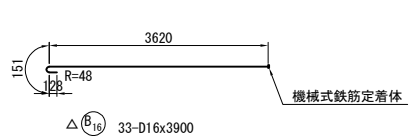
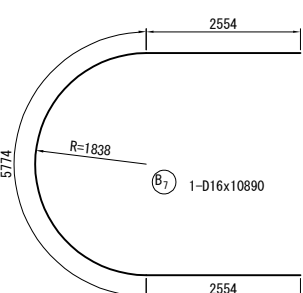
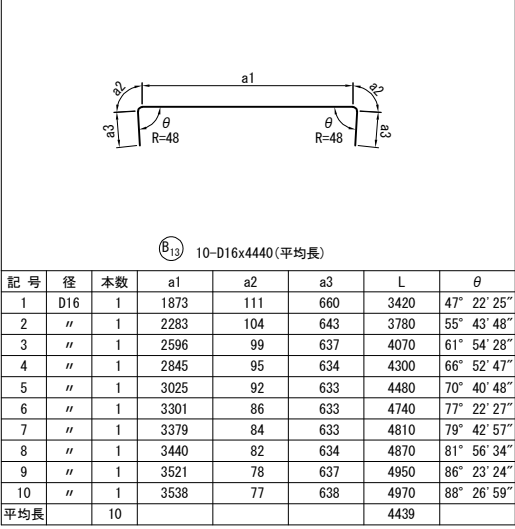
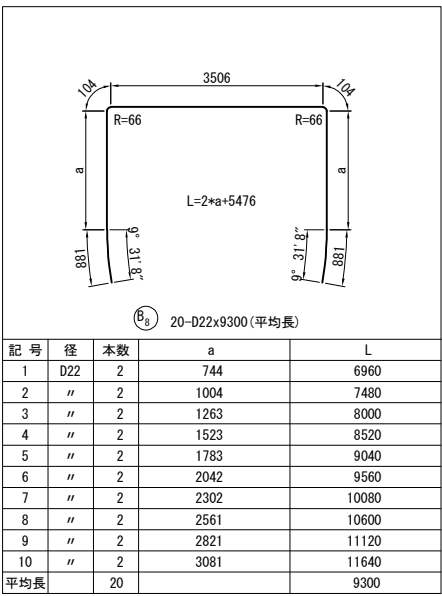
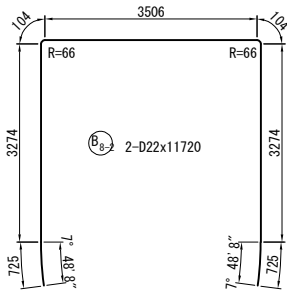
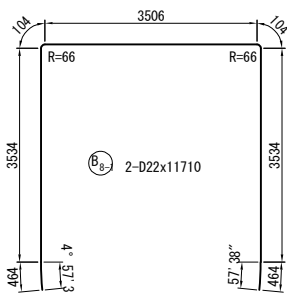
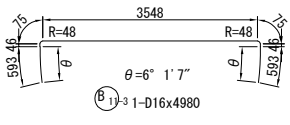
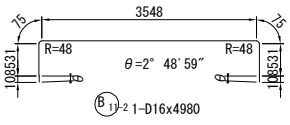
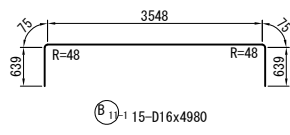
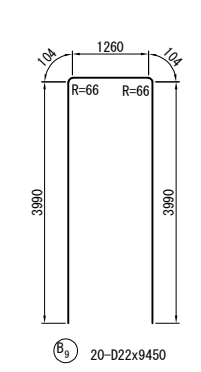
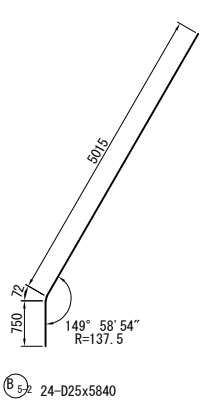
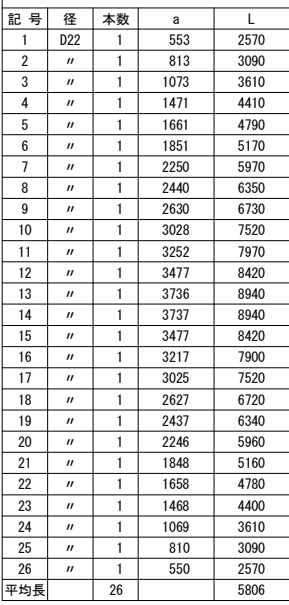
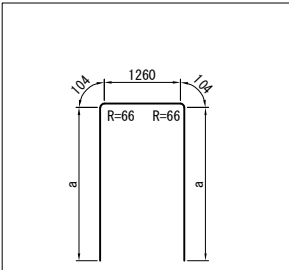
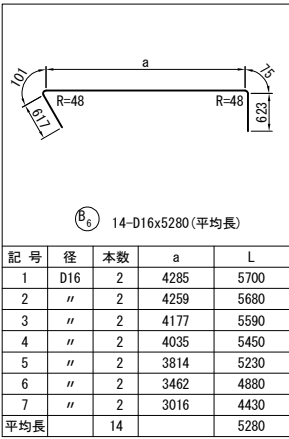
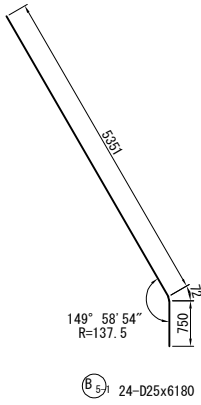
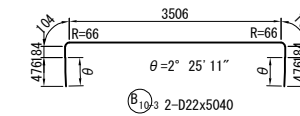
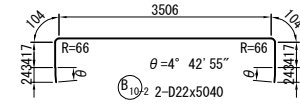
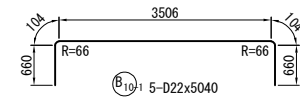
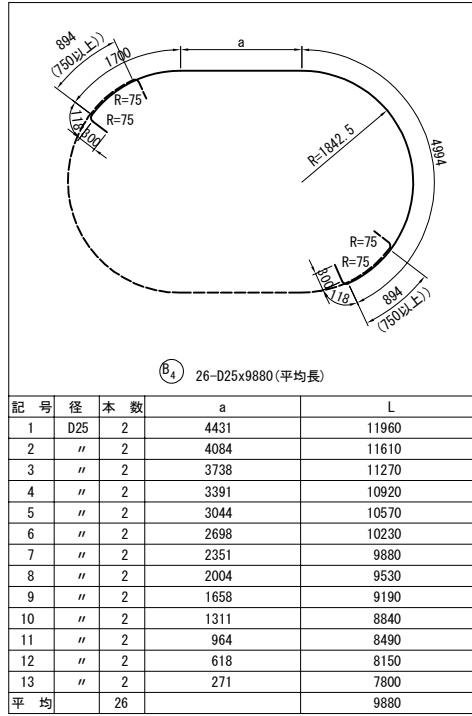
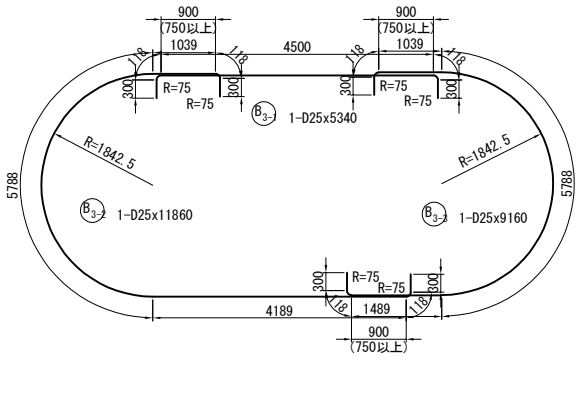
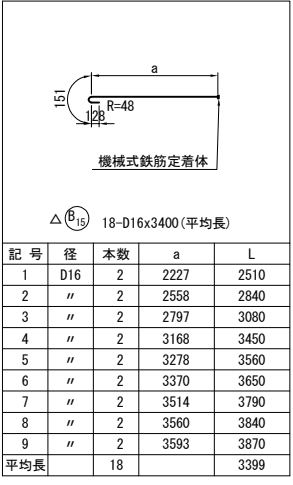
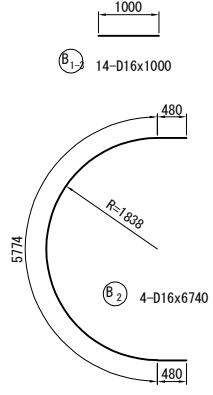
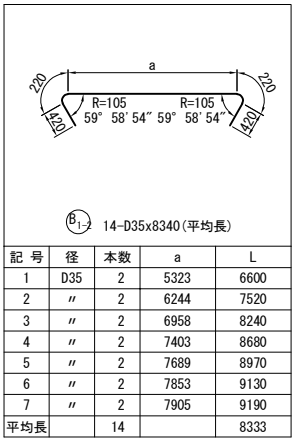
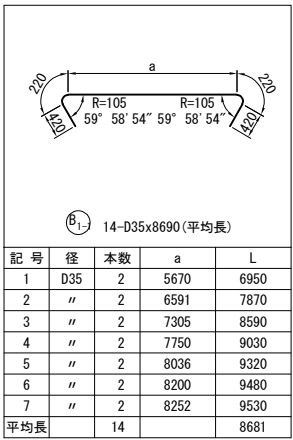
[illegible]


1450

300

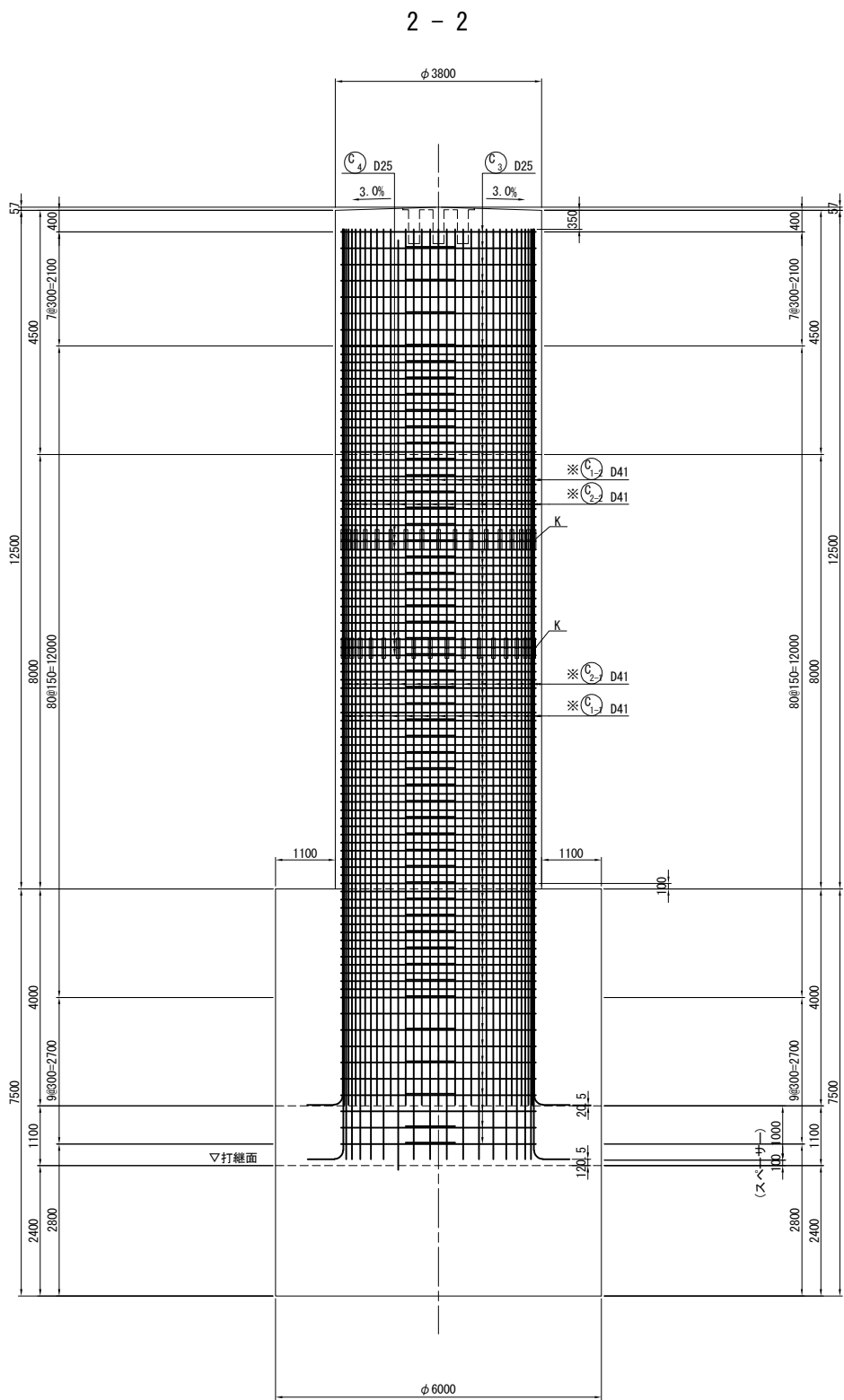
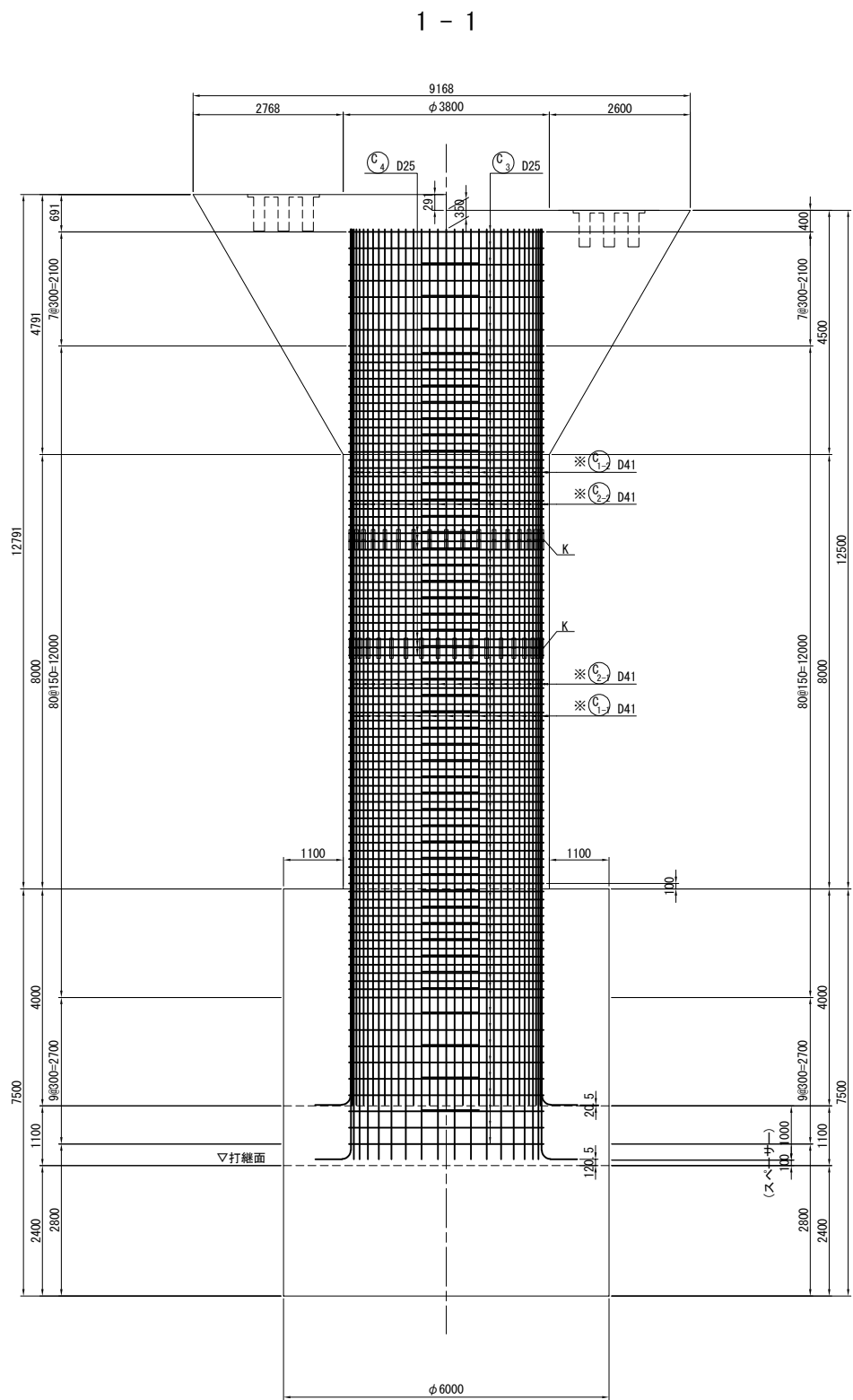
10-D16x2010

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流羅川第三橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事業務所		

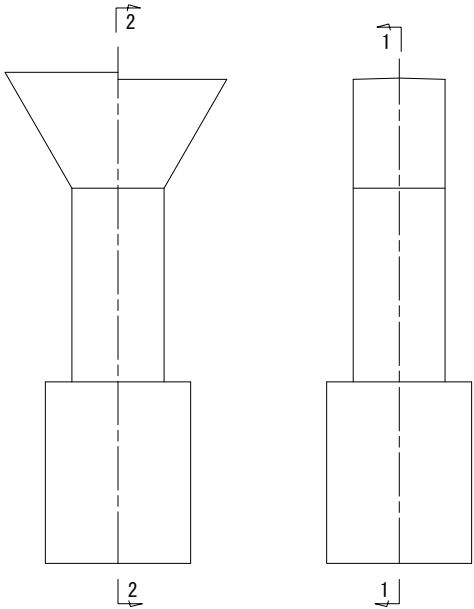


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5)  は、機械継手位置を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

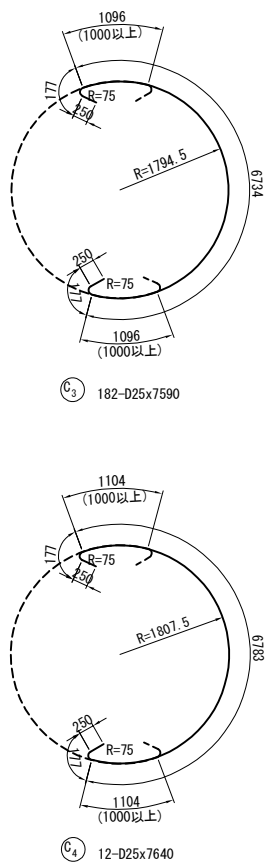
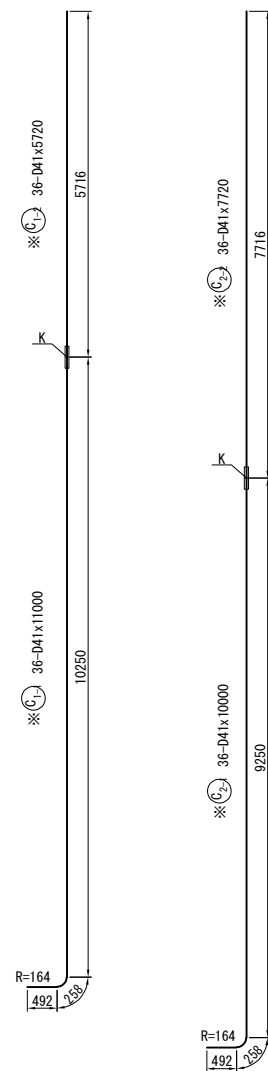
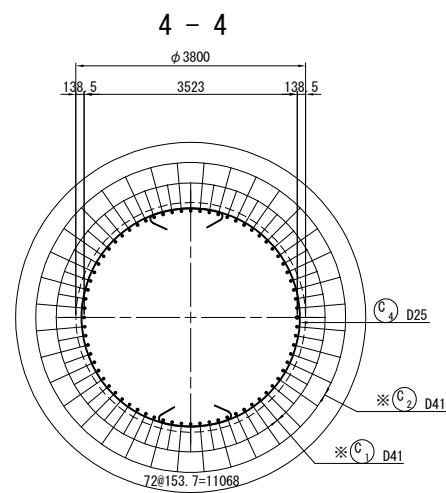
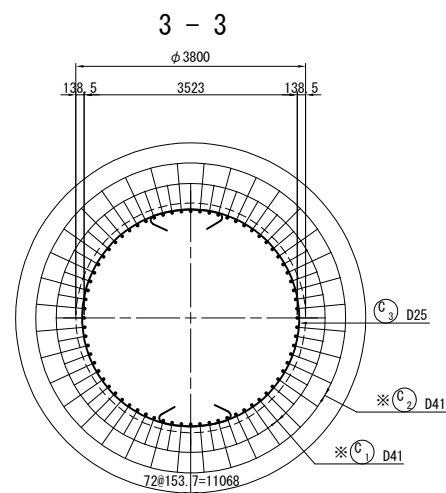


位置図

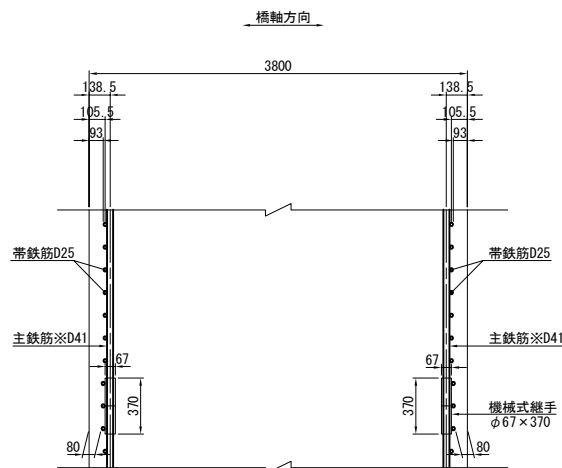


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) △印は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。
注7) 主鉄筋が直角フックとなるため、打継部のコンクリートの充てん性を考慮して、スペーサーを設置するものとする。

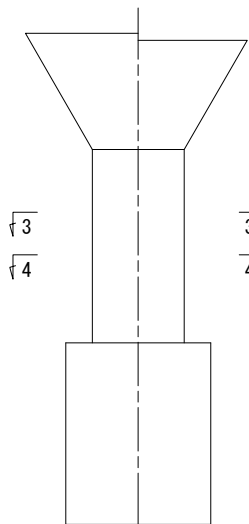
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1：50



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5) △印は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
下部工施工鉄筋 (SD345)							
B1-1	D35	8690	14	7.51	65.3	914	┐ (平均長)
B1-2	D35	8340	14	7.51	62.6	876	┐ (平均長)
B1-3	D16	1000	14	1.56	1.56	22	┐
B2	D16	6740	4	1.56	10.5	42	┐
B3-1	D25	5340	1	3.98	21.3	21	┐
B3-2	D25	11860	1	3.98	47.2	47	┐
B3-3	D25	9160	1	3.98	36.5	37	┐
B4	D25	9880	26	3.98	39.3	1022	┐ (平均長)
B5-1	D25	6180	24	3.98	24.6	590	┐
B5-2	D25	5840	24	3.98	23.2	557	┐
B6	D16	5280	14	1.56	8.24	115	┐ (平均長)
B7	D16	10890	1	1.56	17.0	17	┐
B8-1	D22	11710	2	3.04	35.6	71	┐
B8-2	D22	11720	2	3.04	35.6	71	┐
B8-3	D22	9300	20	3.04	28.3	566	┐ (平均長)
B9	D22	9450	20	3.04	28.7	574	┐
B10-1	D22	5040	5	3.04	15.3	77	┐
B10-2	D22	5040	2	3.04	15.3	31	┐
B10-3	D22	5040	2	3.04	15.3	31	┐
B11-1	D16	4980	15	1.56	7.77	117	┐
B11-2	D16	4980	1	1.56	7.77	8	┐
B11-3	D16	4980	1	1.56	7.77	8	┐
B12	D22	4370	21	3.04	13.3	279	┐ (平均長)
B13	D16	4440	10	1.56	6.93	69	┐ (平均長)
B14	D22	5810	26	3.04	17.7	460	┐ (平均長)
△ B15	D16	3400	18	1.56	5.30	95	┐ (平均長) (18)
△ B16	D16	3900	33	1.56	6.08	201	┐ (33)
						6918	kg
※	C1-1	D41	11000	36	10.5	116	┐ K <36>
※	C1-2	D41	5720	36	10.5	60.1	┐ K
※	C2-1	D41	10000	36	10.5	105	┐ K <36>
※	C2-2	D41	7720	36	10.5	81.1	┐ K
	C3	D25	7590	182	3.98	30.2	5496
	C4	D25	7640	12	3.98	30.4	365
						18901	kg
	D1	D16	2010	10	1.56	3.14	┐
	D2	D16	2010	10	1.56	3.14	┐
	D3	D16	3400	2	1.56	5.30	┐
						73	kg
下部工施工鉄筋							
鉄筋質量集計 (SD345)							
	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計		(機械式定着)	
	D35	1790 kg	-	-	1790 kg		
	D25	8135 kg	-	-	8135 kg		
	D22	2160 kg	-	-	2160 kg		
	D16	471 kg	-	296 kg	767 kg	(51)	
	合 計	12556 kg		296 kg	12852 kg	(51)	
鉄筋質量集計 (SD490)							
	鉄筋B		合計		<機械継手>		
	D41	13040 kg	13040 kg	<72>			
	合 計	13040 kg	13040 kg	<72>			

△印はC鉄筋（機械式鉄筋定着工法）を示す。
※印はSD490鉄筋を示す。

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主筋
せん断補強筋

鋭角フック

半円形フック

直角フック

$$\Delta L = 2L - a$$

主筋

せん断補強筋及び帯鉄筋

フック


径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$			
	a	△L	a	△L	a	△L	a	△L	a	△L		
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3		
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4		
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5		
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5		
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6		
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7		
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8		
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8		
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9		
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10		
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12		
径	R=2.5φ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		――			
	a	△L	a	△L	a	△L	a	△L	――			
D13	32.5	77	80	68	45	51	14	――				
D16	40	94	99	84	55	63	17	――				
D19	47.5	112	117	99	66	75	20	――				
D22	55	130	136	115	76	86	24	――				
D25	62.5	147	155	131	86	98	27	――				
D29	72.5	171	179	152	99	114	31	――				
径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック					
	a		a		a		a		△L			
D13	39		92		123		61		17			
D16	48		113		151		75		21			
D19	57		134		179		89		25			
D22	66		156		207		104		28			
D25	75		177		236		118		32			
D29	87		205		273		137		37			

機械式鉄筋定着工法数量表（下部工施工）

鉄筋径	箇 所 数					
	0<=L≤1m	1m<=L≤2m	2m<=L≤3m	3m<=L≤4m	4m<=L≤5m	5m<=L≤6m
D13						
D16			4	47		
合計	51					

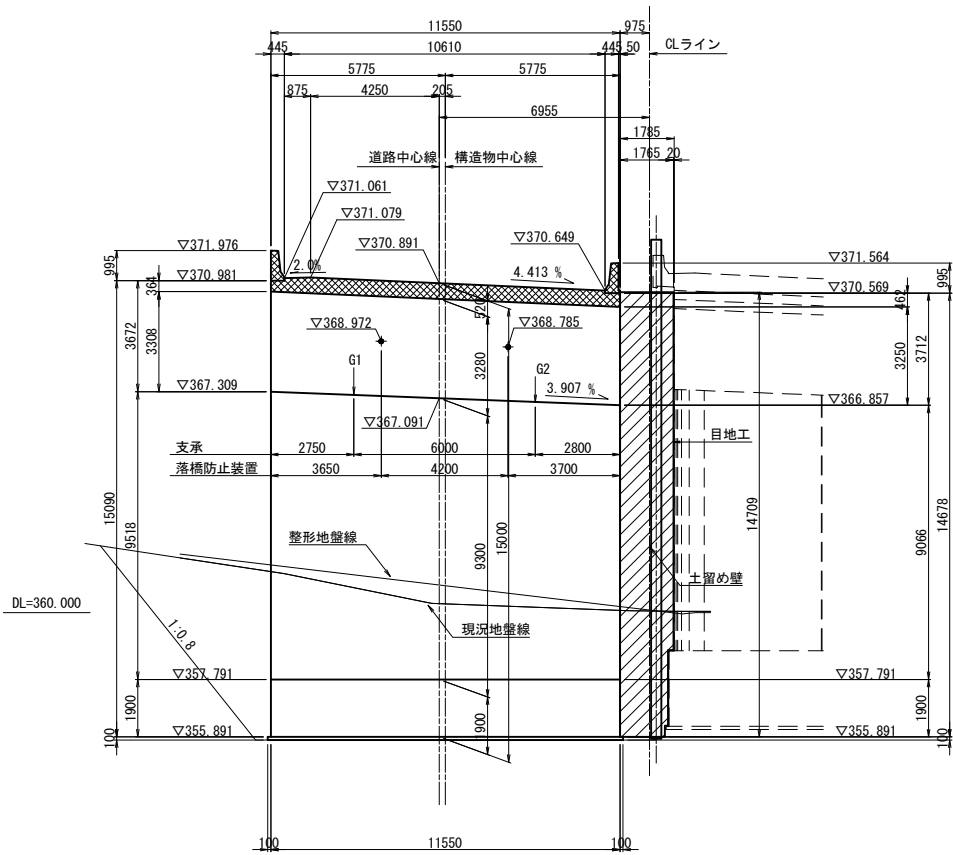
鉄筋加工寸法表 (SD490)

<div>主 筋 せん断補強筋</div> <div>直角フック</div> <div>△L=2L-a</div>											
主 筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ R=4.0φ	$\theta = 90^\circ$								
		a	△L								
	D13	52	82		22						
	D16	64	101		28						
	D19	76	119		33						
	D22	88	138		28						
	D25	100	157		43						
	D29	116	182		50						
	D32	128	201		55						
	D35	140	220		60						
筋	D38	152	239		65						
	D41	164	258		70						
	D51	204	321		88						

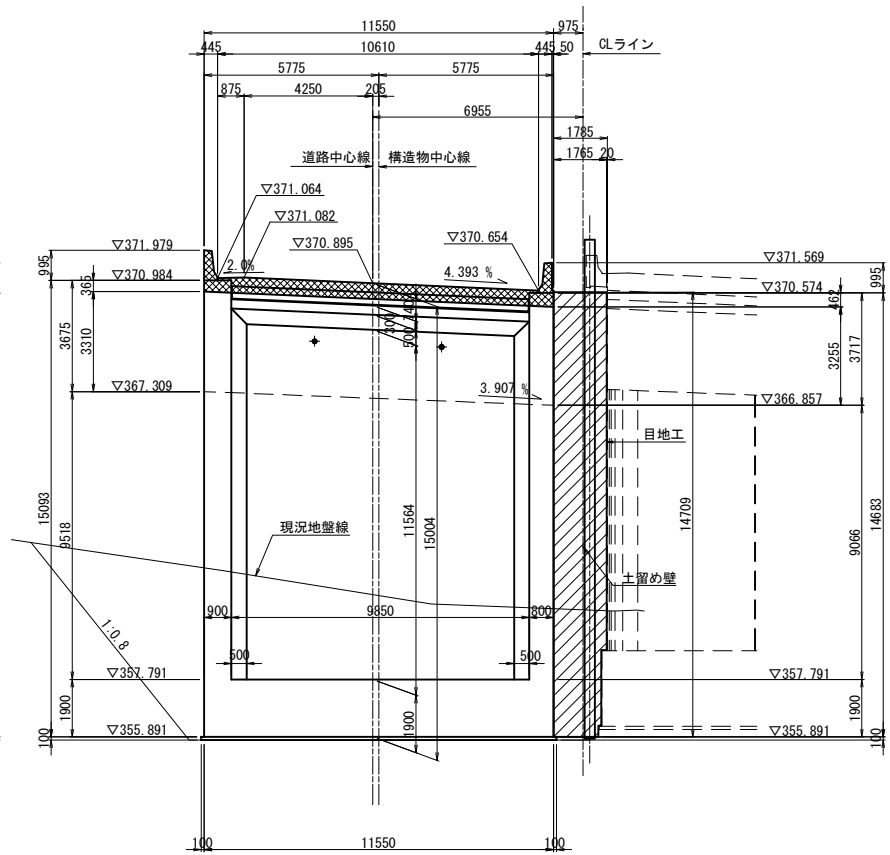
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 柱の塑性ヒンジ形成範囲に使用する機械式鉄筋定着工法は、
性能試験により終局変位以降の履歴吸収エネルギーが
標準フックの場合と著しく低下しないことが確認された工法
を採用すること。
注4) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注5)  は、機械継手位置を示す。
注6) ※印はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

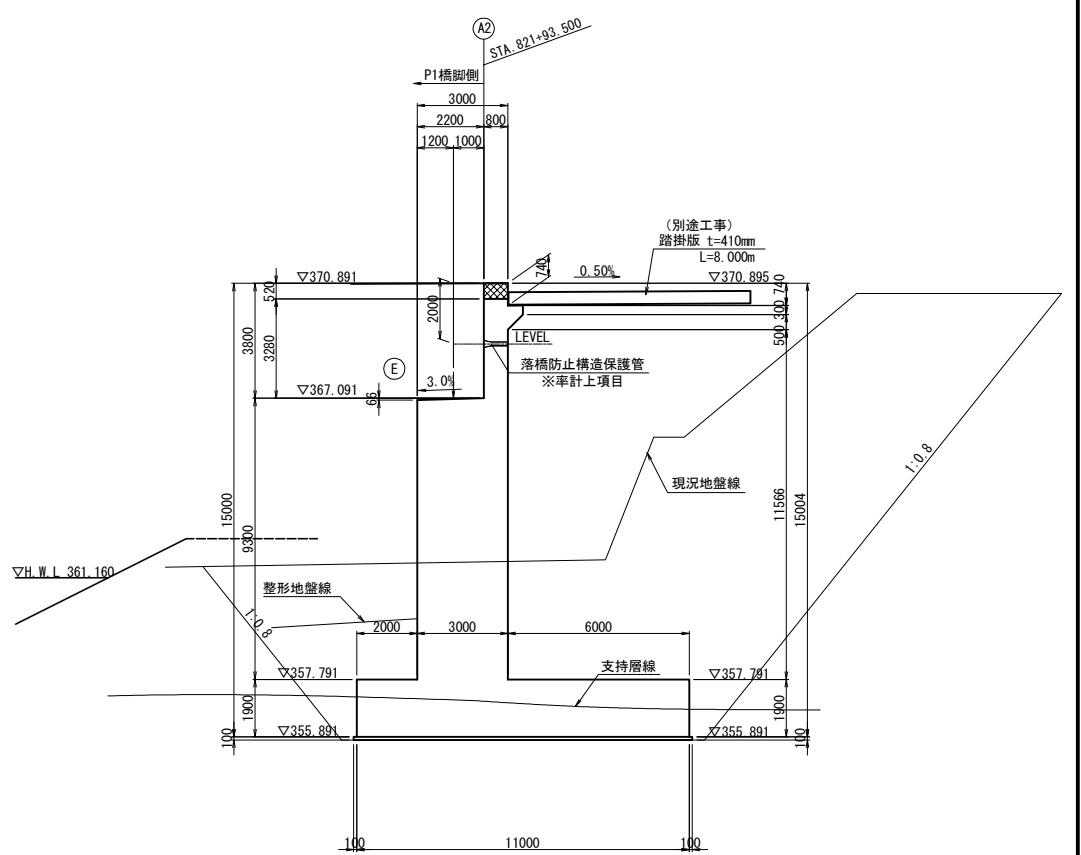
正面図（1-1）



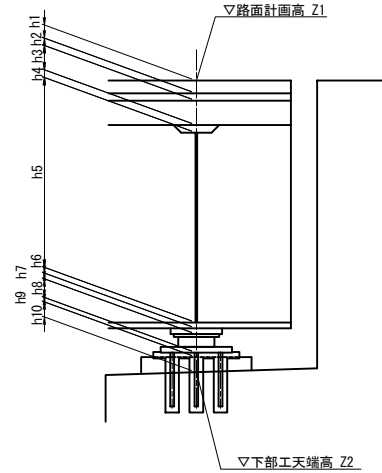
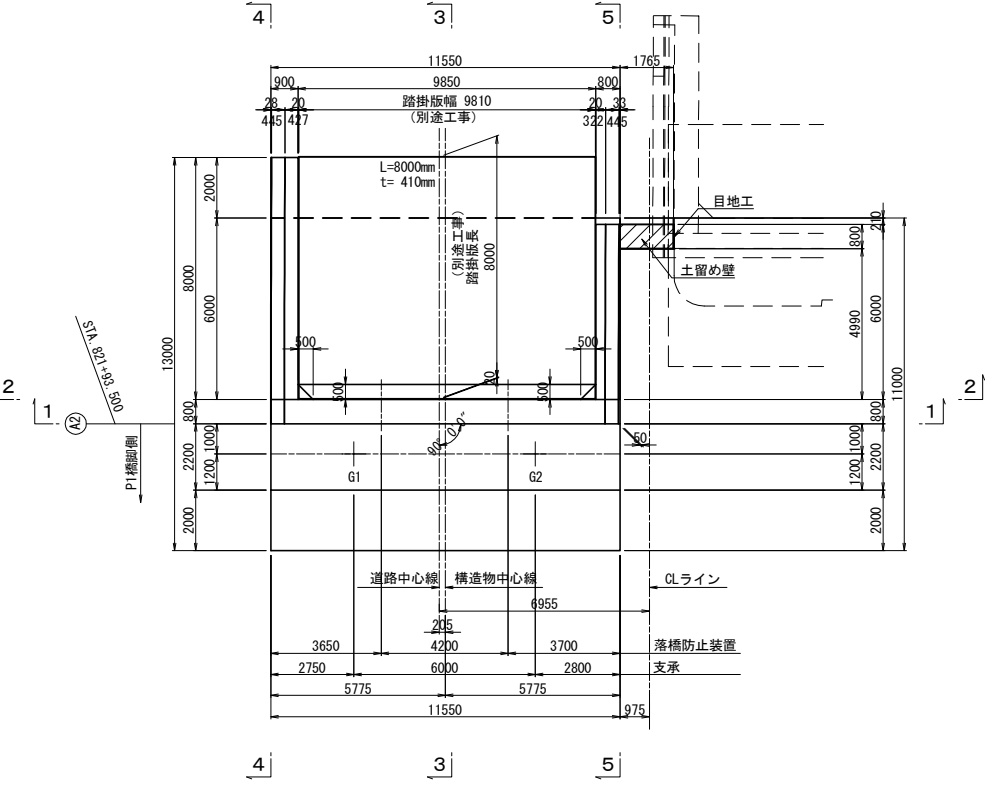
背面図（2-2）



断面図（3-3）



平面図



構造高表

		A2橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	371.012	370.745
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.044	0.012
床版厚	h3	0.320	0.320
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.700	2.700
下フランジ厚	h6	0.025	0.025
ソールプレート厚	h7	0.040	0.040
支承高	h8	0.313	0.313
番座モルタル厚	h9	0.039	0.039
台座	h10	0.180	0.180
構造高合計	Σh	3.841	3.809
下部工天端高	Z2	367.171	366.936

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 D 3	m3	2,266.4	土砂
		m3	438.2	数岩

数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	11.8	土留め壁

使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$
鉄筋	躯体	SD345
	フーチング	SD345

注) は上部工施工範囲を表す。
 は土留め壁施工範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台構造一般図（その 1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

側面図
1 - 1

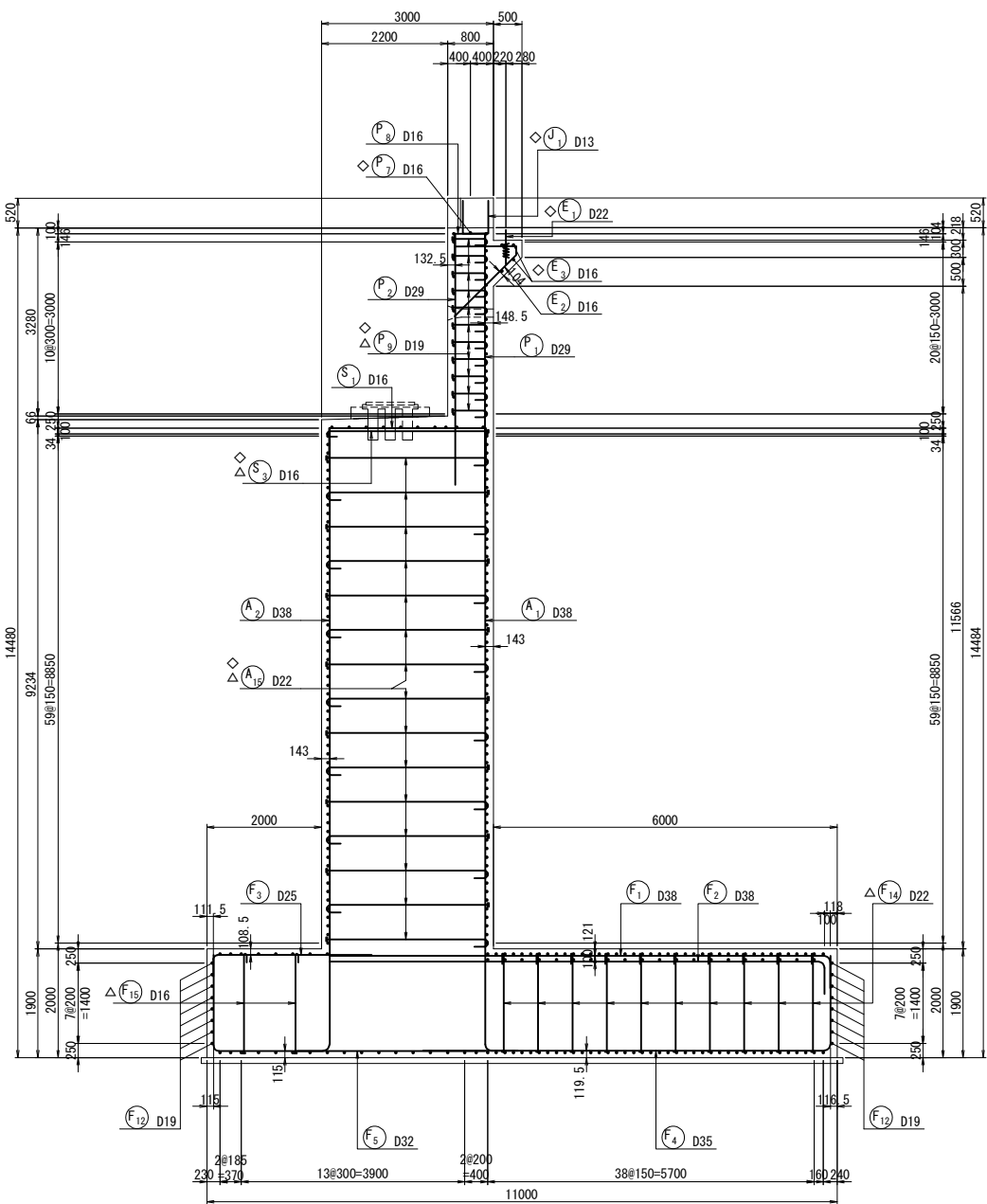
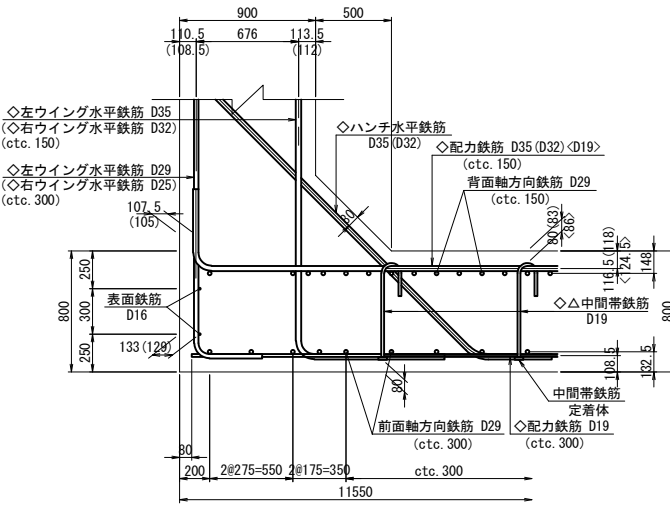
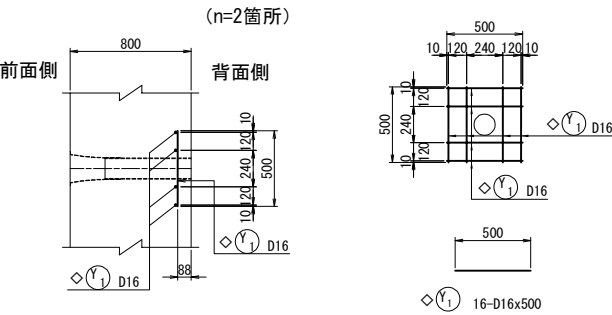


Figure 1: Reinforcement details of the main beam (D29) for the main structure. The diagram shows a cross-section of the beam with various reinforcement bars labeled. Key dimensions include a total width of 800mm, a top flange width of 500mm, and a bottom flange width of 225mm. Reinforcement bars include D13, D16, D19, D22, and D29. The diagram also shows the arrangement of stirrups and the placement of the main reinforcement bars. The reinforcement is detailed for both the front and back views of the beam.

パラペット端部かぶり詳細図 S=1 : 50

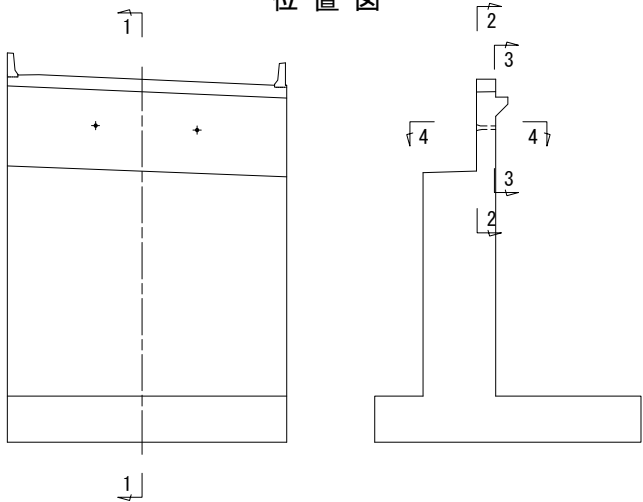


落橋防止構造用心鉄筋 S=1 : 50



注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

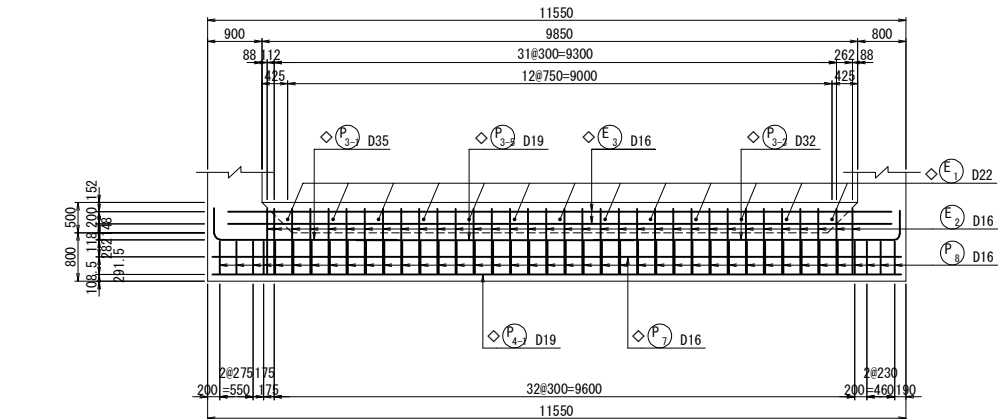
位置図



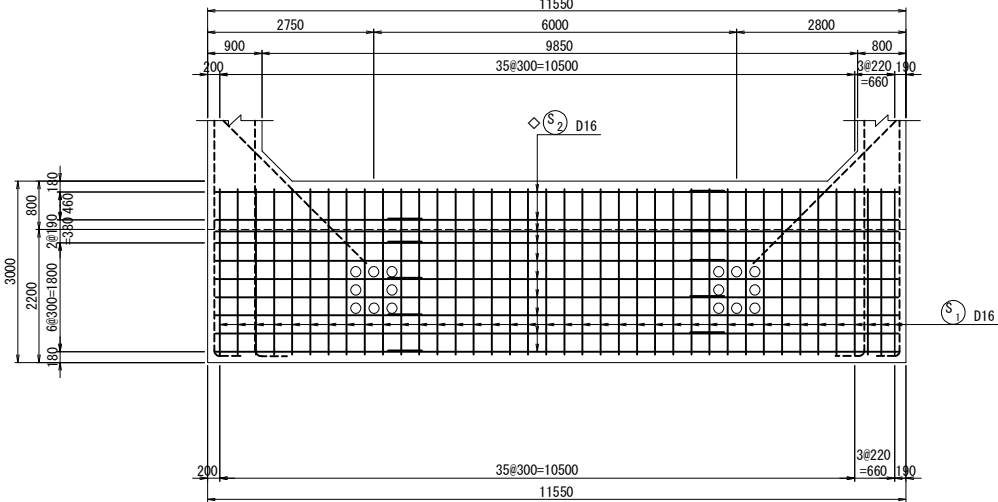
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を確認すること。
1. 道路標示方書—同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の防犯設計ガイドライン
(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋と接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上りの10mmかとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

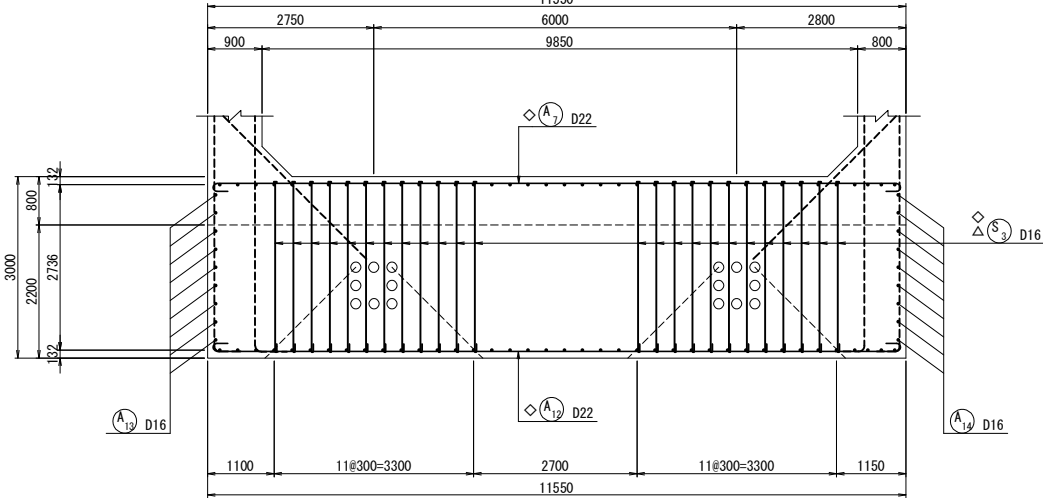
踏掛版受台平面図
1 - 1



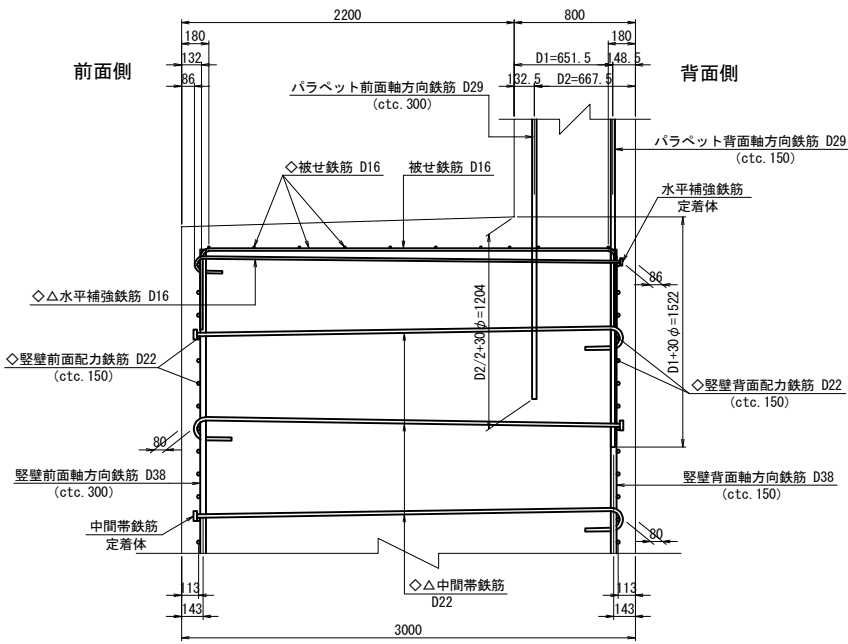
橋座平面図
2 - 2



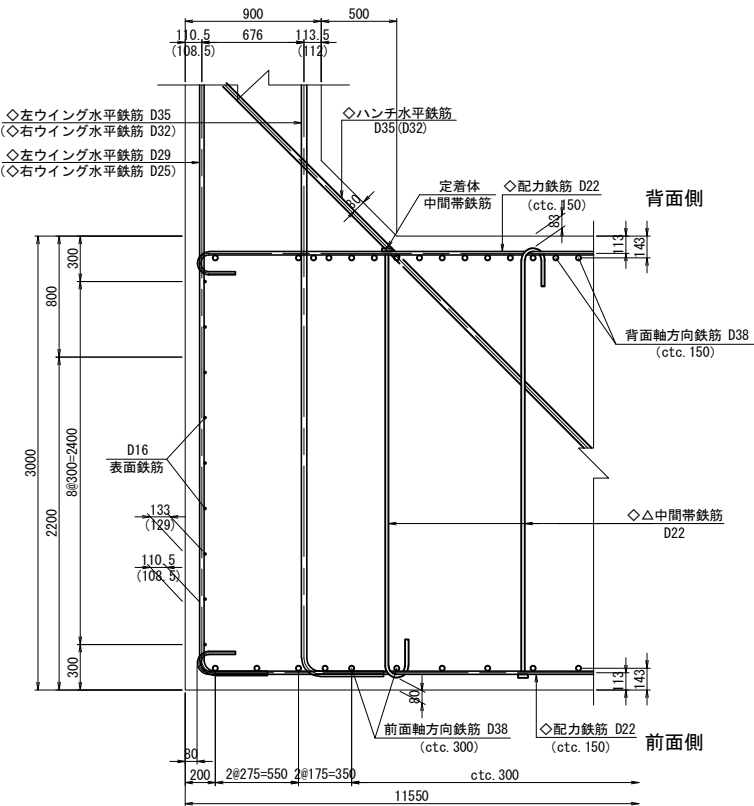
水平補強筋平面図
3 - 3



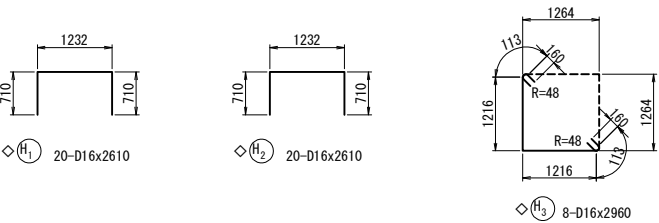
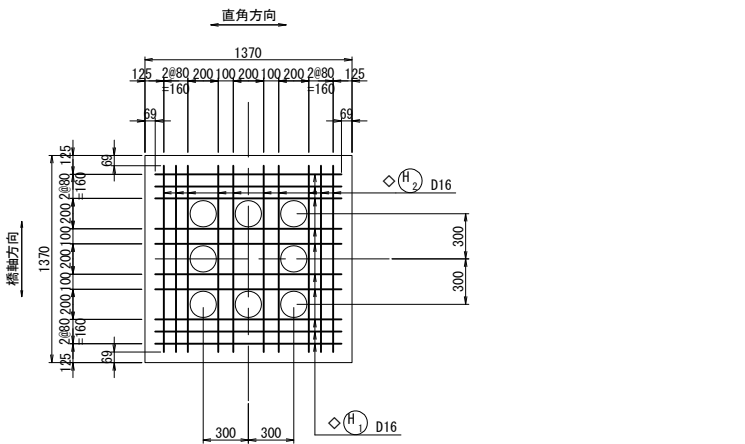
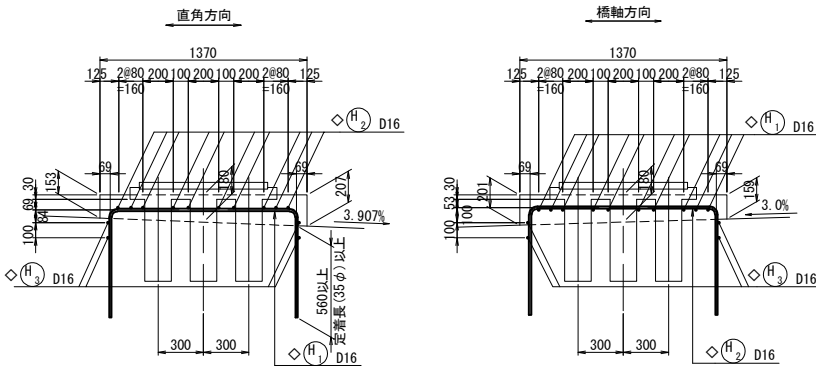
橋座かぶり詳細図 S=1 : 50



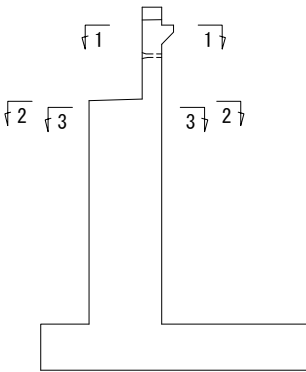
縦壁端部かぶり詳細図 S=1 : 50



支承補強鉄筋 S=1:50
(n=2箇所)



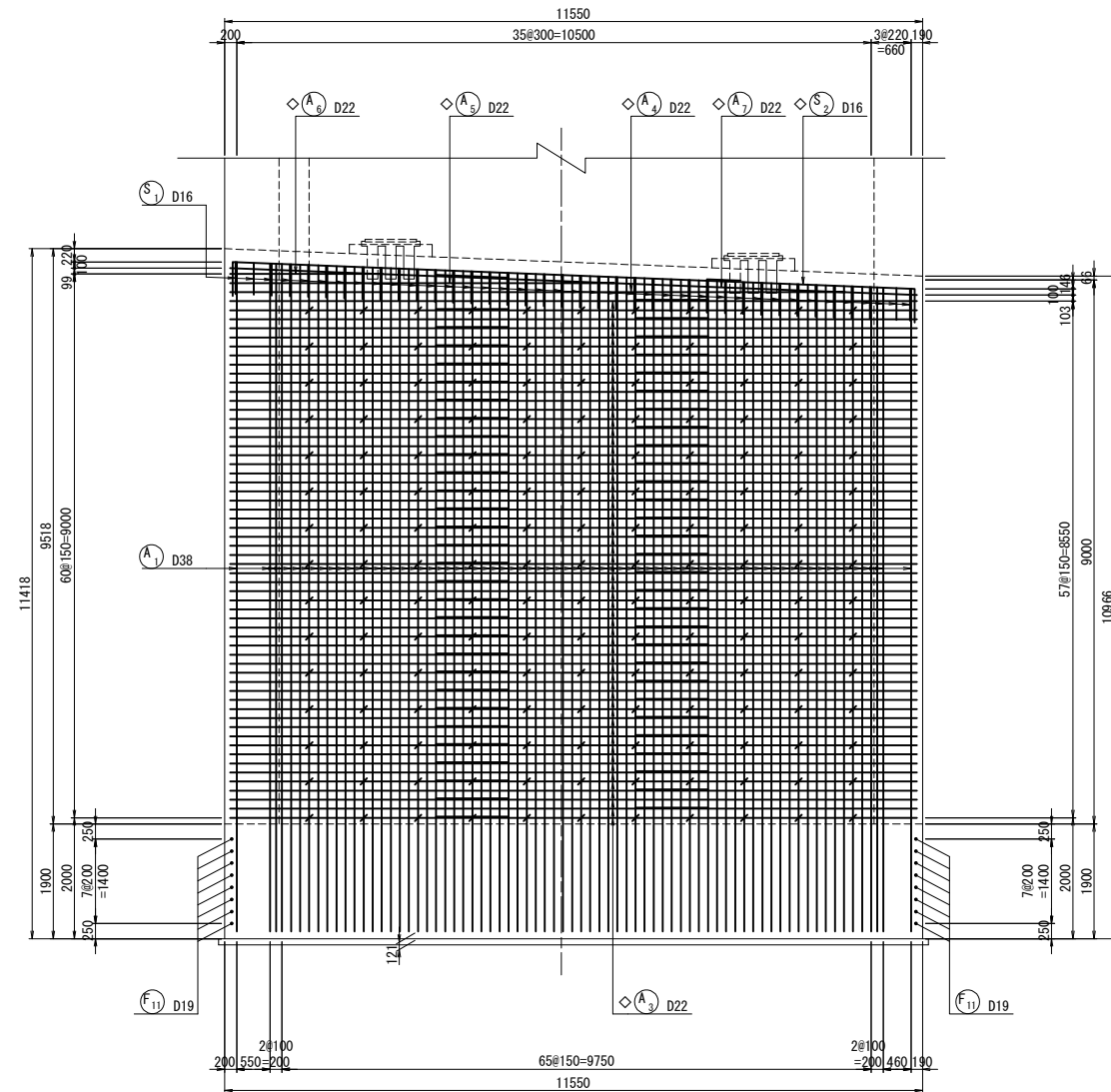
位置図



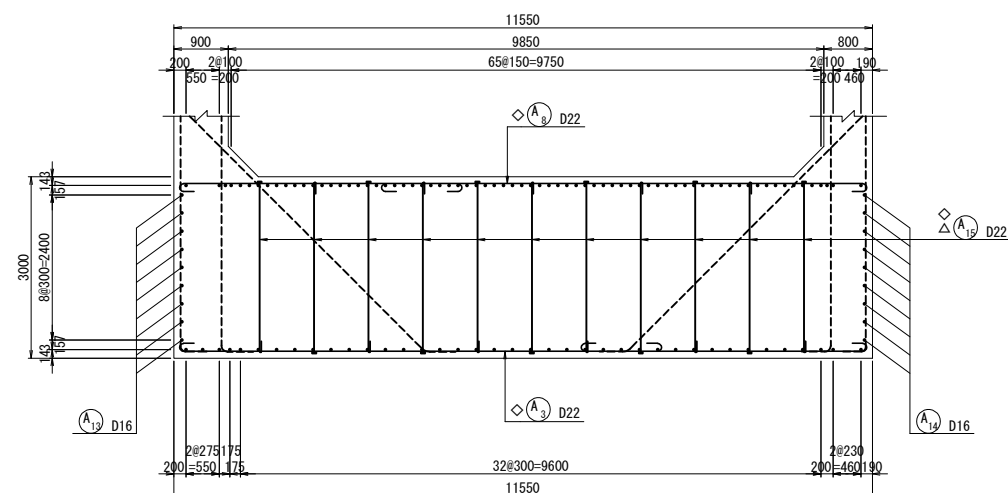
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

豎壁背面図
2 - 2



豎壁平面図 (標準部)
4 - 4



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) ①印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工丸めを表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		


本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 4） S=1：125

70-D29x4710 (平均長)

記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L
1	D29	1	4674	4670	25	D29	1	4693	4690	49	D29	1	4710	4710
2	D29	1	4676	4680	26	D29	1	4693	4690	50	D29	1	4711	4710
3	D29	1	4676	4680	27	D29	1	4694	4690	51	D29	1	4712	4710
4	D29	1	4677	4680	28	D29	1	4695	4700	52	D29	1	4713	4710
5	D29	1	4678	4680	29	D29	1	4695	4700	53	D29	1	4713	4710
6	D29	1	4678	4680	30	D29	1	4696	4700	54	D29	1	4714	4710
7	D29	1	4679	4680	31	D29	1	4697	4700	55	D29	1	4715	4720
8	D29	1	4680	4680	32	D29	1	4698	4700	56	D29	1	4715	4720
9	D29	1	4680	4680	33	D29	1	4698	4700	57	D29	1	4716	4720
10	D29	1	4681	4680	34	D29	1	4699	4700	58	D29	1	4717	4720
11	D29	1	4682	4680	35	D29	1	4700	4700	59	D29	1	4718	4720
12	D29	1	4683	4680	36	D29	1	4700	4700	60	D29	1	4718	4720
13	D29	1	4683	4680	37	D29	1	4701	4700	61	D29	1	4719	4720
14	D29	1	4684	4680	38	D29	1	4702	4700	62	D29	1	4720	4720
15	D29	1	4685	4690	39	D29	1	4703	4700	63	D29	1	4720	4720
16	D29	1	4685	4690	40	D29	1	4703	4700	64	D29	1	4721	4720
17	D29	1	4686	4690	41	D29	1	4704	4700	65	D29	1	4722	4720
18	D29	1	4687	4690	42	D29	1	4705	4710	66	D29	1	4723	4720
19	D29	1	4688	4690	43	D29	1	4705	4710	67	D29	1	4723	4720
20	D29	1	4688	4690	44	D29	1	4706	4710	68	D29	1	4724	4720
21	D29	1	4689	4690	45	D29	1	4707	4710	69	D29	1	4724	4720
22	D29	1	4690	4690	46	D29	1	4708	4710	70	D29	1	4727	4730
23	D29	1	4691	4690	47	D29	1	4708	4710	平均長		70		4701
24	D29	1	4692	4690	48	D29	1	4709	4710					

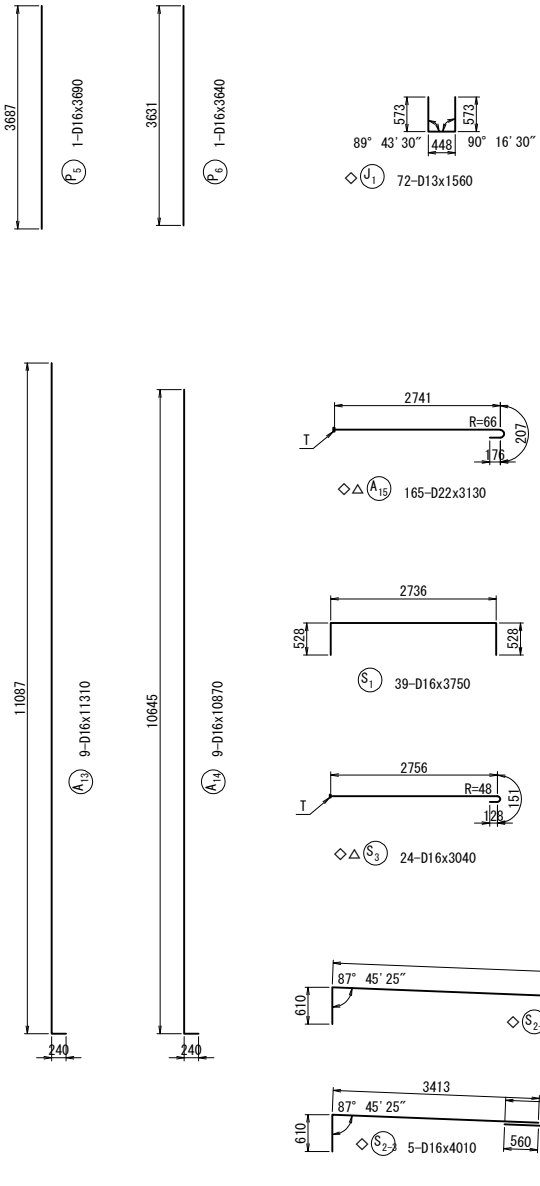
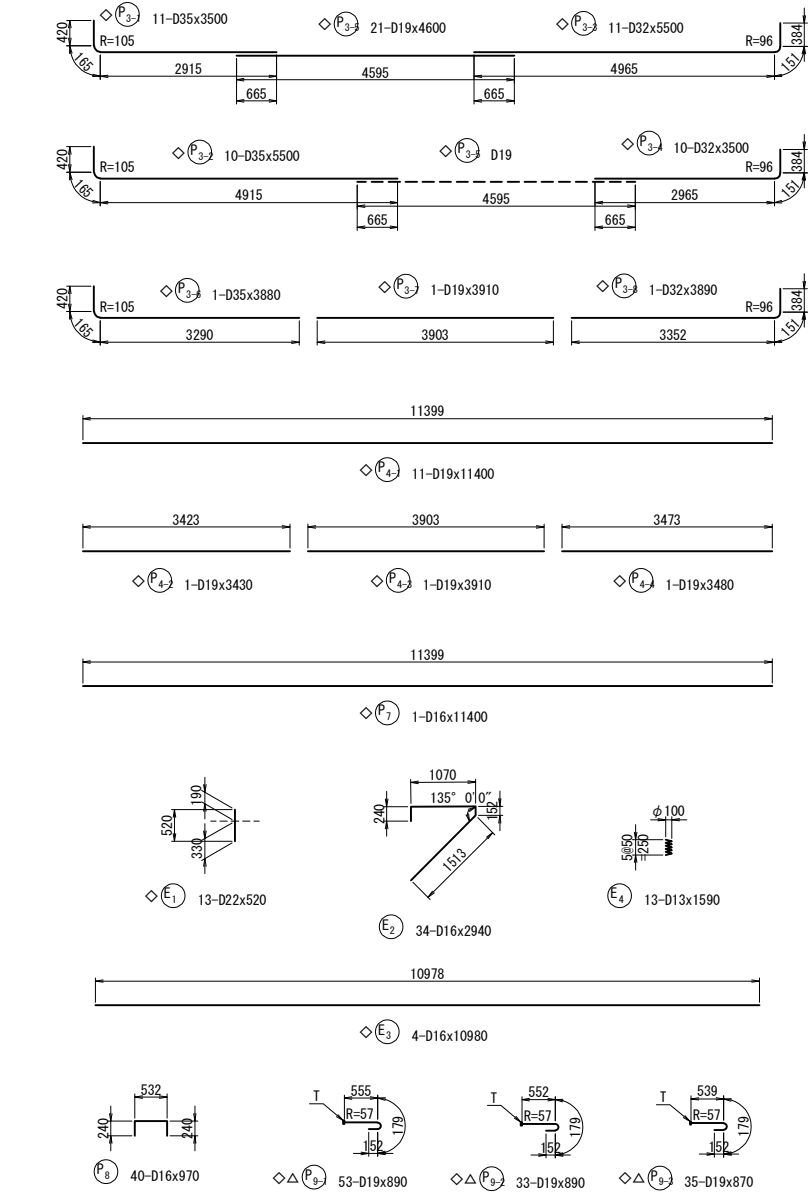
P₂
 40-D29x4390 (平均長)

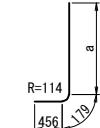
記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L
1	D29	1	4355	4360	22	D29	1	4385	4390
2	D29	1	4356	4360	23	D29	1	4387	4390
3	D29	1	4358	4360	24	D29	1	4388	4390
4	D29	1	4359	4360	25	D29	1	4390	4390
5	D29	1	4360	4360	26	D29	1	4391	4390
6	D29	1	4362	4360	27	D29	1	4393	4390
7	D29	1	4363	4360	28	D29	1	4394	4390
8	D29	1	4365	4370	29	D29	1	4396	4400
9	D29	1	4366	4370	30	D29	1	4397	4400
10	D29	1	4367	4370	31	D29	1	4399	4400
11	D29	1	4369	4370	32	D29	1	4400	4400
12	D29	1	4370	4370	33	D29	1	4402	4400
13	D29	1	4372	4370	34	D29	1	4403	4400
14	D29	1	4373	4370	35	D29	1	4405	4410
15	D29	1	4375	4380	36	D29	1	4406	4410
16	D29	1	4376	4380	37	D29	1	4407	4410
17	D29	1	4378	4380	38	D29	1	4408	4410
18	D29	1	4379	4380	39	D29	1	4409	4410
19	D29	1	4381	4380	40	D29	1	4411	4410
20	D29	1	4382	4380	平均長		40		4384
21	D29	1	4384	4380					



$R=114$
 $h=30\phi=11380$
 456
 176
 a
 A_1 72-D38 x 11380 (平均長)

記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L
1	D38	1	10522	11160	38	D38	1	10748	11380
2	D38	1	10540	11180	39	D38	1	10754	11390
3	D38	1	10544	11180	40	D38	1	10760	11400
4	D38	1	10548	11180	41	D38	1	10765	11400
5	D38	1	10554	11190	42	D38	1	10771	11410
6	D38	1	10560	11200	43	D38	1	10777	11410
7	D38	1	10566	11200	44	D38	1	10783	11420
8	D38	1	10572	11210	45	D38	1	10789	11420
9	D38	1	10577	11210	46	D38	1	10795	11430
10	D38	1	10583	11220	47	D38	1	10801	11440
11	D38	1	10589	11220	48	D38	1	10807	11440
12	D38	1	10595	11230	49	D38	1	10812	11450
13	D38	1	10601	11240	50	D38	1	10818	11450
14	D38	1	10607	11240	51	D38	1	10824	11460
15	D38	1	10613	11250	52	D38	1	10830	11470
16	D38	1	10619	11250	53	D38	1	10836	11470
17	D38	1	10624	11260	54	D38	1	10842	11480
18	D38	1	10630	11270	55	D38	1	10848	11480
19	D38	1	10636	11270	56	D38	1	10854	11490
20	D38	1	10642	11280	57	D38	1	10859	11490
21	D38	1	10648	11280	58	D38	1	10865	11500
22	D38	1	10654	11290	59	D38	1	10871	11510
23	D38	1	10660	11300	60	D38	1	10877	11510
24	D38	1	10666	11300	61	D38	1	10883	11520
25	D38	1	10671	11310	62	D38	1	10889	11520
26	D38	1	10677	11310	63	D38	1	10895	11530
27	D38	1	10683	11320	64	D38	1	10901	11540
28	D38	1	10689	11320	65	D38	1	10906	11540
29	D38	1	10695	11330	66	D38	1	10912	11550
30	D38	1	10701	11340	67	D38	1	10918	11550
31	D38	1	10707	11340	68	D38	1	10924	11560
32	D38	1	10713	11350	69	D38	1	10930	11570
33	D38	1	10718	11350	70	D38	1	10934	11570
34	D38	1	10724	11360	71	D38	1	10938	11570
35	D38	1	10730	11370	72	D38	1	10959	11590
36	D38	1	10736	11370	平均長		72		11375
37	D38	1	10742	11380					





R=114

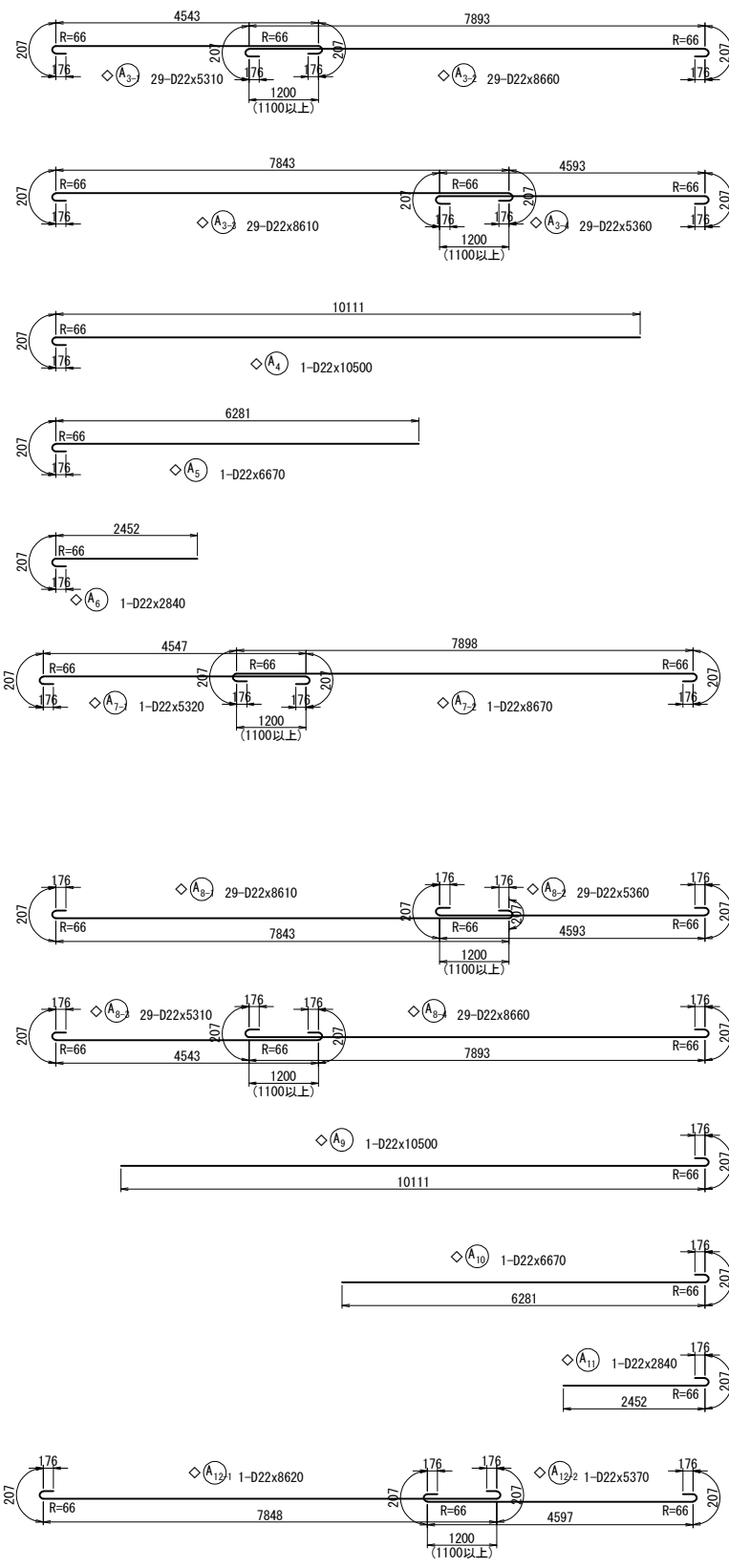
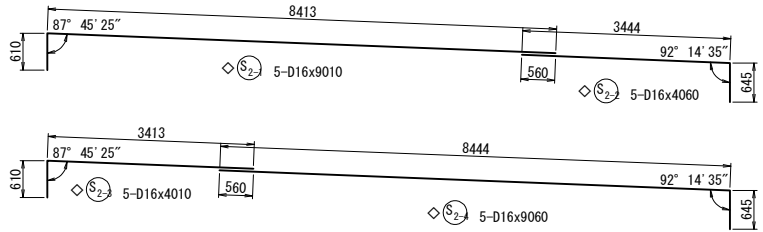
h=30φ=11390

A₂

456

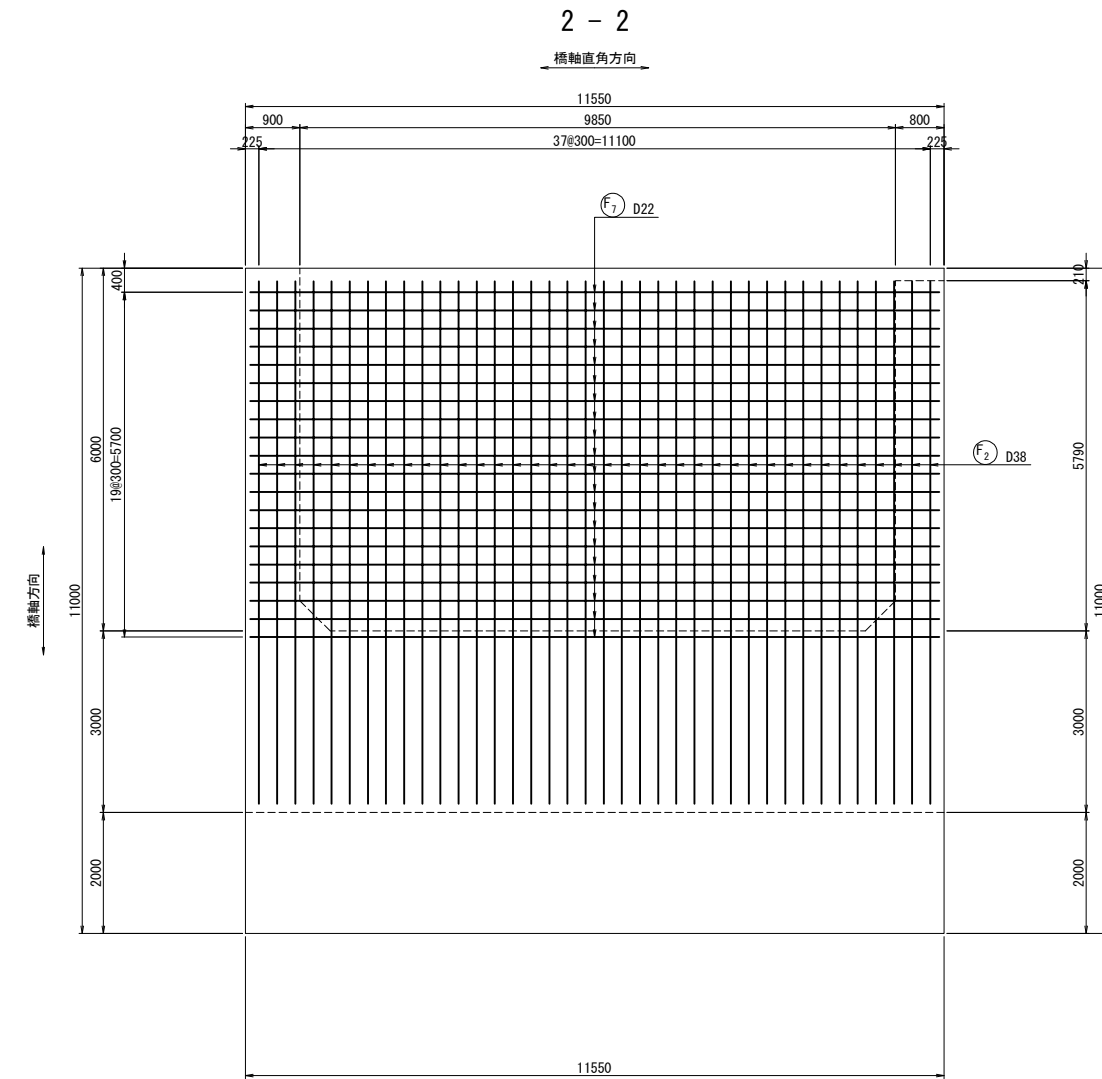
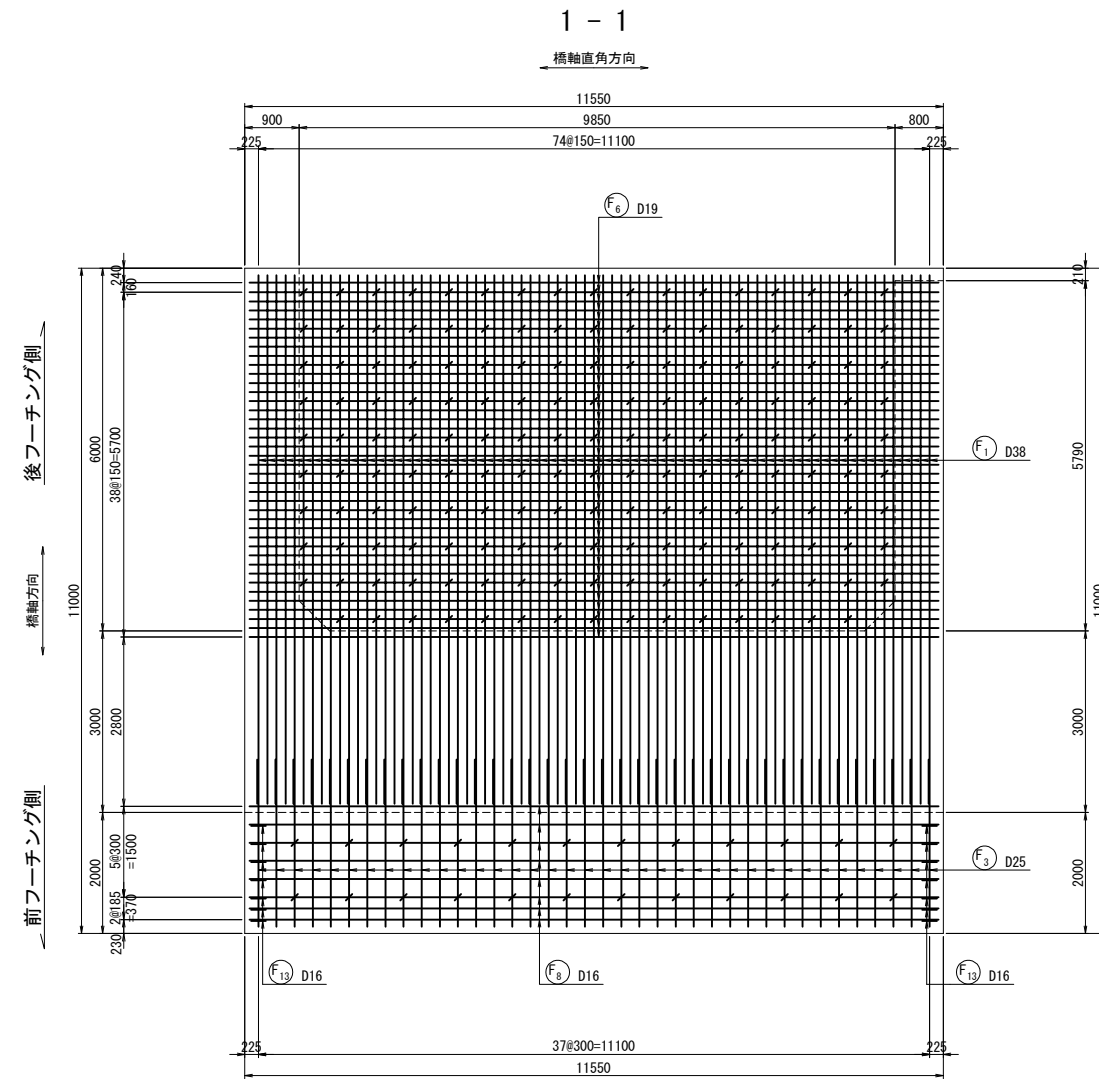
170

<div> <div>A₂</div> <div>40-D38×11390 (平均長)</div> </div>									
記 号	径	本数	a	L	記 号	径	本数	a	L
1	D38	1	10525	11160	22	D38	1	10763	11400
2	D38	1	10534	11170	23	D38	1	10774	11410
3	D38	1	10543	11180	24	D38	1	10786	11420
4	D38	1	10551	11190	25	D38	1	10798	11430
5	D38	1	10563	11200	26	D38	1	10810	11450
6	D38	1	10575	11210	27	D38	1	10821	11460
7	D38	1	10586	11220	28	D38	1	10833	11470
8	D38	1	10598	11230	29	D38	1	10845	11480
9	D38	1	10610	11250	30	D38	1	10857	11490
10	D38	1	10622	11260	31	D38	1	10868	11500
11	D38	1	10633	11270	32	D38	1	10880	11520
12	D38	1	10645	11280	33	D38	1	10892	11530
13	D38	1	10657	11290	34	D38	1	10904	11540
14	D38	1	10669	11300	35	D38	1	10915	11550
15	D38	1	10680	11320	36	D38	1	10927	11560
16	D38	1	10692	11330	37	D38	1	10934	11570
17	D38	1	10704	11340	38	D38	1	10941	11580
18	D38	1	10716	11350	39	D38	1	10952	11590
19	D38	1	10727	11360	40	D38	1	10962	11600
20	D38	1	10739	11370	平均長		40		11381
21	D38	1	10751	11390					

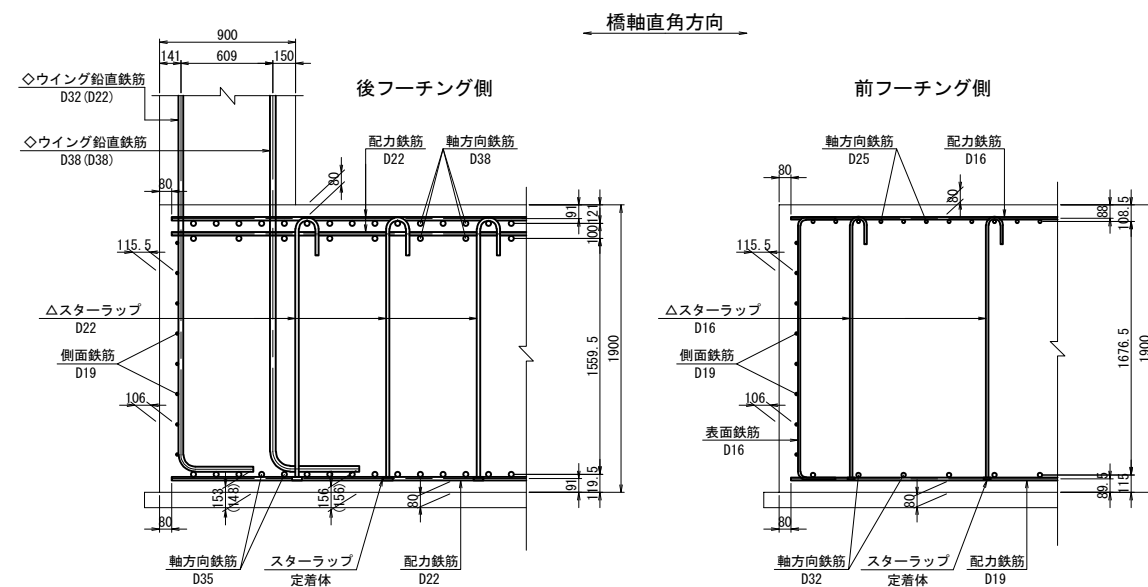
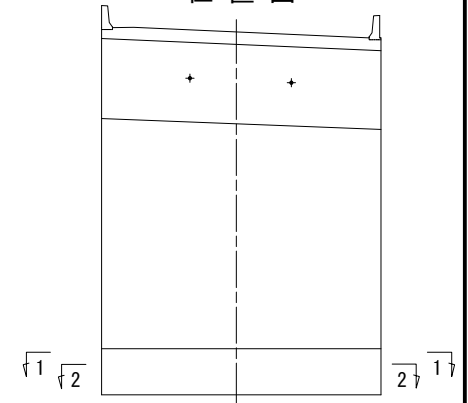


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工事鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

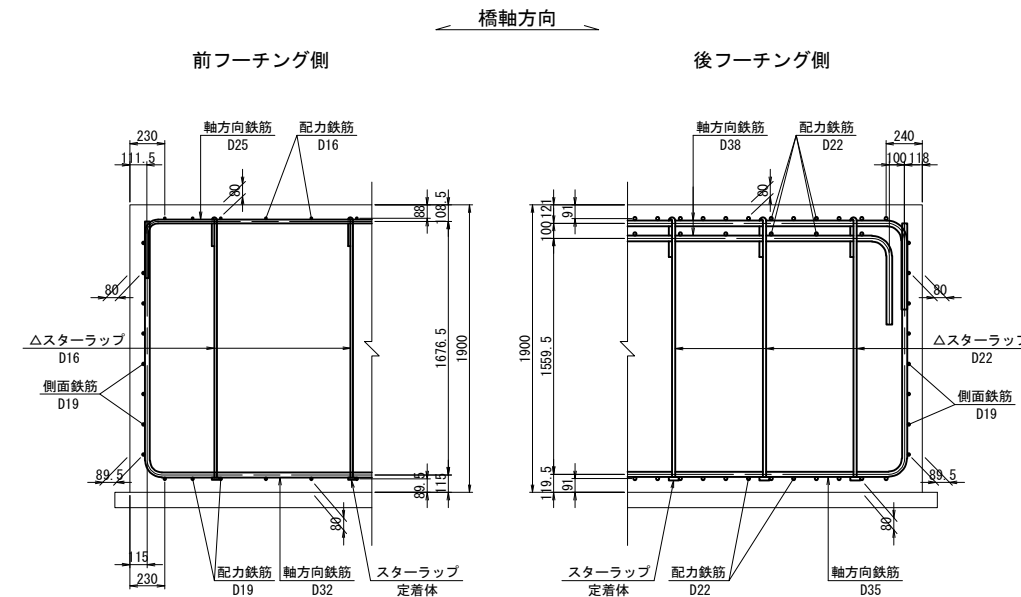
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



フーチングかぶり詳細図 S=1:50

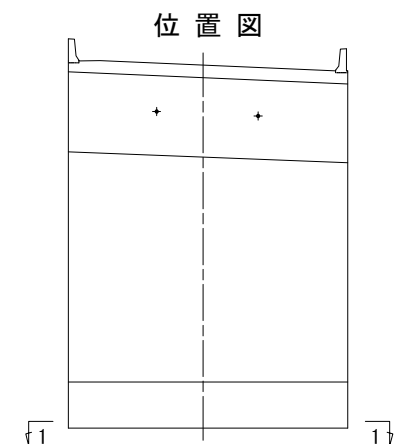
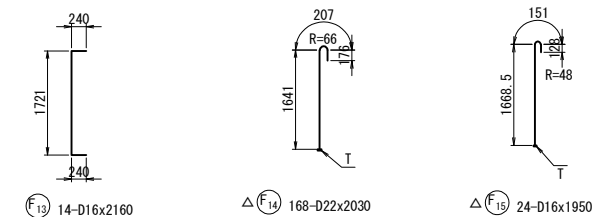
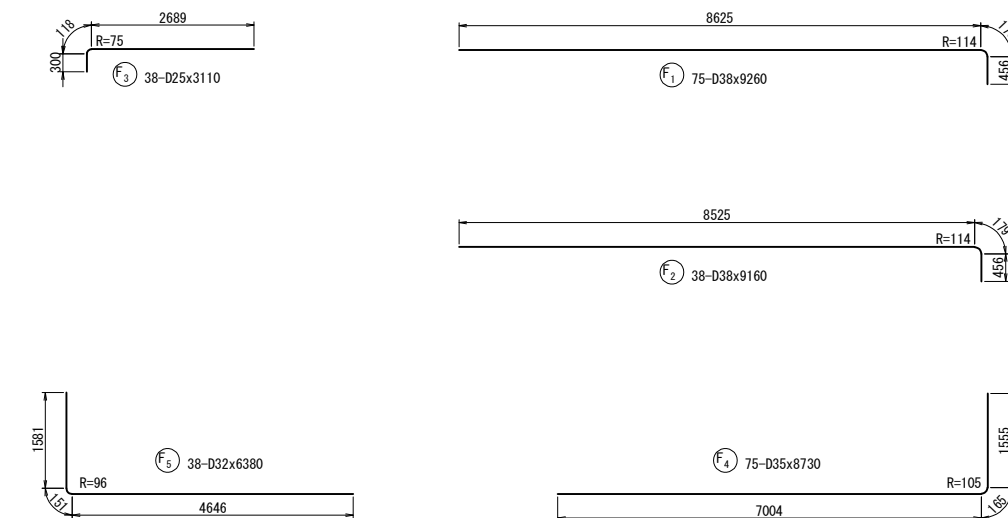


() 内数値は右側ウイングを示す。



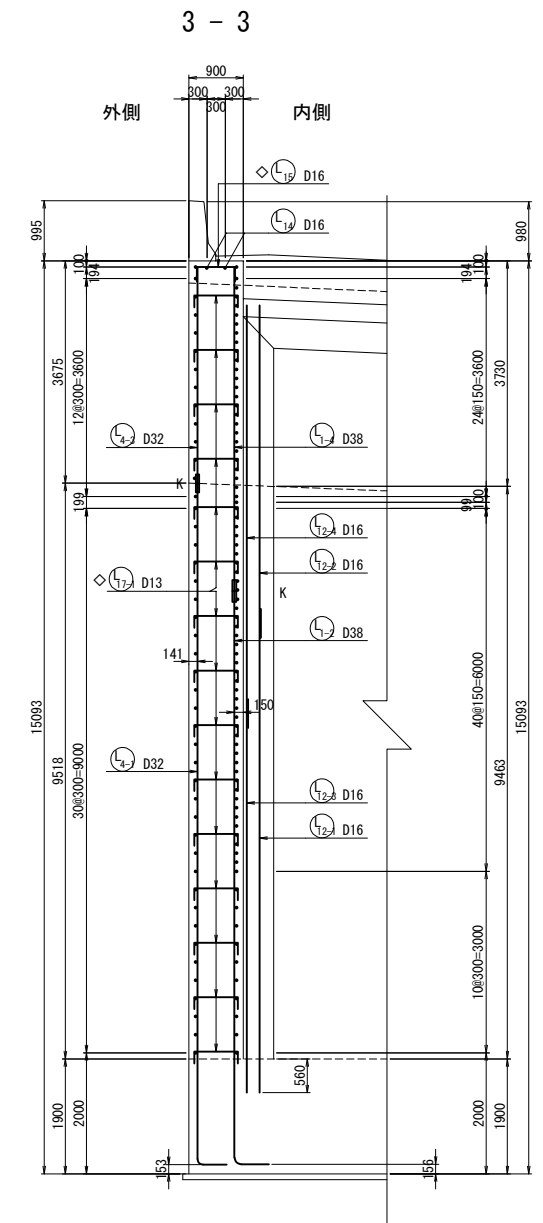
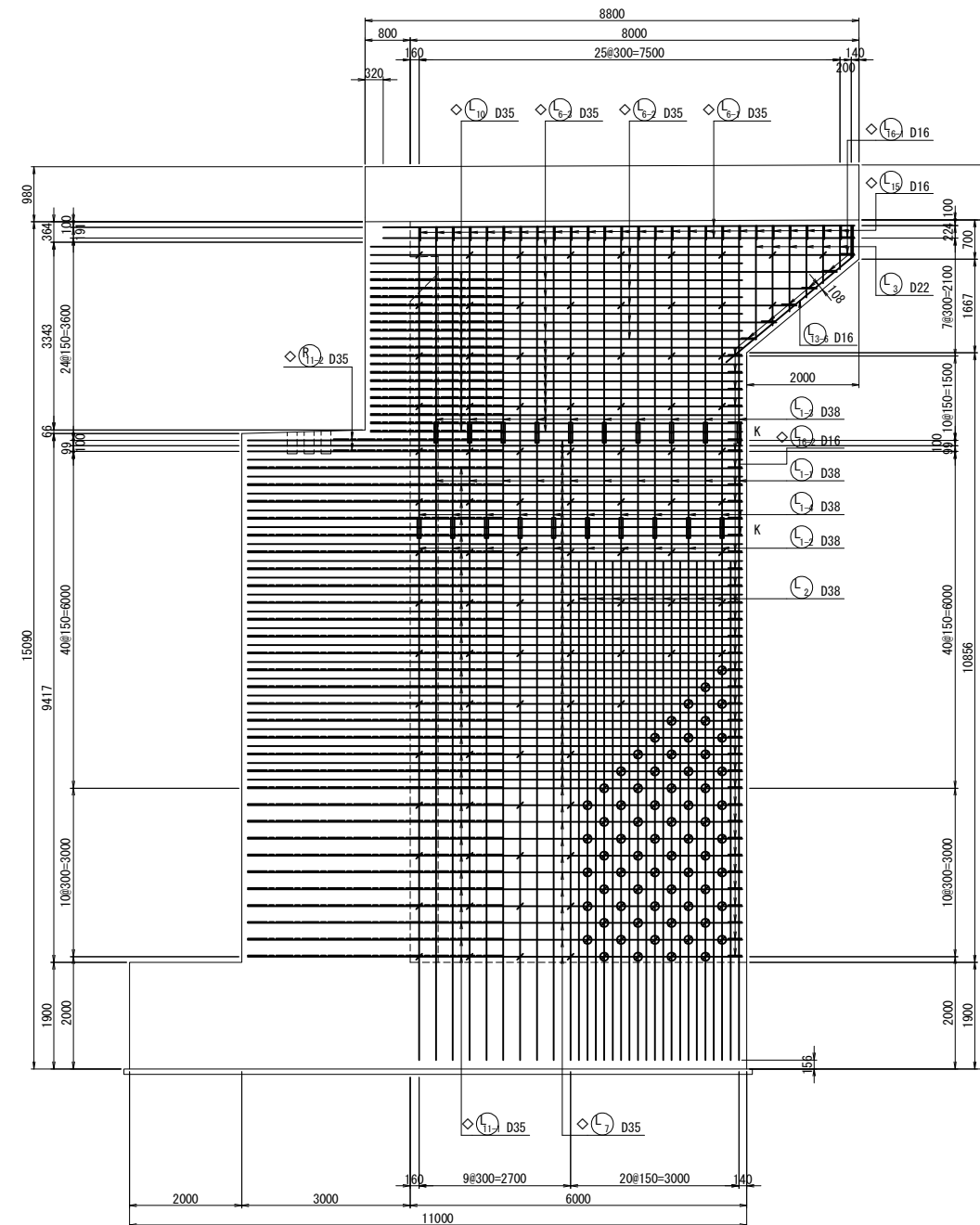
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- ① 道路標示方書一同解説(H29.11 日本道路協会)
- ② 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流越川第三橋（下り線） A 2橋付設図面（その５）		
	縮 尺	図 示	図面番号 -
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流越川第三橋（下り橋） A 2 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

2 - 2
内 側



位置図

1 2

1 3

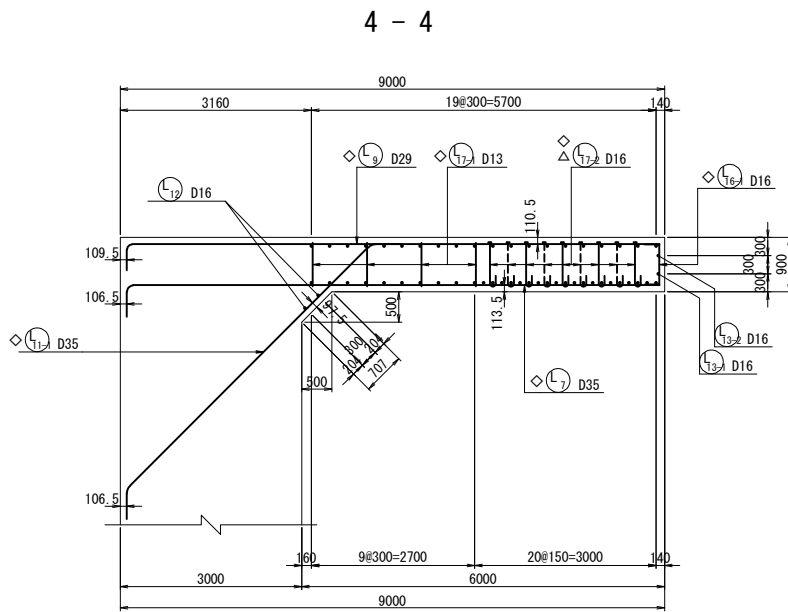
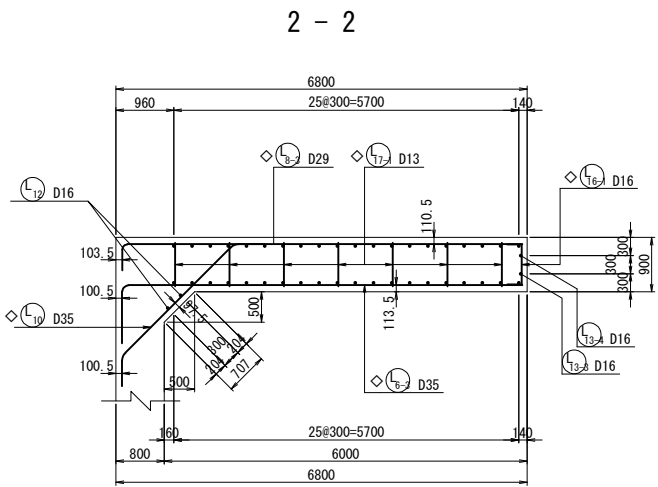
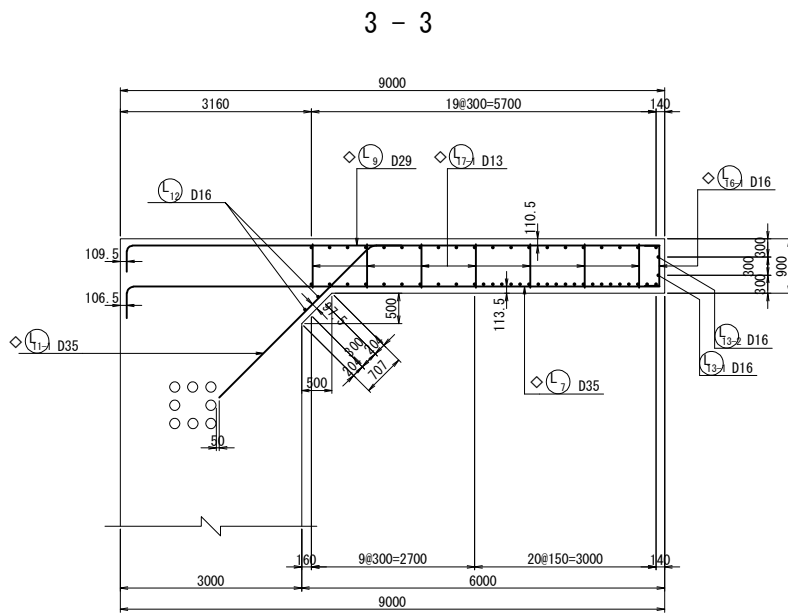
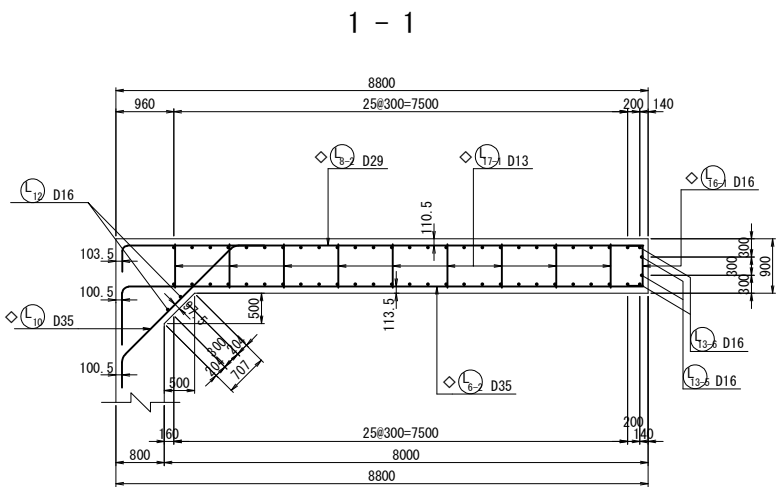
1 2

1 3

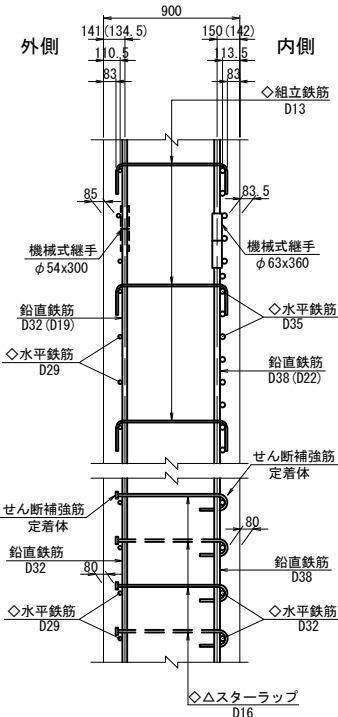
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) $\frac{K}{\text{○}}$ は機械継手を表す。
- 注8) $\text{○} \text{ (T) } \text{○}$ は鉄筋を表す。

道東自動車道 占冠地区下郷工事			
図面の種類	本流鶴川第三橋（下り線） A2橋台配筋図（その7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング

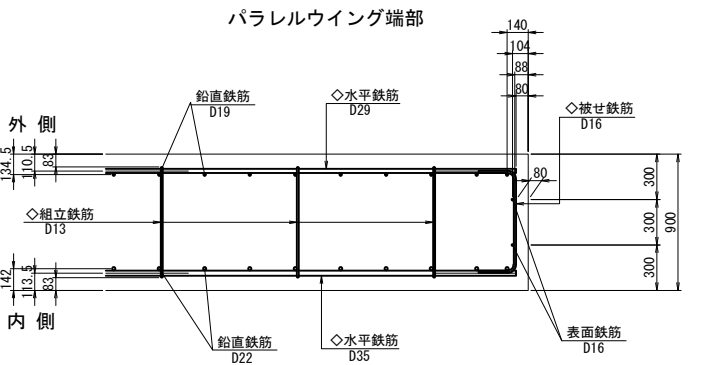
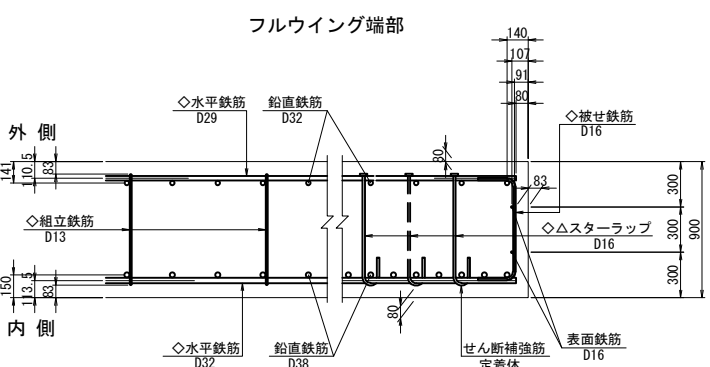


左側ウイングかぶり詳細図 S=1：50

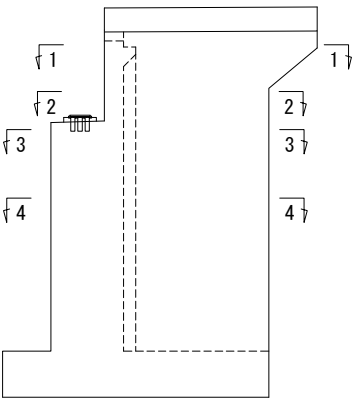


※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1：50



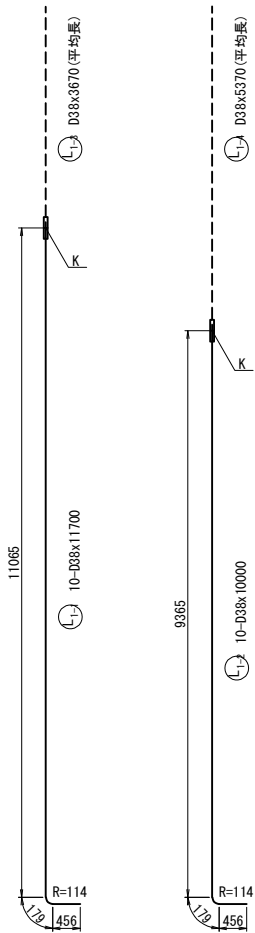
位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左側ウイング

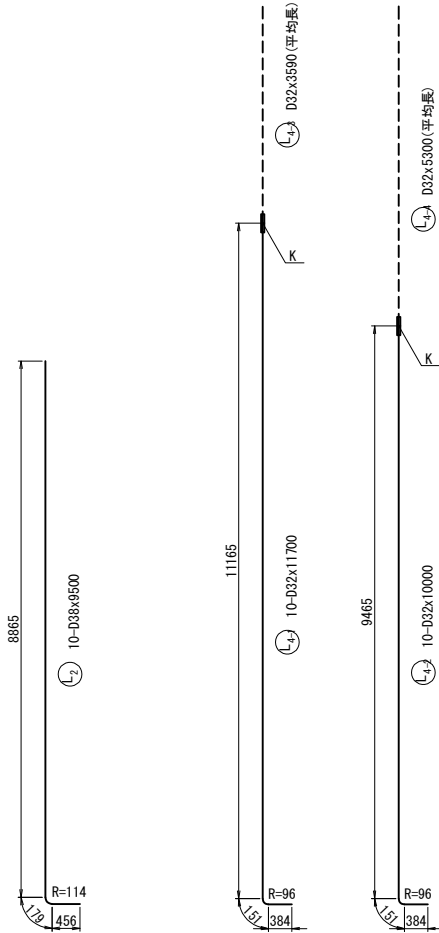


10-D38x3670 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D38	1	3660	3660
2	D38	1	3662	3660
3	D38	1	3664	3660
4	D38	1	3667	3670
5	D38	1	3669	3670
6	D38	1	3671	3670
7	D38	1	3673	3670
8	D38	1	3676	3680
9	D38	1	3678	3680
10	D38	1	3680	3680
平均長		10		3670

10-D38x5370 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D38	1	5359	5360
2	D38	1	5361	5360
3	D38	1	5363	5360
4	D38	1	5365	5370
5	D38	1	5368	5370
6	D38	1	5370	5370
7	D38	1	5372	5370
8	D38	1	5375	5380
9	D38	1	5377	5380
10	D38	1	5379	5380
平均長		10		5370

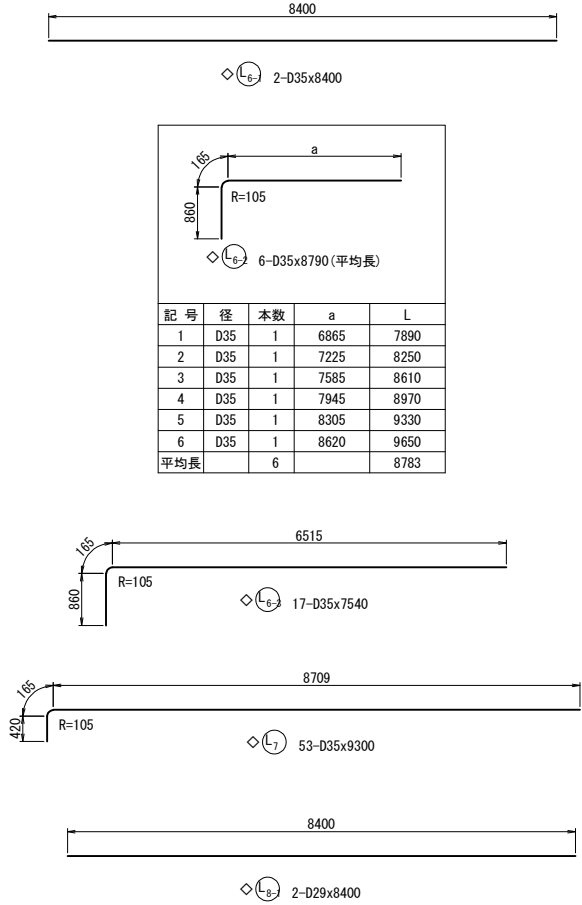


10-D32x3590 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D32	1	3580	3590
2	D32	1	3582	3580
3	D32	1	3584	3580
4	D32	1	3586	3590
5	D32	1	3589	3590
6	D32	1	3591	3590
7	D32	1	3593	3590
8	D32	1	3596	3600
9	D32	1	3598	3600
10	D32	1	3600	3600
平均長		10		3590

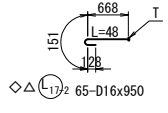
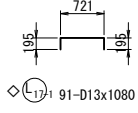
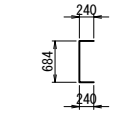
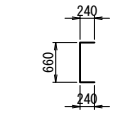
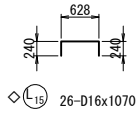
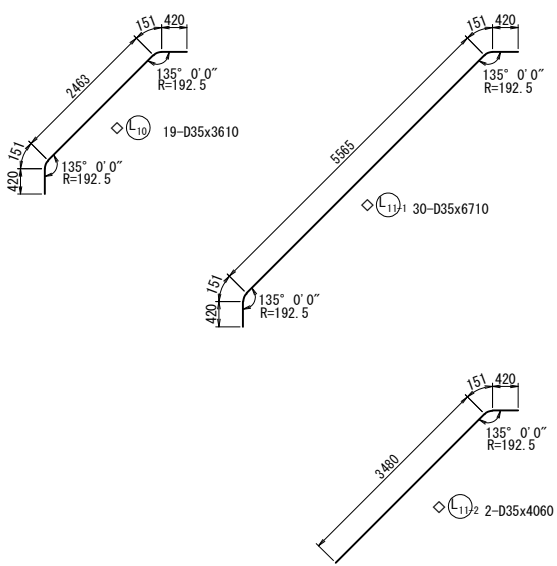
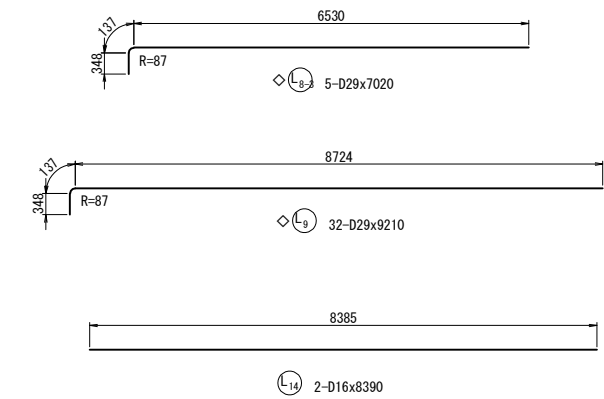
10-D32x5300 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D32	1	5281	5280
2	D32	1	5283	5280
3	D32	1	5285	5290
4	D32	1	5288	5290
5	D32	1	5290	5290
6	D32	1	5292	5290
7	D32	1	5294	5290
8	D32	1	5297	5300
9	D32	1	5299	5300
10	D32	1	5301	5300
平均長		10		5291



6-D29x8250 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D29	1	6862	7350
2	D29	1	7222	7710
3	D29	1	7582	8070
4	D29	1	7942	8430
5	D29	1	8302	8790
6	D29	1	8617	9100
平均長		6		8242

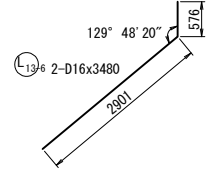
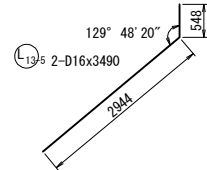
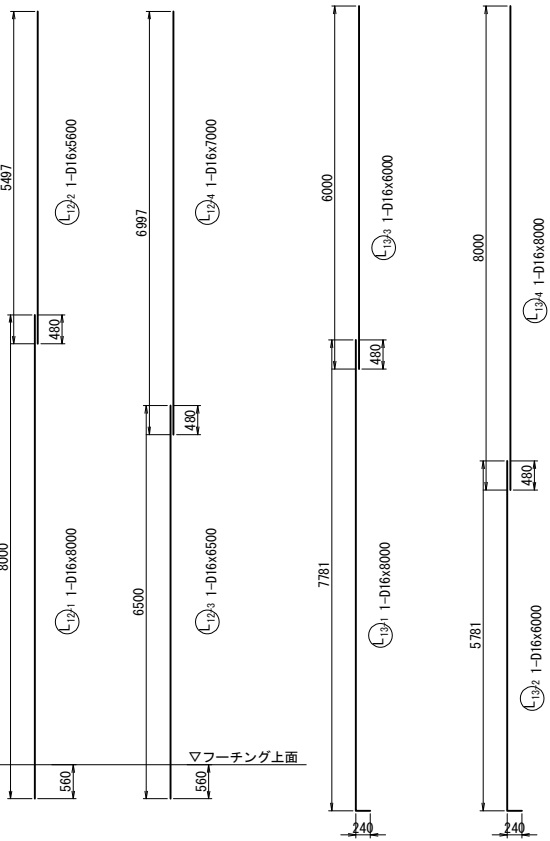


6-D22x1410 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D22	1	778	780
2	D22	1	1027	1030
3	D22	1	1276	1280
4	D22	1	1525	1530
5	D22	1	1773	1770
6	D22	1	2022	2020
平均長		6		1402

6-D19x1410 (平均長)

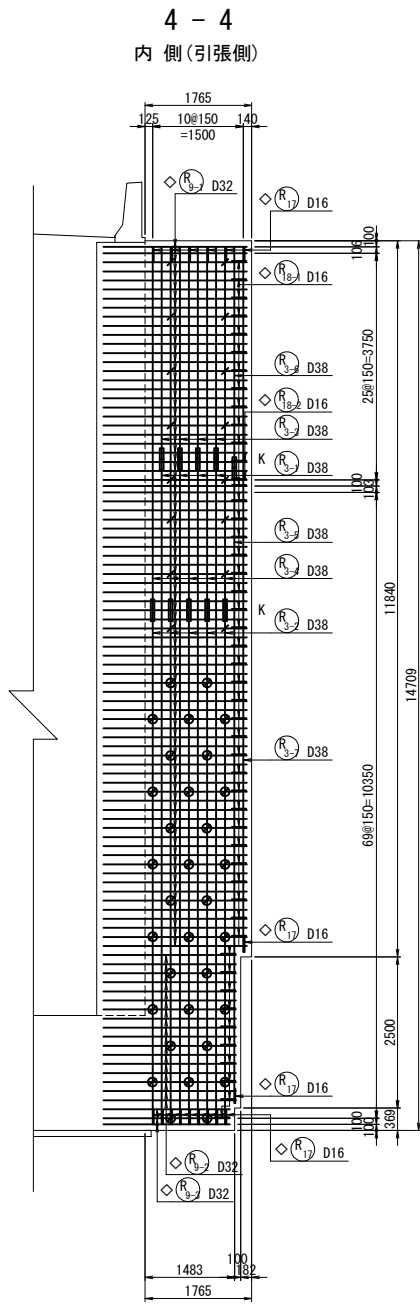
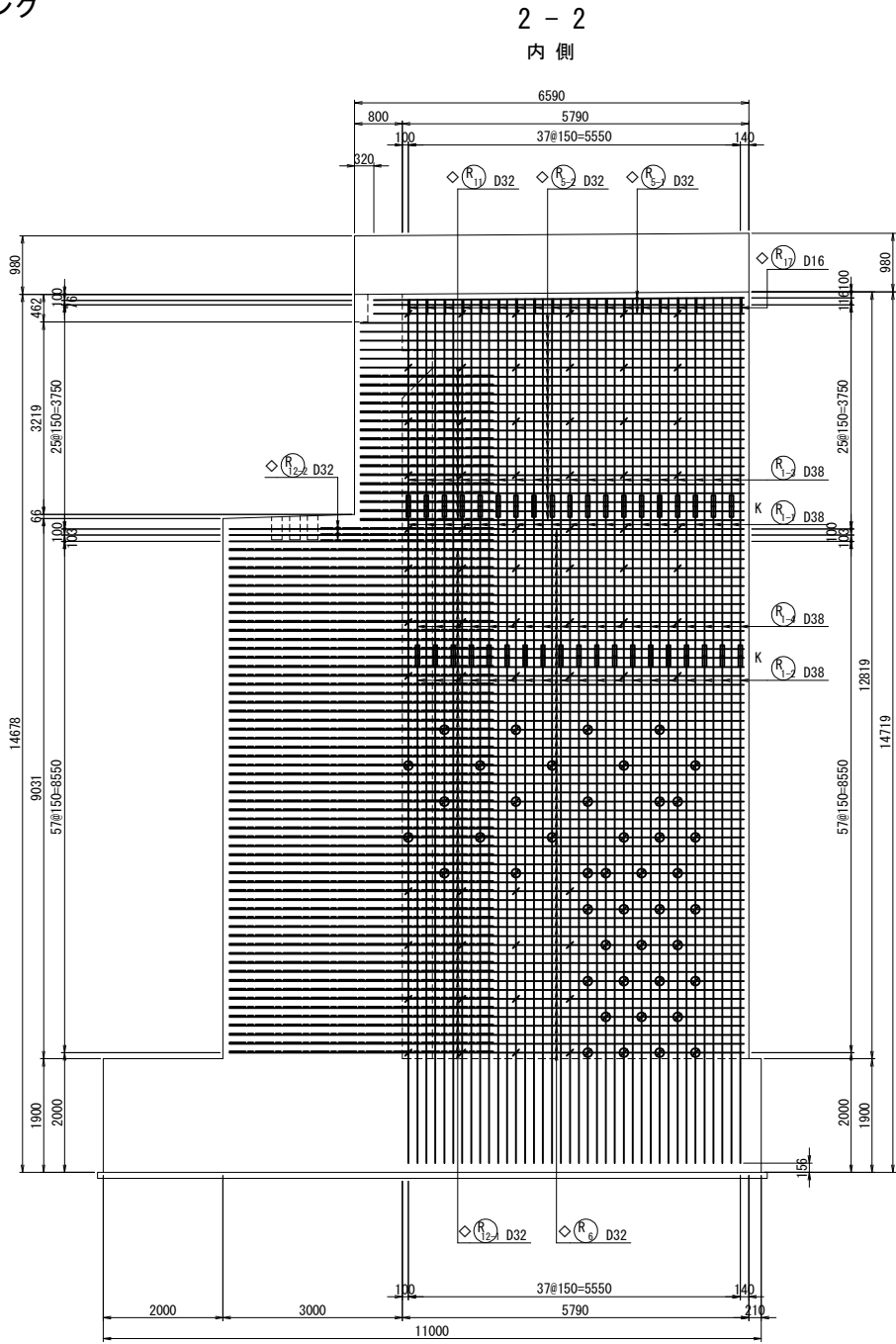
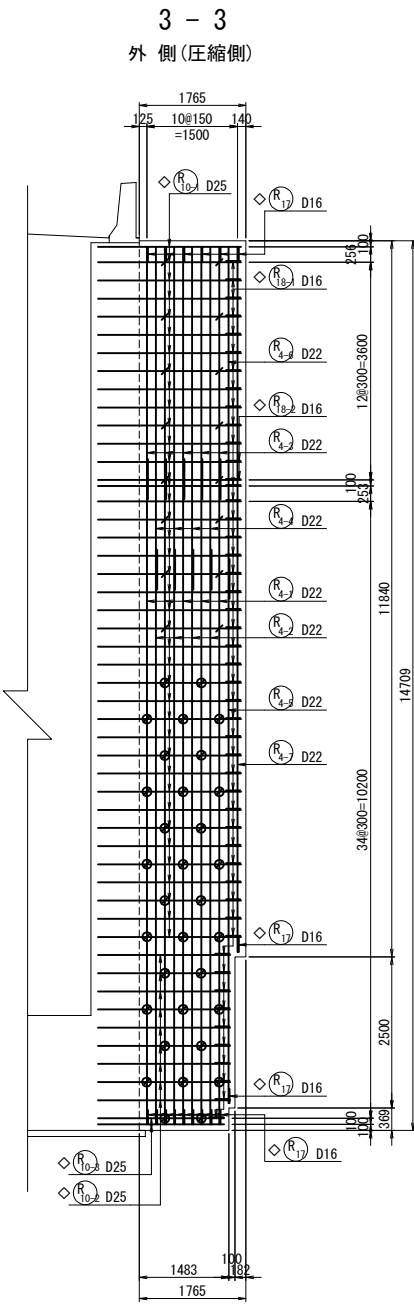
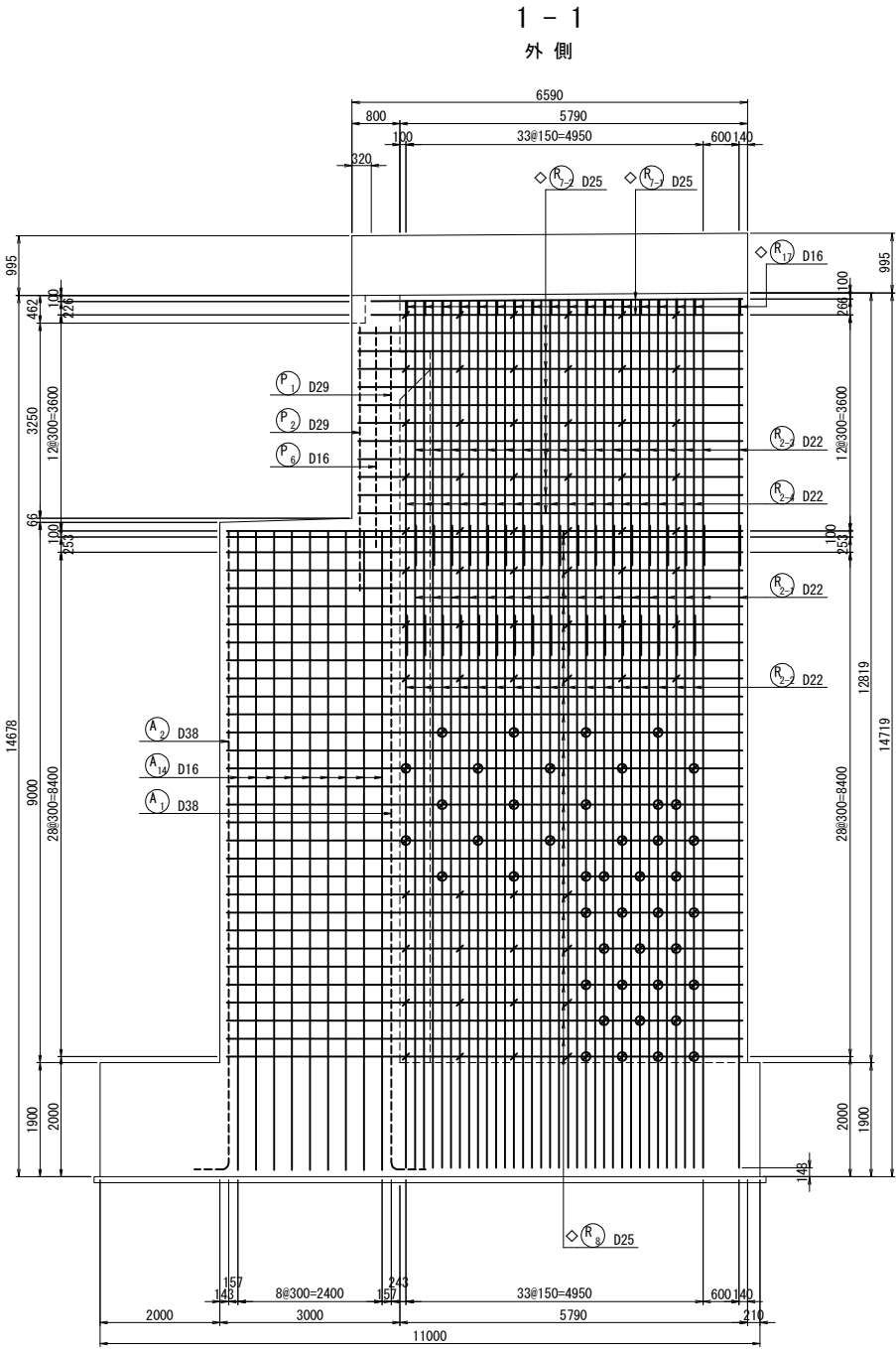
記号	径	本数	a	L
1	D19	1	778	780
2	D19	1	1027	1030
3	D19	1	1276	1280
4	D19	1	1525	1530
5	D19	1	1773	1770
6	D19	1	2022	2020
平均長		6		1402



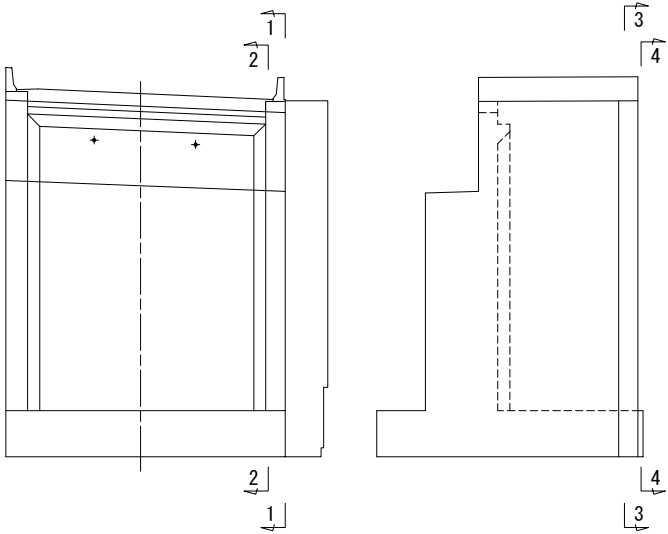
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング



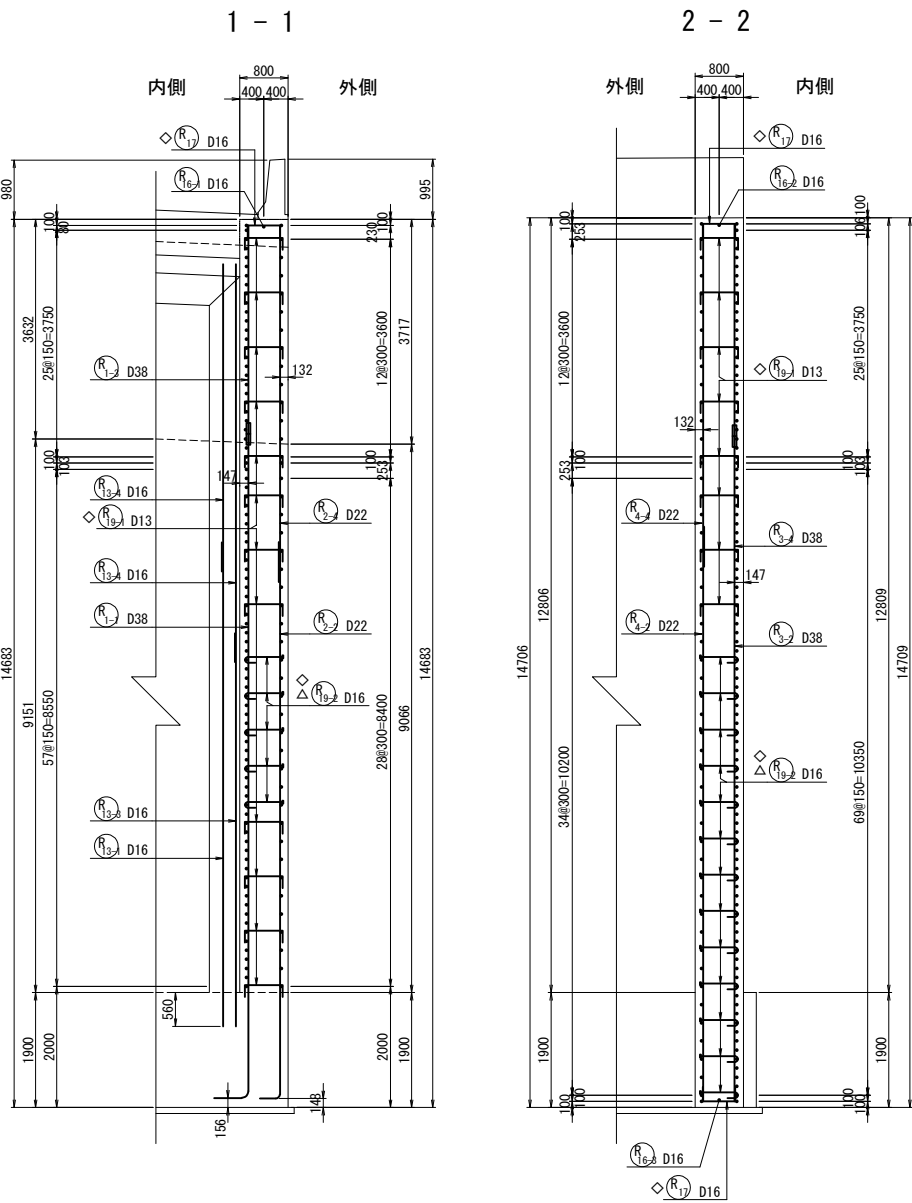
位置 図



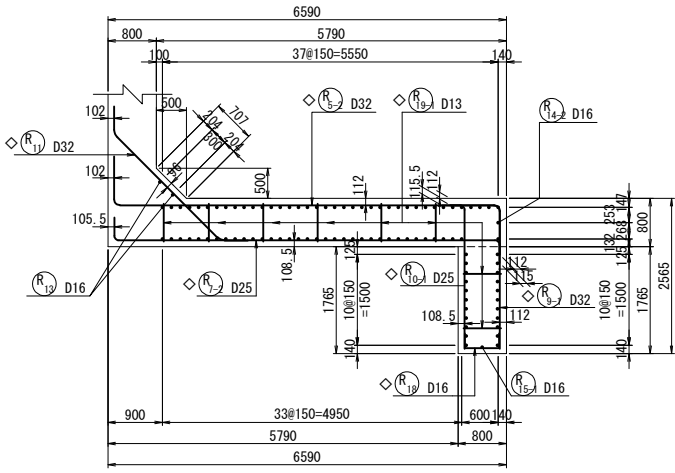
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) $\frac{K}{\text{---}}$ は機械継手を表わす。
注8) ϕ は (R_{10}) 鉄筋を表わす。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵠川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

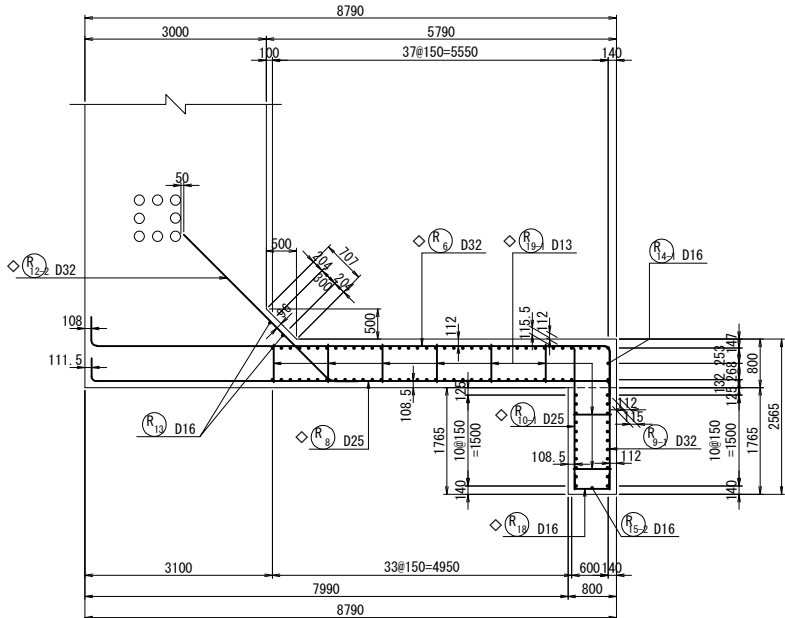
右側ウイング



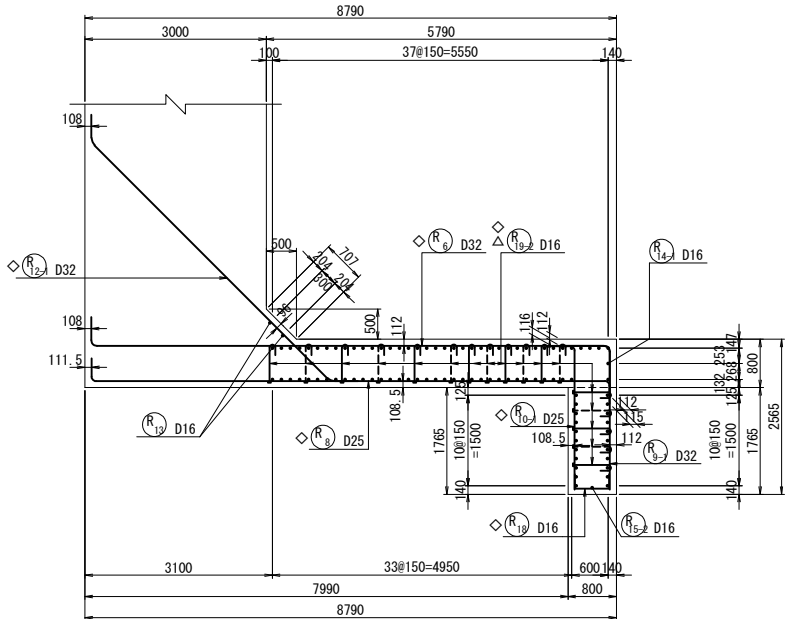
3 - 3



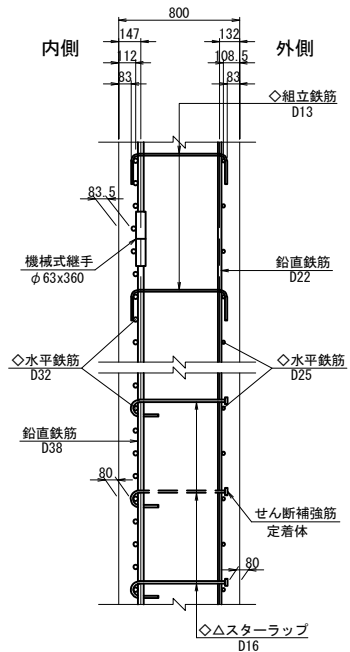
4 - 4



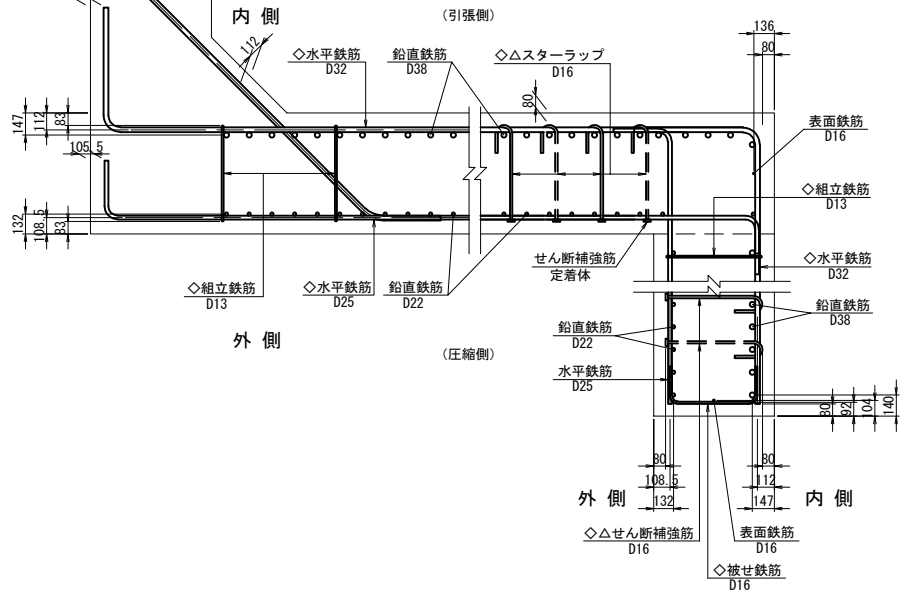
5 - 5



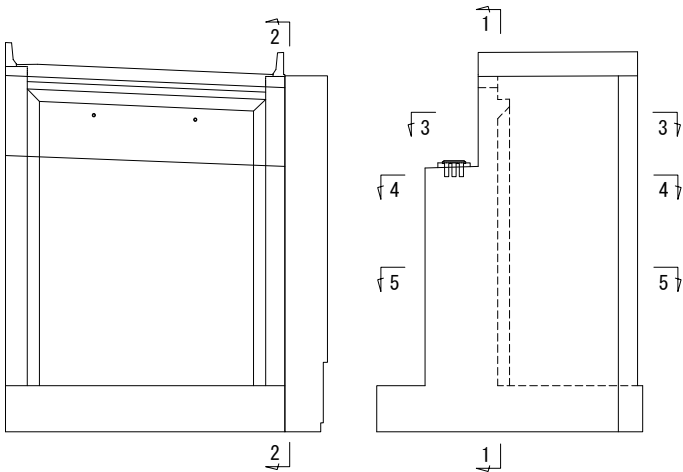
右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



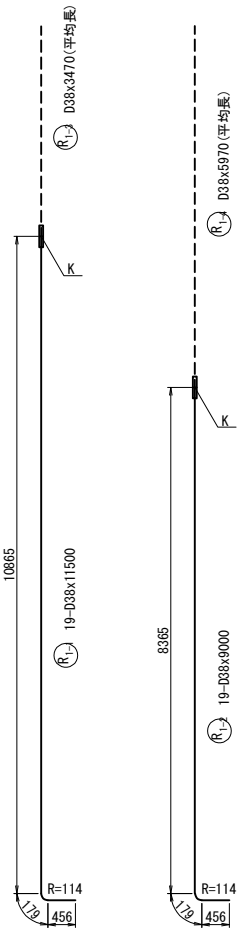
位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) $\frac{K}{\text{---}}$ は機械継手を表す。

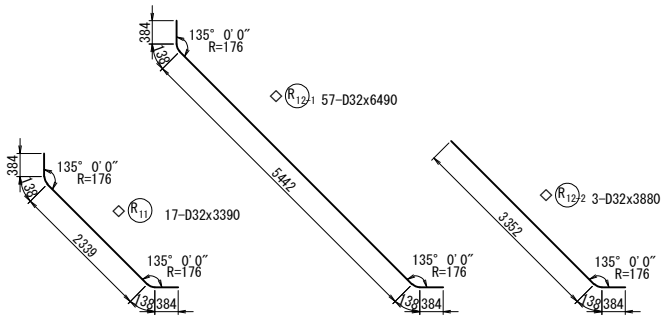
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
本流鵠川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 1）			
図面の種類	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社	日本橋造橋梁研究所	-
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

右側ウイング



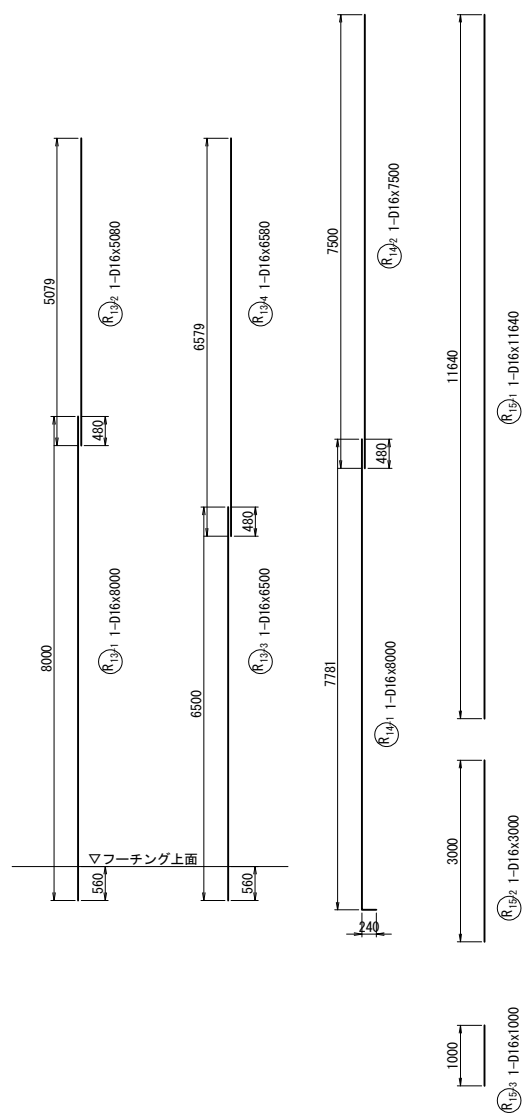
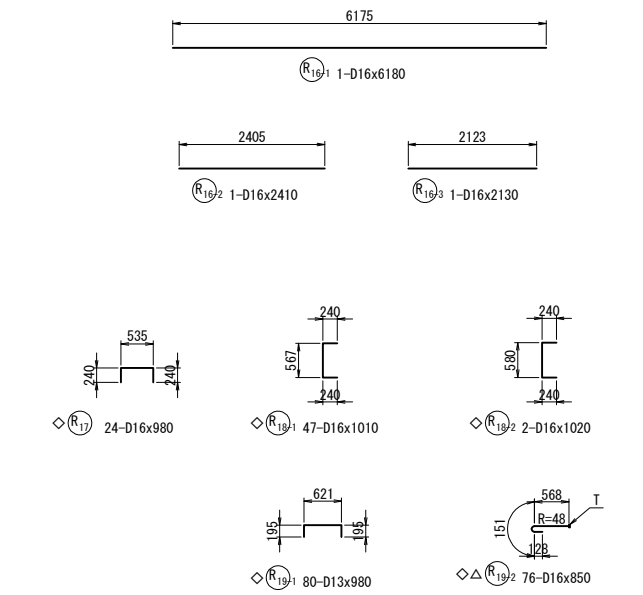
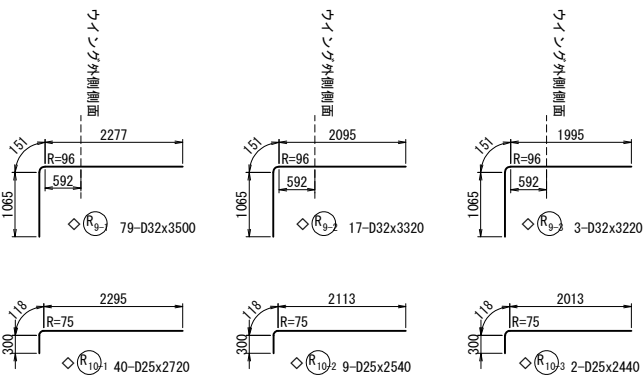
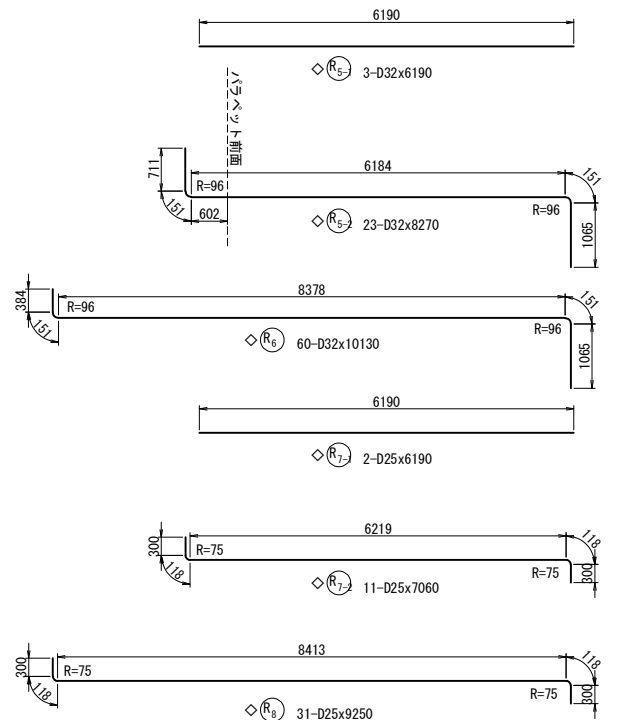
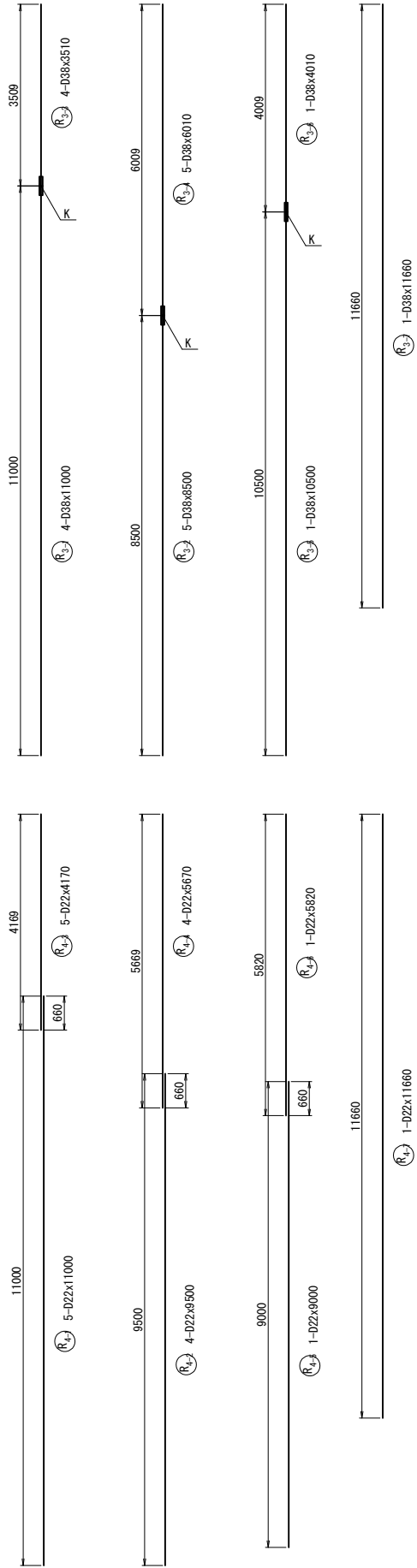
19-D38x3470 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D38	1	3449	3450
2	D38	1	3451	3450
3	D38	1	3453	3450
4	D38	1	3455	3460
5	D38	1	3456	3460
6	D38	1	3458	3460
7	D38	1	3460	3460
8	D38	1	3462	3460
9	D38	1	3464	3460
10	D38	1	3466	3470
11	D38	1	3467	3470
12	D38	1	3469	3470
13	D38	1	3471	3470
14	D38	1	3473	3470
15	D38	1	3475	3480
16	D38	1	3477	3480
17	D38	1	3479	3480
18	D38	1	3480	3480
19	D38	1	3482	3480
平均長		19		3466

19-D38x5970 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D38	1	5950	5950
2	D38	1	5952	5950
3	D38	1	5954	5950
4	D38	1	5955	5960
5	D38	1	5957	5960
6	D38	1	5959	5960
7	D38	1	5961	5960
8	D38	1	5963	5960
9	D38	1	5965	5970
10	D38	1	5967	5970
11	D38	1	5968	5970
12	D38	1	5970	5970
13	D38	1	5972	5970
14	D38	1	5974	5970
15	D38	1	5976	5980
16	D38	1	5978	5980
17	D38	1	5979	5980
18	D38	1	5981	5980
19	D38	1	5983	5980
平均長		19		5967



18-D22x4420 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D22	1	4399	4400
2	D22	1	4401	4400
3	D22	1	4403	4400
4	D22	1	4404	4400
5	D22	1	4406	4410
6	D22	1	4408	4410
7	D22	1	4410	4410
8	D22	1	4412	4410
9	D22	1	4414	4410
10	D22	1	4416	4420
11	D22	1	4417	4420
12	D22	1	4419	4420
13	D22	1	4421	4420
14	D22	1	4423	4420
15	D22	1	4425	4430
16	D22	1	4427	4430
17	D22	1	4428	4430
18	D22	1	4428	4430
平均長		18		4415

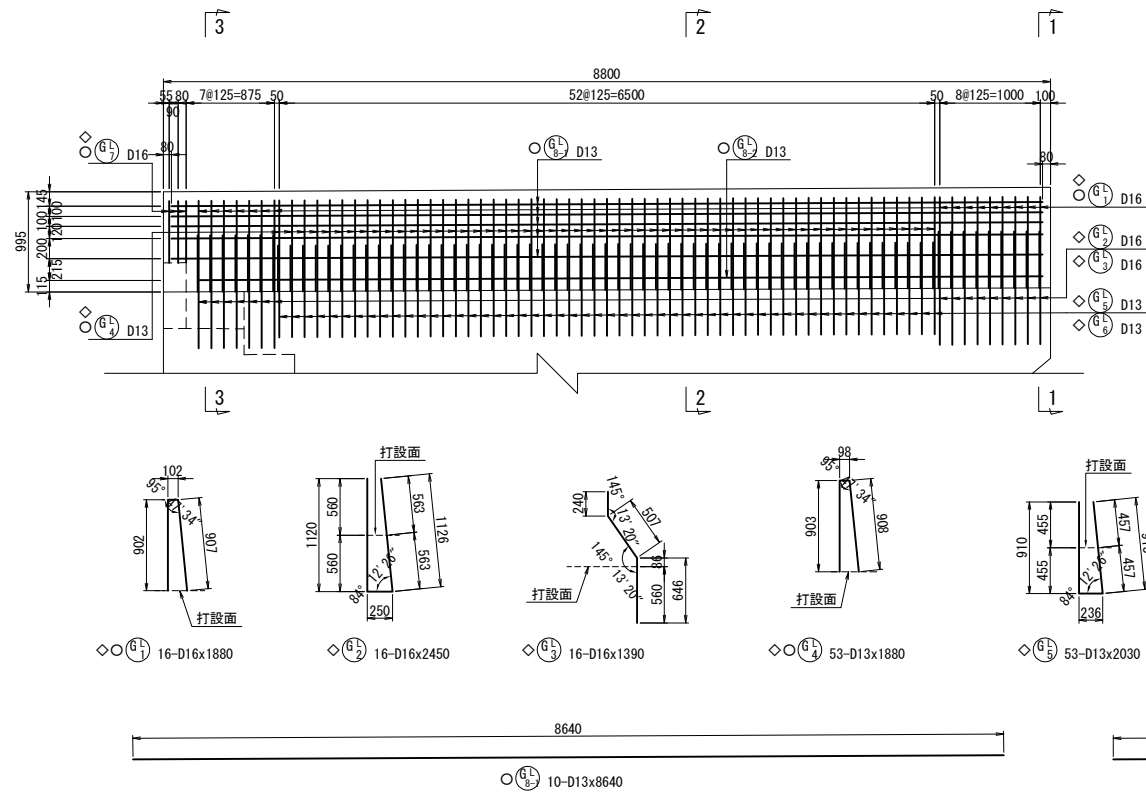
17-D22x5920 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D22	1	5898	5900
2	D22	1	5900	5900
3	D22	1	5902	5900
4	D22	1	5904	5900
5	D22	1	5905	5910
6	D22	1	5907	5910
7	D22	1	5909	5910
8	D22	1	5911	5910
9	D22	1	5913	5910
10	D22	1	5915	5920
11	D22	1	5916	5920
12	D22	1	5918	5920
13	D22	1	5920	5920
14	D22	1	5922	5920
15	D22	1	5924	5920
16	D22	1	5926	5930
17	D22	1	5928	5930
平均長		17		5914



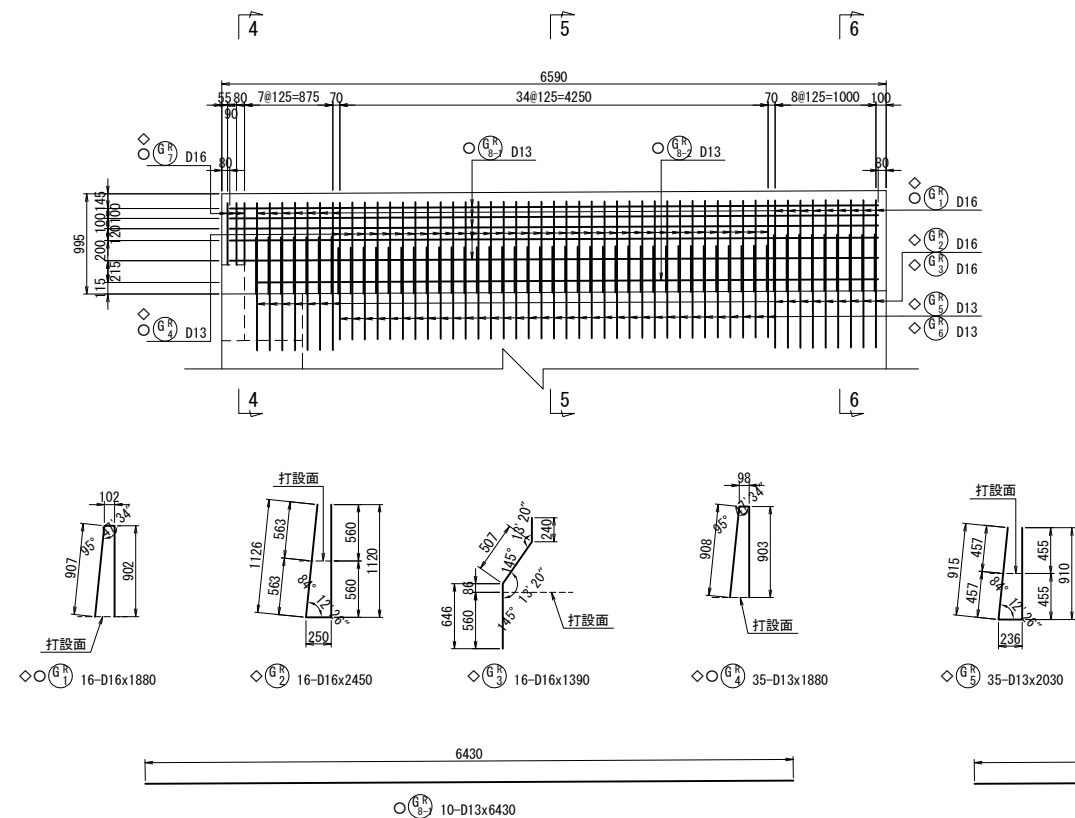
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 注7) K は機械継手を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 2 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

左壁欄側面展開図



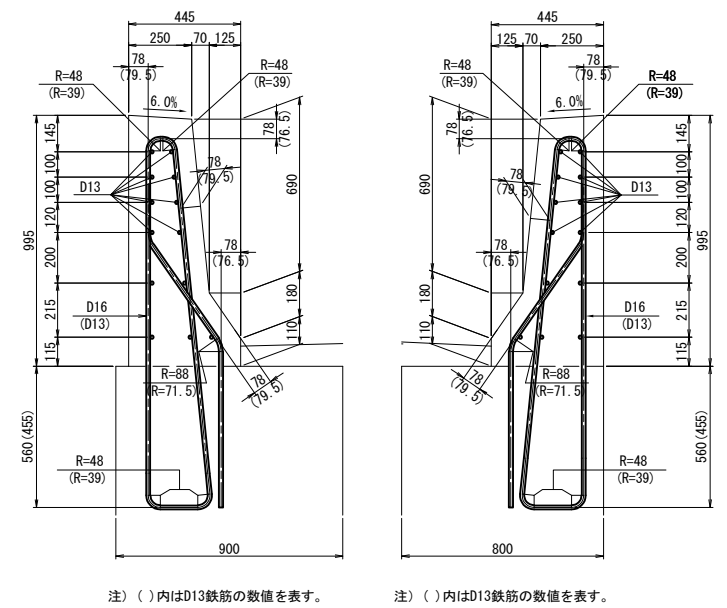
右壁欄側面展開図



壁高欄かぶり詳細図 S=1 : 30

左側

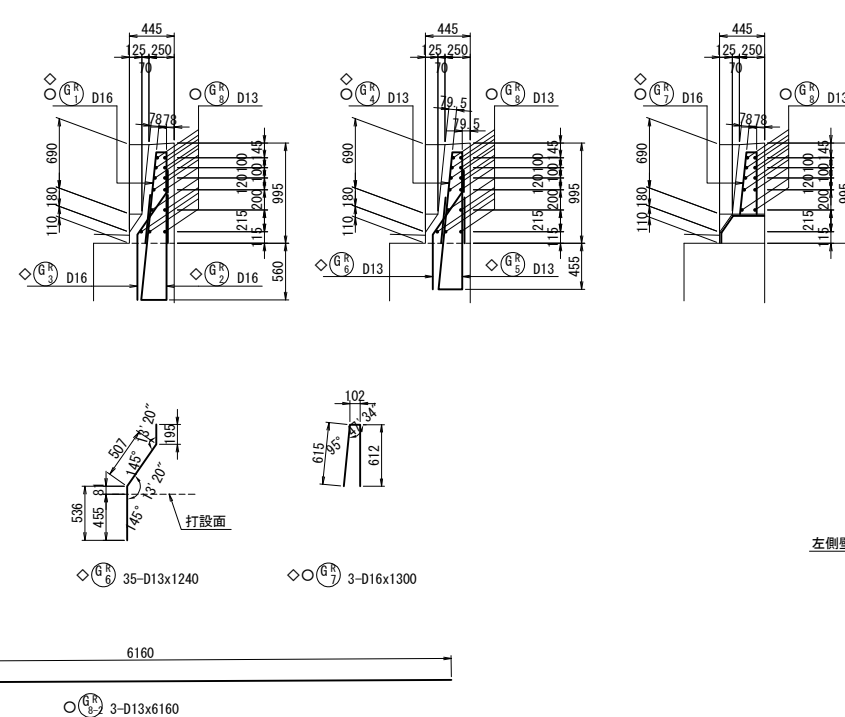
右側



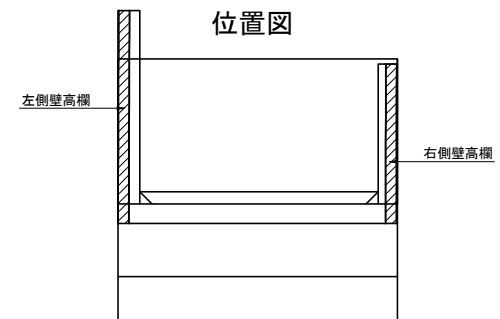
4 - 4

5 - 5

6 - 6



位置図



注1) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注2) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注3) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鶴川第三橋（下り線） A 2橋台配筋図（その１３）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

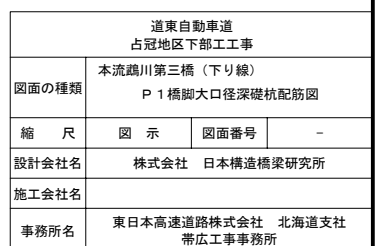
鉄筋表

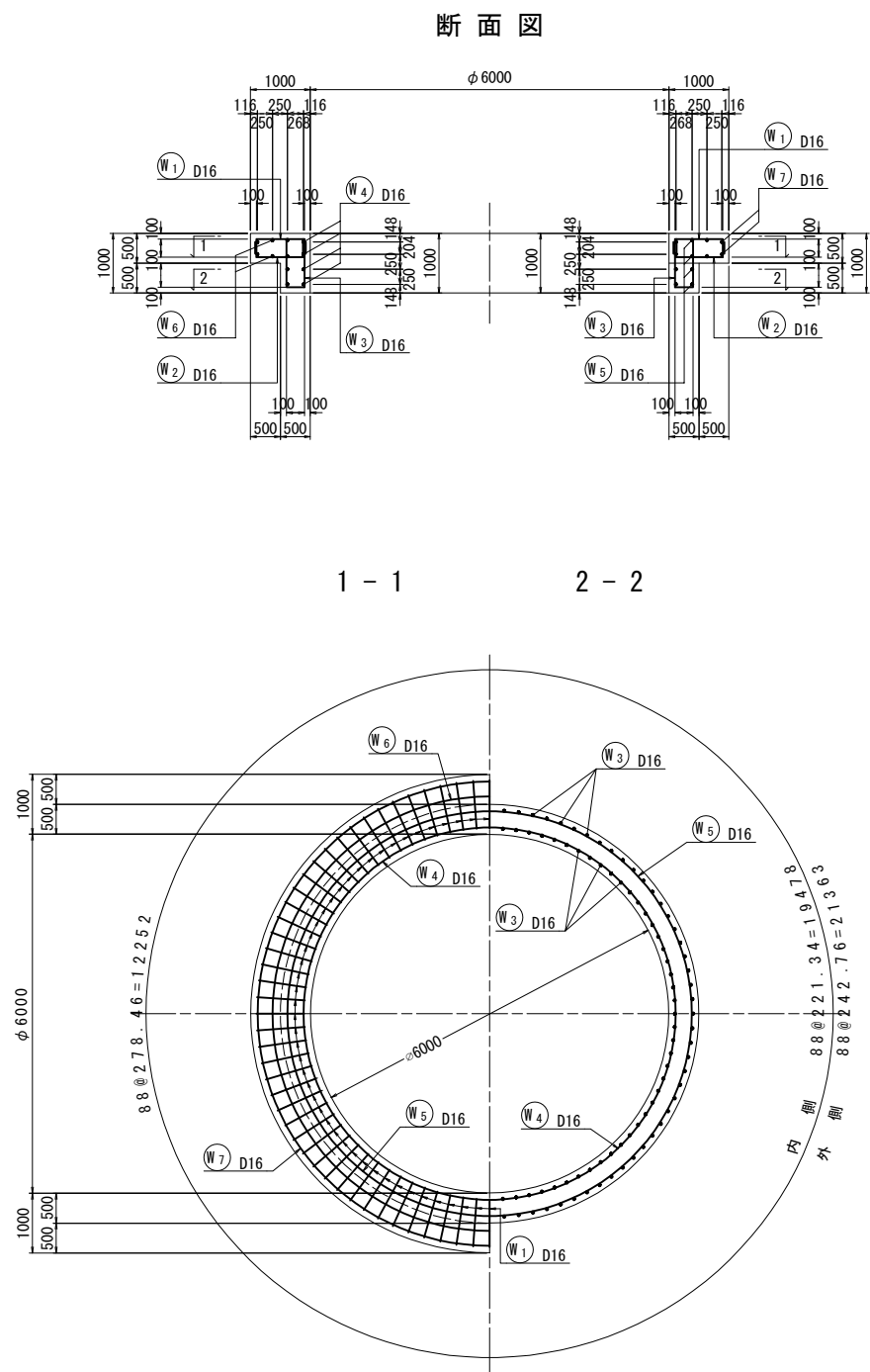
	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	P3-1	D35	3500	11	7.51	26.3	289	└┐
◇	P3-2	D35	5500	10	7.51	41.3	413	└┐
◇	P3-3	D32	5500	11	6.23	34.3	377	└┐
◇	P3-4	D32	3500	10	6.23	21.8	218	└┐
◇	P3-5	D19	4600	21	2.25	10.4	218	└┐
◇	P3-6	D35	3880	1	7.51	29.1	29	└┐
◇	P3-7	D19	3910	1	2.25	8.80	9	└┐
◇	P3-8	D32	3890	1	6.23	24.2	24	└┐
◇	P4-1	D19	11400	11	2.25	25.7	283	└┐
◇	P4-2	D19	3430	1	2.25	7.72	8	└┐
◇	P4-3	D19	3910	1	2.25	8.80	9	└┐
◇	P4-4	D19	3480	1	2.25	7.83	8	└┐
◇	P7	D16	11400	1	1.56	17.8	18	└┐
◇ △	P9-1	D19	890	53	2.25	2.00	106	└┐ (53)
◇ △	P9-2	D19	890	33	2.25	2.00	66	└┐ (33)
◇ △	P9-3	D19	870	35	2.25	1.96	69	└┐ (35)
							2144 kg	
◇	E1	D22	520	13	3.04	1.58	21	└┐
◇	E3	D16	10980	4	1.56	17.1	68	└┐
							89 kg	
◇	Y1	D16	500	16	1.56	0.780	12	└┐
							12 kg	
◇	A3-1	D22	5310	29	3.04	16.1	467	└┐
◇	A3-2	D22	8660	29	3.04	26.3	763	└┐
◇	A3-3	D22	8610	29	3.04	26.2	760	└┐
◇	A3-4	D22	5360	29	3.04	16.3	473	└┐
◇	A4	D22	10500	1	3.04	31.9	32	└┐
◇	A5	D22	6670	1	3.04	20.3	20	└┐
◇	A6	D22	2840	1	3.04	8.63	9	└┐
◇	A7-1	D22	5320	1	3.04	16.2	16	└┐
◇	A7-2	D22	8670	1	3.04	26.4	26	└┐
◇	A8-1	D22	8610	29	3.04	26.2	760	└┐
◇	A8-2	D22	5360	29	3.04	16.3	473	└┐
◇	A8-3	D22	5310	29	3.04	16.1	467	└┐
◇	A8-4	D22	8660	29	3.04	26.3	763	└┐
◇	A9	D22	10500	1	3.04	31.9	32	└┐
◇	A10	D22	6670	1	3.04	20.3	20	└┐
◇	A11	D22	2840	1	3.04	8.63	9	└┐
◇	A12-1	D22	8620	1	3.04	26.2	26	└┐
◇	A12-2	D22	5370	1	3.04	16.3	16	└┐
◇ △	A15	D22	3130	165	3.04	9.52	1571	└┐ (165)
							6703 kg	
◇	S2-1	D16	9010	5	1.56	14.1	71	└┐
◇	S2-2	D16	4060	5	1.56	6.33	32	└┐
◇	S2-3	D16	4010	5	1.56	6.26	31	└┐
◇	S2-4	D16	9060	5	1.56	14.1	71	└┐
◇ △	S3	D16	3040	24	1.56	4.74	114	└┐ (24)
							319 kg	
◇	H1	D16	2610	20	1.56	4.07	81	└┐
◇	H2	D16	2610	20	1.56	4.07	81	└┐
◇	H3	D16	2960	8	1.56	4.62	37	└┐
							199 kg	
◇	L6-1	D35	8400	2	7.51	63.1	126	└┐
◇	L6-2	D35	8790	6	7.51	66.0	396	└┐ (平均長)
◇	L6-3	D35	7540	17	7.51	56.6	962	└┐
◇	L7	D35	9300	53	7.51	69.8	3699	└┐
◇	L8-1	D29	8400	2	5.04	42.3	85	└┐
◇	L8-2	D29	8250	6	5.04	41.6	250	└┐ (平均長)
◇	L8-3	D29	7020	5	5.04	35.4	177	└┐
◇	L9	D29	9210	32	5.04	46.4	1485	└┐
◇	L10	D35	3610	19	7.51	27.1	515	└┐
◇	L11-1	D35	6710	30	7.51	50.4	1512	└┐
◇	L11-2	D35	4060	2	7.51	30.5	61	└┐
◇	L15	D16	1070	26	1.56	1.67	43	└┐
◇	L16-1	D16	1100	40	1.56	1.72	69	└┐
◇	L16-2	D16	1130	4	1.56	1.76	7	└┐
◇	L17-1	D13	1080	91	0.995	1.07	97	└┐
◇ △	L17-2	D16	950	65	1.56	1.48	96	└┐ (65)
							9580 kg	
◇	R5-1	D32	6190	3	6.23	38.6	116	└┐
◇	R5-2	D32	8270	23	6.23	51.5	1185	└┐
◇	R6	D32	10130	60	6.23	63.1	3786	└┐
◇	R7-1	D25	6190	2	3.98	24.6	49	└┐
◇	R7-2	D25	7060	11	3.98	28.1	309	└┐
◇	R8	D25	9250	31	3.98	36.8	1141	└┐
◇	R9-1	D32	3500	79	6.23	21.8	1722	└┐
◇	J1	D13	1560	72	0.995	1.55	112	└┐
							112 kg	

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	R9-2	D32	3320	17	6.23	20.7	352	└┐
◇	R9-3	D32	3220	3	6.23	20.1	60	└┐
◇	R10-1	D25	2720	40	3.98	10.8	432	└┐
◇	R10-2	D25	2540	9	3.98	10.1	91	└┐
◇	R10-3	D25	2440	2	3.98	9.71	19	└┐
◇	R11	D32	3390	17	6.23	21.1	359	└┐
◇	R12-1	D32	6490	57	6.23	40.4	2303	└┐
◇	R12-2	D32	3880	3	6.23	24.2	73	└┐
◇	R17	D16	980	24	1.56	1.53	37	└┐
◇	R18-1	D16	1010	47	1.56	1.58	74	└┐
◇	R18-2	D16	1020	2	1.56	1.59	3	└┐
◇	R19-1	D13	980	80	0.995	0.975	78	└┐
◇ △	R19-2	D16	850	76	1.56	1.33	101	└┐ (76)
							12290 kg	
◇	GL2	D16	2450	16	1.56	3.82	61	└┐
◇	GL3	D16	1390	16	1.56	2.17	35	└┐
◇	GL5	D13	2030	53	0.995	2.02	107	└┐
◇	GL6	D13	1240	53	0.995	1.23	65	└┐
							268 kg	
◇	GR2	D16	2450	16	1.56	3.82	61	└┐
◇	GR3	D16	1390	16	1.56	2.17	35	└┐
◇	GR5	D13	2030	35	0.995	2.02	71	└┐
◇	GR6	D13	1240	35	0.995	1.23	43	└┐
							210 kg	
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋							
	鉄筋質量集計 (SD345)							
					鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計 (機械式定着)
					D35	8002 kg	-	8002 kg
					D32	10575 kg	-	10575 kg
					D29	1997 kg	-	1997 kg
					D25	2041 kg	-	2041 kg
					D22	5153 kg	-	1571 kg 6724 kg (165)
					D19	535 kg	-	241 kg 776 kg (121)
					D16	927 kg	-	311 kg 1238 kg (165)
					D13	573 kg	-	573 kg
					合 計	29803 kg	-	2123 kg 31926 kg (451)

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部施工鉄筋 (SD345)							
◇	P1	D29	4710	70	5.04	23.7	1659	└┐ (平均長)
◇	P2	D29	4390	40	5.04	22.1	884	└┐ (平均長)
◇	P5	D16	3690	1	1.56	5.76	6	└┐
◇	P6	D16	3640	1	1.56	5.68	6	└┐
◇	P8	D16	970	40	1.56	1.51	60	└┐
							2615 kg	
◇	E2	D16	2940	34	1.56	4.59	156	└┐
◇	E4	D13	1590	13	0.995	1.58	21	└┐
							177 kg	
◇	S1	D16	3750	39	1.56	5.85	228	└┐
							228 kg	
◇	A1	D38	11380	72	8.95	102	7344	└┐ (平均長)
◇	A2	D38	11390	40	8.95	102	4080	└┐ (平均長)
◇	A13	D16	11310	9	1.56	17.6	158	└┐
◇	A14	D16	10870	9	1.56	17.0	153	└┐
							11735 kg	
◇	F1	D38	9260	75	8.95	82.9	6218	└┐
◇	F2	D38	9160	38	8.95	82.0	3116	└┐
◇	F3	D25	3110	38	3.98	12.4	471	└┐
◇	F4	D35	8730	75	7.51	65.6	4920	└┐
◇	F5	D32	6380	38	6.23	39.7	1509	└┐
◇	F6	D22	11390	40	3.04	34.6	1384	└┐
◇	F7	D22	11390	20	3.04	34.6	692	└┐
◇	F8	D16	11390	8	1.56	17.8	142	└┐
◇	F9	D22	11390	44	3.04	34.6	1522	└┐
◇	F10	D19	11390	13	2.25	25.6	333	└┐
◇	F11	D19	11350	16	2.25	25.5	408	└┐
◇	F12	D19	11330	16	2.25	25.5	408	└┐
◇	F13	D16	2160	14	1.56	3.37	47	└┐

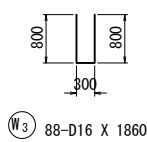
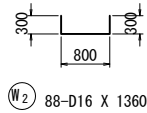
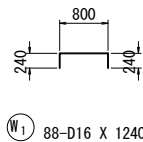
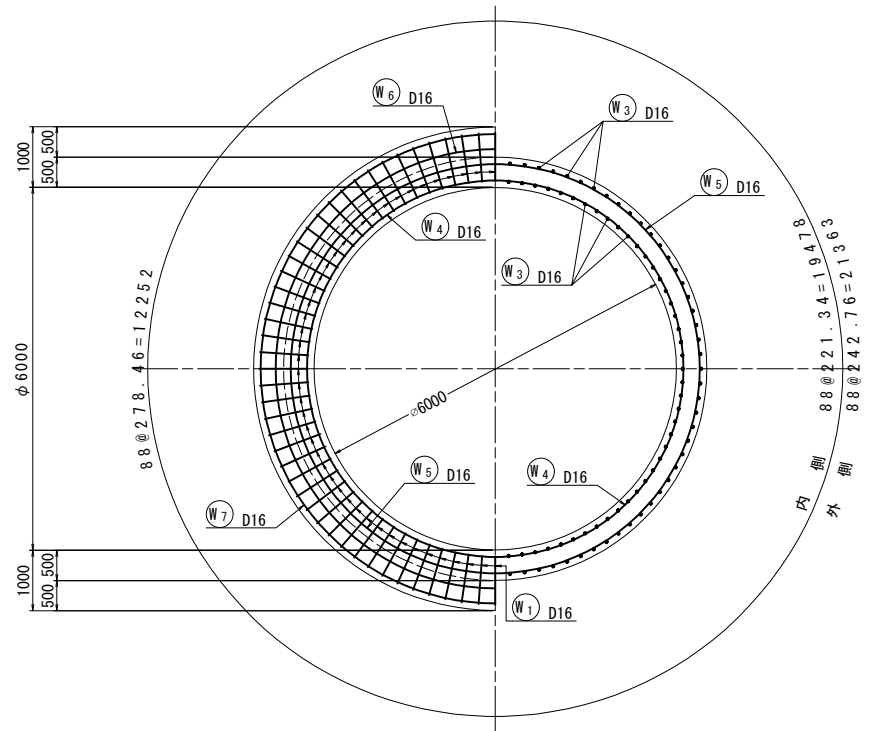
種別		径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要	
下部施工用鉄筋 (SD345)									
F14	D22	2030	168	3.04	6.17	1037	┐ (168)	C	
F15	D16	1950	24	1.56	3.04	73	┐ (24)		
							22280	kg	C
L1-1	D38	11700	10	8.95	105	1050	┐ K [10]	B	
L1-2	D38	10000	10	8.95	89.5	895	┐ K [10]	B	
L1-3	D38	3670	10	8.95	32.8	328	┐ K (平均長)	B	
L1-4	D38	5370	10	8.95	48.1	481	┐ K (平均長)	B	
L2	D38	9500	10	8.95	85.0	850	┐		
L3	D22	1410	6	3.04	4.29	26	┐ (平均長)		
L4-1	D32	11700	10	6.23	72.9	729	┐ K [10]	B	
L4-2	D32	10000	10	6.23	62.3	623	┐ K [10]	B	
L4-3	D32	3590	10	6.23	22.4	224	┐ K (平均長)	B	
L4-4	D32	5300	10	6.23	33.0	330	┐ K (平均長)	B	
L5	D19	1410	6	2.25	3.17	19	┐ (平均長)		
L12-1	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐		
L12-2	D16	5600	1	1.56	8.74	9	┐		
L12-3	D16	6500	1	1.56	10.1	10	┐		
L12-4	D16	7000	1	1.56	10.9	11	┐		
L13-1	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐		
L13-2	D16	6000	1	1.56	9.36	9	┐		
L13-3	D16	6000	1	1.56	9.36	9	┐		
L13-4	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐		
L13-5	D16	3490	2	1.56	5.44	11	┐		
L13-6	D16	3480	2	1.56	5.43	11	┐		
L14	D16	8390	2	1.56	13.1	26	┐		
							5690	kg	
R1-1	D38	11500	19	8.95	103	1957	┐ K [19]	B	
R1-2	D38	9000	19	8.95	80.6	1531	┐ K [19]	B	
R1-3	D38	3470	19	8.95	31.1	591	┐ K (平均長)	B	
R1-4	D38	5970	19	8.95	53.4	1015	┐ K (平均長)	B	
R2-1	D22	11000	18	3.04	33.4	601	┐		
R2-2	D22	9500	17	3.04	28.9	491	┐		
R2-3	D22	4420	18	3.04	13.4	241	┐ (平均長)		
R2-4	D22	5920	17	3.04	18.0	306	┐ (平均長)		
R3-1	D38	11000	4	8.95	98.5	394	┐ K [4]	B	
R3-2	D38	8500	5	8.95	76.1	381	┐ K [5]	B	
R3-3	D38	3510	4	8.95	31.4	126	┐ K	B	
R3-4	D38	6010	5	8.95	53.8	269	┐ K	B	
R3-5	D38	10500	1	8.95	94.0	94	┐ K [1]	B	
R3-6	D38	4010	1	8.95	35.9	36	┐ K	B	
R3-7	D38	11660	1	8.95	104	104	┐		
R4-1	D22	11000	5	3.04	33.4	167	┐		
R4-2	D22	9500	4	3.04	28.9	116	┐		
R4-3	D22	4170	5	3.04	12.7	64	┐		
R4-4	D22	5670	4	3.04	17.2	69	┐		
R4-5	D22	9000	1	3.04	27.4	27	┐		
R4-6	D22	5820	1	3.04	17.7	18	┐		
R4-7	D22	11660	1	3.04	35.4	35	┐		
R13-1	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐		
R13-2	D16	5080	1	1.56	7.92	8	┐		
R13-3	D16	6500	1	1.56	10.1	10	┐		
R13-4	D16	6580	1	1.56	10.3	10	┐		
R14-1	D16	8000	1	1.56	12.5	13	┐		
R14-2	D16	7500	1	1.56	11.7	12	┐		
R15-1	D16	11640	1	1.56	18.2	18	┐		
R15-2	D16	3000	1	1.56	4.68	5	┐		
R15-3	D16	1000	1	1.56	1.56	2	┐		
R16-1	D16	6180	1	1.56	9.64	10	┐		
R16-2	D16	2410	1	1.56	3.76	4	┐		
R16-3	D16	2130	1	1.56	3.32	3	┐		
							8741	kg	
下部施工用鉄筋									
鉄筋質量集計 (SD345)									
	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	[機械継手]		[機械式定着]		
D38	21712 kg	9148 kg	-	30860 kg	[68]				
D35	4920 kg	-	-	4920 kg					
D32	1509 kg	1906 kg	-	3415 kg	[20]				
D29	2543 kg	-	-	2543 kg					
D25	471 kg	-	-	471 kg					
D22	5759 kg	-	1037 kg	6796 kg			(168)		
D19	1168 kg	-	-	1168 kg					
D16	1199 kg	-	73 kg	1272 kg			(24)		
D13	21 kg	-	-	21 kg					
合 計	39302 kg	11054 kg	1110 kg	51466 kg	[88]		(192)		





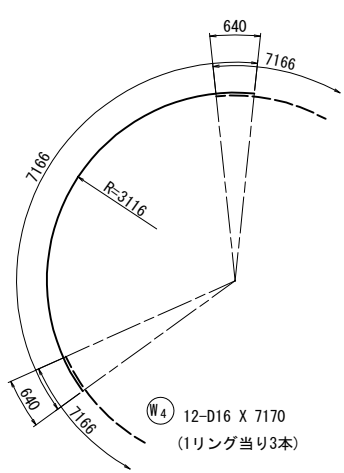
1 - 1

2 - 2

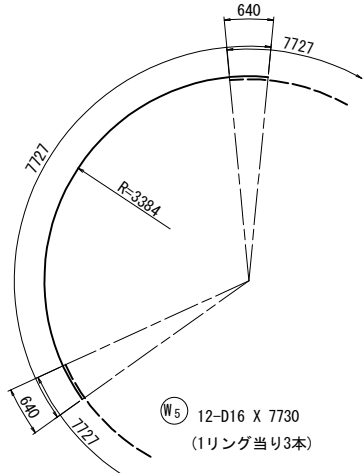


ガイドウォール

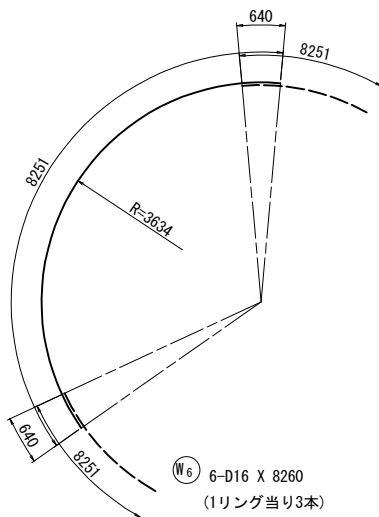
項目	単位	数量
コンクリート (C 2 - 1)	m3	16.1
型わく	m2	29.1



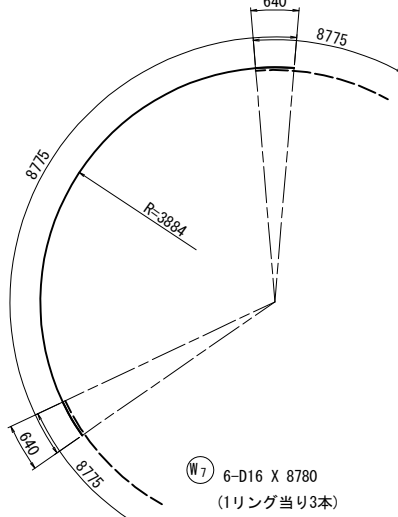
帯鉄筋の継手位置は、各々90° 以上ずらして配置する。



帯鉄筋の継手位置は、各々90° 以上ずらして配置する。



帯鉄筋の継手位置は、各々90° 以上ずらして配置する。



帯鉄筋の継手位置は、各々90° 以上ずらして配置する。

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
W ₁	D16	1240	88	1.56	1.93	170	□
W ₂	D16	1360	88	1.56	2.12	187	□
W ₃	D16	1860	88	1.56	2.90	255	□
W ₄	D16	7170	12	1.56	11.2	134	∩
W ₅	D16	7730	12	1.56	12.1	145	∩
W ₆	D16	8260	6	1.56	12.9	77	∩
W ₇	D16	8780	6	1.56	13.7	82	∩
1050							
鉄筋質量 (SD345)							
合 計 D16				1050	kg		
総質量				1050	kg		

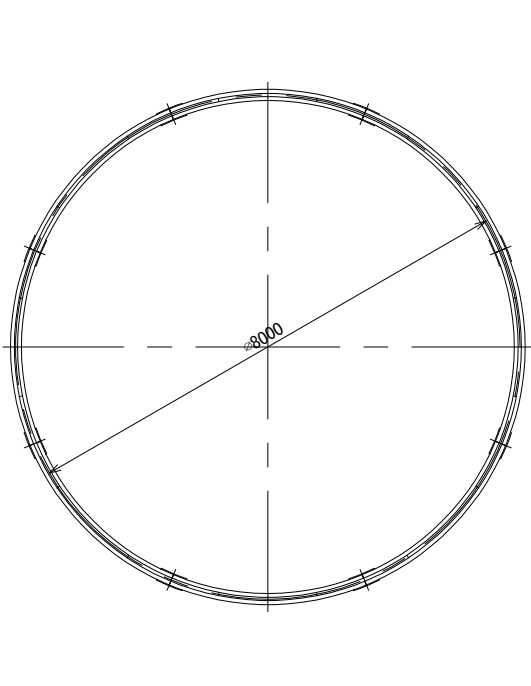
注) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） P 1 橋脚ガイドウォール配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

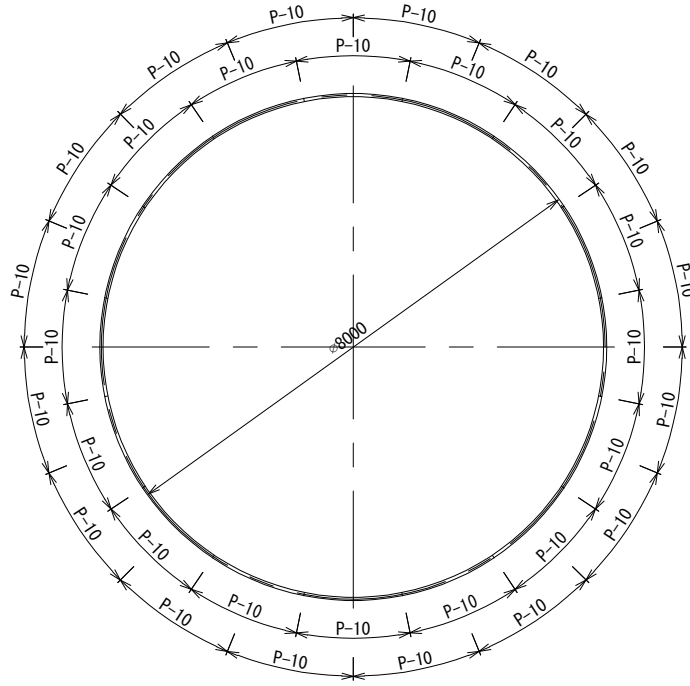
構造物掘削 特殊部 D 2

[ライナープレート上部]

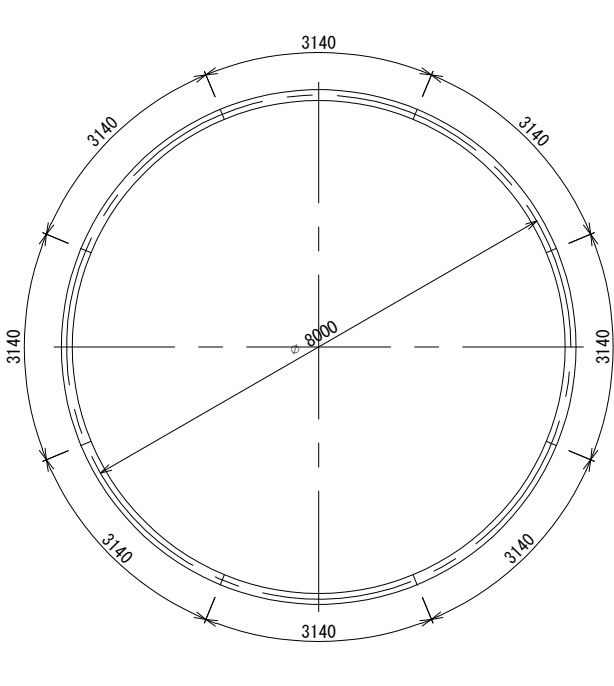
平 面 図 S=1 : 120



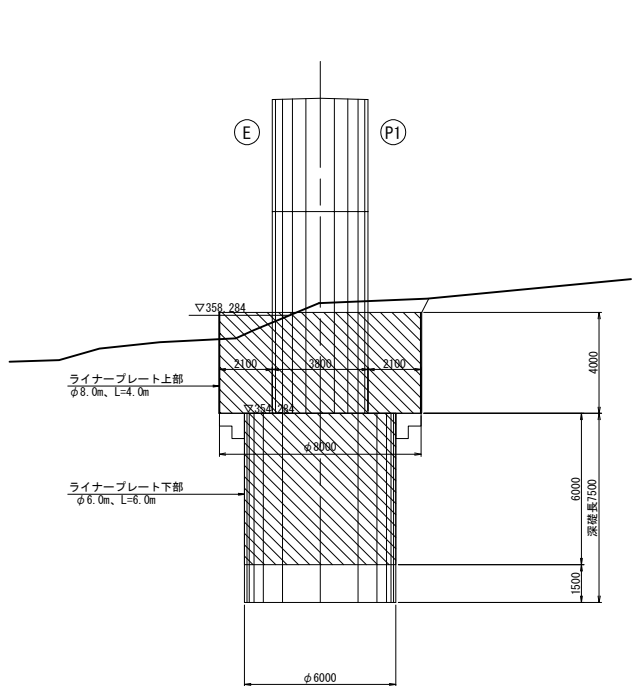
ライナープレート構成図 S=1 : 120



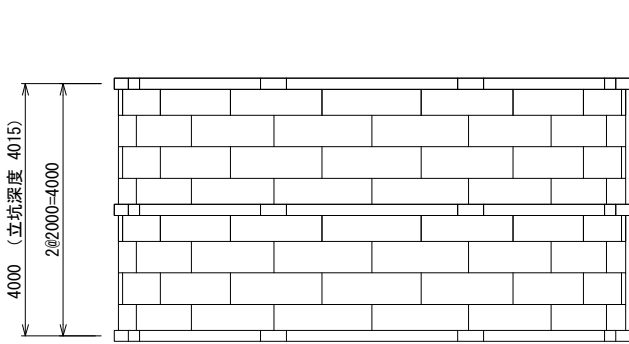
補強リング構成図 S=1 : 120



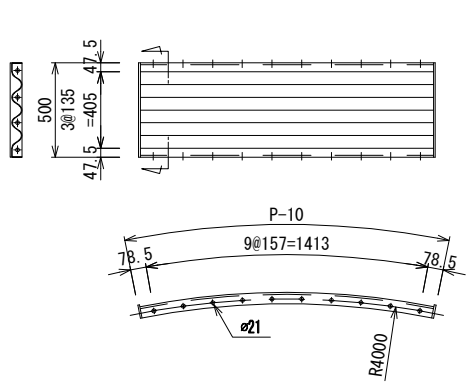
位置図 S=1 : 300



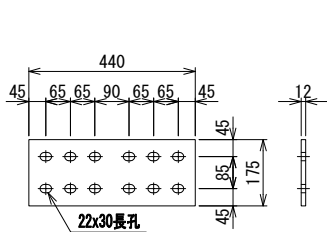
側 面 図 S=1 : 120



ライナープレート S=1 : 40

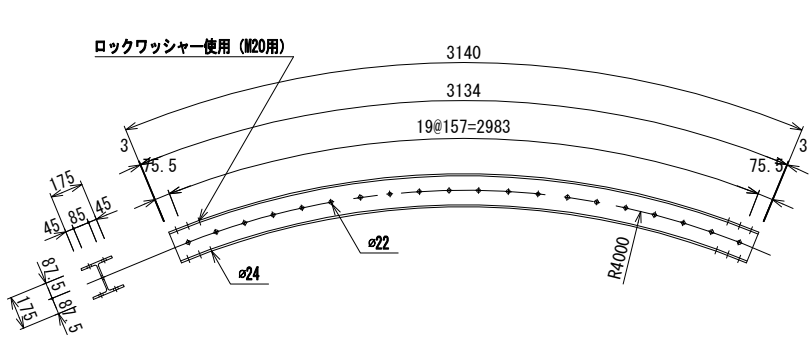


補強リング継手板 S=1 : 20



補強リング S=1 : 40

(H175x175x7.5x11)

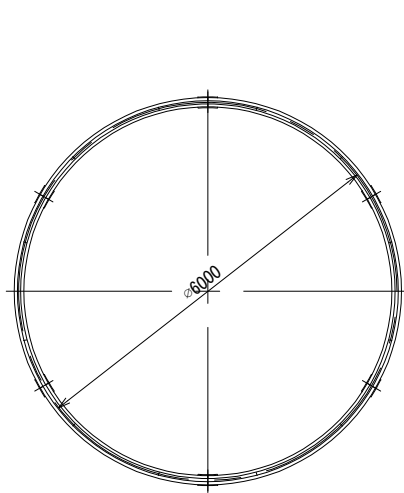


材料表		D24-LPE-0209				
品名	サイズ (mm)	単位質量 (kg)	数量	質量 (kg)	備考	
ライナープレート(t=2.7)・・・φ8000×H4000						
ライナープレート	P-10 t=2.7	26.0	128	3328.0	黒皮品	
組立ボルト	M16×30(4.6)	0.137	1472	201.7	黒皮品	
組立ボルト	M16×45(8.8、リング用)	0.158	480	75.8	黒皮品	
補強リング(H175)・・・3リング×8分割/1リング						
補強リング	H175×175×7.5×11×3134	127.	24	3048.0	黒皮品	
継手板	PL175×12×440	7.25	48	348.0	黒皮品	
継手ボルト	M20×50(8.8)	0.275	576	158.4	黒皮品	
ロックワッシャー	M20ボルト用	-	288	-	黒皮品	
				kg		
合計				7159.9		

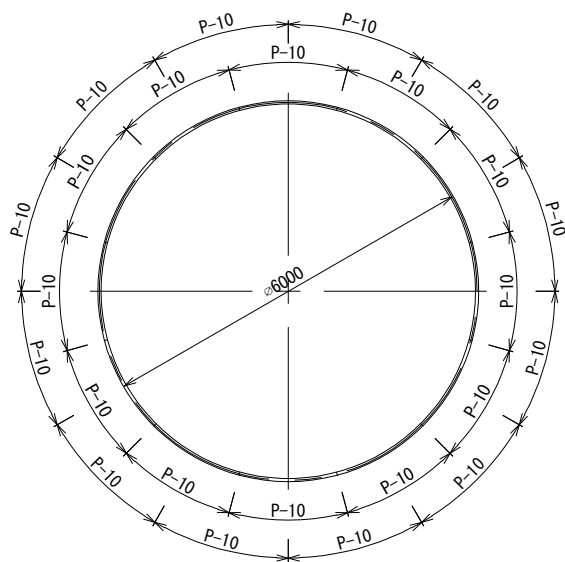
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚深礎杭土留め工図（その1） [ライナープレート上部]		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

[ライナープレート下部]

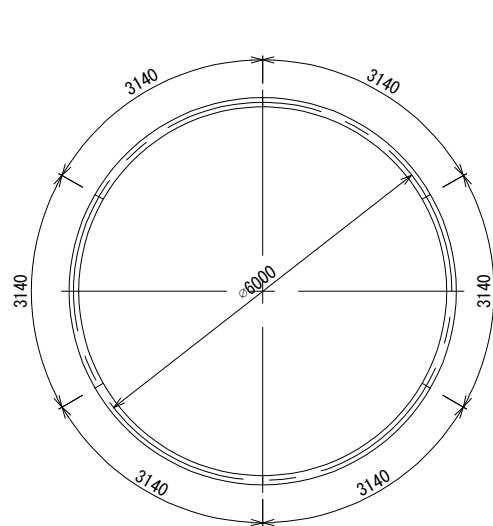
平面図 S=1 : 120



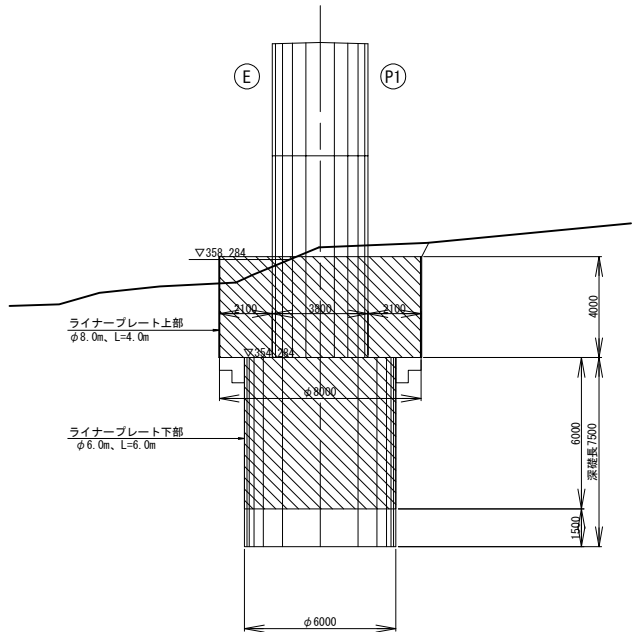
ライナープレート構成図 S=1 : 120



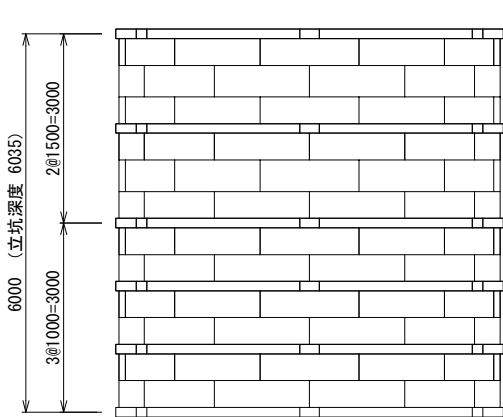
補強リング構成図 S=1 : 120



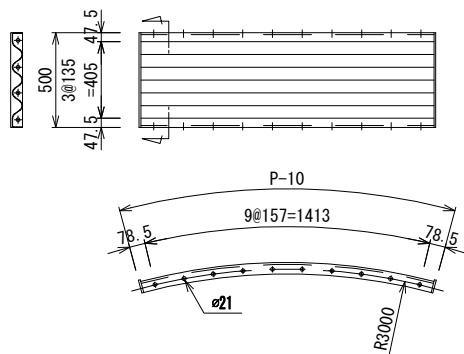
位置図 S=1 : 300



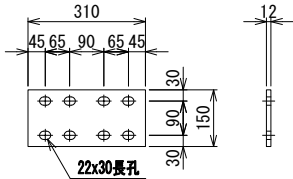
側面図 S=1 : 120



ライナープレート S=1 : 40

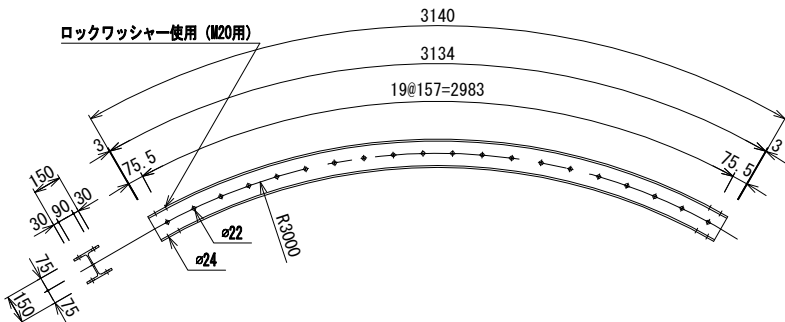


補強リング継手板 S=1 : 20



補強リング S=1 : 40

(H150x150x7x10)

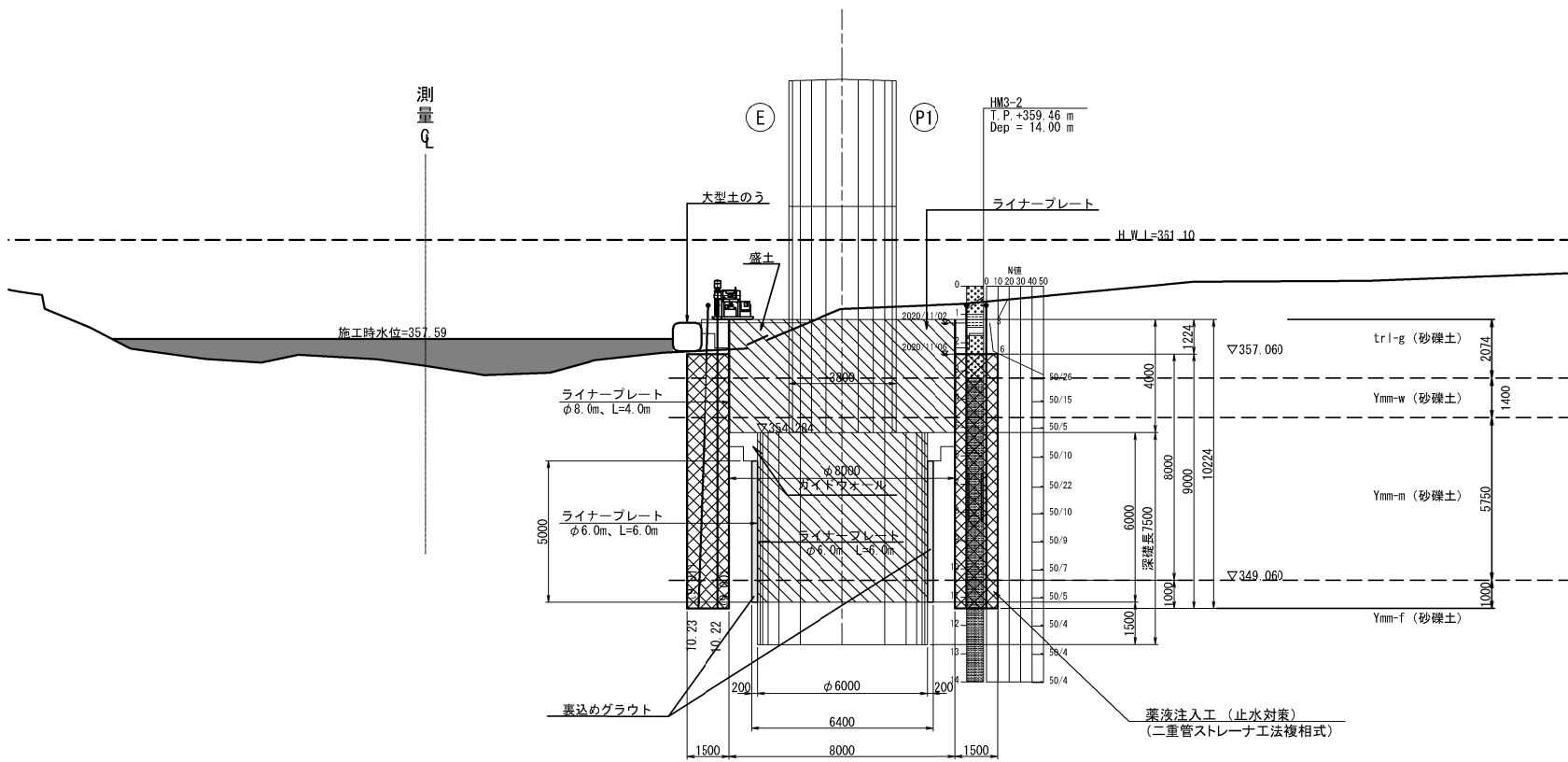


材料表

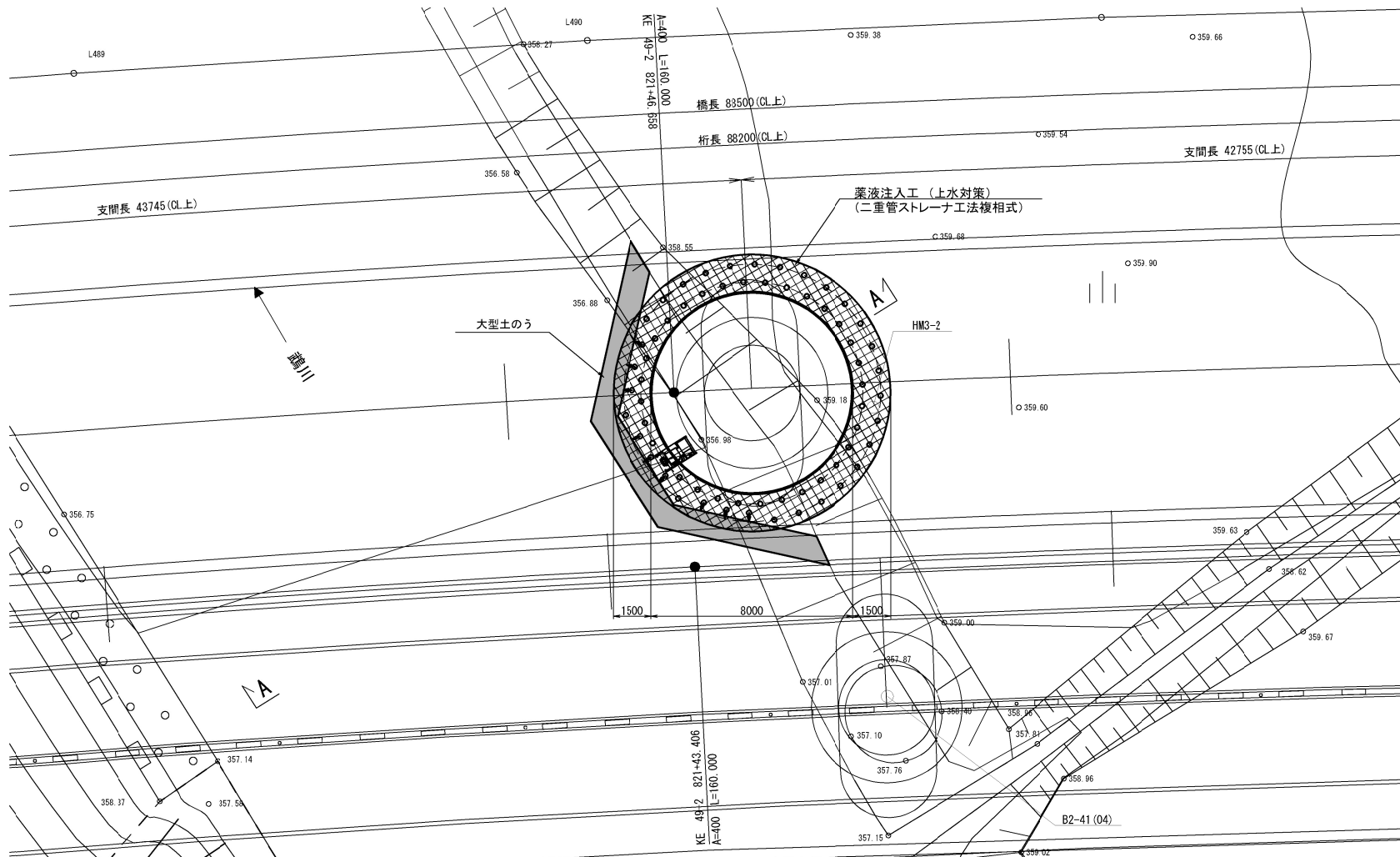
品名	サイズ (mm)	単位質量 (kg)	数量	質量 (kg)	備考
ライナープレート(≒2.7)・・・φ6000×H6000					
ライナープレート	P-10 ≒2.7	26.0	144	3744.0	黒皮品
組立ボルト	M16×30(4.6)	0.137	1416	194.0	黒皮品
組立ボルト	M16×45(8.8、リグ用)	0.158	720	113.8	黒皮品
補強リング(H150)・・・6リング×6分割／1リング					
補強リング	H150×150×7×10×3134	97.5	36	3510.0	黒皮品
継手板	PL150×12×310	4.38	72	315.4	黒皮品
継手ボルト	M20×50(8.8)	0.275	576	158.4	黒皮品
ロックワッシャー	M20ボルト用	-	288	-	黒皮品
合計				8035.6	kg

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） P 1 橋脚深礎杭土留め工図（その2） [ライナープレート下部]		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

断面図 (A-A)



平面図



薬液注入工 施工数量表

薬液注入工 (m³)	402.91m³ [$\frac{\pi}{4} \times \{ (11.0^m)^2 - (8.0^m)^2 \} \times 9.00^m$]
注入率 (%)	31.5% (瞬結材:緩結材 = 1:2)
計画注入量 (kℓ)	126.917 kℓ (瞬結材 : 42.306kℓ、緩結材 : 84.611kℓ)
削孔本数 (本)	64本
削孔延長 (m)	654.17m (10.22 ^{m/本} × 55 ^本 + 10.23 ^{m/本} × 9 ^本)
改良延長 (m)	576.09m (9.00 ^{m/本} × 55 ^本 + 9.01 ^{m/本} × 9 ^本)

裏込めグラウト工数量表

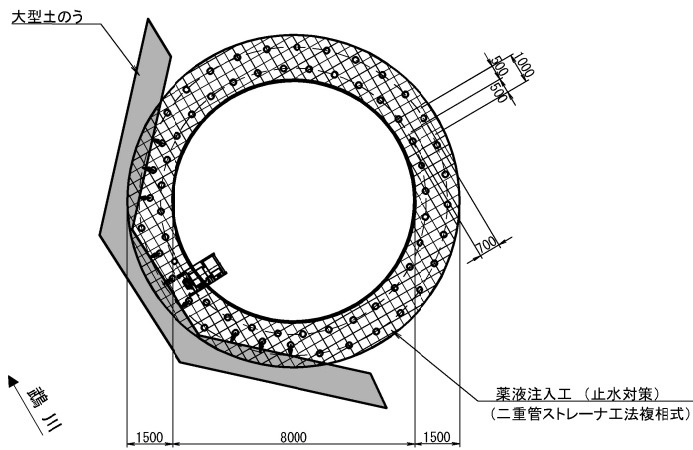
裏込めグラウト (m³)	$\frac{\pi}{4} \times \{ (6.4^m)^2 - (6.0^m)^2 \} \times 5.00^m = 19.5$
--------------	---

グラウトパイプ配管材料数量表

公称直径		2.0m ≦ Φ ≦ 6.0m
配管数	注入口	2
	確認口	2
直 管 : P1		4 × (L1+L2-1.25) = 4 × (5.00+1.00-1.25) = 19.00m
エルボ管 : P2		4
Y 形管 : P3		4 × (L1-1.25)/2.0-1) = 4 × ((5.00-1.25)/2.0-1) = 3.50m

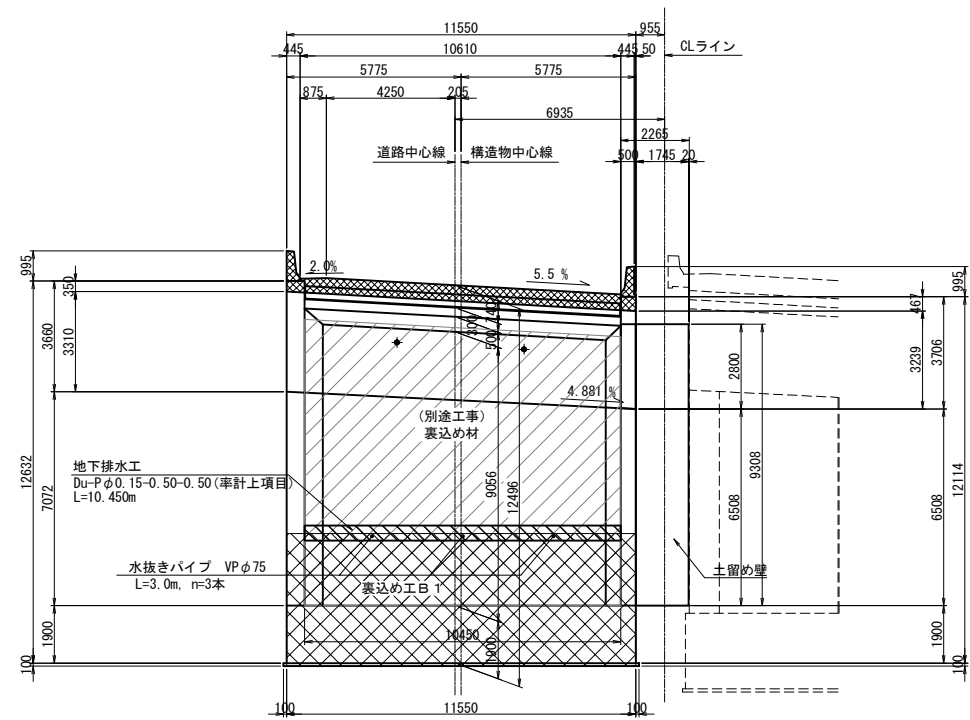
L1 : グラウト注入長 (m), L2 : ガイドウォール長 (m)

注入本数 (計64本)

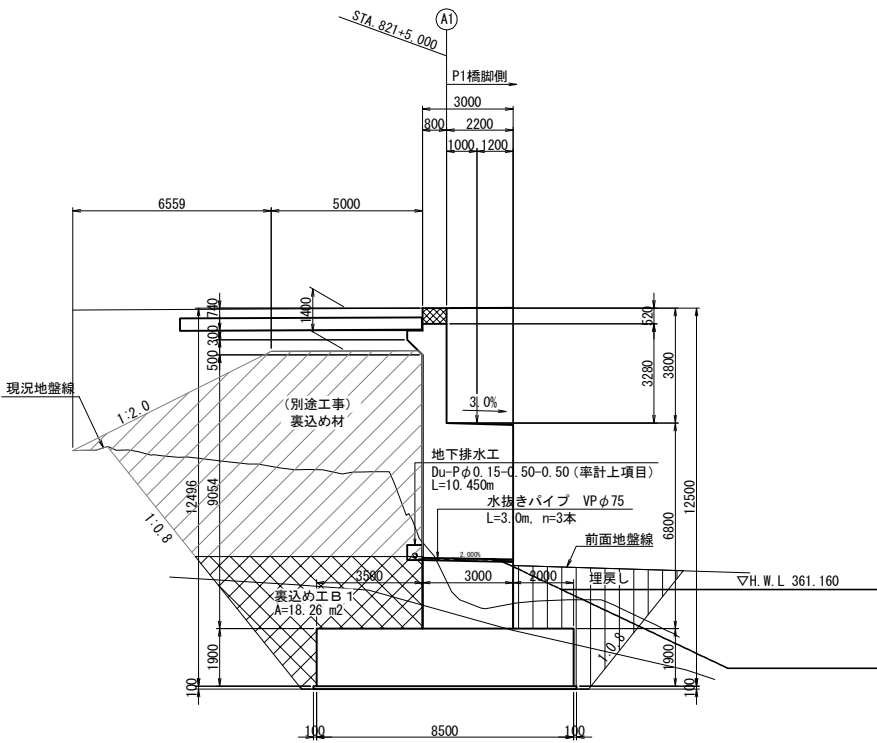


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵡川第三橋（下り線） P 1 橋脚薬液注入工及び裏込めグラウト図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

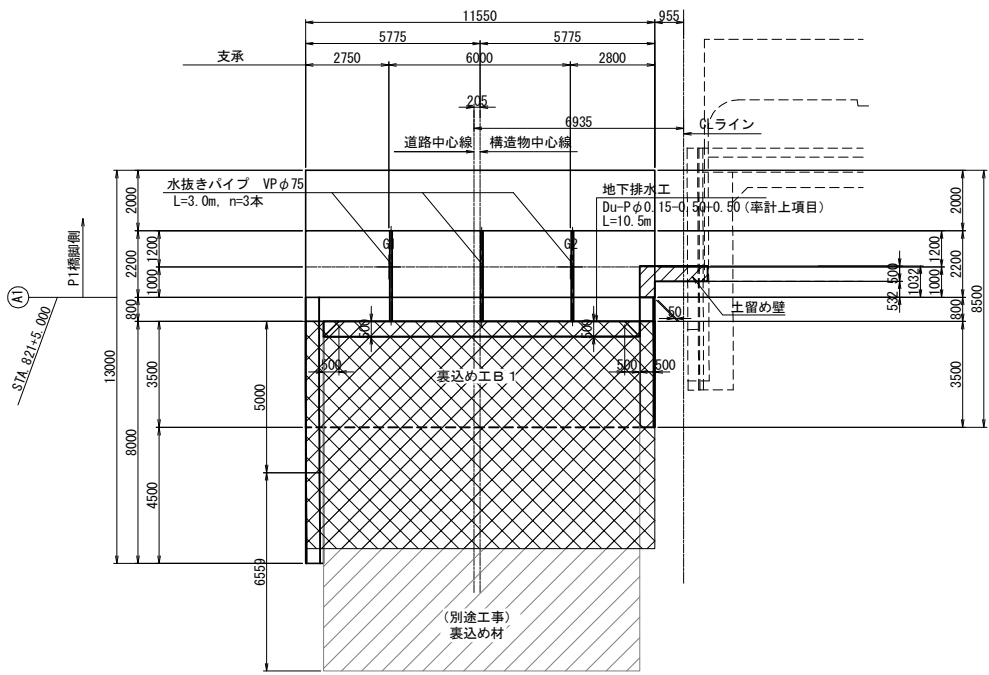
背面図



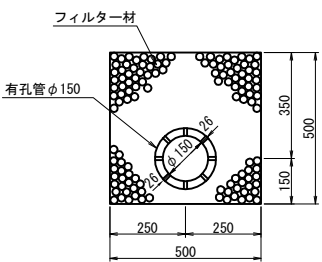
断面図



平面図



地下排水工詳細図 S=1:25

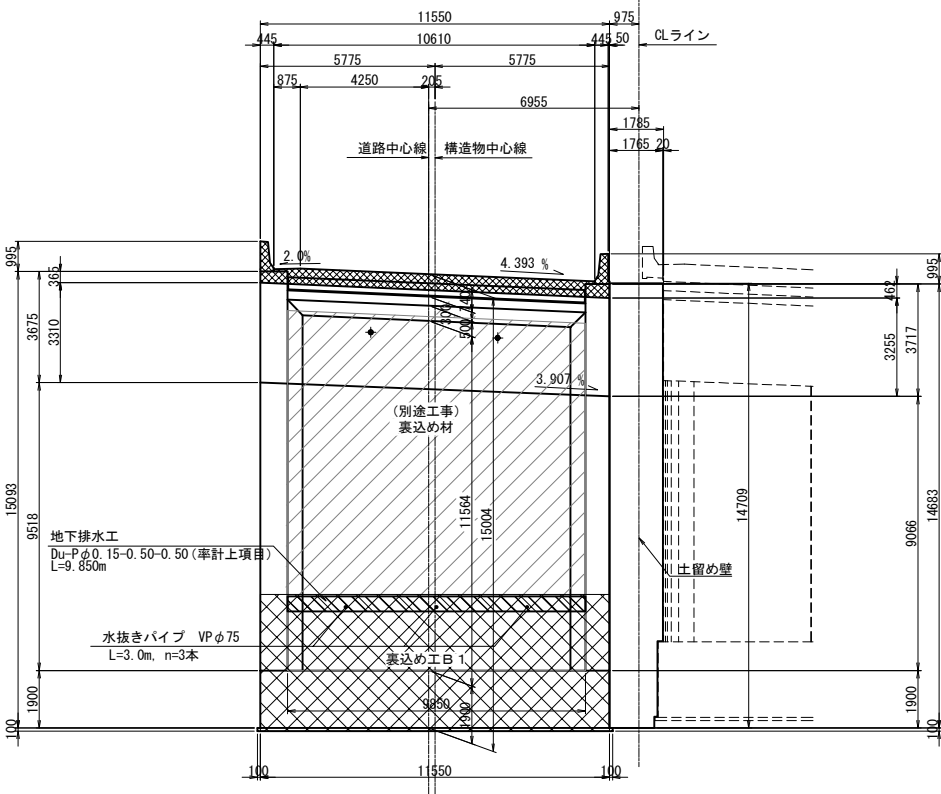


裏込め工及び地下排水工

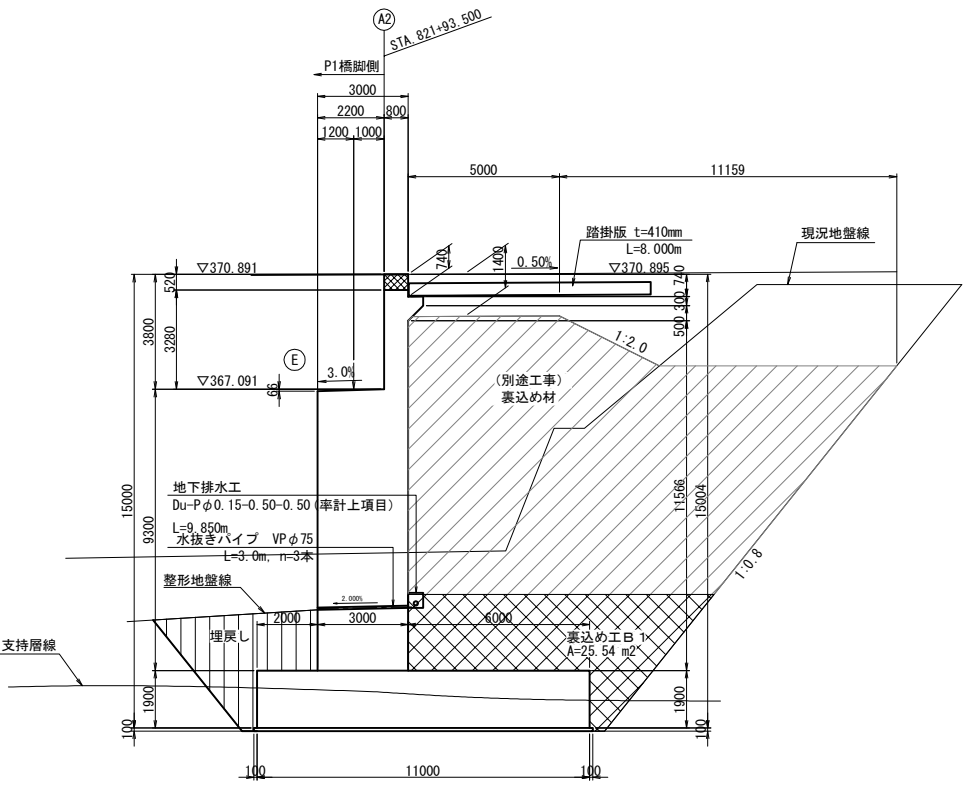
項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m3	200.2	下部工施工
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50	m	10.5	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台裏込め工図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

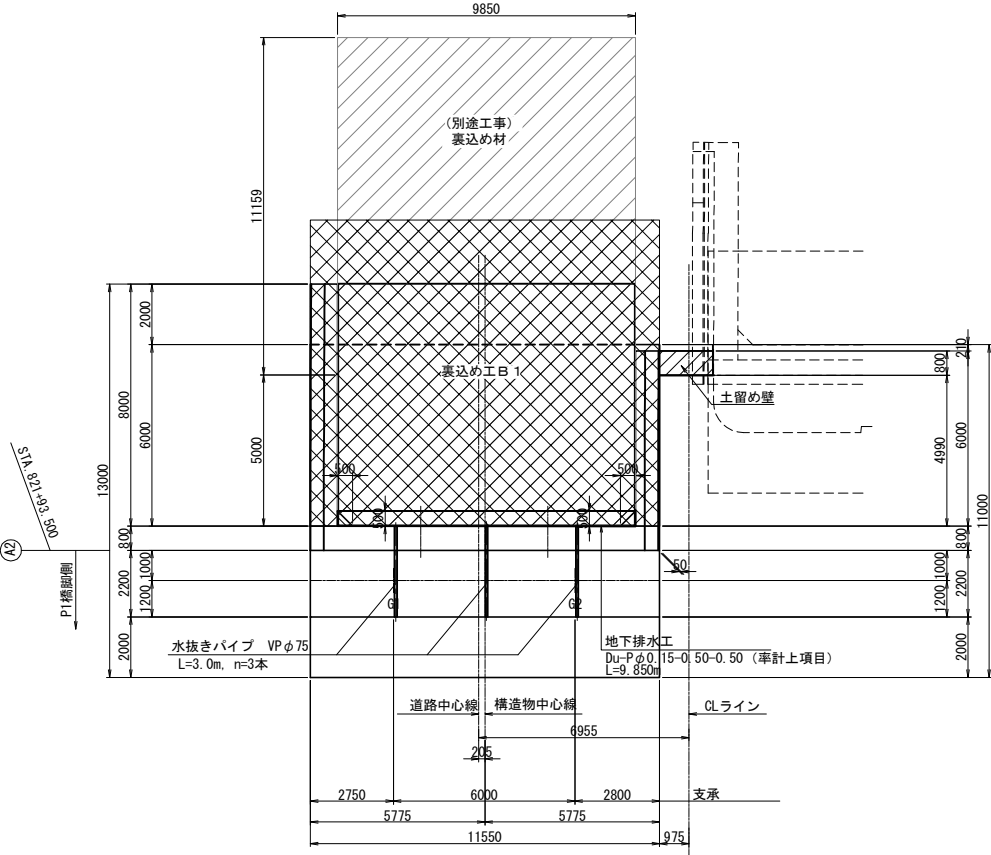
背面図



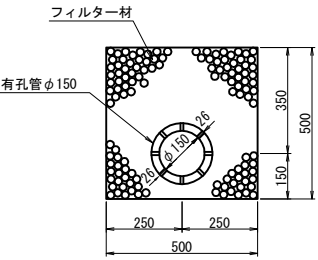
断面図



平面図



地下排水工詳細図 S=1:25



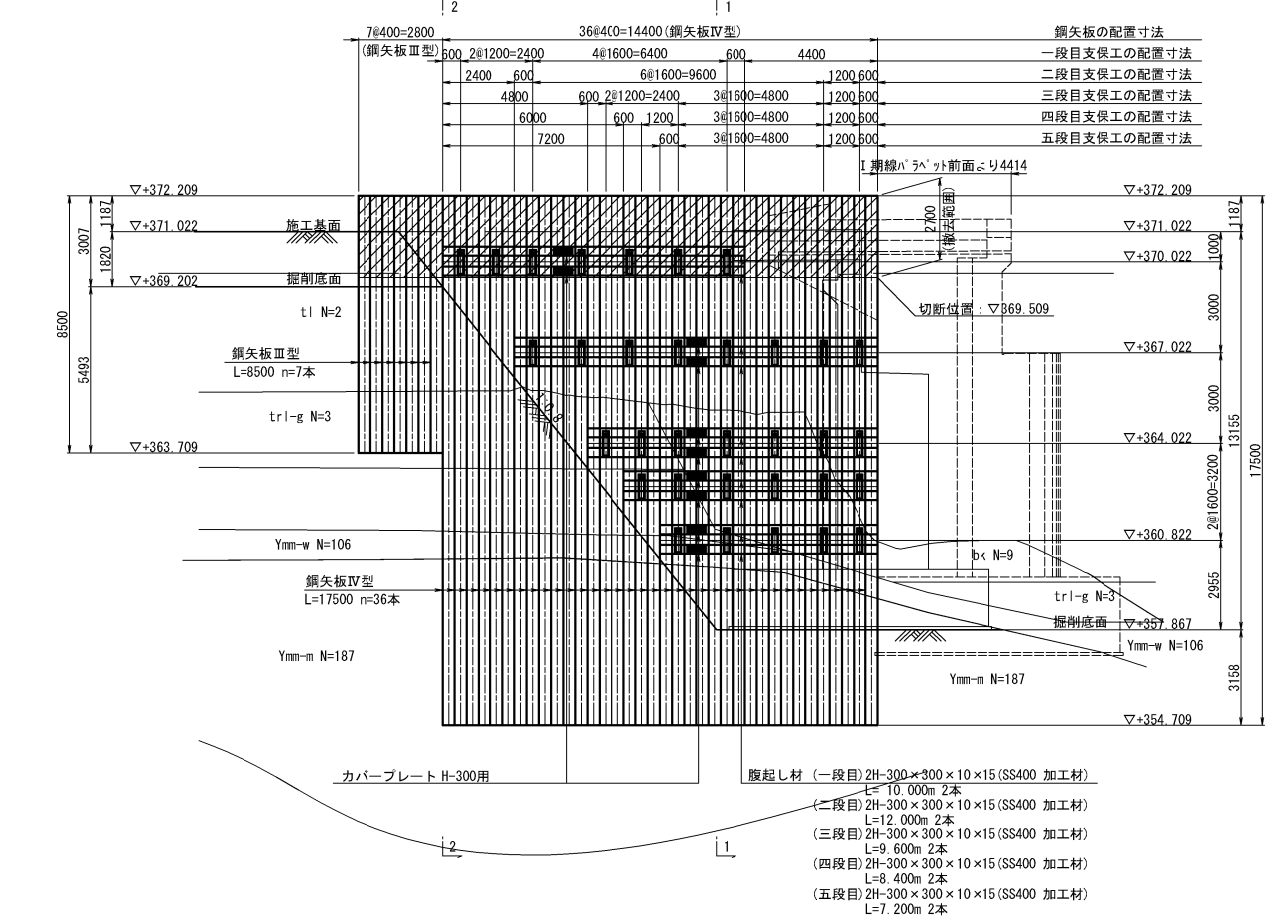
裏込め工及び地下排水工

項目	規格	単位	数量	備考
構造物裏込め工	裏込め工B 1	m ³	159.8	下部工施工
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50	m	9.9	率計上項目
水抜きパイプ	VP φ75	m	9.0	

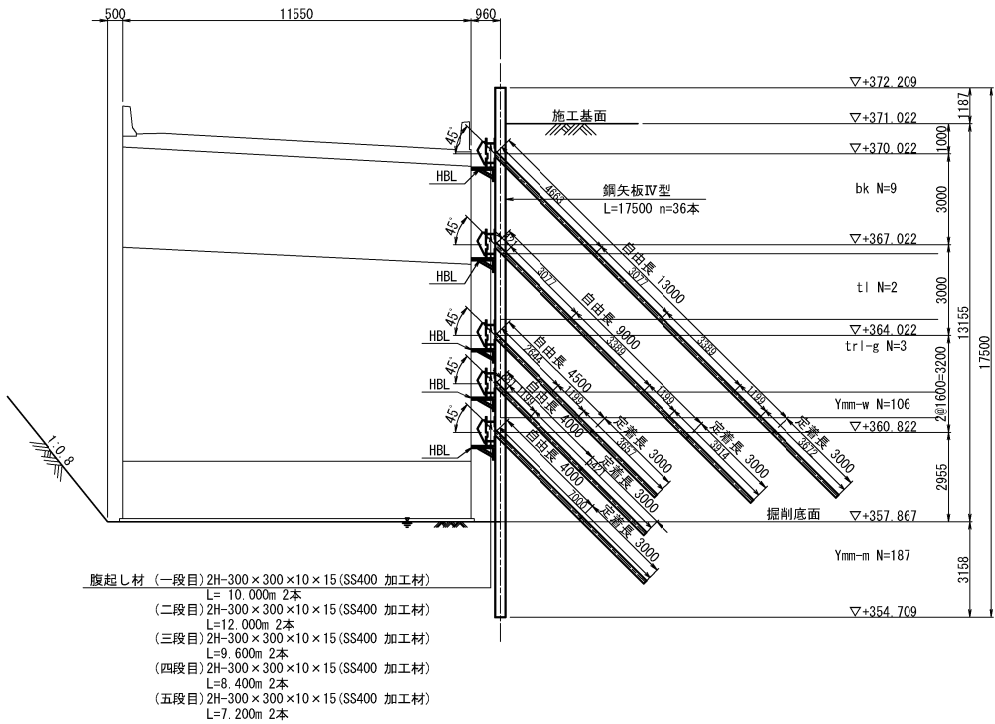
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 2 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 D 1

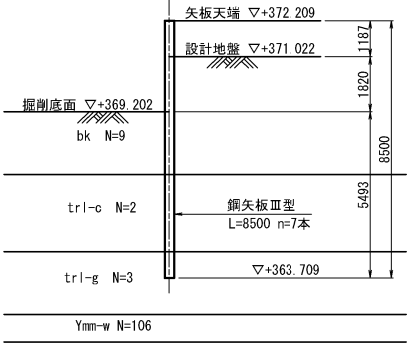
側面図



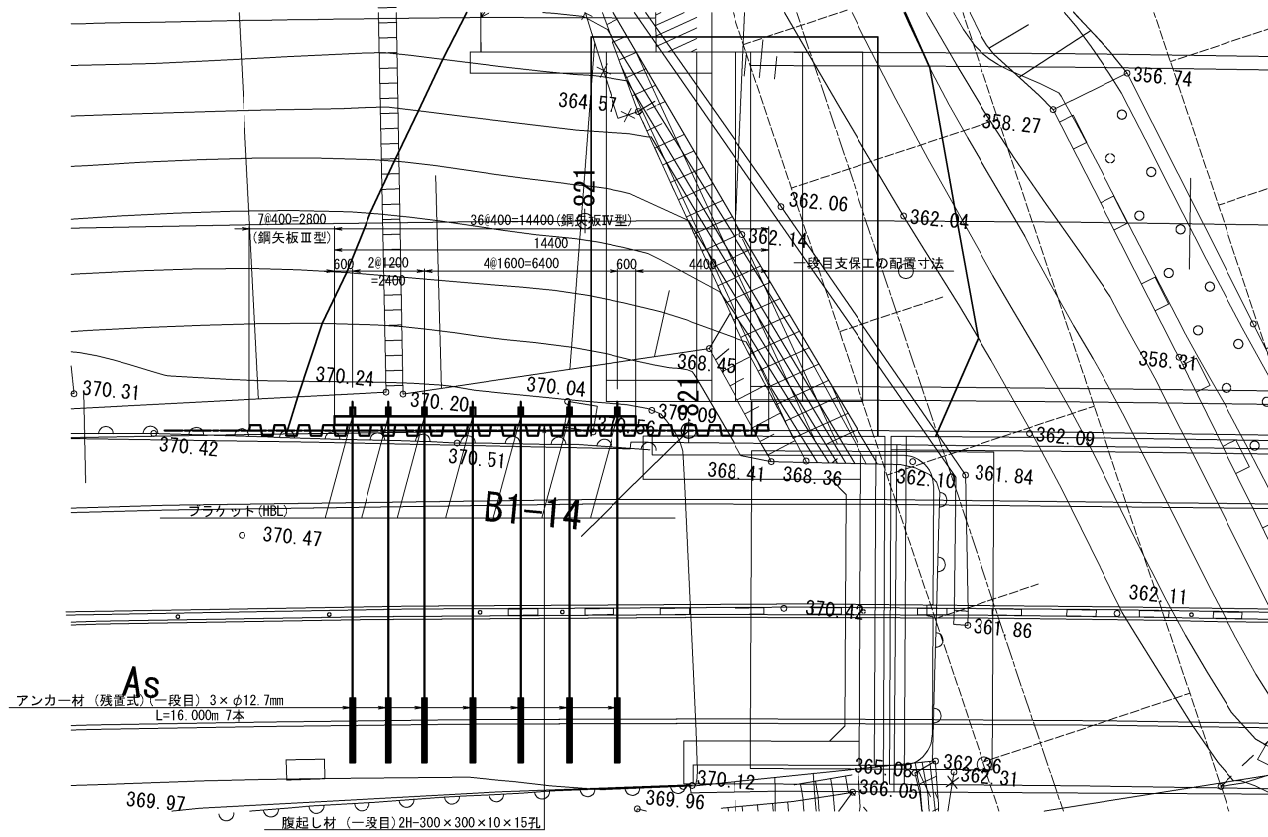
断面図 (1 - 1)



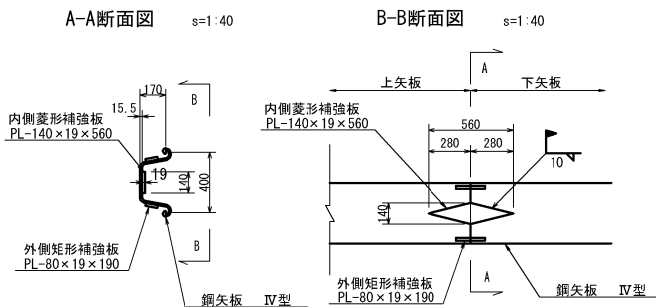
断面図 (2 - 2)



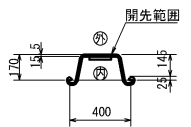
平面図 (一段目)



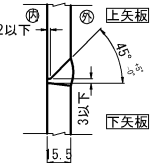
鋼矢板取付け詳細図



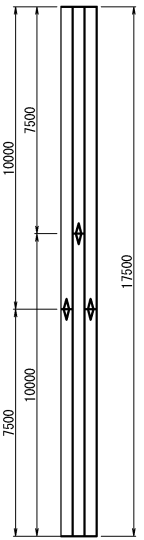
開先加工範囲図 S=1:40



開先形状図 S=1:4



継手配置図 S=1:200



数量表

工種	項目	単位	合計	摘要
鋼矢板Ⅳ型 鋼矢板Ⅲ型	最大地盤N値	7.5m	36	鋼矢板Ⅳ型
	10.0m	枚	36	鋼矢板Ⅳ型
	8.5m	枚	7	鋼矢板Ⅲ型
	17.5m	枚	36	継施工:1
	8.5m	枚	7	
ガス切断	鋼矢板Ⅲ	L=2.7m	箇所	7
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.7m	箇所	36
スクラップ	鋼矢板Ⅲ	L=2.7m	t	1.134
	鋼矢板Ⅳ型	L=2.7m	t	7.397
継施工	PL-140×19×560	t	0.211	
	PL-80×19×190	t	0.153	
腹起し	H-300×300×10×15孔	t	9.440	
ブラケット	L-75×75×9	t	0.650	
	3×φ12.7mm	16.0m	本	7
仮設アンカー (残置式)	3×φ12.7mm	12.0m	本	8
	6×φ12.7mm	7.5m	本	7
	6×φ12.7mm	7.0m	本	6
	4×φ12.7mm	7.0m	本	5
	鋼製	t	1.614	
カバープレート	H-300用	t	0.340	

数量表

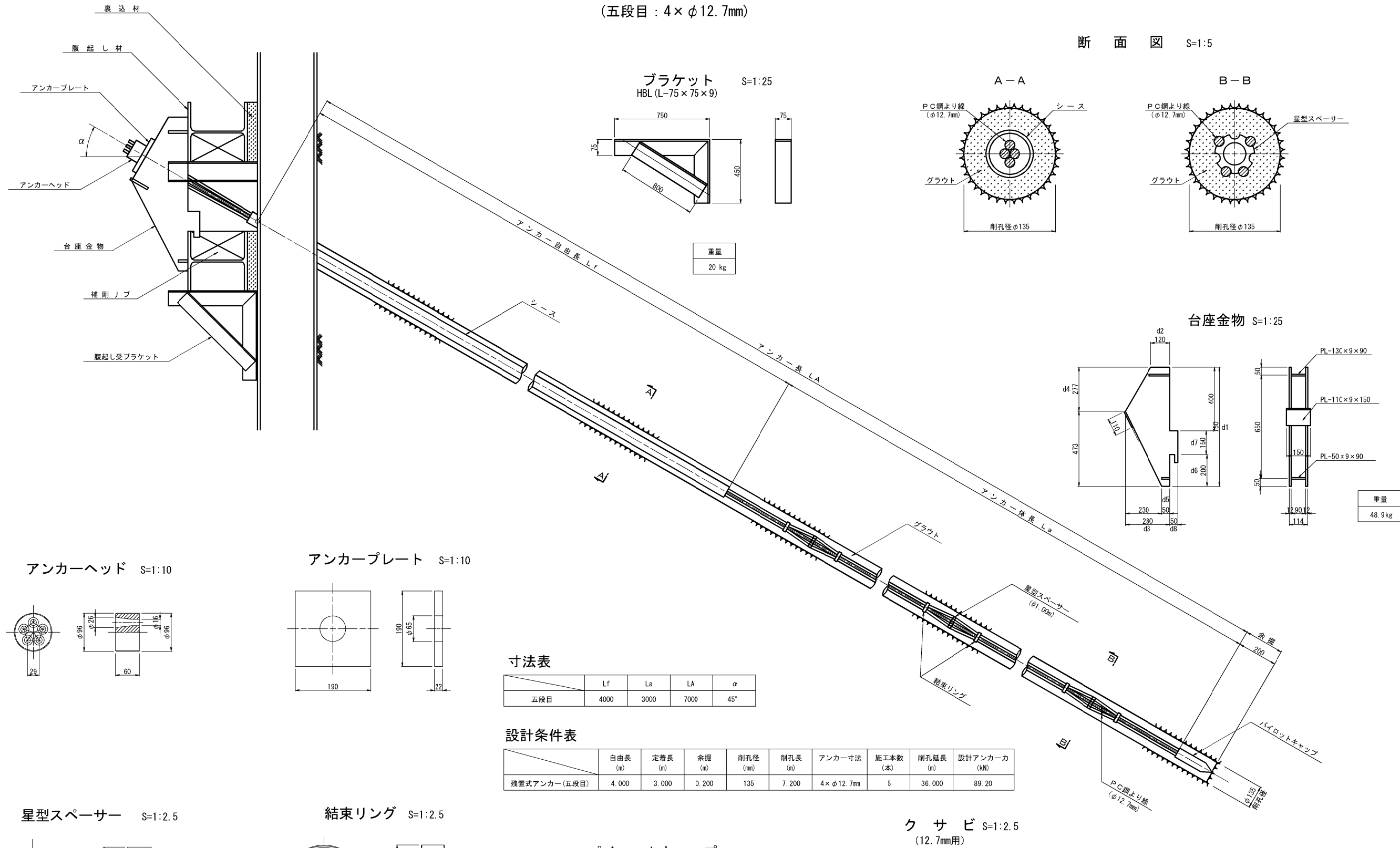
工種	項目	単位	合計	摘要
掘孔長 (φ135)	硬質土	11.1m	本	7
		6.9m	本	8
		2.6m	本	7
		0.4m	本	6
		0.0m	本	5
	軟 差	4.9m	本	7
		5.1m	本	8
		4.9m	本	7
		6.6m	本	6
		7.0m	本	5
注 入	φ135	16.0m	本	7
		12.0m	本	8
		7.5m	本	7
		7.0m	本	6
		7.0m	本	5

材 料 表

項 目	細 目	単位	数量	
腹起し	H-300×300×10×15孔	L=10000	本	2
		L=12000	本	2
		L=9600	本	2
		L=8400	本	2
		L=7200	本	2
ブラケット	L-75×75×9	L=2000	本	33
台 座	鋼製		組	33
カバープレート	H-300用		組	20

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

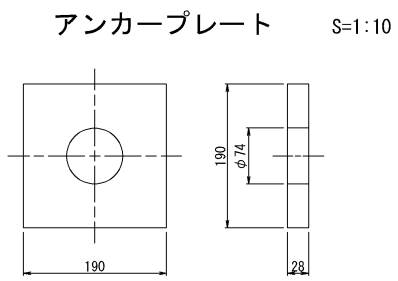
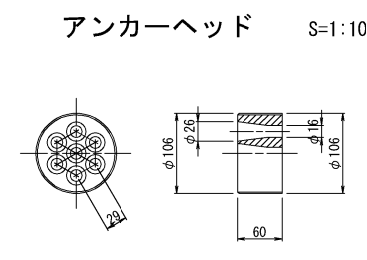
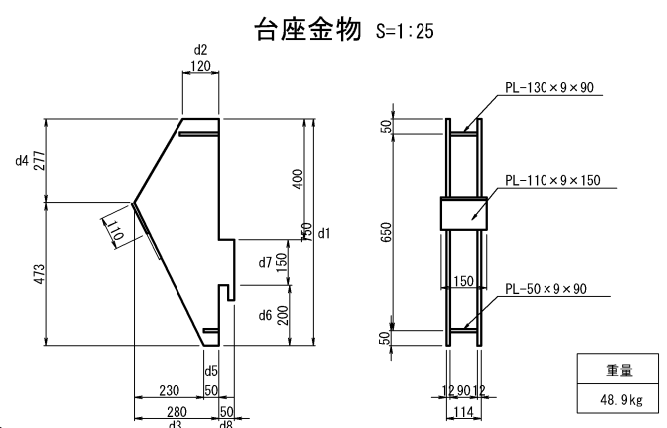
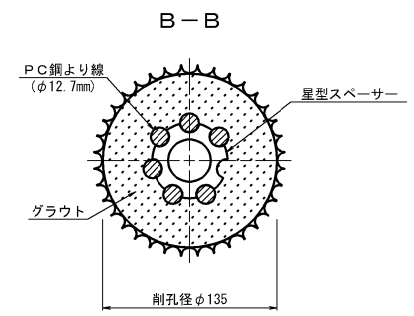
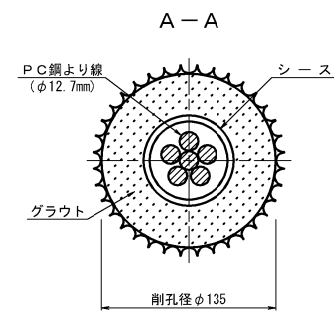
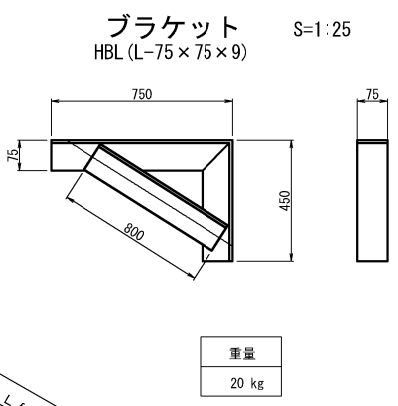
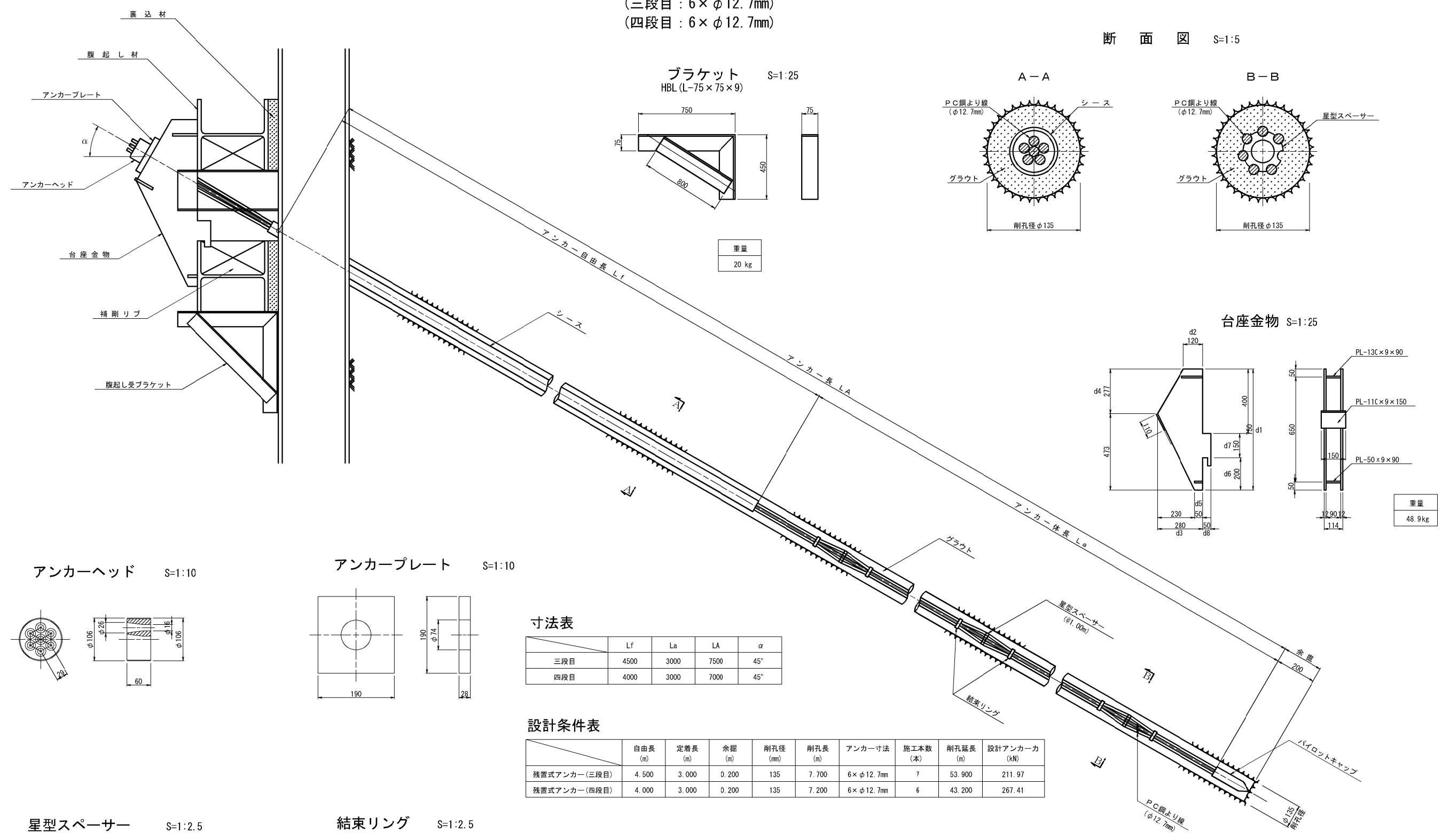
残置式アンカー詳細図
(五段目：4×φ12.7mm)



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図
(三段目：6×φ12.7mm)
(四段目：6×φ12.7mm)

断面図 S=1:5

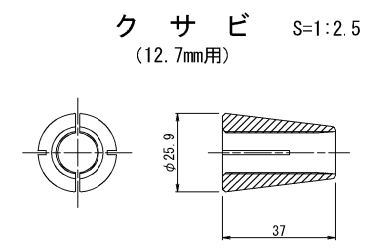
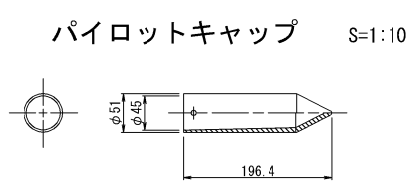
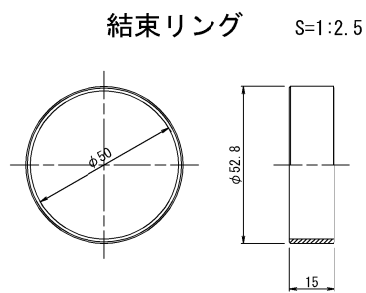
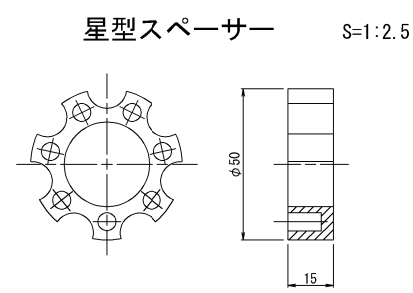


寸法表

	Lf	La	LA	α
三段目	4500	3000	7500	45°
四段目	4000	3000	7000	45°

設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余量 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(三段目)	4.500	3.000	0.200	135	7.700	6×φ12.7mm	7	53.900	211.97
残置式アンカー(四段目)	4.000	3.000	0.200	135	7.200	6×φ12.7mm	6	43.200	267.41



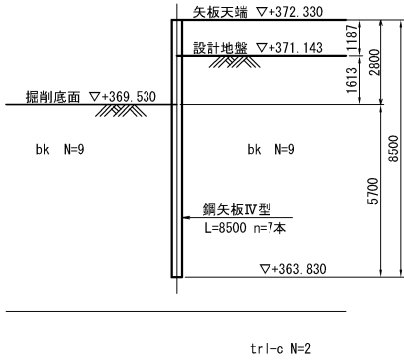
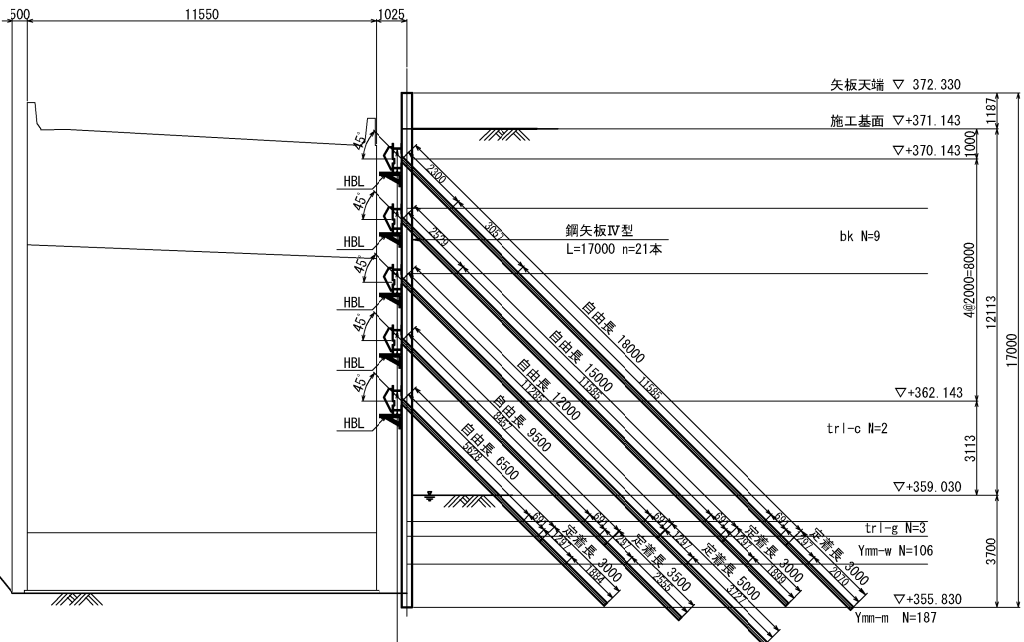
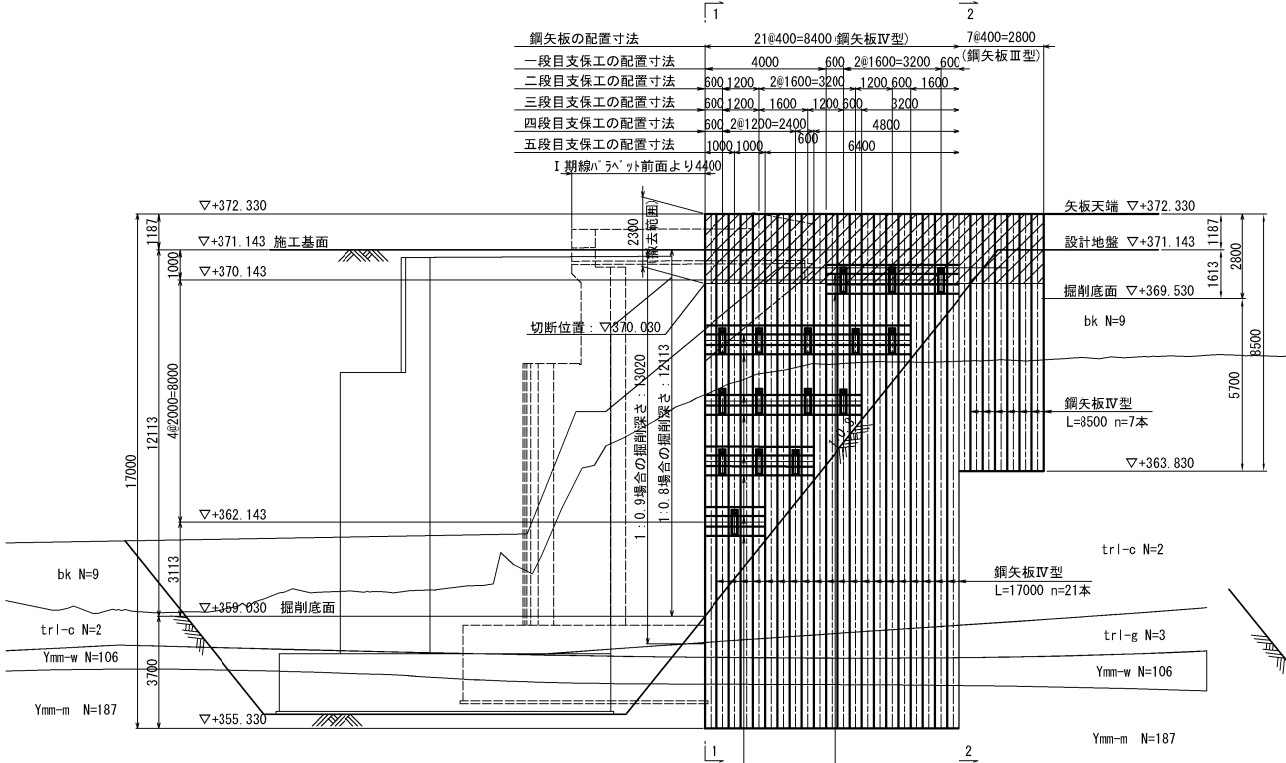
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 1 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

側面図

構造物掘削 特殊部 D 3

断面図
(1 - 1)

断面図
(2 - 2)

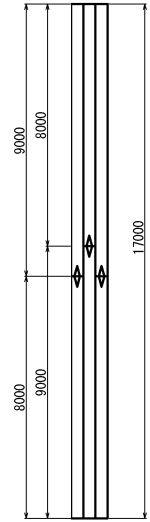
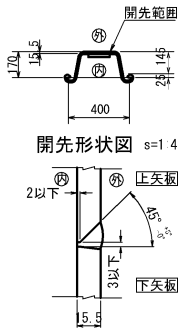
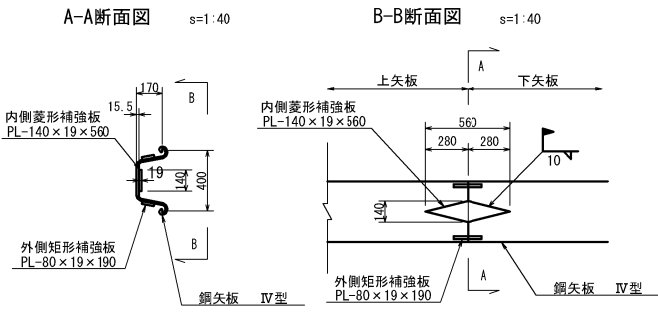
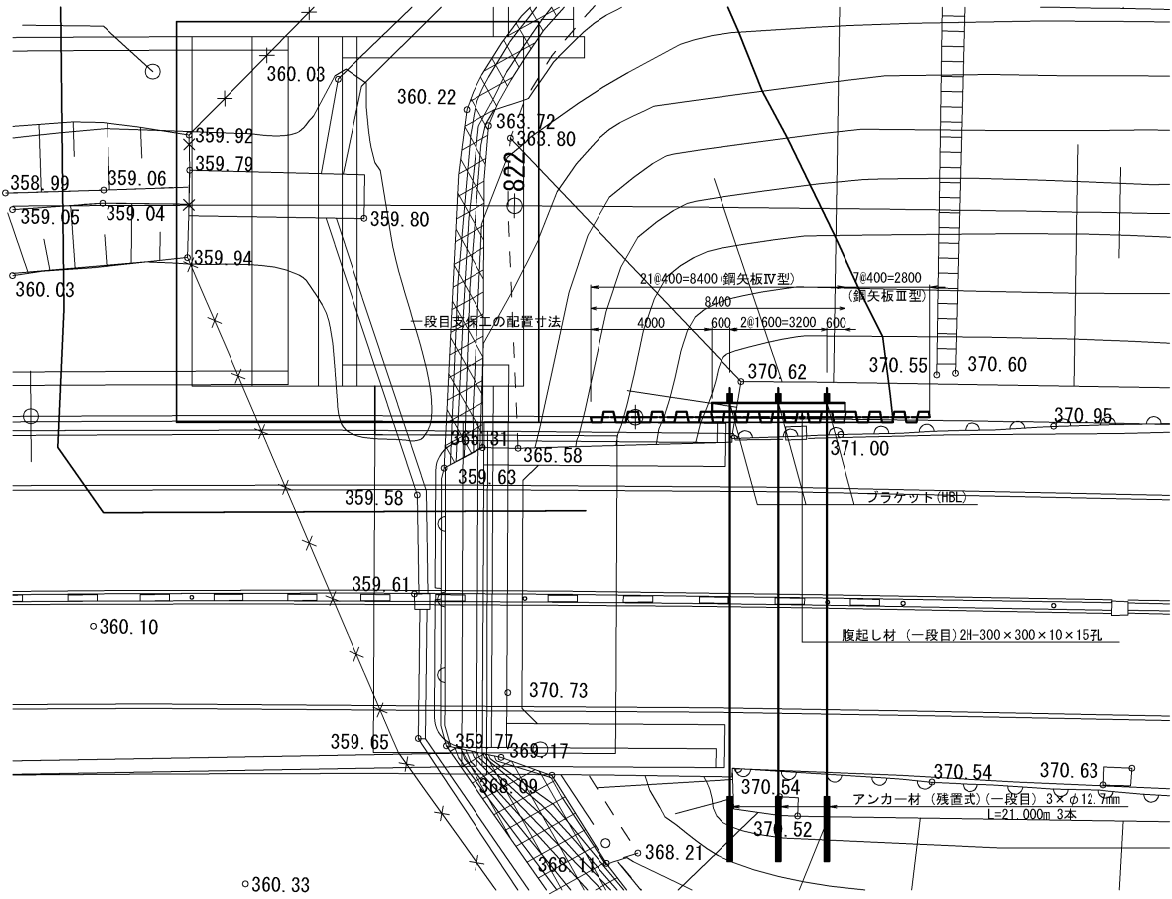


平面図(一段目)

鋼矢板取付け詳細図

開先加工範囲図 S=1:40

継手配置図 S=1:200



数量表

工種	項目	単位	合計	摘要
鋼矢板Ⅳ型 鋼矢板Ⅲ型	最大地盤 N 値 187	枚	21	鋼矢板Ⅳ型
	9	枚	21	鋼矢板Ⅳ型
	8	枚	7	鋼矢板Ⅲ型
	17	枚	21	鋼矢板Ⅲ型
	打込み 8.5m	枚	7	鋼矢板Ⅲ型
ガス切断	鋼矢板Ⅲ型 L=2.3m	箇所	7	
	鋼矢板Ⅳ型 L=2.3m	箇所	21	
スクラップ	鋼矢板Ⅲ型 L=2.3m	t	0.966	
	鋼矢板Ⅳ型 L=2.3m	t	3.676	
継施工	PL-140×19×560	t	0.123	
	PL-80×19×190	t	0.095	
腹起し	H-300×300×10×15 孔	t	4.400	
ブラケット	L=75×75×9	t	0.320	
仮設アンカー (残置式)	3×φ12.7mm	本	3	
	3×φ12.7mm	本	5	
	5×φ12.7mm	本	4	
	7×φ12.7mm	本	3	
	5×φ12.7mm	本	1	
台座	鋼製	t	0.782	

数量表

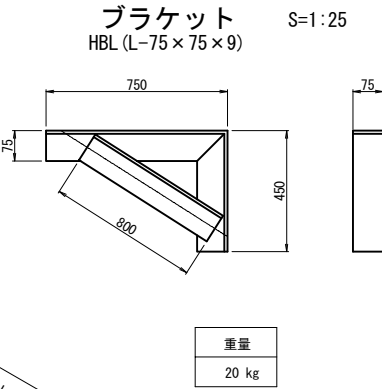
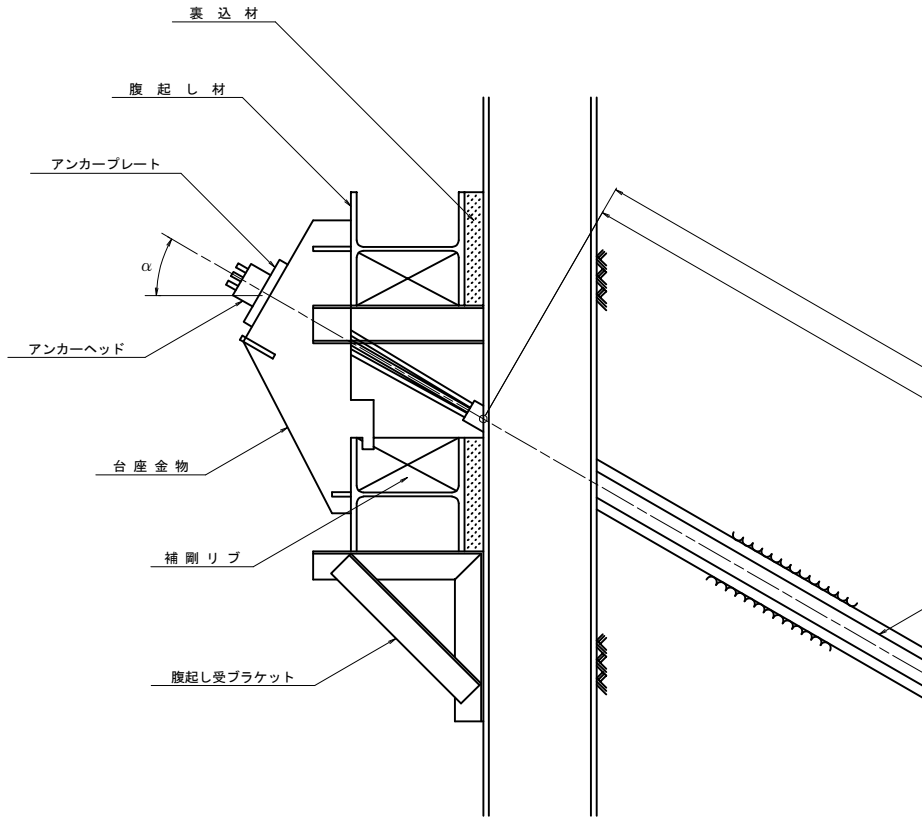
工種	項目	単位	合計	摘要
削孔長 (φ135)	礫質土	17.6m	本	3
		14.8m	本	5
		12.0m	本	4
		9.1m	本	3
		6.3m	本	1
	軟岩	3.4m	本	3
		3.2m	本	5
		5.0m	本	4
		3.9m	本	3
		3.2m	本	1
注 入	φ135	21.0m	本	3
		18.0m	本	5
		17.0m	本	4
		13.0m	本	3

材料表

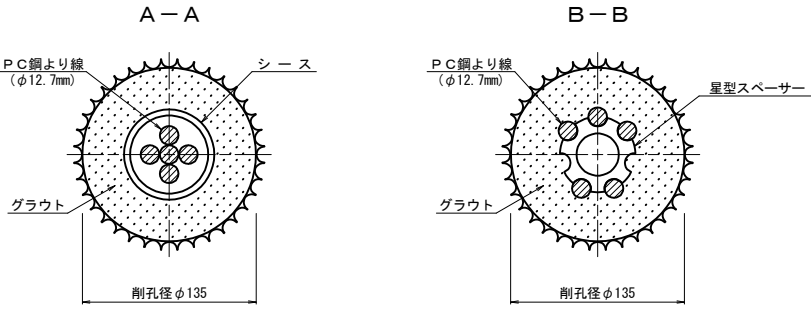
項目	細目	単位	数量
腹起し	H-300×300×10×15 孔	L=4400	本 2
		L=6800	本 2
		L=5200	本 2
		L=3600	本 2
		L=2000	本 2
ブラケット 台座	L=75×75×9 鋼製	L=2000	本 16
			組 16

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵲川第三橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

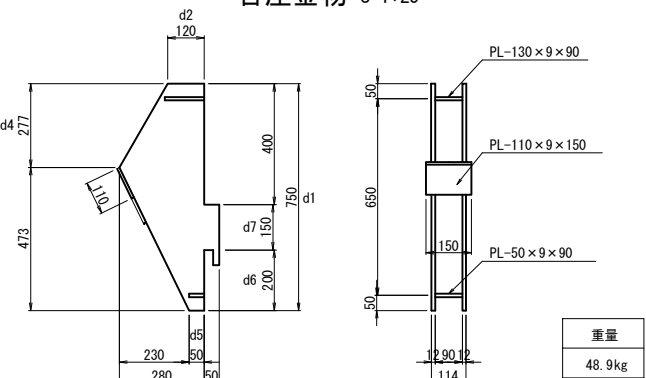
残置式アンカー詳細図
(三段目 : 5 × φ12.7mm)
(五段目 : 5 × φ12.7mm)



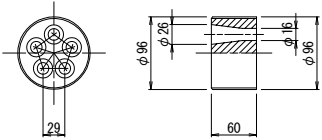
断面図 S=1:5



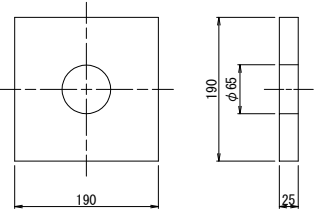
台座金物 S=1:25



アンカーヘッド S=1:10



アンカープレート S=1:10



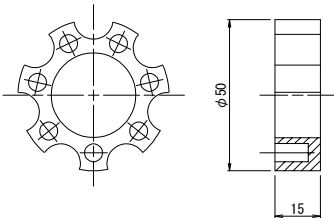
寸法表

	Lf	La	LA	α
三段目	12000	5000	17000	45°
五段目	6500	3000	9500	45°

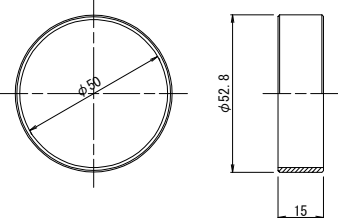
設計条件表

	自由長 (m)	定着長 (m)	余量 (m)	削孔径 (mm)	削孔長 (m)	アンカー寸法	施工本数 (本)	削孔延長 (m)	設計アンカー力 (kN)
残置式アンカー(三段目)	12.000	5.000	0.200	135	17.200	5 × φ12.7mm	4	68.800	452.53
残置式アンカー(五段目)	6.500	3.000	0.200	135	9.700	5 × φ12.7mm	1	9.700	187.85

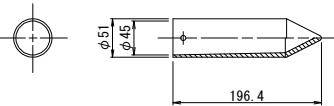
星型スペーサー S=1:2.5



結束リング S=1:2.5

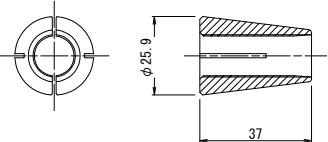


パイロットキャップ S=1:10



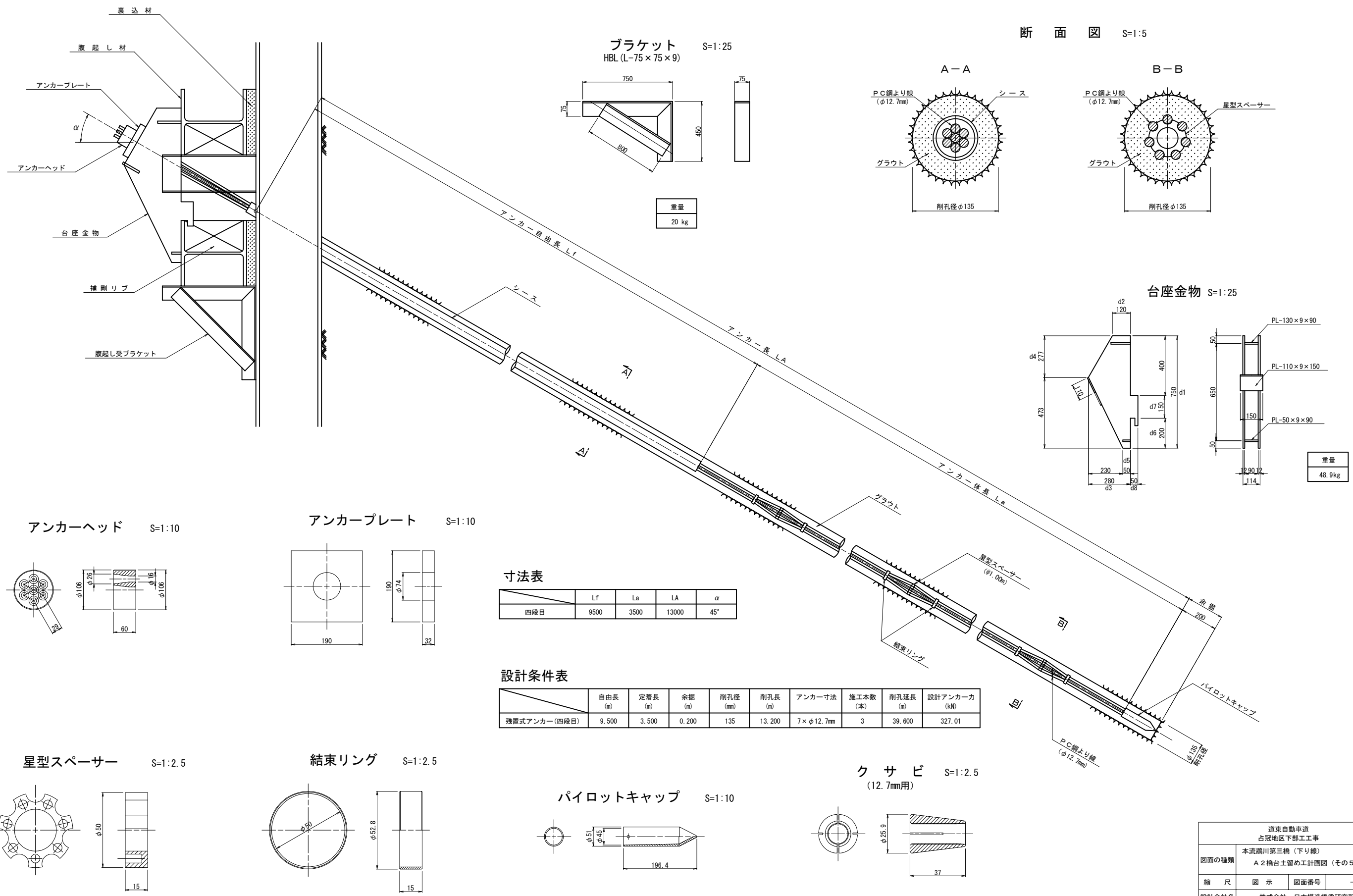
クサビ S=1:2.5

(12.7mm用)



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

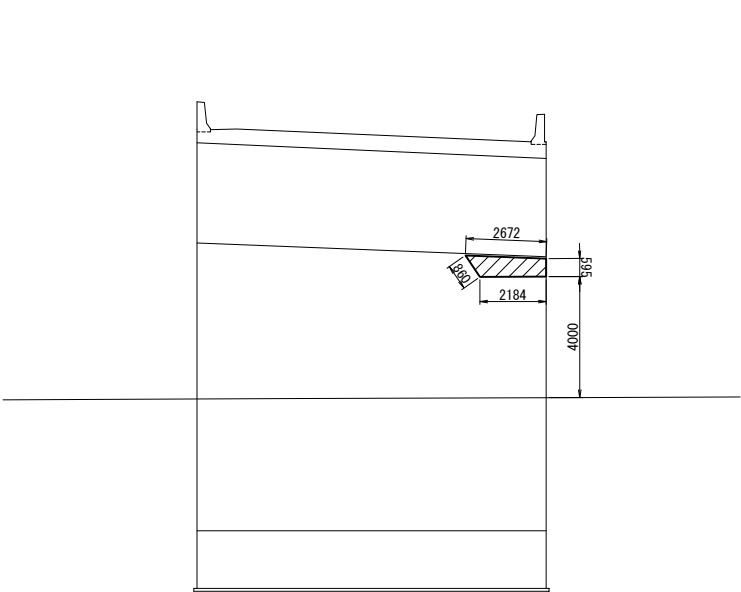
残置式アンカー詳細図
(四段目：7×φ12.7mm)



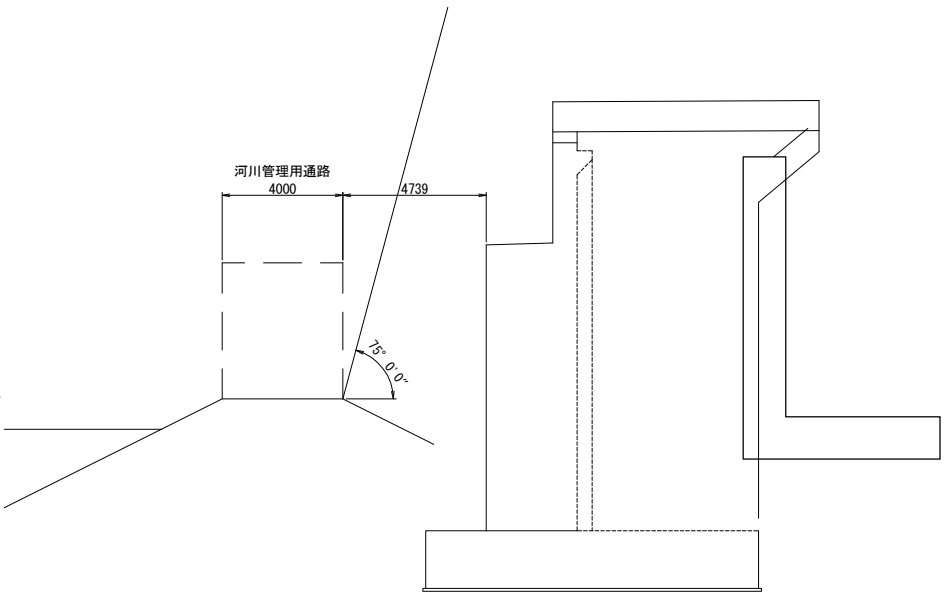
道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	本流鵜川第三橋（下り線） A 2 橋台土留め工計画図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

【A 2 橋台】

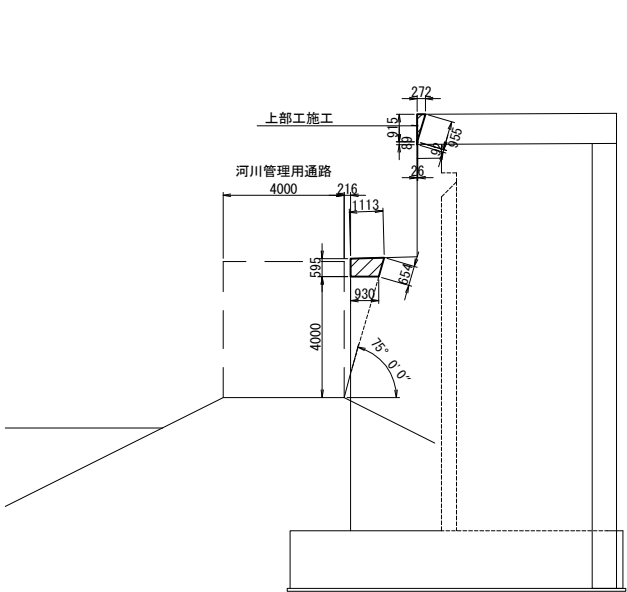
正面図（1-1）



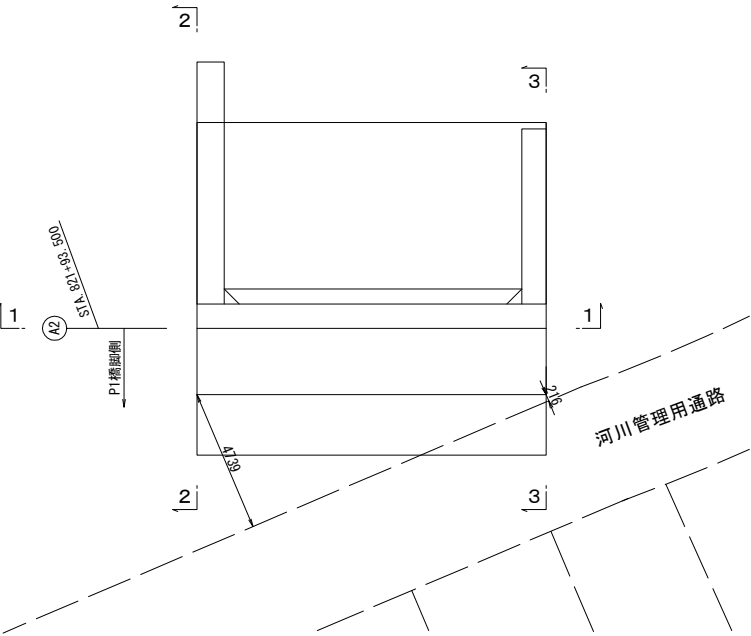
断面図（2-2）



断面図（3-3）




平面図



数量表

種 別	単位	数量
はく落防止対策工 A	m2	2.2

注) :  は、はく落防止範囲を表す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	本流鷗川第三橋（下り線） はく落防止対策工		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		